

この履修要項は、みなさんが学業を進めていくうえで必要不可欠な履修などに関する基本的な事項を収録したものであり、卒業時まで使用します。
なくさないように十分に注意してください。

2016

NANZAN
UNIVERSITY

目 次

南山大学授業科目履修規程	4
南山大学試験規程	12

【学部】

共通教育科目

共通教育科目履修要項（名古屋キャンパス）	19
共通教育科目履修要項（瀬戸キャンパス）	33

人文学部

人文学部履修要項	41
キリスト教学科履修要項・カリキュラム表	42
人類文化学科履修要項・カリキュラム表	49
心理人間学科履修要項・カリキュラム表	56
日本文化学科履修要項・カリキュラム表	63

外国語学部

外国語学部履修要項	73
英米学科履修要項・カリキュラム表	74
スペイン・ラテンアメリカ学科履修要項・カリキュラム表	82
フランス学科履修要項・カリキュラム表	89
ドイツ学科履修要項・カリキュラム表	96
アジア学科履修要項・カリキュラム表	103

経済学部

経済学部経済学科履修要項・カリキュラム表	113
----------------------	-----

経営学部

経営学部経営学科履修要項・カリキュラム表	127
----------------------	-----

法学部

法学部法律学科履修要項・カリキュラム表	141
---------------------	-----

総合政策学部

総合政策学部総合政策学科履修要項～外国語科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 を履修しない学生に適用～及びカリキュラム表	149
総合政策学部総合政策学科履修要項～外国語科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 を履修する学生に適用～及びカリキュラム表	159

理工学部

理工学部履修要項	175
システム数理学科履修要項・カリキュラム表	176

ソフトウェア工学科履修要項・カリキュラム表	183
機械電子制御工学科履修要項・カリキュラム表	190
情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）履修要項	197

【短期大学部】

短期大学部

短期大学部英語科履修要項・カリキュラム表	205
短期大学部教職課程履修要項	212

【国際科目群】

国際科目群に関する履修要項	219
「国際科目群」科目履修に関する注意事項について	220

【資格(博物館学芸員養成課程・司書課程・学校図書館司書教諭課程)】

博物館学芸員に関する授業科目履修要項	223
司書に関する科目履修要項	226
学校図書館司書教諭に関する科目履修要項	229

履修に関する取扱要領他

授業科目履修登録について	233
卒業論文等提出についての注意事項	238
南山大学早期卒業規程	244
総合政策学部早期卒業に関する内規	245
派遣留学生の帰国後における授業科目履修に関する手続等取扱要領	247
外国人留学生の授業科目履修に関する特例	248
外国語検定試験による単位認定制度について	249
愛知学長懇話会・単位互換事業による聴講制度について	251
豊田工業大学との連携聴講生制度について	252
短期大学部と短期大学部以外の学部間の科目履修について	253
名古屋／瀬戸キャンパス間履修について	254
GPA制度・履修中止制度について	255
「会計士講座」と公認会計士・税理士試験	256
公務員試験について	257
「法職特別課外講座」について	258
「学生による授業評価」へのご協力について(お願い)	259

南山大学授業科目履修規程

第1章 総則

(この規程の趣旨)

第1条 南山大学学則第14条および南山大学短期大学部学則第12条により、この規程を制定する。授業科目履修に関する事項は、この規程の定めるところによる。

第2章 授業科目

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、共通教育科目、基本科目、学部共通科目および学科科目（英語科目を含む。以下同じ）とし、ほかに外国人留学生のための日本語科目を開設する。

(共通教育科目)

第3条 共通教育科目は、宗教科目、体育科目、「人間の尊厳」科目、テーマ科目、分野科目、情報科目（アカデミックリテラシー科目）、インターンシップ科目、海外研修科目および外国語科目とする。

② 前項の各科目は、各学部・学科の定めるところにより、必修科目、選択必修科目、選択科目、自由選択科目および自由科目に分ける。

(基本科目)

第3条の2 基本科目の各科目は、英語科の定めるところにより、必修科目、選択必修科目、選択科目および自由科目に分ける。

(学部共通科目・学科科目)

第4条 学部共通科目・学科科目は、各学部・学科の定めるところにより、必修科目、選択必修科目、選択科目、自由選択科目および自由科目に分ける。

第3章 履修単位および履修方法

(卒業の要件)

第5条 本大学（短期大学部を除く。）を卒業するためには、本大学に4年以上在学し、次の各号に定める授業科目の単位を修得しなければならない。

- 1 宗教科目4単位
- 2 体育科目2単位
- 3 「人間の尊厳」科目4単位
- 4 テーマ科目10単位

- 5 分野科目、情報科目、インターンシップ科目、海外研修科目および外国語科目の単位については各学部・学科の定めるところによる。
 - 6 学科科目および学部共通科目の単位については、各学部・学科の定めるところによる。
- ② 本学短期大学部を卒業するためには、短期大学部に2年以上在学し、次の各号に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
- 1 基本科目 16単位
 - 2 英語科科目 46単位
- ③ 第1項の定めにかかわらず、在学期間については、「南山大学早期卒業規程」により短縮することができる。
- ④ 外国人留学生の共通教育科目の履修に関しては、別に定める。

(単位数計算の基礎)

第6条 各授業科目の単位数計算の基礎は、次のとおりである。

- 1 講義による科目および演習は、毎週1時間15週をもって1単位とする。
- 2 外国語科目、体育科目は、毎週2時間15週をもって1単位とする。
- 3 実習、実験および実技（音楽実技および美術実技を含む。）は、毎週3時間15週をもって1単位とする。ただし、1時間の授業に対して教室外における2時間の準備のための学修を必要とする場合は、毎週1時間15週をもって1単位とする。

(自由科目の修得単位)

第7条 第3条第2項、第3条の2および第4条に定める自由科目の修得単位は、第5条第1項の卒業に必要な単位数のうちに算入しない。

(授業科目の履修年次)

第8条 共通教育科目の履修年次は、共通教育科目履修要項に従い、また学部共通科目および学科科目については、各学部・学科の定める年次にそれぞれ履修しなければならない。短期大学部については、基本科目も学科の定める年次で履修しなければならない。

(不合格授業科目の履修年次)

第9条 削除

(教職、博物館、司書および学校図書館司書教諭に関する科目)

第10条 教育職員免許状取得資格、博物館学芸員の資格、司書の資格および学校図書館司書教諭の資格を得ようとする者は、各課程の定める授業科目履修要項に従って授業科目を履修しなければならない。

第4章 履修登録

(履修登録の手続)

第11条 単位を修得するためには、各学部・学科の定めるところに従い、次の各号の登録手続を行わなければならない。

- 1 1年次春学期の初回登録については、「履修登録カード」の必要事項をマークして提出すること。1年次秋学期以降の初回登録については、定められた期間内に学生用事務システムで履修希望科目を登録すること。
- 2 前号に定める初回登録の結果を学生用事務システムで確認すること。
- 3 前号の確認の上、必要があれば定められた期間に学生用事務システムで登録科目の変更を行うこと。

② 派遣留学生の履修登録は、「派遣留学生の帰国後における授業科目履修に関する手続等取扱要領」によるものとする。

(履修登録の無効)

第12条 同一時限に授業が行われる複数の授業科目を重複して登録してはならない。重複登録を行った場合には、いずれの授業科目の登録も無効とする。

(履修登録単位数の上限)

第13条 1年間に登録できる単位数の上限は、各学部・学科の定めるところによる。

② 願い出により履修を中止した科目は、各学部・学科の定める登録できる単位数の上限に含む。

(履修登録の期間)

第14条 履修登録は、本大学の定める期間中に行わなければならない。ただし、病気、休学などやむを得ない理由により所定期間中に履修登録が不可能な場合は、直ちにその旨を名古屋キャンパスの学生は学務部教務課、瀬戸キャンパスの学生は教務係に届け出て指示を受けなければならない。学務部教務課または教務係に届け出ることなく履修登録を行わなかった場合は、特別の理由のない限り、その年度の履修登録を認めない。

(履修登録変更)

第15条 履修登録後は、所定の期間に限り、履修登録の変更を認める。それ以外の期間については、特別の理由のない限り、履修登録の変更は認めない。

(履修の中止)

第15条の2 履修登録後は、必修科目、共通教育委員会および各学部・学科が指定した科目を除き、所定の期間に限り、履修の中止を認める。なお、履修の中止を行った科目は、いかなる理由があっても当該学期中に再度履修登録を行うことはできない。

第5章 出欠席

(欠席時数の限度)

第16条 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えるとときの、当該授業科目の成績評価については、共通教育科目ならびに基本科目のうちの日本国憲法、基礎体育Aおよび基礎体育Bは共通教育委員会の、その他の基本科目、学部共通科目および学科科目は各学部・学科の定めるところによる。

② 15分以上の遅刻または早退は、欠席とみなす。また、15分未満の遅刻または早退は、3回をもって1回の欠席とみなす。

第6章 履修成績および単位の授与

(単位の授与)

第17条 授業科目を履修した者に対しては、原則として試験の上、成績を判定し、単位を与える。

(履修成績の判定)

第18条 履修成績は、南山大学試験規程により実施される定期試験または追試験・再試験・補充試験の成績と平常の成績を考慮して定める。

(履修成績評価の基準)

第19条 履修成績の評価は、次のように表す。合格の成績には、それぞれの授業科目に関し、所定の単位を与えるが、不合格の成績には単位を与えない。

秀	A ⁺	(100点～90点)	}	合 格
優	A	(89点～80点)		
良	B	(79点～70点)		
可	C	(69点～60点)		
不 可	F	(59点～ 0点)		不 合 格

ただし、かっこ内の点数は評価を100点満点の場合の得点として示したものである。

② 前項の定めにかかわらず履修成績の評価は、次のように表すことができる。

P	(Pass)	合格
F	(Failure)	不合格

③ 本条第1項および第2項の履修成績F（不合格）以外に、次の各号のいずれかに該当する場合は、不合格とする。

1 試験欠席（「南山大学試験規程」により実施される定期試験、追試験、再試験、補充試験またはそれらに準ずる試験に欠席した場合、X）

2 欠席過多（授業の欠席過多により当該授業科目の成績評価が不合格と判定された場合、S）

④ 本条第1項、第2項および第3項の履修成績以外に、履修を中止した科目の評価は、履修中止（W）とする。

（欠席による不合格）

第20条 削除

（履修成績評価の疑問調査）

第21条 第19条における成績評価または不合格に対して疑問がある場合は、疑問調査を願い出ることができる。

② 疑問調査は、成績発表後1週間以内に名古屋キャンパスの学生は学務部教務課、瀬戸キャンパスの学生は教務係に願い出るものとする。

（試験における不正行為）

第22条 試験において不正行為があった場合は、その学生の当該年度の履修科目の一部または全部の単位を与えない。

第7章 既修得単位等の認定

（他の大学または短期大学における修得単位）

第23条 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、以下に定める単位数を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

1 短期大学部以外の学部 60単位

2 短期大学部 15単位

② 学生が外国の大学に留学する場合には、前項の規定を準用する。

③ 学生が外国の大学において授業科目を履修し、制度上当該大学より単位を授与されない場合は、教授会の定めるところにより、本大学の単位を修得したものと認定することができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第23条の2 本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学または高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

② 前項により与えることができる単位数は、前条により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて、短期大学部を除く学部は60単位を、短期大学部は15単位を、それぞれ超えないものとする。

③ 本条に関する取扱いは、別に定める。

（編入学者および転入学者の既修得単位）

第24条 本大学を卒業または中途退学し、改めて本大学（短期大学部を除く。）に編入または転入学した場合は、既修得単位の全部または一部を入学後に修得した

ものと認定することができる。

② 学生が他の大学（外国の大学を含む。）を卒業または中途退学し、本大学（短期大学部を除く。）に編入学または転入学した場合には、既修得単位の全部または一部を入学後に修得したものと認定することができる。ただし、単位の認定にあたっては教授会の定めるところによって試験を課すことがある。

③ 本条に関する細則は、別に定める。

（入学前の既修得単位等の認定）

第25条 本大学は、教育上有益と認めるときは、次の各号に定める単位を、教授会の定めるところにより、入学後に修得したものと認定することができる。

1 本大学を卒業または中途退学し、新たに本大学の1年次に入学した学生が入学前に修得した単位。

2 他の大学または短期大学を卒業または中途退学し、新たに本大学の1年次に入学した学生が入学前に修得した単位。ただし、単位の認定にあたっては教授会の定めるところにより試験を課すことがある。

3 学生が入学する前に行った第23条の2第1項に規定する学修。

② 前項の各号により与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第23条および第23条の2第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて、短期大学部以外の学部は60単位を、短期大学部は15単位を、それぞれ超えないものとする。

③ 本条に関する細則は、別に定める。

（再入学者および転部・転科者の既修得単位）

第26条 再入学を許可された者の既修得単位は、入学後も引き続き有効とする。

② 転部・転科を許可された者の既修得単位は、転部・転科後も引き続き有効とする。

③ 前項に関する細則は、別に定める。

第8章 退学

（修得単位不足等による退学）

第27条 短期大学部以外の学部にあつては在学7か年、短期大学部にあつては在学4か年（いずれも休学期間は算入しない。）に及び、なお卒業に必要な単位を修得しない者その他成業の見込みのない者には、学長が退学を命ずる。

② 入学後1年を経過してもなお修得単位数が16単位未満、2年を経過しても32単位未満、3年を経過しても48単位未満等の場合には、学長が退学を命ずることがある。ただし、病気その他重大な事由による場合は、この限りでない。

③ 正当の理由がなくて引き続き長期欠席した者には、学長が退学を命ずることがある。

附 則

(施行期日) この規程は、昭和46年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成12年4月1日から施行する。ただし、平成11年度までの入学生については、従来どおりとする。

附 則

この規程の改正は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2010年4月1日から施行する。ただし、第19条第1項に定める履修成績の評価「秀」および第13条第2項、第15条の2、第19条第4項については2010年度秋学期から適用し、春学期については従前どおりとする。

附 則

- 1 この規程の改正は、2011年4月1日から施行する。
- 2 南山短期大学授業科目履修規程（平成8年4月1日施行）は、廃止する。
ただし、2011年3月31日以前に入学した学生については、従前の規程による。

附 則

この規程の改正は、2015年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2016年4月1日から施行する。

南山大学試験規程

第1章 総則

第1条 南山大学学則第17条および南山大学短期大学部学則第14条にいう試験に関する事項は、この規程の定めるところによる。

第2条 試験は、南山大学学則第17条および南山大学短期大学部学則第14条の定めるところにより、履修した授業科目に対してのみ行うものとする。

第3条 試験には、定期試験、追試験、再試験および補充試験がある。ただし、レポート等をもって試験に代える場合がある。その場合は、この規程に定める各条の適用を受けるものとする。

② 実技・実習科目および卒業論文科目については、実技・実習または卒業論文の提出をもって定期試験に代えることができる。

第4条 試験を受ける者は、次の条件を満たすものでなければならない。

- 1 削除
- 2 授業料その他を完納していること。

第5条 試験における不正行為に対する処置は、南山大学学生懲戒規程の定めるところによる。

第2章 定期試験

第6条 定期試験とは、学年暦に示される期間に行うものをいう。

第7条 定期試験は、春学期（前期）末および秋学期（後期）末に行う。

② 春学期（前期）開講科目、秋学期（後期）開講科目および通年開講科目以外の集中講義等科目については、当該授業終了後に行うことができる。

③ 通年開講科目のうち、共通教育科目は共通教育委員会の定めるところにより、また基本科目、学部共通科目、学科科目（英語科科目を含む。以下同じ）、教職、博物館学芸員、司書および学校図書館司書教諭に関する科目は、学部教授会の定めるところにより、春学期（前期）試験を省くことができる。

第3章 追試験

第1節 通則

第8条 病気その他やむを得ない理由で定期試験に出席できない者に対して追試験を行う。

第9条 追試験の成績は、1割減点とする。

第10条 追試験を受験する者は、追試験受験手数料を納入しなければならない。その額については、別に定める。

第11条 教育実習、介護等体験およびインターンシップ研修のため定期試験に出席できない者に対する追試験には、第9条および第10条を適用しない。

第2節 追試験の実施

第12条 追試験は、第7条に定める試験の終了後一定の期日に行う。ただし、正当な理由があるときは、当該試験の終了後2か月以内に臨時に行うことがある。

第13条 追試験を受けるには、次に定める手続をとらなければならない。

- 1 名古屋キャンパスの学生は、学務部教務課へ、瀬戸キャンパスの学生は、教務係へ事前に追試験受験願を提出するものとする。この場合、医師の診断書その他欠席の理由を明らかにする証明書を添付しなければならない。
- 2 急病その他突発事故の生じた場合は、直ちに所属キャンパスの学務部教務課または教務係へ連絡し、前号に定める手続をとるものとする。なお、手続の最終期限は、定期試験については、試験期間の最終日の翌日から数えて3日目、第7条第2項の試験については、当該試験日の翌日から数えて3日目（いずれも日曜、祝日および事務休業日を除く。）とする。

第14条 追試験の受験許可は、教務委員会が行う。

第15条 第3条に定めるレポートを病気その他やむを得ない理由で所定の期限内に提出できない者は、第13条に定める手続をとるものとする。

第4章 再試験

第1節 通則

第16条 再試験は、卒業年次学生に対してのみ行うものとする。ただし、当該授業科目について南山大学授業科目履修規程第19条に定める試験欠席および欠席過多に該当する者に対しては行わない。

第17条 再試験受験者は、再試験受験手数料を納入しなければならない。その金額については、別に定める。

第18条 再試験の受験は、卒業に必要な所定単位に2科目以内の単位が不足する者または資格取得に2科目以内の単位が不足する者について、第2節に定める再試験科目のうち、その不足する科目・単位数を限度に認められる。

② 再試験科目は、2科目以内とし、南山大学授業科目履修規程第19条に定める「履修成績不可・F」に該当する科目に限る。

第2節 再試験科目

第19条 再試験は、卒業年次に履修した科目で、次のいずれかに該当するもののう

ち、学部教授会が認めたものについて行うことができる。ただし、共通教育科目のうち、体育科目および外国語科目を除く。

- 1 卒業に必要な共通教育科目、基本科目、学部共通科目および学科科目
- 2 教育職員免許状取得に必要な教職に関する科目および教科に関する科目
- 3 博物館学芸員の基礎資格として必要な科目
- 4 司書の基礎資格として必要な科目
- 5 学校図書館司書教諭の基礎資格として必要な科目

第3節 再試験の実施

第20条 再試験を行う時期は、学部教授会がこれを定める。

第21条 再試験の成績評価は、可（C－合格）または不可（F－不合格）とする。

第22条 再試験合格により卒業する者の卒業の時期は、3月31日あるいは9月15日（1999年度以前の入学者は9月30日）とする。

第5章 補充試験

第1節 通則

第23条 補充試験は、卒業年次以外の学生に対してのみ行うものとする。ただし、当該授業科目について第25条に定める受験資格を満たさない者ならびに南山大学授業科目履修規程第19条に定める試験欠席および欠席過多に該当する者に対しては行わない。

第24条 前条に定める補充試験については、次の学部において行うものとする。

- 1 理工学部

第25条 補充試験の受験資格は、学部教授会が別に定める。

第26条 補充試験受験者は、補充試験受験手数料を納入しなければならない。その金額については、別に定める。

第2節 補充試験科目

第27条 補充試験は、当該年次に履修し不合格となった科目のうち、学部教授会が必要と認めたものについてのみ行うことができる。

第3節 補充試験の実施

第28条 補充試験を行う時期は、学部教授会が別に定める。

第29条 補充試験の成績評価は、学部教授会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、昭和50年4月1日から施行する。

- 2 再試験に関する内規（昭和41年10月18日施行）
追試験に関する内規（昭和42年9月29日施行）
追試験に関する覚書（昭和42年9月29日施行）
は、廃止する。

附 則

この規程の改正は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2009年4月1日から施行する。ただし、2008年度以前の数理情報学部については、従前どおりとする。

附 則

この規程の改正は、2011年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2014年4月1日から施行する。ただし、2013年度以前の情報理工学部については、従前どおりとする。

共通教育科目 (名古屋キャンパス)

共通教育科目履修要項 (名古屋キャンパス)

欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えるとときの履修成績評価は、欠席過多（S）による不合格とする。

A 宗教科目履修要項

1. 卒業のためには、宗教科目を4単位履修しなければならない。
2. 宗教科目は次のとおりである。(カッコ内の数字は単位数)

必修

宗 教 論 (2) 1年次

キリスト教概論 (2) 2年次(ただし、キリスト教学科については1年次必修)

B 「人間の尊厳」科目履修要項

1. 卒業のためには、2科目4単位履修しなければならない。
2. 「人間の尊厳」科目は次のとおりである。(カッコ内の数字は単位数)

選択必修

宗教に見る人間の尊厳 (2) 哲学・倫理学における人間の尊厳 (2) 思想史に学ぶ人間の尊厳 (2)

政治・経済と人間の尊厳 (2) 法と人間の尊厳 (2) 性と生命における人間の尊厳 (2)

教育・文化における人間の尊厳 (2) 民族問題と人間の尊厳 (2)

3. 履修年次は2・3・4年次とする。
4. 超過して修得した単位数は、各学部・学科の定めるところにより卒業に必要な単位数に加えることができる。
5. 同一年度に登録できるのは、原則として2科目までとする。

C 外国語科目履修要項

1. 外国語科目の卒業のための要件は、各学部・学科の定めるところによる。
2. 外国語科目は次のとおりである。
(1) 外国語科目の履修年次及び履修方法

英語

① 履修年次

I (1年次春学期)、II (1年次秋学期)、III (2年次春学期)、IV (2年次秋学期)とする。

② 履修方法

- a. I、II、III、IVはこの順番で履修しなければならない。
- b. 再履修者に限りI、IIとIII、IVを同時に履修できる。

フランス語

① 履修年次

I（1年次春学期）、II（1年次秋学期）を原則とする。

I、II以外は履修年次を指定しないが、I、IIは初級、III、IVは中級である。

② 履修方法

- a. 1年次生は、I、II文法・講読とI、II会話・作文を同時に履修しなければならない。
- b. I、IIとIII、IVを同時に履修できる。
- c. III、IVは順番に履修しなくてもよい。

ドイツ語

① 履修年次

I（1年次春学期）、II（1年次秋学期）を原則とする。

② 履修方法

- a. 1年次生は、I、II文法・講読とI、II会話・作文を同時に履修しなければならない。
- b. I、IIとIII、IVを同時に履修できる。
- c. III、IVは順番に履修しなくてもよい。
- d. I、II以外はペアで履修しなくてもよい。

スペイン語・ポルトガル語

① 履修年次

I（1年次春学期）、II（1年次秋学期）、III（2年次春学期）、IV（2年次秋学期）とする。

② 履修方法

- a. 1年次生は、I、II文法・講読とI、II会話・作文を同時に履修しなければならない。
- b. I、IIとIII、IVを同時に履修できる。
- c. III、IVは順番に履修しなければならない。
- d. IとII、IIIとIVはペアで履修しなければならない。

中国語

① 履修年次

I（1年次春学期）、II（1年次秋学期）とする。III、IVは2年次以降の履修とする。

② 履修方法

a. 1年次生は、I、II語法とI、II会話・作文を同時に履修しなければならない。

b. I、IIとIII、IVを同時に履修できる。

c. III、IVは順番に履修しなくてもよい。

韓国朝鮮語

① 履修年次

I（1年次春学期）、II（1年次秋学期）とする。III、IVは2年次以降の履修とする。

② 履修方法

a. 1年次生は、I、II文法・講読とI、II会話・作文を同時に履修しなければならない。

b. I、IIとIII、IVを同時に履修できる。

c. III、IVは順番に履修しなくてもよい。

インドネシア語

① 履修年次

I（1年次春学期）、II（1年次秋学期）とする。

② 履修方法

1年次生は、I、II文法・講読とI、II会話・作文を同時に履修しなければならない。

ラテン語

① 履修年次

I（1年次春学期）、II（1年次秋学期）、III（2年次春学期）、IV（2年次秋学期）とする。

② 履修方法

a. 1年次はIとII、IIIとIVの同時履修はできない。

b. I、IIとIII、IVはそれぞれ順番に履修しなければならない。

c. IとII、IIIとIVはそれぞれペアで履修しなければならない。

ギリシャ語

① 履修年次

各年次履修できる。

② 履修方法

a. IとIIとは順番に履修しなければならない。

日本語

日本語の履修は、別に定める「外国人留学生の授業科目履修に関する特例」によるので、参照のこと。

(2) 外国語科目

必修外国語

(カッコ内の数字は単位数)

学 科	1 年 次 生		2 年 次 生	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
キリスト教学科(4)	ラテン語 I 文法 (1) ラテン語 I 講読 (1)	ラテン語 II 文法 (1) ラテン語 II 講読 (1)		
人類文化学科 心理人間学科 日本文化学科 (4)	英語 I オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I リーディング (1)	英語 II オラル・コミュニケーション B (1) 英語 II リーディング (1)		
英米学科(8)	英語 I オラル・コミュニケーション A (3) 英語 I リーディング (1)	英語 II オラル・コミュニケーション A (3) 英語 II リーディング (1)		
スペイン・ ラテンアメリカ 学科 (4)	基礎スペイン語 I 文法 (2) 基礎スペイン語 I 講読 (1) 基礎スペイン語 I 作文 (1) 英語 I オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I リーディング (1)	基礎スペイン語 II 文法 (2) 基礎スペイン語 II 講読 (1) 基礎スペイン語 II 作文 (1) 英語 II オラル・コミュニケーション B (1) 英語 II リーディング (1)	英語 III オラル・コミュニケーション B (1)	英語 IV オラル・コミュニケーション B (1)
フランス学科 (4)	基礎フランス語 I A (1) 基礎フランス語 I B (1) 基礎フランス語 I C (1) 基礎フランス語 I D (1) 英語 I オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I リーディング (1)	基礎フランス語 II A (1) 基礎フランス語 II B (1) 基礎フランス語 II C (1) 基礎フランス語 II D (1) 英語 II オラル・コミュニケーション B (1) 英語 II リーディング (1)	英語 III オラル・コミュニケーション B (1)	英語 IV オラル・コミュニケーション B (1)
ドイツ学科(4)	基礎ドイツ語 I 文法 (1) 基礎ドイツ語 I コミュニケーション (2) 基礎ドイツ語 I 講読 (1) 英語 I オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I リーディング (1)	基礎ドイツ語 II 文法 (1) 基礎ドイツ語 II コミュニケーション (2) 基礎ドイツ語 II 講読 (1) 英語 II オラル・コミュニケーション B (1) 英語 II リーディング (1)	英語 III オラル・コミュニケーション B (1)	英語 IV オラル・コミュニケーション B (1)
アジア学科(4)	中国語 I 語法 (1) 中国語 I 会話・作文 (1) インドネシア語 I 文法・講読 (1) インドネシア語 I 会話・作文 (1) 英語 I オラル・コミュニケーション B (1)	中国語 II 語法 (1) 中国語 II 会話・作文 (1) インドネシア語 II 文法・講読 (1) インドネシア語 II 会話・作文 (1) 英語 II オラル・コミュニケーション B (1)	英語 III オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I リーディング (1)	英語 IV オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I リーディング (1)
経済学科 (8)	英語 I オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I リーディング (1)	英語 II オラル・コミュニケーション B (1) 英語 II リーディング (1)	英語 III オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I リスニング (1)	英語 IV オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I ライティング (1)
経営学科 (8)	英語 I オラル・コミュニケーション C (2) 英語 I リーディング (1) 英語 I ライティング (1)	英語 II オラル・コミュニケーション C (2) 英語 II リーディング (1) 英語 II ライティング (1)		
法律学科 (4)	英語 I オラル・コミュニケーション B (1) 英語 I リーディング (1)	英語 II オラル・コミュニケーション B (1) 英語 II リーディング (1)		
システム数理学科 ソフトウェア工学科 機械電子制御工学科 (0)	英語 I オラル・コミュニケーション C (2) 英語 I リーディング (1)	英語 II オラル・コミュニケーション C (2) 英語 II リーディング (1)	英語 I プレゼンテーション (1) 英語 III リーディング (1)	英語 II プレゼンテーション (1) 英語 IV リーディング (1)

学 科	1 年 次 生		2 年 次 生	
	春 学 期	秋 学 期	春 学 期	秋 学 期
経 済 学 科 (4)	* 1 言語を選択して 4 単位修得。			
	フランス語 I 文法・講読 (1)	フランス語 II 文法・講読 (1)		
	フランス語 I 会話・作文 (1)	フランス語 II 会話・作文 (1)		
	ドイツ語 I 文法・講読 (1)	ドイツ語 II 文法・講読 (1)		
	ドイツ語 I 会話・作文 (1)	ドイツ語 II 会話・作文 (1)		
	スペイン語 I 文法・講読 (1)	スペイン語 II 文法・講読 (1)		
	スペイン語 I 会話・作文 (1)	スペイン語 II 会話・作文 (1)		
	ポルトガル語 I 文法・講読 (1)	ポルトガル語 II 文法・講読 (1)		
	ポルトガル語 I 会話・作文 (1)	ポルトガル語 II 会話・作文 (1)		
	中国語 I 語法 (1)	中国語 II 語法 (1)		
	中国語 I 会話・作文 (1)	中国語 II 会話・作文 (1)		
	韓国朝鮮語 I 文法・講読 (1)	韓国朝鮮語 II 文法・講読 (1)		
	韓国朝鮮語 I 会話・作文 (1)	韓国朝鮮語 II 会話・作文 (1)		
	インドネシア語 I 文法・講読 (1)	インドネシア語 II 文法・講読 (1)		
	インドネシア語 I 会話・作文 (1)	インドネシア語 II 会話・作文 (1)		
ラテン語 I 文法 (1)	ラテン語 II 文法 (1)			
ラテン語 I 講読 (1)	ラテン語 II 講読 (1)			
ギリシャ語 I 文法 (1)	ギリシャ語 II 文法 (1)			
ギリシャ語 I 講読 (1)	ギリシャ語 II 講読 (1)			
経 営 学 科 (4)	* 1 言語 4 単位を修得。			
	英語 I リスニング (1)	英語 II リスニング (1)	英語 III リーディング (1)	英語 IV リーディング (1)
	英語 I 総合 (1)	英語 II 総合 (1)	英語 III 総合 (1)	英語 IV 総合 (1)
	フランス語 I 文法・講読 (1)	フランス語 II 文法・講読 (1)		
	フランス語 I 会話・作文 (1)	フランス語 II 会話・作文 (1)		
	ドイツ語 I 文法・講読 (1)	ドイツ語 II 文法・講読 (1)		
	ドイツ語 I 会話・作文 (1)	ドイツ語 II 会話・作文 (1)		
	スペイン語 I 文法・講読 (1)	スペイン語 II 文法・講読 (1)		
	スペイン語 I 会話・作文 (1)	スペイン語 II 会話・作文 (1)		
	ポルトガル語 I 文法・講読 (1)	ポルトガル語 II 文法・講読 (1)		
	ポルトガル語 I 会話・作文 (1)	ポルトガル語 II 会話・作文 (1)		
	中国語 I 語法 (1)	中国語 II 語法 (1)		
	中国語 I 会話・作文 (1)	中国語 II 会話・作文 (1)		
	韓国朝鮮語 I 文法・講読 (1)	韓国朝鮮語 II 文法・講読 (1)		
	韓国朝鮮語 I 会話・作文 (1)	韓国朝鮮語 II 会話・作文 (1)		
インドネシア語 I 文法・講読 (1)	インドネシア語 II 文法・講読 (1)			
インドネシア語 I 会話・作文 (1)	インドネシア語 II 会話・作文 (1)			
ラテン語 I 文法 (1)	ラテン語 II 文法 (1)			
ラテン語 I 講読 (1)	ラテン語 II 講読 (1)			
ギリシャ語 I 文法 (1)	ギリシャ語 II 文法 (1)			
ギリシャ語 I 講読 (1)	ギリシャ語 II 講読 (1)			
法 律 学 科 (4)	* 1 言語 4 単位を修得。			
	英語 I ライティング (1)	英語 II ライティング (1)	英語 III オラル・コミュニケーション B (1)	英語 IV オラル・コミュニケーション B (1)
	英語 I リスニング (1)	英語 II リスニング (1)	英語 III リーディング (1)	英語 IV リーディング (1)
	英語 I 総合 (1)	英語 II 総合 (1)	英語 III 総合 (1)	英語 IV 総合 (1)
	フランス語 I 文法・講読 (1)	フランス語 II 文法・講読 (1)	フランス語 III 文法・講読 (1)	フランス語 IV 文法・講読 (1)
	フランス語 I 会話・作文 (1)	フランス語 II 会話・作文 (1)	フランス語 III 会話・作文 (1)	フランス語 IV 会話・作文 (1)
	ドイツ語 I 文法・講読 (1)	ドイツ語 II 文法・講読 (1)	ドイツ語 III 文法・講読 (1)	ドイツ語 IV 文法・講読 (1)
	ドイツ語 I 会話・作文 (1)	ドイツ語 II 会話・作文 (1)	ドイツ語 III 会話・作文 (1)	ドイツ語 IV 会話・作文 (1)
	スペイン語 I 文法・講読 (1)	スペイン語 II 文法・講読 (1)	スペイン語 III 文法・講読 (1)	スペイン語 IV 文法・講読 (1)
	スペイン語 I 会話・作文 (1)	スペイン語 II 会話・作文 (1)	スペイン語 III 会話・作文 (1)	スペイン語 IV 会話・作文 (1)
	ポルトガル語 I 文法・講読 (1)	ポルトガル語 II 文法・講読 (1)		
	ポルトガル語 I 会話・作文 (1)	ポルトガル語 II 会話・作文 (1)		
	中国語 I 語法 (1)	中国語 II 語法 (1)	中国語 III 語法 (1)	中国語 IV 語法 (1)
	中国語 I 会話・作文 (1)	中国語 II 会話・作文 (1)	中国語 III 会話・作文 (1)	中国語 IV 会話・作文 (1)
	韓国朝鮮語 I 文法・講読 (1)	韓国朝鮮語 II 文法・講読 (1)	韓国朝鮮語 III 文法・講読 (1)	韓国朝鮮語 IV 文法・講読 (1)
韓国朝鮮語 I 会話・作文 (1)	韓国朝鮮語 II 会話・作文 (1)	韓国朝鮮語 III 会話・作文 (1)	韓国朝鮮語 IV 会話・作文 (1)	

選択外国語

第2年次以降

英語イマージョンプログラムA (2) 英語イマージョンプログラムB (2) 英語イマージョンプログラムC (2)
英語通訳の基礎 (1) 英語翻訳の基礎 (1) 英語プレゼンテーションの基礎 (1)

(3) 各学部・学科の外国語科目は次のとおりである。(かっこ内の数字は単位数)

英語

英語Iオーラル・コミュニケーションA (3) 英語IIオーラル・コミュニケーションA (3) 英語Iオーラル・コミュニケーションB (1)
英語IIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Iオーラル・コミュニケーションC (2) 英語IIオーラル・コミュニケーションC (2)
英語IIIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IVオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Iリーディング (1)
英語IIリーディング (1) 英語IIIリーディング (1) 英語IVリーディング (1)
英語Iライティング (1) 英語IIライティング (1) 英語Iリスニング (1)
英語IIリスニング (1) 英語Iプレゼンテーション (1) 英語IIプレゼンテーション (1)
英語I総合 (1) 英語II総合 (1) 英語III総合 (1)
英語IV総合 (1) 英語イマージョンプログラムA (2) 英語イマージョンプログラムB (2)
英語イマージョンプログラムC (2) 英語通訳の基礎 (1) 英語翻訳の基礎 (1)
英語プレゼンテーションの基礎 (1) 英語リテラシーIII (2) English Skills Workshop A (1)
English Skills Workshop B (1) English Skills Workshop C (1) English Skills Workshop D (1)
TOEIC対策英語A (1) TOEIC対策英語B (1) TOEIC対策英語C (1)
TOEFL対策英語A (1) TOEFL対策英語B (1) 英語で学ぶイベント企画・交渉スキル (2)
英語リサーチ・イマージョンプログラム (2) 英語で学ぶ社会調査法 (2)

フランス語

フランス語I文法・講読 (1) フランス語II文法・講読 (1) フランス語III文法・講読 (1)
フランス語IV文法・講読 (1) フランス語I会話・作文 (1) フランス語II会話・作文 (1)
フランス語III会話・作文 (1) フランス語IV会話・作文 (1) 基礎フランス語IA (1)
基礎フランス語IIA (1) 基礎フランス語IB (1) 基礎フランス語IIB (1)
基礎フランス語IC (1) 基礎フランス語IIC (1) 基礎フランス語IID (1)
基礎フランス語IID (1)

ドイツ語

ドイツ語I文法・講読 (1) ドイツ語II文法・講読 (1) ドイツ語III文法・講読 (1)
ドイツ語IV文法・講読 (1) ドイツ語I会話・作文 (1) ドイツ語II会話・作文 (1)
ドイツ語III会話・作文 (1) ドイツ語IV会話・作文 (1) 基礎ドイツ語I文法 (1)
基礎ドイツ語II文法 (1) 基礎ドイツ語Iコミュニケーション (2) 基礎ドイツ語IIコミュニケーション (2)

基礎ドイツ語Ⅰ講読 (1) 基礎ドイツ語Ⅱ講読 (1)

スペイン語

スペイン語Ⅰ文法・講読 (1) スペイン語Ⅱ文法・講読 (1) スペイン語Ⅲ文法・講読 (1)
スペイン語Ⅳ文法・講読 (1) スペイン語Ⅰ会話・作文 (1) スペイン語Ⅱ会話・作文 (1)
スペイン語Ⅲ会話・作文 (1) スペイン語Ⅳ会話・作文 (1) 基礎スペイン語Ⅰ文法 (2)
基礎スペイン語Ⅱ文法 (2) 基礎スペイン語Ⅰ講読 (1) 基礎スペイン語Ⅱ講読 (1)
基礎スペイン語Ⅰ作文 (1) 基礎スペイン語Ⅱ作文 (1)

ポルトガル語

ポルトガル語Ⅰ文法・講読 (1) ポルトガル語Ⅱ文法・講読 (1) ポルトガル語Ⅰ会話・作文 (1)
ポルトガル語Ⅱ会話・作文 (1)

中国語

中国語Ⅰ語法 (1) 中国語Ⅱ語法 (1) 中国語Ⅲ語法 (1)
中国語Ⅳ語法 (1) 中国語Ⅰ会話・作文 (1) 中国語Ⅱ会話・作文 (1)
中国語Ⅲ会話・作文 (1) 中国語Ⅳ会話・作文 (1) 中国語Ⅴ (1)
中国語Ⅵ (1)

韓国朝鮮語

韓国朝鮮語Ⅰ文法・講読 (1) 韓国朝鮮語Ⅱ文法・講読 (1) 韓国朝鮮語Ⅲ文法・講読 (1)
韓国朝鮮語Ⅳ文法・講読 (1) 韓国朝鮮語Ⅰ会話・作文 (1) 韓国朝鮮語Ⅱ会話・作文 (1)
韓国朝鮮語Ⅲ会話・作文 (1) 韓国朝鮮語Ⅳ会話・作文 (1)

インドネシア語

インドネシア語Ⅰ文法・講読 (1) インドネシア語Ⅱ文法・講読 (1) インドネシア語Ⅰ会話・作文 (1)
インドネシア語Ⅱ会話・作文 (1)

ラテン語

ラテン語Ⅰ文法 (1) ラテン語Ⅱ文法 (1) ラテン語Ⅲ文法 (1)
ラテン語Ⅳ文法 (1) ラテン語Ⅰ講読 (1) ラテン語Ⅱ講読 (1)
ラテン語Ⅲ講読 (1) ラテン語Ⅳ講読 (1)

ギリシャ語

ギリシャ語Ⅰ文法 (1) ギリシャ語Ⅱ文法 (1) ギリシャ語Ⅰ講読 (1)

ギリシャ語Ⅱ講読（１）

日本語

日本語Ⅰ （３） 日本語Ⅱ （２） 日本語Ⅲ （３）
 総合日本語A （２） 総合日本語B （２）

3. 必要な単位数を超過して修得した単位数および選択外国語科目の単位数は、各学部・学科の定めるところにより卒業に必要な単位数に加えることができる。

D 体育科目履修要項

1. 卒業のためには、体育科目を2単位履修しなければならない。
 2. 体育科目は次のとおりである。(カッコ内の数字は単位数)

必修

基礎体育 A (1) 1年次 (春学期)

基礎体育 B (1) 1年次 (秋学期)

選択

スポーツ実技(個人スポーツ) (1) スポーツ実技(集団スポーツ) (1) スポーツ実技(アウトドアスポーツ) (1)

スポーツ実技(健康スポーツ) (1) スポーツ実技(生涯スポーツ) (1) スポーツ実技(フィットネス) (1)

3. 基礎体育A（春学期）、基礎体育B（秋学期）ともに、各学期の第1週に履修方法についてのガイダンスを実施し、コースの選択をおこなう。
 4. スポーツ実技の履修年次は、2・3・4年次とする。
 5. スポーツ実技は、各学部・学科の定めるところにより卒業に必要な単位数に加えることができる。
 6. 体育科目については、欠席時数が授業予定総時数の20%を越える場合、「欠席過多（S）」による不合格とする。

E テーマ科目履修要項

1. 卒業のためには、テーマ科目を10単位履修しなければならない。
 2. テーマ科目は次のとおりである。(カッコ内の数字は単位数)

選択必修

「異文化との出会い」(2)

文化の比較	異文化との接触
異文化の理解	日本との出会い
アジアとの出会い	イスラムとの出会い
ヨーロッパとの出会い	南北アメリカとの出会い

「生命と環境」(2)

生命と倫理問題	環境と倫理問題
人間と環境	生活環境と物質
自然環境と生物	生命観と環境観の変遷
社会システムと環境	生命と法律問題

「知識・言語と情報社会」(2)

こころとは	ことばとは
知識の探求	プライバシーと倫理
人間と機械	文化と情報
情報社会の構造	情報を読む

「モダンの系譜」(2)

思想・文化をめぐって	芸術をめぐって
歴史の諸相	文学をめぐって
社会の諸相	科学の諸相
人権をめぐって	政治・経済の諸相

(1) 履修年次は、1・2・3・4年次とする。

(2) 「異文化との出会い」、「生命と環境」、「知識・言語と情報社会」、「モダンの系譜」の4テーマについて、次のいずれかの方法に従って履修しなければならない。

- ① 4テーマの中から1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を履修する
- ② 4テーマの中から2テーマを選択し、そのうちの1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を履修する

3. 超過して修得した単位数は、各学部・学科の定めるところにより卒業に必要な単位数に加えることができる。

F 分野科目履修要項

1. 分野科目の卒業のための要件等は、各学部・学科の定めるところによる。
2. 分野科目は次のとおりである。(カッコ内の数字は単位数)

選択

哲学A	(2)	哲学B	(2)	文学A	(2)
文学B	(2)	考古学A	(2)	考古学B	(2)
日本史A	(2)	日本史B	(2)	東洋史A	(2)
東洋史B	(2)	西洋史A	(2)	西洋史B	(2)
美術A	(2)	美術B	(2)	音楽A	(2)

音楽B	(2)	倫理学	(2)	人文地理学	(2)
自然地理学	(2)	地誌概論	(2)	世界史	(2)
法学A	(2)	法学B	(2)	日本国憲法	(2)
政治学A	(2)	政治学B	(2)	文化人類学A	(2)
文化人類学B	(2)	社会学A	(2)	社会学B	(2)
経済学A	(2)	経済学B	(2)	数学A	(2)
数学B	(2)	物理学A	(2)	物理学B	(2)
生命自然史	(2)	生命科学	(2)	化学	(2)
心理学A	(2)	心理学B	(2)	科学技術論A	(2)
科学技術論B	(2)	地球科学A	(2)	地球科学B	(2)
スポーツ科学論	(2)	健康科学論	(2)	スポーツ科学演習A	(2)
スポーツ科学演習B	(2)				

(1) 履修年次は、1・2・3・4年次とする。

3. 各学部・学科の定めるところにより卒業に必要な単位数に加えることができる。

G 情報科目履修要項

1. 情報科目の卒業のための要件等は、各学部・学科の定めるところによる。

2. 情報科目は次のとおりである。(カッコ内の数字は単位数)

選択

情報リテラシー (2) 情報機器の操作 (2)

(1) 情報リテラシーの履修年次は、1～3年次とする。

(2) 情報機器の操作の履修年次は、1～4年次とする。

3. 各学部・学科の定めるところにより卒業に必要な単位数に加えることができる。

4. 情報科目は、人文学部・外国語学部・法学部の学生に限って登録ができる。

5. 情報科目は、自由科目（卒業必要単位に算入されない科目）として履修することはできない。

H アカデミックリテラシー科目履修要項

1. 理工学部学生は、卒業のためには、アカデミックリテラシー科目を2単位履修しなければならない。

2. アカデミックリテラシー科目は次のとおりである。(カッコ内の数字は単位数)

必修

基礎演習 (2)

I インターンシップ科目履修要項

1. インターンシップ科目の卒業のための要件等は、各学部・学科の定めるところによる。
2. インターンシップ科目は次のとおりである。(カッコ内の数字は単位数)
選択
 インターンシップ研修 (2)
 (1) 履修年次は、3年次とする。
3. 各学部・学科の定めるところにより卒業に必要な単位数に加えることができる。
4. インターンシップ研修は、自由科目（卒業必要単位に算入されない科目）として履修することはできない。

J 海外研修科目履修要項

1. 海外研修科目の卒業のための要件等は、各学部・学科の定めるところによる。
2. 海外研修科目は次のとおりである。(カッコ内の数字は単位数)
選択
 短期留学プログラムA (春季) (2) 短期留学プログラムB (春季) (2)
 短期留学プログラムA (夏季) (2) 短期留学プログラムB (夏季) (2)
 (1) 海外研修科目の履修年次は、1～3年次とする。
3. 各学部・学科の定めるところにより卒業に必要な単位数に加えることができる。

共通教育科目 (瀬戸キャンパス)

共通教育科目履修要項

(瀬戸キャンパス)

欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えるとときの履修成績評価は、「欠席過多 (S)」による不合格とする。

日本語 I・II・IIIのうちのいずれかを履修する学生については、履修年次は学科の指定によるものとする。

1. 宗教科目

- (1) 卒業のためには、宗教科目4単位を修得しなければならない。
- (2) つぎの宗教科目を開設する。

必修

第1年次

宗 教 論 (2)

第2年次

キリスト教概論 (2)

2. 「人間の尊厳」科目

- (1) 卒業のためには、「人間の尊厳」科目4単位以上を修得しなければならない。
ただし、4単位を超えて修得した「人間の尊厳」科目の取り扱いについては、各学部・学科の履修要項に従う。
- (2) つぎの「人間の尊厳」科目を開設する。

選択必修

第2年次以降

宗教に見る人間の尊厳 (2) 哲学・倫理学における人間の尊厳 (2) 思想史に学ぶ人間の尊厳 (2)

政治・経済と人間の尊厳 (2) 法と人間の尊厳 (2) 性と生命における人間の尊厳 (2)

教育・文化における人間の尊厳 (2) 民族問題と人間の尊厳 (2)

3. 外国語科目

- (1) 外国語科目の修得については、各学部・学科の定めるところによる。
- (2) 総合政策学部学生のために、つぎの外国語科目を開設する。

なお、日本語を外国語として履修する学生については、履修上の要件を別に定める。

総合政策学部学生のための外国語科目

必修

英語Iオーラル・コミュニケーションC (2)	英語Iリーディング (1)	英語Iライティング (1)
英語IIオーラル・コミュニケーションC (2)	英語IIリーディング (1)	英語IIライティング (1)

選択必修

中国語I語法 (1)	中国語II語法 (1)	中国語I会話・作文 (1)
中国語II会話・作文 (1)	フランス語I文法・講読 (1)	フランス語II文法・講読 (1)
フランス語I会話・作文 (1)	フランス語II会話・作文 (1)	スペイン語I文法・講読 (1)
スペイン語II文法・講読 (1)	スペイン語I会話・作文 (1)	スペイン語II会話・作文 (1)
ドイツ語I文法・講読 (1)	ドイツ語II文法・講読 (1)	ドイツ語I会話・作文 (1)
ドイツ語II会話・作文 (1)	韓国朝鮮語I文法・講読 (1)	韓国朝鮮語II文法・講読 (1)
韓国朝鮮語I会話・作文 (1)	韓国朝鮮語II会話・作文 (1)	外国語I (1)
外国語II (5)		

選択

中国語III語法 (1)	中国語III会話・作文 (1)	フランス語III文法・講読 (1)
フランス語III会話・作文 (1)	スペイン語III文法・講読 (1)	スペイン語III会話・作文 (1)
ドイツ語III文法・講読 (1)	ドイツ語III会話・作文 (1)	韓国朝鮮語III文法・講読 (1)
韓国朝鮮語III会話・作文 (1)	英語リテラシーIII (2)	

瀬戸キャンパス学部学生のための外国語科目

選択

English Skills Workshop A (1)	English Skills Workshop B (1)	English Skills Workshop C (1)
English Skills Workshop D (1)	TOEIC 対策英語 A (1)	TOEIC 対策英語 B (1)
TOEIC 対策英語 C (1)	TOEFL 対策英語 A (1)	TOEFL 対策英語 B (1)
中国語IV語法 (1)	中国語IV会話・作文 (1)	フランス語IV文法・講読 (1)
フランス語IV会話・作文 (1)	スペイン語IV文法・講読 (1)	スペイン語IV会話・作文 (1)
ドイツ語IV文法・講読 (1)	ドイツ語IV会話・作文 (1)	韓国朝鮮語IV文法・講読 (1)
韓国朝鮮語IV会話・作文 (1)	英語リサーチ・イマージョンプログラム (2)	英語で学ぶイベント企画・交渉スキル (2)

英語で学ぶ社会調査法（2）

日本語を外国語として履修する学生のために開設する日本語科目

日本語Ⅰ（文法）（8）	日本語Ⅰ（読解作文）（2）	日本語Ⅰ（運用）（2）
日本語Ⅱ（読解）（4）	日本語Ⅱ（表現技術A）（2）	日本語Ⅱ（表現技術B）（2）
日本語Ⅱ（総合）（2）	日本語Ⅲ（読解）（4）	日本語Ⅲ（表現技術A）（2）
日本語Ⅲ（表現技術B）（2）	日本語Ⅲ（総合）（2）	

4. 体育科目

- (1) 卒業のためには、体育科目2単位以上を修得しなければならない。
ただし、体育科目のうちの選択科目を修得した場合の取り扱いについては、各学部・学科の履修要項に従う。

- (2) つぎの体育科目を開設する。

必修

第1年次

基礎体育A（1） 基礎体育B（1）

選択

第2年次以降

スポーツ実技（1）（健康スポーツ） スポーツ実技（1）（フィットネス） スポーツ実技（1）（生涯スポーツ）

スポーツ実技（1）（集団スポーツ） スポーツ実技（1）（アウトドアスポーツ） スポーツ実技（1）（個人スポーツ）

- (3) 基礎体育A、基礎体育Bともに、各学期の第1週に履修方法についてのガイダンスを実施し、コースの選択を行う。
- (4) 体育科目については、欠席時数が授業予定時数の20%を超える場合には、「欠席過多（S）」による不合格とする。

5. テーマ科目

- (1) 卒業のためには、「異文化との出会い」、「生命と環境」、「知識・言語と情報社会」、「モダンの系譜」の4テーマについて、つぎのいずれかの方法に従って修得しなければならない。

- ① 4テーマの中から1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位以上を修得する
- ② 4テーマの中から2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単

位以上、もう1テーマについて2科目4単位以上の計5科目10単位以上を修得する。ただし、日本語を外国語として履修する学生については、各学部・学科の履修要項に従う。また、超過して修得した単位の取り扱いについては、各学部学科の履修要項に従うものとする。

(2) テーマ科目として、つぎの科目を開設する。

選択必修

第1年次以降

「異文化との出会い」

異文化との出会い (2) (異文化との接触)	異文化との出会い (2) (異文化の理解)	異文化との出会い (2) (文化の比較)
異文化との出会い (2) (ヨーロッパとの出会い)	異文化との出会い (2) (日本との出会い)	異文化との出会い (2) (アジアとの出会い)

「生命と環境」

生命と環境 (2) (環境と倫理問題)	生命と環境 (2) (社会システムと環境)	生命と環境 (2) (人間と環境)
生命と環境 (2) (自然環境と生物)	生命と環境 (2) (生命と倫理問題)	生命と環境 (2) (生活環境と物質)

「知識・言語と情報社会」

知識・言語と情報社会 (2) (文化と情報)	知識・言語と情報社会 (2) (プライバシーと倫理)	知識・言語と情報社会 (2) (知識の探求)
知識・言語と情報社会 (2) (情報を読む)	知識・言語と情報社会 (2) (情報社会の構造)	知識・言語と情報社会 (2) (ことばとは)
知識・言語と情報社会 (2) (人間と機械)		

「モダンの系譜」

モダンの系譜 (2) (歴史の諸相)	モダンの系譜 (2) (人権をめぐって)	モダンの系譜 (2) (科学の諸相)
モダンの系譜 (2) (社会の諸相)	モダンの系譜 (2) (政治・経済の諸相)	モダンの系譜 (2) (思想・文化をめぐって)

6. 分野科目

- (1) 分野科目の中から修得した単位の取り扱いは、各学部・学科の履修要項に従うものとする。
- (2) 分野科目として、つぎの科目を開設する。

第1年次以降

選択科目

哲 学	A (2)	文 学	A (2)	日 本 史	A (2)
美 術	A (2)	音 楽	A (2)	法 学	A (2)
政 治 学	A (2)	文化人類学	A (2)	社 会 学	A (2)
経 済 学	A (2)	数 学	A (2)	物 理 学	A (2)
生 命 自 然 史	(2)	化 学	(2)	心 理 学	A (2)
地 球 科 学	A (2)	スポーツ科学論	(2)	健 康 科 学 論	(2)

7. アカデミックリテラシー科目

- (1) アカデミックリテラシー科目として、つぎの科目を開設する。

総合政策学部学生のためのアカデミックリテラシー科目

必修

第1年次

基 礎 演 習 (2) コンピュータ基礎演習 I (1) コンピュータ基礎演習 II (1)

8. インターンシップ科目

- (1) インターンシップ科目の卒業のための要件等は、各学部・学科の定めるところによる。
- (2) インターンシップ科目は次のとおりである。(かっこ内の数字は単位数)

選択

第3年次

インターンシップ研修 (2)

- (3) 各学部・学科の定めるところにより卒業に必要な単位数に加えることができる。
- (4) インターンシップ研修は、自由科目（卒業必要単位に算入されない科目）として履修することはできない。

人 文 学 部

人文学部履修要項

1. 人文学部生は、卒業に必要な単位として、共通教育科目32単位以上、学部共通科目8単位以上、学科科目68単位以上、自由選択科目20単位以上を含む、合計128単位以上を修得しなければならない。
2. 共通教育科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目からなる。この履修方法については別に定める（「共通教育科目履修要項」および「各学科履修要項のⅠ」を参照のこと）。
3. 学科科目は必修科目、選択必修科目、選択科目からなる。この履修方法については別に定める（「各学科履修要項のⅡならびにⅢ」を参照のこと）。
4. それぞれの科目の履修年次については別に定める（「共通教育科目履修要項」および「各学科履修要項」を参照のこと）。
5. 人文学部生は、下記の科目を卒業に必要な単位として算入することができる。
 - (1) 共通教育科目、学部共通科目、所属する学科の学科科目のうち、必要単位を超えて履修した科目。
 - (2) 他学科の学科科目（他学科生履修不可の科目を除く）。
 - (3) 他学部の学部共通科目、学科科目（他学部、他学科生履修不可の科目を除く）。ただし、その際の履修年次は、当該学部・学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。
6. 人文学部生は「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」および「司書・司書教諭に関する科目」を自由科目として履修することができる。ただし、自由科目は卒業に必要な単位には算入されない。
7. 人文学部生が学期ごとに登録を許される総単位数は自由科目を除き、24単位とする。ただし、学期をまたがる通年科目の単位数については、学期ごとにその単位数の2分の1と算定する。なお、自由科目については、学期ごとの登録単位数の制限を設けない。
8. 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を原則として「欠席過多（S）」による不合格とする。

キリスト教学科履修要項 ※ () 内は単位数

キリスト教学科学生は、卒業に必要な単位として、共通教育科目32単位以上、学部共通科目8単位以上、学科科目68単位以上、自由選択科目20単位以上を含む、合計128単位以上を修得すること。

I. 共通教育科目 (32)

キリスト教学科学生は、共通教育科目として合計32単位以上を修得すること。

必修科目 (6)

第1年次

宗 教 論 (2) キリスト教概論 (2) 基礎体育 A (1)
基礎体育 B (1)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する

② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を修得すること。

外国語科目 (12)

キリスト教学科学生は、ラテン語を含み2言語以上にわたって、各言語4単位以上を修得すること。なお、選択必修外国語科目については、1ないし2言語8単位(ただし、各言語4単位以上)を修得すること。

必修外国語科目 (4)

第1年次

ラテン語 I 文法 (1) ラテン語 II 文法 (1) ラテン語 I 講読 (1)

ラテン語 II 講読 (1)

選択必修外国語科目 (8)

第1年次以降

以下の外国語の中から任意に選択することができる。選択必修の単位に算入される外国語の具体的な科目名は「卒業に必要な単位数」を参照のこと。

人文学部 キリスト教学科

英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語、インドネシア語、ラテン語、ギリシャ語

以上のほかに、分野科目、情報科目、インターンシップ科目、海外研修科目、必修でない体育科目、所定の単位数を超過して履修した共通教育科目は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入される。「IV. 自由選択科目」の項を参照のこと。

II. 学部共通科目 (8)

キリスト教学科生は、学部共通科目として、以下の科目から4科目8単位以上を修得すること。

人文学部共通・選択科目A群

第1年次以降

博物館概論(2)

第2年次以降

人文諸学の対話(こころめぐって)(2)	人文諸学の対話(人間めぐって)(2)	人文諸学の対話(社会めぐって)(2)
人文学超領域演習(2)	人文学とキャリア形成(2)	キリスト教文化(2)
パラダイム論(2)	日本語の多様性(2)	福祉論(2)
青少年問題論(2)	子ども・学校論(2)	情報組織化論(2)
視聴覚メディア論(2)	生涯学習論(2)	

人文学部共通・選択科目B群

第1年次以降

人類文化学基礎論A(2)	人類文化学基礎論B(2)	文化人類学概論A(2)
文化人類学概論B(2)	言語学概論A(2)	言語学概論B(2)
考古学概論A(2)	考古学概論B(2)	哲学概論A(2)
哲学概論B(2)	教育学概論(2)	人間関係概論(2)
日本文化学入門(2)	日本文化史概説(2)	日本文学入門(2)
日本語教育入門(2)		

第2年次以降

社会心理学(2)	発達心理学(2)	コミュニケーション論(2)
教育社会史(2)	教育思想(2)	比較教育学(2)
日本文化史B(2)	日本思想史(2)	地域文化論(2)
現代日本語の構造I(2)	第二言語習得研究(2)	

III. 学科科目 (68)

キリスト教学科生は、必修科目を24単位、選択科目を44単位以上、合計68単位以上を修得すること。

人文学部 キリスト教学科

必修科目 (24)

第1年次 (8)

聖書入門 A (2) 聖書入門 B (2) キリスト教学基礎演習Ⅰ (2)
キリスト教学基礎演習Ⅱ (2)

第2年次 (4)

キリスト教学基礎演習Ⅲ (2) キリスト教学基礎演習Ⅳ (2)

第3年次 (4)

キリスト教学演習Ⅰ (2) キリスト教学演習Ⅱ (2)

第4年次 (8)

キリスト教学演習Ⅲ (2) キリスト教学演習Ⅳ (2) 研究プロジェクト (4)

キリスト教学演習Ⅱを履修するためには、キリスト教学演習Ⅰの単位を修得していなければならない。

キリスト教学演習Ⅲを履修するためには、キリスト教学演習Ⅱの単位を修得していなければならない。

キリスト教学演習Ⅳを履修するためには、キリスト教学演習Ⅲの単位を修得していなければならない。

なお、「研究プロジェクト」を修得するためには、研究プロジェクトの成果を研究報告論文として提出すること。

選択科目 (44)

第1年次以降

キリスト教学入門 (2) 聖書時代史 (2) 聖書解釈史 (2)
キリスト教史(古代・中世教会史) (2) キリスト教史(近世教会史) (2) キリスト教史(現代教会史) (2)
古代哲学史Ⅰ (2) 古代哲学史Ⅱ (2) キリスト教芸術A(美術) (2)
キリスト教芸術B(典礼音楽) (2)

第2年次以降

自然神学 (2) 中世哲学史Ⅰ (2) 中世哲学史Ⅱ (2)
近世・現代哲学史Ⅰ (2) 近世・現代哲学史Ⅱ (2) 認識論 (2)
旧約聖書学(モーセ五書A) (2) 旧約聖書学(モーセ五書B) (2) 旧約聖書学(預言書A) (2)
旧約聖書学(預言書B) (2) 新約聖書学 (2) 新約聖書学 (2)
(福音書・使徒言行録A) (福音書・使徒言行録B)
新約聖書学(書簡A) (2) 新約聖書学(書簡B) (2) 初期キリスト教思想A (2)
初期キリスト教思想B (2) キリスト教思想A (2) キリスト教思想B (2)
キリスト教哲学A (2) キリスト教哲学B (2) 組織神学(キリスト論A) (2)
組織神学(キリスト論B) (2) 組織神学(三位一体論) (2) 組織神学(神学的人間論A) (2)
組織神学(神学的人間論B) (2) 組織神学(終末論) (2) 基礎神学(啓示論) (2)

基礎神学(教会論) (2)	組織神学(秘跡論A) (2)	組織神学(秘跡論B) (2)
典礼学(総論) (2)	典礼学(感謝の祭儀) (2)	典礼学(典礼暦年A) (2)
典礼学(典礼暦年B) (2)	キリスト教倫理学(基礎論A) (2)	キリスト教倫理学(基礎論B) (2)
キリスト教倫理学(各論A) (2)	キリスト教倫理学(各論B) (2)	日本キリスト教史 (2)
宗 教 学 (2)	宗 教 社 会 学 (2)	宗 教 史 I (2)
宗 教 史 II (2)	宗 教 思 想 A (2)	宗 教 思 想 B (2)
カウンセリング指導法 (2)	司 牧 神 学 (2)	宣 教 学 (2)
教会法(基礎論A) (2)	教会法(基礎論B) (2)	教会法(各論A) (2)
教会法(各論B) (2)	聖書ギリシャ語(初級) I (2)	聖書ギリシャ語(初級) II (2)
聖書ヘブライ語(初級) I (2)	聖書ヘブライ語(初級) II (2)	

第3年次以降

聖書ギリシャ語(中級) I (2)	聖書ギリシャ語(中級) II (2)	聖書ヘブライ語(中級) I (2)
聖書ヘブライ語(中級) II (2)	実践神学(説教学) (2)	

IV. 自由選択科目 (20)

キリスト教学科学生は、自由選択科目として20単位以上を修得すること。自由選択科目として認められる科目は以下のとおりである。

- (1) 共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目
- (2) 人文学部共通科目で所定の単位数を超過して修得した科目
- (3) キリスト教学科科目で所定の単位数を超過して修得した科目
- (4) 他学部・他学科科目 (他学部・他学科履修不可科目を除く)

(なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない。)

人文学部 キリスト教学科

人文学部キリスト教学科カリキュラム表

【人文学部 キリスト教学科】

区分		年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	
共通教育科目		32単位以上修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。					
学部 共通 科目	人文学部共通・ 選択科目 A 群	8 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
	人文学部共通・ 選択科目 B 群						
学 科 目	必修科目を24単位、選択科目を44単位以上、合計68単位以上を修得しなければならない。						
	必 修	24単位修得しなければならない。					
		聖書入門 A (2) 聖書入門 B (2) キリスト教学基礎演習Ⅰ(2) キリスト教学基礎演習Ⅱ(2)	キリスト教学基礎演習Ⅲ(2) キリスト教学基礎演習Ⅳ(2)	キリスト教学演習Ⅰ(2) キリスト教学演習Ⅱ(2)	キリスト教学演習Ⅲ(2) キリスト教学演習Ⅳ(2) 研究プロジェクト(4)		
選 択	44単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。						
自由選択科目		20単位修得しなければならない。詳細は、「履修要項」を参照。 (1) 共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目 (2) 人文学部共通科目で所定の単位数を超過して修得した科目 (3) キリスト教学科科目で所定の単位数を超過して修得した科目 (4) 他学部・他学科科目（他学部・他学科履修不可科目を除く） (なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)					

卒業に必要な単位数

人文学部キリスト教学科

総単位数 **128**

共通教育科目 **32**

必修科目 **6**

宗教科目

宗教論 2(1年次)

キリスト教概論 2(1年次)

体育科目

基礎体育A 1(1年次)

基礎体育B 1(1年次)

選択必修科目 **14**

人間の尊厳科目 4(2~4年次)

テーマ科目 **10**

異文化との出会い 各2(1~4年次)

生命と環境 各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会 各2(1~4年次)

モダンの系譜 各2(1~4年次)

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位を修得する
または
2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位を修得し、もう1テーマについて2科目4単位の計5科目10単位を修得する

選択科目

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、
考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、
東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、
美術A、美術B、音楽A、音楽B、世界史、
自然地理学、人文地理学、地誌概論、
倫理学、法学A、法学B、日本国憲法、
政治学A、政治学B、文化人類学A、
文化人類学B、社会学A、社会学B、
経済学A、経済学B、数学A、数学B、
物理学A、物理学B、生命自然史、生命科学、
化学、心理学A、心理学B、科学技術論A、
科学技術論B、地球科学A、地球科学B、
スポーツ科学論、健康科学論、
スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B
各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技 各1(2~4年次)

情報科目

情報リテラシー 2(1~3年次)

情報機器の操作 2(1~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修 2(3年次)

海外研修科目

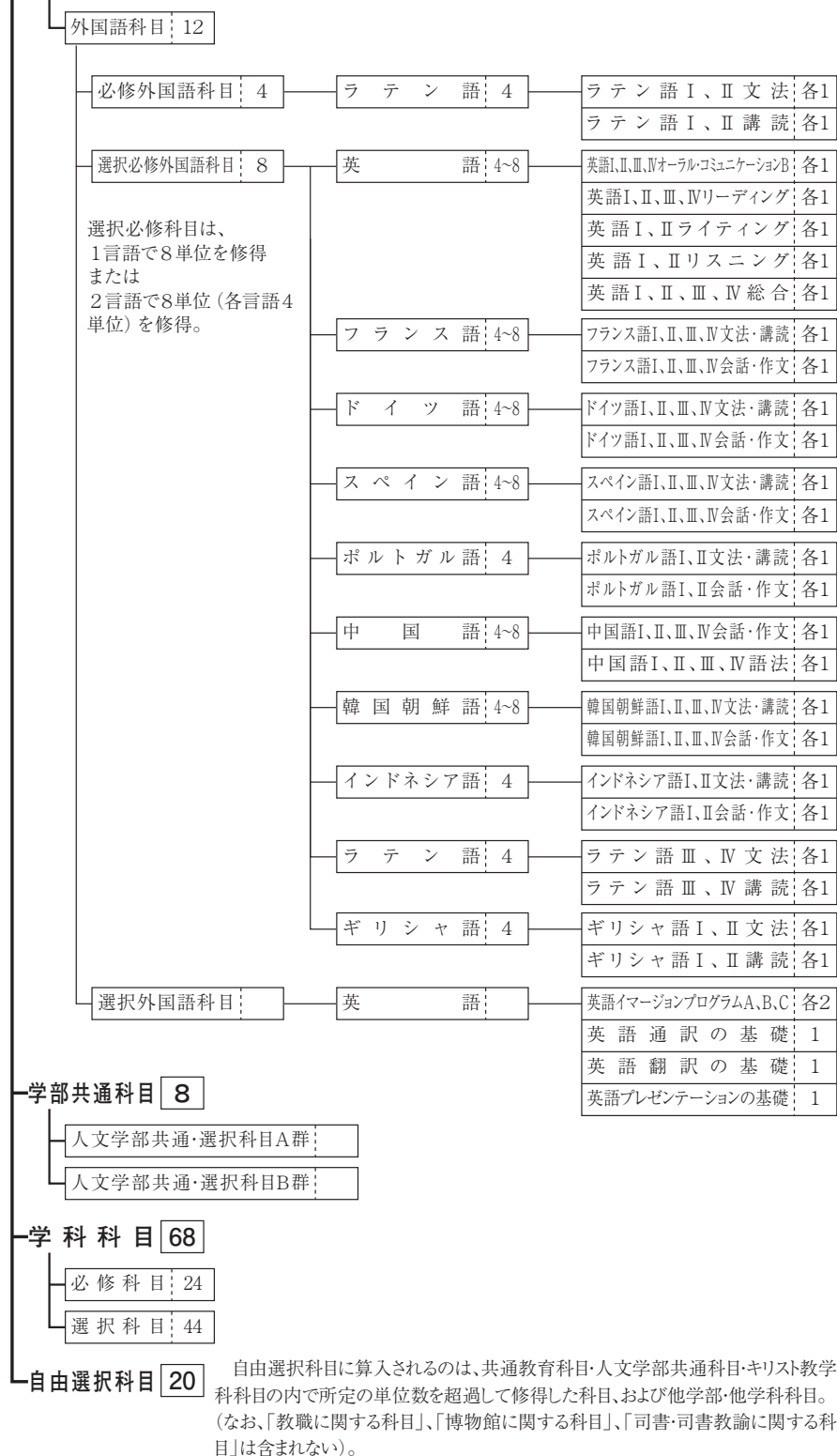
短期留学プログラムA、短期留学プログラムB
各2(1~3年次)

※1 ※2

人文学部

人文学部 キリスト教学科

※1 ※2



人類文化学科履修要項※()内は単位数

人類文化学科学生は、卒業に必要な単位として、共通教育科目32単位以上、学部共通科目 8 単位以上、学科科目68単位以上、自由選択科目20単位以上を含む、合計128単位以上を修得すること。

I. 共通教育科目 (32)

人類文化学科学生は、共通教育科目として合計32単位以上を修得すること。

必修科目 (6)

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

① 1 テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する

② 2 テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を修得すること。

外国語科目 (12)

人類文化学科学生は、2言語以上にわたって、各言語4単位以上を修得すること。なお、選択必修外国語科目については、1ないし2言語8単位（ただし、英語以外は1言語4単位以上）を修得すること。

必修外国語科目 (4)

第1年次

英語Iオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Iリーディング (1)

英語IIリーディング (1)

選択必修外国語科目 (8)

第1年次以降

以下の外国語の中から任意に選択することができる。選択必修の単位数に算入

人文学部 人類文化学科

される外国語の具体的な科目名は「卒業に必要な単位数」を参照のこと。

英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語、インドネシア語、ラテン語、ギリシャ語

以上のほかに、分野科目、情報科目、インターンシップ科目、海外研修科目、必修でない体育科目、所定の単位数を超過して履修した共通教育科目は、自由選択科目として卒業に必要な単位数に算入される。「IV. 自由選択科目」の項を参照のこと。

II. 学部共通科目（8）

人類文化学科学生は、学部共通科目として、以下の科目から4科目8単位以上を修得すること。

人文学部共通・選択科目A群

第1年次以降

博物館概論（2）

第2年次以降

人文諸学の対話(こころをめぐって)（2） 人文諸学の対話(人間をめぐって)（2） 人文諸学の対話(社会をめぐって)（2）

人文学超領域演習（2） 人文学とキャリア形成（2） キリスト教文化（2）

パラダイム論（2） 日本語の多様性（2） 福祉論（2）

青少年問題論（2） 子ども・学校論（2） 情報組織化論（2）

視聴覚メディア論（2） 生涯学習論（2）

人文学部共通・選択科目B群

第1年次以降

聖書入門 B（2） キリスト教芸術A(美術)（2） キリスト教芸術B(典礼音楽)（2）

キリスト教史(古代・中世教会史)（2） キリスト教史(近世教会史)（2） キリスト教史(現代教会史)（2）

教育学概論（2） 人間関係概論（2） 日本文化学入門（2）

日本文化史概説（2） 日本文学入門（2） 日本語教育入門（2）

第2年次以降

日本キリスト教史（2） キリスト教哲学A（2） 宗教史 I（2）

社会心理学（2） 発達心理学（2） コミュニケーション論（2）

教育社会史（2） 教育思想（2） 比較教育学（2）

日本文化史 B（2） 日本思想史（2） 地域文化論（2）

現代日本語の構造 I（2） 第二言語習得研究（2）

Ⅲ. 学科科目 (68)

人類文化学科学生は、必修科目を24単位、選択必修科目を8単位以上、選択科目を36単位以上、合計68単位以上を修得すること。

必修科目 (24)

第1年次

人類文化学基礎演習Ⅰ (2) 人類文化学基礎演習Ⅱ (2) 人類文化学基礎論A (2)
人類文化学基礎論B (2)

第2年次

人類文化学基礎演習Ⅲ (2) 人類文化学基礎演習Ⅳ (2)

第3年次

人類文化学演習Ⅰ (2) 人類文化学演習Ⅱ (2)

第4年次

人類文化学演習Ⅲ (2) 人類文化学演習Ⅳ (2) 研究プロジェクト (4)
人類文化学演習Ⅱを履修するためには、人類文化学演習Ⅰの単位を修得していなければならない。

人類文化学演習Ⅲを履修するためには、人類文化学演習Ⅱの単位を修得していなければならない。

人類文化学演習Ⅳを履修するためには、人類文化学演習Ⅲの単位を修得していなければならない。

なお、「研究プロジェクト」を修得するためには、研究プロジェクトの成果を研究報告論文として提出すること。

選択必修科目 (8)

第1～2年次

次の科目の中から、4科目8単位以上を修得すること。なお所定の単位数を超過して修得した選択必修科目は、選択科目に算入される。

言語学概論A (2) 言語学概論B (2) 哲学概論A (2)
哲学概論B (2) 文化人類学概論A (2) 文化人類学概論B (2)
考古学概論A (2) 考古学概論B (2)

選択科目 (36)

次の科目の中から、36単位以上を修得すること。

第2年次以降

現代の言語学A (2) 現代の言語学B (2) 現代の哲学A (2)
現代の哲学B (2) 現代の文化人類学A (2) 現代の文化人類学B (2)
現代の倫理学 (2) 現代の考古学 (2) 統語論 (2)
言語分析 (2) 意味論 (2) 社会言語学 (2)

人文学部 人類文化学科

日本語音韻論 (2)	論理学 (2)	応用哲学 A (2)
応用哲学 B (2)	知識と社会 (2)	科学文化論 A (2)
科学文化論 B (2)	科学コミュニケーション (2)	古代哲学史 I (2)
古代哲学史 II (2)	中世哲学史 I (2)	中世哲学史 II (2)
近世哲学史 I (2)	近世哲学史 II (2)	文化と進化 (2)
宗教人類学 (2)	社会人類学 (2)	民族誌論 (2)
文化理論 (2)	東アジア考古学 A (2)	東アジア考古学 B (2)
東アジア考古学 C (2)	文化史 A (2)	文化史 B (2)
地域の文化と歴史 (2) (東南アジア)	地域の文化と歴史 (2) (環太平洋)	
地域の文化と歴史 (2) (南アジア)	地域の文化と歴史 (2) (オセアニア)	地域の文化と歴史 (2) (アフリカ)
地域の文化と歴史 (2) (西アジア)	地域の文化と歴史 (2) (アメリカ大陸)	フィールドワーク (4) (文化人類学) I
フィールドワーク (4) (文化人類学) II	異文化コミュニケーション (2)	考古学実習 I (2)
考古学実習 II (2)	文献資料講読(日本) I (2)	文献資料講読(日本) II (2)
文献資料講読(中国) (2)	文献資料講読(西洋) A (2)	文献資料講読(西洋) B (2)
文献資料講読(民族誌) (2)		

第3年次以降

人類文化学特殊講義 (2) (統語分析)	人類文化学特殊講義 (2) (構造と意味)	人類文化学特殊講義 (2) (対照言語学)
人類文化学特殊講義 (2) (心理言語学)	人類文化学特殊講義 (2) (英米哲学)	人類文化学特殊講義 (2) (大陸哲学 A)
人類文化学特殊講義 (2) (大陸哲学 B)	人類文化学特殊講義 (2) (アジアの文化人類学)	人類文化学特殊講義 (2) (アフリカの社会人類学)
人類文化学特殊講義 (2) (新大陸の考古学)	人類文化学特殊講義 (2) (アジアの社会人類学)	人類文化学特殊講義 (2) (縄紋文化論)
人類文化学特殊講義 (2) (中国的世界の形成)	人類文化学特殊講義 (2) (農耕文化論)	人類文化学特殊講義 (2) (物質文化論)

IV. 自由選択科目 (20)

人類文化学科学生は、自由選択科目として20単位以上を修得すること。自由選択科目として認められる科目は以下のとおりである。

- (1) 共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目
 - (2) 人文学部共通科目で所定の単位数を超過して修得した科目
 - (3) 人類文化学科科目で所定の単位数を超過して修得した科目
 - (4) 他学部・他学科科目 (他学部・他学科履修不可科目を除く)
- (なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)

人文学部人類文化学科カリキュラム表

【人文学部 人類文化学科】

区分		年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目			32単位修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。			
学部共通科目	人文学部共通・ 選択科目 A 群		8 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。			
	人文学部共通・ 選択科目 B 群					
学 科 目	必修科目を24単位、選択必修科目を8単位以上、選択科目を36単位以上、合計68単位以上を修得しなければならない。					
	必 修	24単位修得しなければならない。				
		人類文化学基礎演習Ⅰ(2) 人類文化学基礎演習Ⅱ(2) 人類文化学基礎論A(2) 人類文化学基礎論B(2)	人類文化学基礎演習Ⅲ(2) 人類文化学基礎演習Ⅳ(2)	人類文化学演習Ⅰ(2) 人類文化学演習Ⅱ(2)	人類文化学演習Ⅲ(2) 人類文化学演習Ⅳ(2) 研究プロジェクト(4)	
選 択 必 修	8 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
選 択	36単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
自由選択科目		20単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。 (1) 共通教育科目で所定の単位数を超過して履修した科目。 (2) 人文学部共通科目で所定の単位数を超過して修得した科目。 (3) 人類文化学科科目で所定の単位数を超過して修得した科目。 (4) 他学部・他学科科目 (他学部・他学科履修不可科目を除く) (なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)				

卒業に必要な単位数

人文学部人類文化学科

総単位数 **128**

共通教育科目 **32**

必修科目 **6**

宗教科目

宗教論;2(1年次)

キリスト教概論;2(2年次)

体育科目

基礎体育A;1(1年次)

基礎体育B;1(1年次)

選択必修科目 **14**

人間の尊厳科目;4(2~4年次)

テーマ科目 **10**

異文化との出会い;各2(1~4年次)

生命と環境;各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会;各2(1~4年次)

モダンの系譜;各2(1~4年次)

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位を修得する
または
2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位を修得し、もう1テーマについて2科目4単位の計5科目10単位を修得する

選択科目

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、
考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、
東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、
美術A、美術B、音楽A、音楽B、世界史、
自然地理学、人文地理学、地誌概論、
倫理学、法学A、法学B、日本国憲法、
政治学A、政治学B、文化人類学A、
文化人類学B、社会学A、社会学B、
経済学A、経済学B、数学A、数学B、
物理学A、物理学B、生命自然史、生命科学、
化学、心理学A、心理学B、科学技術論A、
科学技術論B、地球科学A、地球科学B、
スポーツ科学論、健康科学論

各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技;各1(2~4年次)

情報科目

情報リテラシー;2(1~3年次)

情報機器の操作;2(1~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修;2(3年次)

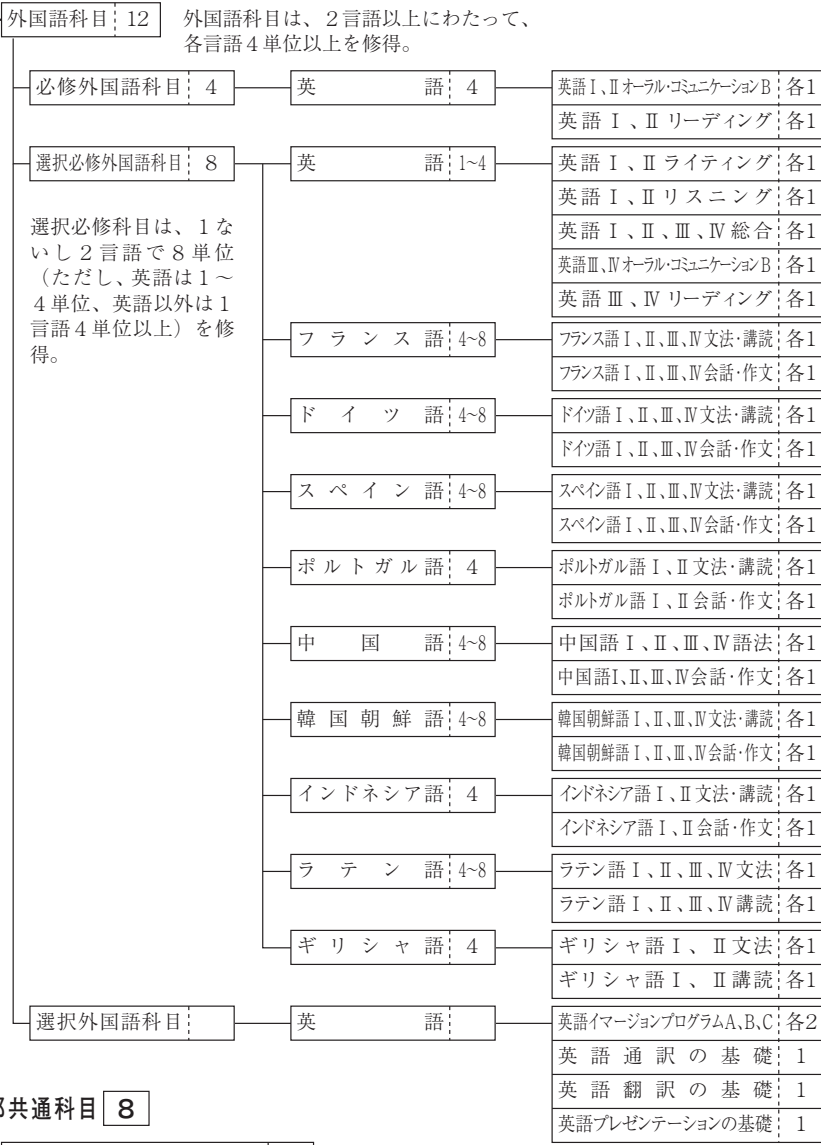
海外研修科目

短期留学プログラムA、短期留学プログラムB

各2(1~3年次)

※1 ※2

※1 ※2



選択必修科目は、1ないし2言語で8単位（ただし、英語は1~4単位、英語以外は1言語4単位以上）を修得。

学部共通科目 8

- 人文学部共通・選択科目A群
- 人文学部共通・選択科目B群

学科科目 68

- 必修科目 24
- 選択必修科目 8
- 選択科目 36

履修方法については、学科の履修要項を参照のこと。なお、学科科目のうち、選択必修科目の8単位を超過して修得した単位は、選択科目の単位に算入される。

自由選択科目 20

自由選択科目に算入されるのは、共通教育科目・人文学部共通科目・人類文化学科科目の内定で所定の単位数を超過して履修した科目、および他学部・他学科科目。（なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない。）

心理人間学科履修要項 ※ () 内は単位数

心理人間学科学生は、卒業に必要な単位として、共通教育科目32単位以上、学部共通科目 8 単位以上、学科科目68単位以上、自由選択科目20単位以上を含む、合計128単位以上を修得すること。

I. 共通教育科目 (32)

心理人間学科学生は、共通教育科目として合計32単位以上を修得すること。

必修科目 (6)

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する

② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を修得すること。

外国語科目 (12)

心理人間学科学生は、2言語以上にわたって、各言語4単位以上を修得すること。

なお、選択必修外国語科目については、1ないし2言語8単位（ただし、英語以外は1言語4単位以上）を修得すること。

必修外国語科目 (4)

第1年次

英語Iオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Iリーディング (1)

英語IIリーディング (1)

選択必修外国語科目（8）

第1年次以降

以下の外国語の中から任意に選択することができる。選択必修の単位に算入される外国語の具体的な科目名は「卒業に必要な単位数」を参照のこと。

英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語、インドネシア語、ラテン語、ギリシャ語

以上のほかに、分野科目、情報科目、インターンシップ科目、海外研修科目、必修でない体育科目、所定の単位数を超過して履修した共通教育科目は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入される。「IV. 自由選択科目」の項を参照のこと。

II. 学部共通科目（8）

心理人間学科学学生は、学部共通科目として、以下の科目から4科目8単位以上修得すること。

人文学部共通・選択科目A群

第1年次以降

博物館概論（2）

第2年次以降

人文諸学の対話（こころめぐって）（2） 人文諸学の対話（人間めぐって）（2） 人文諸学の対話（社会めぐって）（2）

人文学超領域演習（2） 人文学とキャリア形成（2） キリスト教文化（2）

パラダイム論（2） 日本語の多様性（2） 福祉論（2）

青少年問題論（2） 子ども・学校論（2） 情報組織化論（2）

視聴覚メディア論（2） 生涯学習論（2）

人文学部共通・選択科目B群

第1年次以降

聖書入門B（2） キリスト教芸術A(美術)（2） キリスト教芸術B(典礼音楽)（2）

キリスト教史(古代・中世教会史)（2） キリスト教史(近世教会史)（2） キリスト教史(現代教会史)（2）

人類文化学基礎論A（2） 人類文化学基礎論B（2） 文化人類学概論A（2）

文化人類学概論B（2） 言語学概論A（2） 言語学概論B（2）

考古学概論A（2） 考古学概論B（2） 哲学概論A（2）

哲学概論B（2） 日本文化学入門（2） 日本文化史概説（2）

日本文学入門（2） 日本語教育入門（2）

第2年次以降

日本キリスト教史（2） キリスト教哲学A（2） 宗教史 I（2）

人文学部 心理人間学科

日本文化史 B (2) 日本思想史 (2) 地域文化論 (2)
現代日本語の構造 I (2) 第二言語習得研究 (2)

Ⅲ. 学科科目 (68)

心理人間学科学生は、必修科目を26単位、選択科目を42単位以上、合計68単位以上を修得すること。

必修科目 (26)

第1年次

心理学概論 (2) 教育学概論 (2) 人間関係概論 (2)
心理人間学基礎演習 I (2) 心理人間学基礎演習 II (2)

第2年次

心理人間学基礎演習 III (2) 心理人間学基礎演習 IV (2)

第3年次

心理人間学演習 I (2) 心理人間学演習 II (2)

第4年次

心理人間学演習 III (2) 心理人間学演習 IV (2) 研究プロジェクト (4)
心理人間学演習 II を履修するためには、心理人間学演習 I の単位を修得していなければならない。

心理人間学演習 III を履修するためには、心理人間学演習 II の単位を修得していなければならない。

心理人間学演習 IV を履修するためには、心理人間学演習 III の単位を修得していなければならない。

なお、「研究プロジェクト」の単位を修得するためには、研究プロジェクトの成果を研究報告論文として提出すること。

選択科目 (42)

第2年次

人間関係フィールドワーク I (4) 人間関係フィールドワーク II (4) 心理学実験 I (2)
心理学実験 II (2)

第2年次以降

人間関係プロセス論 (3) 人間関係プロセス論 (3) 人間関係トレーニング (2)
(ファミリー・アプローチ) (カウンセリング・アプローチ)

臨床教育学 (2) 教育社会学 (2) 比較教育学 (2)
教育社会史 (2) 教育思想 (2) 教育課程論 (2)
教育行政論 (2) コミュニケーション論 (2) 障害児教育論 (2)
パーソナリティ心理学 (2) 発達心理学 (2) 学習心理学 (2)

人文学部 心理人間学科

認知心理学(2)	社会心理学(2)	心理療法論(2)
心理検査法(2)	カウンセリング実践トレーニング(3)	ボディワークA(3)
ボディワークB(3)	ホリスティック・アプローチ(教育学)(2)	ホリスティック・アプローチ(死生学)(2)
からだとことば(3)	地域開発と人間関係(3)	心理測定法(2)
教育心理学(2)	臨床心理学(2)	子ども・青年社会学(2)
第3年次以降		
教育と文化(2)	現代教育論(2)	近代教育と子ども(2)
生涯発達心理学(2)	乳幼児心理学(2)	ファシリテーター・トレーニング(2)
リーダーシップ・トレーニング(2)	体験学習実践トレーニング(3)	心理調査法(2)
質的研究法Ⅰ(2)	質的研究法Ⅱ(2)	心理教育統計法(2)
心理教育データ解析法(2)	自己と社会(2)	心理人間学文献講読(心理)A(2)
心理人間学文献講読(心理)B(2)	心理人間学文献講読(人間関係)A(2)	心理人間学文献講読(人間関係)B(2)

IV. 自由選択科目(20)

心理人間学科学学生は、自由選択科目として20単位以上を修得すること。自由選択科目として認められる科目は以下のとおりである。

- (1) 共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目
- (2) 人文学部共通科目で所定の単位数を超過して修得した科目
- (3) 心理人間学科科目で所定の単位数を超過して修得した科目
- (4) 他学部・他学科科目(他学部・他学科履修不可科目を除く)

(なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)

人文学部 心理人間学科

人文学部心理人間学科カリキュラム表

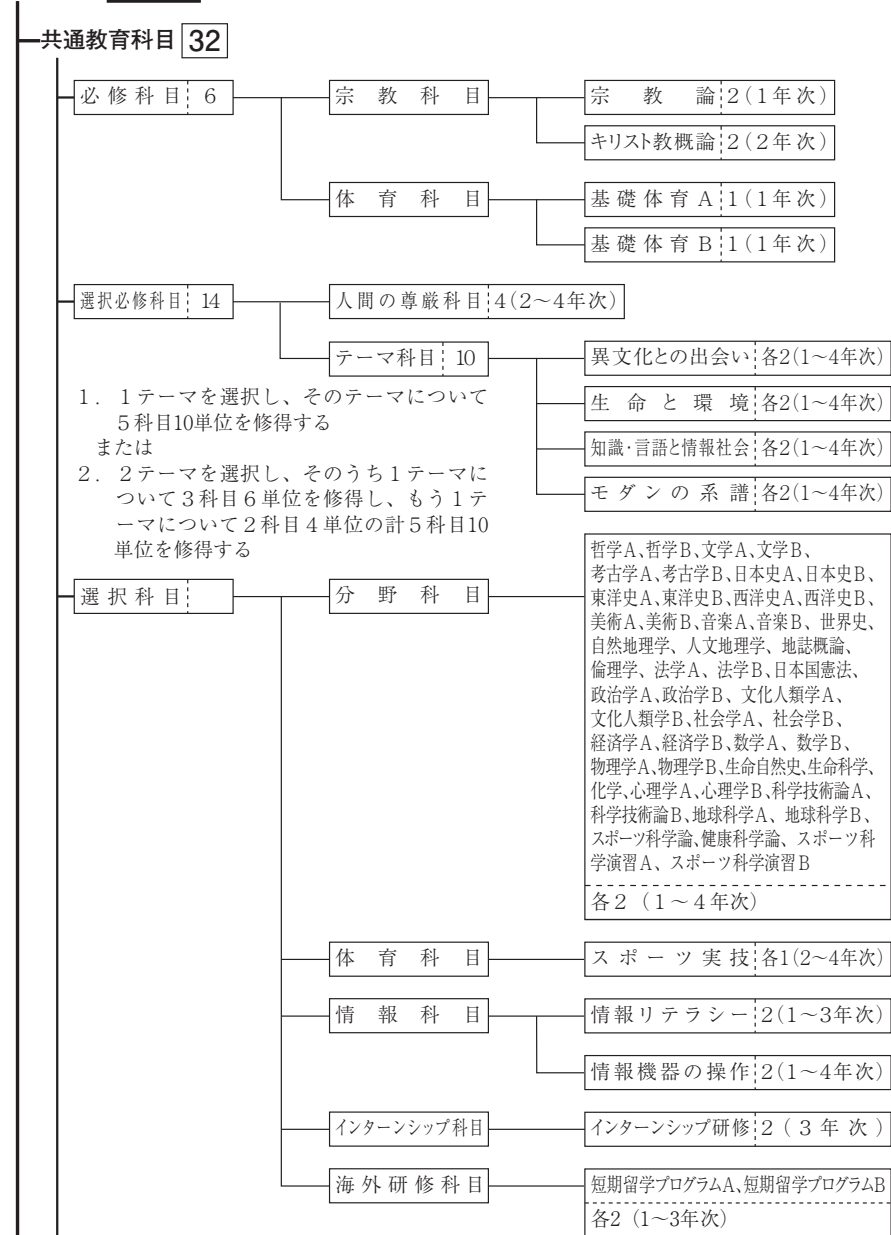
【人文学部 心理人間学科】

区分		年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目		32単位修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。				
学部共通科目	人文学部共通・ 選択科目 A 群	8 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。				
	人文学部共通・ 選択科目 B 群					
学		必修科目を26単位、選択科目を42単位以上、合計68単位以上を修得しなければならない。				
科	必 修	26単位修得しなければならない。				
		心 理 学 概 論 (2) 教 育 学 概 論 (2) 人 間 関 係 概 論 (2) 心理人間学基礎演習 I (2) 心理人間学基礎演習 II (2)	心理人間学基礎演習 III (2) 心理人間学基礎演習 IV (2)	心理人間学演習 I (2) 心理人間学演習 II (2)	心理人間学演習 III (2) 心理人間学演習 IV (2) 研究プロジェクト (4)	
目	選 択	42単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。				
自由選択科目		20単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。 (1) 共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目。 (2) 人文学部共通科目で所定の単位数を超過して修得した科目。 (3) 心理人間学科科目で所定の単位数を超過して修得した科目。 (4) 他学部・他学科科目（他学部・他学科履修不可科目を除く） (なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)				

卒業に必要な単位数

人文学部心理人間学科

総単位数 **128**

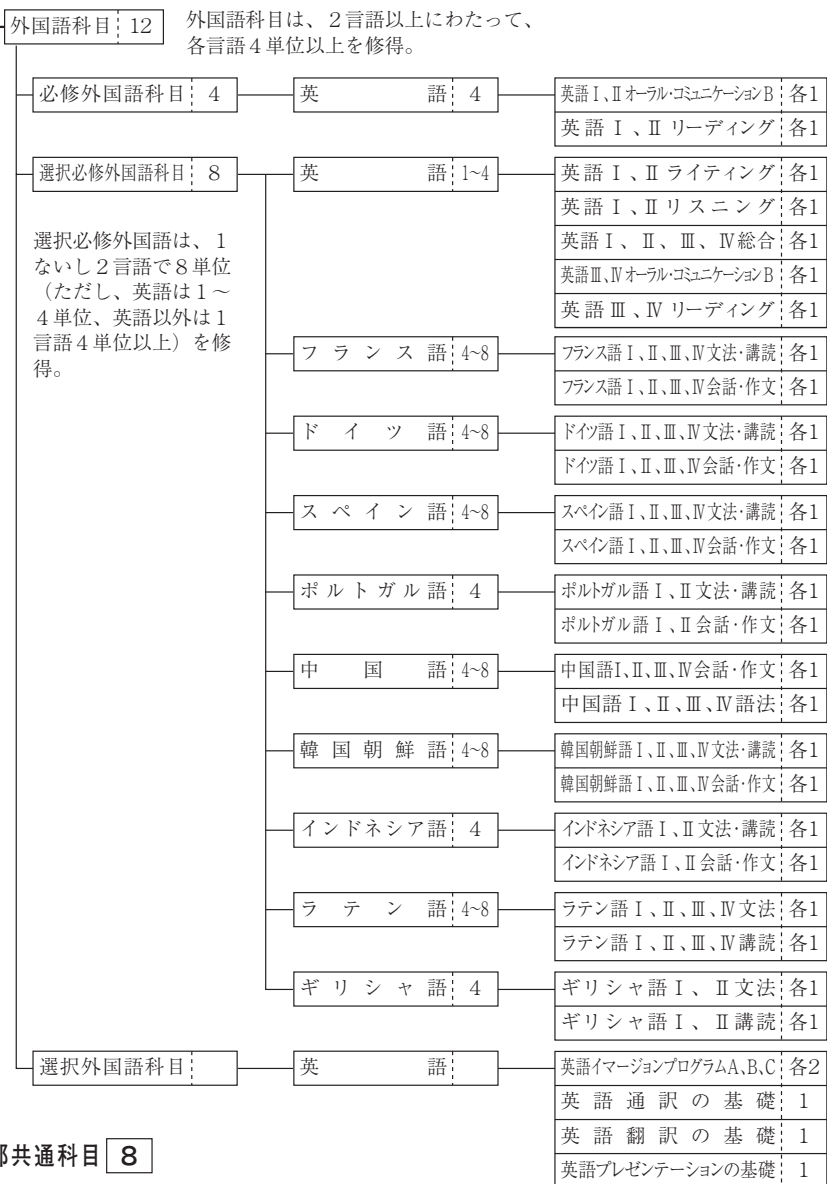


※1 ※2

人文学部

人文学部 心理人間学科

※1 ※2



学部共通科目 8

- 人文学部共通・選択科目A群
- 人文学部共通・選択科目B群

学科科目 68

- 必修科目 26
- 選択科目 42

自由選択科目 20

自由選択科目に算入されるのは、共通教育科目・人文学部共通科目・心理人間学科科目の内で所定の単位数を超過して履修した科目、および他学部・他学科科目。(なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)。

日本文化学科履修要項 ※ () 内は単位数

日本文化学科学生は、卒業に必要な単位として、共通教育科目32単位以上、学部共通科目 8 単位以上、学科科目68単位以上、自由選択科目20単位以上を含む、合計128単位以上を修得すること。

I. 共通教育科目 (32)

日本文化学科学生は、共通教育科目として合計32単位以上を修得すること。

必修科目 (6)

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

① 1 テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する

② 2 テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を修得すること。

外国語科目 (12)

日本文化学科学生は、2言語以上にわたって、各言語4単位以上を修得すること。

なお、選択必修外国語科目については、1ないし2言語8単位（ただし、英語以外は1言語4単位以上）を修得すること。

必修外国語科目 (4)

第1年次

英語Iオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Iリーディング (1)

英語IIリーディング (1)

人文学部 日本文化学科

選択必修外国語科目（8）

第1年次以降

以下の外国語の中から任意に選択することができる。選択必修の単位に算入される外国語の具体的な科目名は「卒業に必要な単位数」を参照のこと。

英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語、インドネシア語、ラテン語、ギリシャ語

以上のほかに、分野科目、情報科目、インターンシップ科目、海外研修科目、必修でない体育科目、所定の単位数を超過して履修した共通教育科目は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入される。「IV. 自由選択科目」の項を参照のこと。

II. 学部共通科目（8）

日本文化学科学生は、学部共通科目として、以下の科目から4科目8単位以上を履修すること。

人文学部共通・選択科目A群

第1年次以降

博物館概論（2）

第2年次以降

人文諸学の対話(こころをめぐって)（2） 人文諸学の対話(人間をめぐって)（2） 人文諸学の対話(社会をめぐって)（2）

人文学超領域演習（2） 人文学とキャリア形成（2） キリスト教文化（2）

パラダイム論（2） 日本語の多様性（2） 福祉論（2）

青少年問題論（2） 子ども・学校論（2） 情報組織化論（2）

視聴覚メディア論（2） 生涯学習論（2）

人文学部共通・選択科目B群

第1年次以降

聖書入門B（2） キリスト教芸術A(美術)（2） キリスト教芸術B(典礼音楽)（2）

キリスト教史(古代・中世教会史)（2） キリスト教史(近世教会史)（2） キリスト教史(現代教会史)（2）

人類文化学基礎論A（2） 人類文化学基礎論B（2） 文化人類学概論A（2）

文化人類学概論B（2） 考古学概論A（2） 考古学概論B（2）

哲学概論A（2） 哲学概論B（2） 教育学概論（2）

人間関係概論（2）

第2年次以降

日本キリスト教史（2） キリスト教哲学A（2） 宗教史I（2）

社会心理学（2） 発達心理学（2） コミュニケーション論（2）

教育社会史(2) 教育思想(2) 比較教育学(2)

Ⅲ. 学科科目 (68)

日本文化学科学生は、必修科目を20単位、選択科目を48単位以上、合計68単位以上を修得すること。

必修科目 (20)

第1年次

日本文化学基礎演習Ⅰ(2) 日本文化学基礎演習Ⅱ(2)

第2年次

日本文化学基礎演習Ⅲ(2) 日本文化学基礎演習Ⅳ(2)

第3年次

日本文化学演習Ⅰ(2) 日本文化学演習Ⅱ(2)

第4年次

日本文化学演習Ⅲ(2) 日本文化学演習Ⅳ(2) 研究プロジェクト(4)
日本文化学演習Ⅱを履修するためには、日本文化学演習Ⅰの単位を修得していなければならない。

日本文化学演習Ⅲを履修するためには、日本文化学演習Ⅱの単位を修得していなければならない。

日本文化学演習Ⅳを履修するためには、日本文化学演習Ⅲの単位を修得していなければならない。

なお、「研究プロジェクト」を修得するためには、研究プロジェクトの成果を研究報告論文として提出すること。

選択科目 (48)

次の科目の中から48単位以上を修得すること。

第1年次

日本文化学入門(2) 日本文化史概説(2) 日本文学入門(2)
日本語教育入門(2)

第1年次以降

からだとことば(3) 文章表現法(2) 言語学概論A(2)
言語学概論B(2)

第2年次以降

日本文化史A(2) 日本文化史B(2) 日本文化史C(2)
近現代日本とアジア(2) 日本民俗文化論(2) 日本芸能史(2)
宗教人類学(2) 消費社会論(2) 日本経済史(2)
表象文化論(2) 表層文化論(2) 現代社会と人間(3)

人文学部 日本文学学科

日本思想史(2) 地域文化論(2) 日本中世史(2)
日本美術史(2) 和歌文学研究(2) 日本文学史A(2)
日本文学史B(2) 日本文学史C(2) 物語・日記文学研究(2)
中世文学研究(2) 王朝文学研究(2) 近現代文学研究(2)
近世文学研究(2) 近現代小説研究(2) 近現代女性作家研究(2)
女性と古典文学(2) 古典資料講読(2) 中国古典研究(2)
古文献入門(2) 漢文学A(2) 漢文学B(2)
漢文学研究I(2) 漢文学研究II(2) 日本語史I(2)
日本語史II(2) 現代日本語の構造I(2) 言語分析A(2)
言語分析B(2) 日本語シンタックス(2) 社会言語学(2)
日本語音声学(2) 日本語音韻論(2) 日本語研究史(2)
外国人による日本語研究(2) 日本語教授法I(2) 第二言語習得研究(2)
日本語の教育と学習(2) 日本語教育文法(初級)(2) 日本語教育教材研究(2)
日本語の会話教育(2)

第3年次以降

日本語教授法II(2) 日本語教育文法(中級)(2) 現代日本語の構造II(2)
心理言語学(2) コンピュータと言語学(2) 日本語の口頭能力研究(2)
日本語の音声教育(2) 日本語能力評価法(2)

第4年次

日本語教育実地研究(2)

IV. 自由選択科目(20)

日本文学学科学生は、自由選択科目として20単位以上を修得すること。自由選択科目として認められる科目は以下のとおりである。

- (1) 共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目
- (2) 人文学部共通科目で所定の単位数を超過して修得した科目
- (3) 日本文学学科科目で所定の単位数を超過して修得した科目
- (4) 他学部・他学科科目(他学部・他学科履修不可科目を除く)

(なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)

人文学部日本文化学科カリキュラム表

【人文学部 日本文化学科】

区分		年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目		32単位修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。				
学部共通科目	人文学部共通・ 選択科目 A 群	8 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。				
	人文学部共通・ 選択科目 B 群					
学 科		必修科目を20単位、選択科目を48単位以上、合計68単位以上を修得しなければならない。				
科 目	必 修	20単位修得しなければならない。				
		日本文学基礎演習Ⅰ(2) 日本文学基礎演習Ⅱ(2)	日本文学基礎演習Ⅲ(2) 日本文学基礎演習Ⅳ(2)	日本文学演習Ⅰ(2) 日本文学演習Ⅱ(2)	日本文学演習Ⅲ(2) 日本文学演習Ⅳ(2) 研究プロジェクト(4)	
	選 択	48単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。				
自由選択科目		20単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。 (1) 共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目。 (2) 人文学部共通科目で所定の単位数を超過して修得した科目。 (3) 日本文学学科科目で所定の単位数を超過して修得した科目。 (4) 他学部・他学科科目(他学部・他学科履修不可科目を除く) (なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)				

卒業に必要な単位数

人文学部日本文学学科

総単位数 **128**

共通教育科目 **32**

必修科目 **6**

宗教科目

宗教論 2(1年次)

キリスト教概論 2(2年次)

体育科目

基礎体育A 1(1年次)

基礎体育B 1(1年次)

選択必修科目 **14**

人間の尊厳科目 4(2~4年次)

テーマ科目 **10**

異文化との出会い 各2(1~4年次)

生命と環境 各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会 各2(1~4年次)

モダンの系譜 各2(1~4年次)

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位を修得する
 または
 2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位を修得し、もう1テーマについて2科目4単位の計5科目10単位を修得する

選択科目

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、美術A、美術B、音楽A、音楽B、世界史、自然地理学、人文地理学、地誌概論、倫理学、法学A、法学B、日本国憲法、政治学A、政治学B、文化人類学A、文化人類学B、社会学A、社会学B、経済学A、経済学B、数学A、数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、生命科学、化学、心理学A、心理学B、科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B

 各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技 各1(2~4年次)

情報科目

情報リテラシー 2(1~3年次)

情報機器の操作 2(1~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修 2(3年次)

海外研修科目

短期留学プログラムA、短期留学プログラムB

 各2(1~3年次)

※1 ※2

※1 ※2

外国語科目：12 外国語科目は、2言語以上にわたって、各言語4単位以上を修得。

必修外国語科目：4	英語：4	英語Ⅰ、ⅡオーラルコミュニケーションB 各1 英語Ⅰ、Ⅱリーディング 各1
選択必修外国語科目：8 選択必修外国語は、1ないし2言語で8単位（ただし、英語は1～4単位、英語以外は1言語4単位以上）を修得。	英語：1～4	英語Ⅰ、Ⅱライティング 各1 英語Ⅰ、Ⅱリスニング 各1 英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ総合 各1 英語Ⅲ、ⅣオーラルコミュニケーションB 各1 英語Ⅲ、Ⅳリーディング 各1
	フランス語：4～8	フランス語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ文法・講読 各1 フランス語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ会話・作文 各1
	ドイツ語：4～8	ドイツ語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ文法・講読 各1 ドイツ語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ会話・作文 各1
	スペイン語：4～8	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ文法・講読 各1 スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ会話・作文 各1
	ポルトガル語：4	ポルトガル語Ⅰ、Ⅱ文法・講読 各1 ポルトガル語Ⅰ、Ⅱ会話・作文 各1
	中国語：4～8	中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ会話・作文 各1 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ語法 各1
	韓国朝鮮語：4～8	韓国朝鮮語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ文法・講読 各1 韓国朝鮮語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ会話・作文 各1
	インドネシア語：4	インドネシア語Ⅰ、Ⅱ文法・講読 各1 インドネシア語Ⅰ、Ⅱ会話・作文 各1
	ラテン語：4～8	ラテン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ文法 各1 ラテン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ講読 各1
	ギリシャ語：4	ギリシャ語Ⅰ、Ⅱ文法 各1 ギリシャ語Ⅰ、Ⅱ講読 各1
選択外国語科目	英語	英語イメージプログラムA、B、C 各2 英語通訳の基礎 1 英語翻訳の基礎 1 英語プレゼンテーションの基礎 1

学部共通科目 8

- 人文学部共通・選択科目A群
- 人文学部共通・選択科目B群

学科科目 68

- 必修科目：20
- 選択科目：48

自由選択科目 20

自由選択科目に算入されるのは、共通教育科目・人文学部共通科目・日本文学学科科目の内で所定の単位数を超過して履修した科目、および他学部・他学科科目。（なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない。）

外国語学部

外国語学部履修要項

1. 外国語学部学生は、卒業のためには「共通教育科目」、「学科科目」、「外国語学部共通基礎科目」、「外国語学部共通専門科目」、「自由選択科目」を履修して128単位以上を修得しなければならない。
2. 共通教育科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目からなる。この履修方法については別に定める。（「共通教育科目履修要項」および「各学科履修要項」を参照のこと。）
3. 外国語学部学生は、外国語学部共通基礎科目を8単位以上、また外国語学部共通専門科目を10単位以上修得しなければならない。
4. 外国語学部学生は各自の所属する学科の必修科目、選択科目を、それぞれ所定の単位数修得しなければならない。この履修方法については別に定める。（「各学科履修要項」を参照のこと。）
5. 外国語学部学生は、下記の科目を自由選択科目として卒業に必要な単位に算入できる。算入できる単位数は別に定める。（「各学科履修要項」を参照のこと。）
 - (1) 共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、所属する学科の学科科目のうち、必要単位数を超えて修得した科目。
 - (2) 外国語学部他学科の学科の科目（他学科履修不可の科目を除く）。
 - (3) 他学部の学部共通科目、学科科目（他学部履修不可の科目を除く）。その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。
6. 外国語学部学生は「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」を自由科目として履修することができる。ただし、自由科目は卒業に必要な単位数には算入されない。
7. 外国語学部学生が1学期に履修登録を許される総単位数は自由科目を除き、22単位以内とする。なお、通年科目については、その単位数の2分の1ずつを各学期に含めるものとする。
8. 本学に設置していない科目を、留学先大学で修得した場合、教育上適切と認められれば、学科選択科目または自由選択科目として認定することがある。
9. 特に必修外国語の能力があると認定された学生については、学生本人の申請に基づいて必修外国語科目（学科科目を含む）の履修を免除することがある。なお、この場合、免除された外国語科目と同じ単位数の科目（自由科目を除く）を履修しなければならない。

また、この場合、指定年次に達していない場合でも、免除された外国語科目の上級年次の外国語科目の履修を認めることがある。
10. 外国語学部学生は「演習IV」の単位を修得するには卒業論文を提出しなければならない。
11. 欠席時数が授業科目の授業予定数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績は原則として「欠席過多（S）」による不合格とする。

英米学科履修要項

I. 共通教育科目 (36)

必修科目 (6)

下記の4科目、計6単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

- ① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する
- ② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位を修得すること。

外国語科目 (16)

必修外国語科目 (8)

下記の4科目計8単位を第1年次に履修すること。

英語IオーラルコミュニケーションA (3) 英語IIオーラルコミュニケーションA (3) 英語Iリーディング (1)

英語IIリーディング (1)

選択必修外国語科目 (8)

次の外国語の中から、1または2言語8単位 (ただし各言語は4単位以上) を履修すること。

フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語、インドネシア語、ラテン語、ギリシャ語

外国語科目については、共通教育科目履修要項を参照すること。

II. 外国語学部共通科目 (18)

学部共通基礎科目 (8)

選択必修科目

下記の科目の中から4科目計8単位を指定年次に履修すること。

第1・2年次

言語研究の基礎 (2) (言葉の機能)	言語研究の基礎 (2) (文法論)	言語研究の基礎 (2) (形態論)
文学研究の基礎 (2) (小説) A	文学研究の基礎 (2) (小説) B	文学研究の基礎 (2) (詩)
文学研究の基礎 (2) (演劇)	外国語教育の基礎 (2)	コミュニケーション研究の基礎 (2) (人文的アプローチ)
コミュニケーション研究の基礎 (2) (社会心理的アプローチ)	思想研究の基礎 (2)	政治研究の基礎 (2) (アメリカ)
政治研究の基礎 (2) (ドイツ)	社会学研究の基礎 (2) (アメリカ)	社会学研究の基礎 (2) (アジア)
国際関係論の基礎 (2) (日本とアメリカ)	国際関係論の基礎 (2) (日本とアジア)	国際関係論の基礎 (2) (日本と中南米)
歴史研究の基礎 (2) (アメリカ)	歴史研究の基礎 (2) (スペイン)	歴史研究の基礎 (2) (ドイツ)
経済研究の基礎 (2) (ミクロ経済学)	経済研究の基礎 (2) (マクロ経済学)	

第1年次

キャリアデザイン (2)

学部共通専門科目 (10)

A. 選択必修科目

下記の科目の中から5科目計10単位を第3年次以降に履修すること。

第3年次以降

対照言語学 (2)	心理言語学 (2)	外国語教育論 (2)
第二言語習得論 (2)	異文化コミュニケーション論 (2)	文学理論 (2)
文学と社会 (2)	比較文化論 (2)	第三世界論 (2)
南北アメリカ論 (2)	国際関係論 (2)	国際経済学 (2)
開発経済学 (2)	比較社会論 (2)	国際企業論 (2)

B. 選択科目

下記の科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目である。

これらの科目の履修単位は自由選択科目の単位とする。

第3年次以降

日本経済史 A (2)	日本経済史 B (2)	西洋経済史 A (2)
-------------	-------------	-------------

外国語学部 英米学科

西洋経済史 B (2) 国際金融論 A (2) 国際金融論 B (2)
社会保障論 A (2) 社会保障論 B (2) 憲法 A (人権) (4)
憲法 B (統治機構) (2) 国際法総論 A (2) 国際法総論 B (2)
国際法各論 A (2) 国際法各論 B (2) 行政法総論 (4)
行政法各論 (2) 国際私法 A (2) 国際私法 B (2)
日本法史 (2) 西洋法史 A (2) 西洋法史 B (2)
政治史 (2) 政治思想史 A (2) 政治思想史 B (2)
国際政治学 A (2) 国際政治学 B (2) 国際機構論 (2)

Ⅲ. 学科科目 (52)

必修科目 (30)

下記の18科目計30単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

英米研究入門 I (2) 英米研究入門 II (2) Writing in English I (2)
Writing in English II (2) English Workshop I (1) English Workshop II (1)

第2年次

Writing in English III (1) Writing in English IV (1) English Workshop III (1)
English Workshop IV (1) Communication in English I (3) Communication in English II (3)
Reading in English I (1) Reading in English II (1)

第3年次

演習 I (2) 演習 II (2)

第4年次

演習 III (2) 演習 IV (2)

演習 II を履修するためには、演習 I の単位を修得していなければならない。

演習 III を履修するためには、演習 II の単位を修得していなければならない。

演習 IV を履修するためには、演習 III の単位を修得していなければならない。

選択科目 (22)

下記の科目の中から計22単位を履修すること。

第2年次以降

アメリカ事情実習 (4)

第3年次以降

政治とコミュニケーション (2) 人間関係とコミュニケーション (2) コミュニケーション特殊研究 A (2)
コミュニケーション特殊研究 B (2)

外国語学部 英米学科

英語教育特殊研究 (2) (メディアの活用)	英語教育特殊研究 (2) (評価)	英語教育特殊研究 (2) (教材作成)
英語の構造 I (2)	英語の構造 II (2)	英文法論 I (2)
英文法論 II (2)	英語音声学 I (2)	英語音声学 II (2)
英語学特殊研究 (2) (テキスト言語学)	英語学特殊研究 (2) (理論言語学)	英語学特殊研究 (2) (応用言語学)
英語学特殊研究 (2) (意味論)	英語学特殊研究 (2) (統語論)	英語学特殊研究 (2) (対照言語学)
英語学特殊研究 (2) (音韻論)	英語学特殊研究 (2) (比較言語学)	英語学特殊研究 (2) (心理言語学)
イギリス文学史 I (2)	イギリス文学史 II (2)	アメリカ文学史 I (2)
アメリカ文学史 II (2)	英米の小説 (2)	英米の詩 (2)
英米の演劇 (2)		
英米文学特殊研究 (2) (小説) A	英米文学特殊研究 (2) (小説) B	英米文学特殊研究 (2) (詩) A
英米文学特殊研究 (2) (詩) B	英米文学特殊研究 (2) (演劇) A	英米文学特殊研究 (2) (演劇) B
作家作品研究 (2) (アメリカ文学) A	作家作品研究 (2) (アメリカ文学) B	作家作品研究 (2) (イギリス文学) A
作家作品研究 (2) (イギリス文学) B	アメリカの歴史 (2)	アメリカ史特殊研究A (2)
アメリカ史特殊研究B (2)	アメリカ史特殊研究C (2)	アメリカの政治 (2)
アメリカ政治特殊研究A (2)	アメリカ政治特殊研究B (2)	アメリカの社会 (2)
アメリカ社会特殊研究A (2)	アメリカ社会特殊研究B (2)	アメリカの外交 (2)
アメリカ外交特殊研究A (2)	アメリカ外交特殊研究B (2)	アメリカの経済 (2)
アメリカ経済特殊研究A (2)	アメリカ経済特殊研究B (2)	日米関係論 (2)
英米の思想 (2)	基礎英語通訳法 (2)	上級英語通訳法 (2)
マスメディアの英語 (2)	英語プレゼンテーション (2)	英語翻訳法 (2)
ビジネス・コミュニケーション (2)	クリエイティブ・ライティング (2)	Intermediate English Skills A (2)
Intermediate English Skills B (2)	Advanced English Skills A (2)	Advanced English Skills B (2)
Special Topics in English: Issues in Society (2)		
Special Topics in English: Issues in the Humanities (2)		
Special Topics in English: Issues in Interdisciplinary Studies (2)		
Special Topics in English: Issues in International Studies (2)		
Special Topics in English: Issues in Cross-cultural Studies (2)		

外国語学部 英米学科

Special Topics in English: Issues in Language Studies (2)

IV. 自由選択科目 (22)

下記の(1)～(3)に該当する科目の中から計22単位を履修すること。

- (1) 共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、英米学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。
- (2) 外国語学部他学科の学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。
- (3) 他学部の学部共通科目、学科科目（他学部履修不可の科目を除く）。その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。

外国語学部英米学科カリキュラム表

【外国語学部 英米学科】

区分		年次別		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目		36単位修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。					
学部共通基礎科目	選 択 必 修	8 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
学部共通専門科目	A. 選 択 必 修					10単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。	
	B. 選 択					B. 選択科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目であり、この単位は自由選択科目に算入される。	
必修科目を30単位、選択科目を22単位以上、合計52単位以上を修得しなければならない。							
学 科 目	必 修	30単位修得しなければならない。					
		英米研究入門Ⅰ(2) 英米研究入門Ⅱ(2) Writing in EnglishⅠ(2) Writing in EnglishⅡ(2) English WorkshopⅠ(1) English WorkshopⅡ(1)	Writing in EnglishⅢ(1) Writing in EnglishⅣ(1) English WorkshopⅢ(1) English WorkshopⅣ(1) Communication in EnglishⅠ(3) Communication in EnglishⅡ(3) Reading in EnglishⅠ(1) Reading in EnglishⅡ(1)	演習Ⅰ(2) 演習Ⅱ(2)	演習Ⅲ(2) 演習Ⅳ(2)		
	選 択	22単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
自由選択科目		22単位修得しなければならない。詳細は、「履修要項」を参照。 (1) 共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、英米学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。 (2) 外国語学部他学科科目の学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 (3) 他学部の学部共通科目、学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。					

卒業に必要な単位数

外国語学部英米学科

総単位数 **128**

共通教育科目 **36**

必修科目 **6**

宗教科目

宗教論 2(1年次)

キリスト教概論 2(2年次)

体育科目

基礎体育A 1(1年次)

基礎体育B 1(1年次)

選択必修科目 **14**

人間の尊厳科目 4(2~4年次)

テーマ科目 **10**

異文化との出会い 各2(1~4年次)

生命と環境 各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会 各2(1~4年次)

モダンの系譜 各2(1~4年次)

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位を修得する
または
2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位を修得し、もう1テーマについて2科目4単位の計5科目10単位を修得する

選択科目

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、美術A、美術B、音楽A、音楽B、法学A、法学B、日本国憲法、政治学A、政治学B、文化人類学A、文化人類学B、社会学A、社会学B、経済学A、経済学B、数学A、数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、生命科学、化学、心理学A、心理学B、科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B、世界史、自然地理学、人文地理学、地誌概論、倫理学

各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技 各1(2~4年次)

情報科目

情報リテラシー 2(1~3年次)

情報機器の操作 2(1~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修 2(3年次)

海外研修科目

短期留学プログラムA、短期留学プログラムB

各2(1~3年次)

※1 ※2

※1 ※2

外国語科目 16

必修外国語科目 8

英語 I、II オールコミュニケーション A 各3
英語 I、II リーディング 各1

選択必修外国語科目 8

フランス語 4~8

フランス語 I、II、III、IV 文法・講読 各1
フランス語 I、II、III、IV 会話・作文 各1

ドイツ語 4~8

ドイツ語 I、II、III、IV 文法・講読 各1
ドイツ語 I、II、III、IV 会話・作文 各1

スペイン語 4~8

スペイン語 I、II、III、IV 文法・講読 各1
スペイン語 I、II、III、IV 会話・作文 各1

ポルトガル語 4

ポルトガル語 I、II 文法・講読 各1
ポルトガル語 I、II 会話・作文 各1

中国語 4~8

中国語 I、II、III、IV 会話・作文 各1
中国語 I、II、III、IV 語法 各1

韓国朝鮮語 4~8

韓国朝鮮語 I、II、III、IV 文法・講読 各1
韓国朝鮮語 I、II、III、IV 会話・作文 各1

インドネシア語 4

インドネシア語 I、II 文法・講読 各1
インドネシア語 I、II 会話・作文 各1

ラテン語 4~8

ラテン語 I、II、III、IV 文法 各1
ラテン語 I、II、III、IV 講読 各1

ギリシャ語 4

ギリシャ語 I、II 文法 各1
ギリシャ語 I、II 講読 各1

選択外国語科目

英語

英語イマージョンプログラム A、B、C 各2
英語通訳の基礎 1
英語翻訳の基礎 1
英語プレゼンテーションの基礎 1

学部共通科目 18

学部共通基礎科目 8

選択必修科目 8

学部共通専門科目 10

A. 選択必修科目 10

B. 選択科目 0

学部共通専門科目のうちBは外国語学部教職課程社会科免許の取得を希望する学生が履修する科目であり、この単位は自由選択科目に算入される。

学科科目 52

必修科目 30

選択科目 22

自由選択科目 22

自由選択科目に算入されるのは、共通教育科目・外国語学部共通科目・英米学科科目の内で所定の単位数を超過して修得した科目、及び他学部・他学科科目。ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。(なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)。

スペイン・ラテンアメリカ学科履修要項

I. 共通教育科目 (34)

必修科目 (6)

下記の4科目、計6単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

- ① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する
- ② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を履修すること。

外国語科目 (14)

必修外国語科目 (14)

下記の12科目計14単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次 (12)

基礎スペイン語I文法 (2) 基礎スペイン語II文法 (2) 基礎スペイン語I講読 (1)

基礎スペイン語II講読 (1) 基礎スペイン語I作文 (1) 基礎スペイン語II作文 (1)

英語Iオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Iリーディング (1)

英語IIリーディング (1)

第2年次 (2)

英語IIIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IVオーラル・コミュニケーションB (1)

II. 外国語学部共通科目 (18)

学部共通基礎科目 (8)

選択必修科目

下記の科目の中から4科目計8単位を指定年次に履修すること。

第1・2年次

言語研究の基礎 (2) (言葉の機能)	言語研究の基礎 (2) (文法論)	言語研究の基礎 (2) (形態論)
文学研究の基礎 (2) (小説) A	文学研究の基礎 (2) (小説) B	文学研究の基礎 (2) (詩)
文学研究の基礎 (2) (演劇)	外国語教育の基礎 (2)	コミュニケーション研究の基礎 (2) (人文的アプローチ)
コミュニケーション研究の基礎 (2) (社会心理的アプローチ)	思想研究の基礎 (2)	政治研究の基礎 (2) (アメリカ)
政治研究の基礎 (2) (ドイツ)	社会学研究の基礎 (2) (アメリカ)	社会学研究の基礎 (2) (アジア)
国際関係論の基礎 (2) (日本とアメリカ)	国際関係論の基礎 (2) (日本とアジア)	国際関係論の基礎 (2) (日本と中南米)
歴史研究の基礎 (2) (アメリカ)	歴史研究の基礎 (2) (スペイン)	歴史研究の基礎 (2) (ドイツ)
経済研究の基礎 (2) (ミクロ経済学)	経済研究の基礎 (2) (マクロ経済学)	

第1年次

キャリアデザイン (2)

学部共通専門科目 (10)

A. 選択必修科目

下記の科目の中から5科目計10単位を第3年次以降に履修すること。

第3年次以降

対照言語学 (2)	心理言語学 (2)	外国語教育論 (2)
第二言語習得論 (2)	異文化コミュニケーション論 (2)	文学理論 (2)
文学と社会 (2)	比較文化論 (2)	第三世界論 (2)
南北アメリカ論 (2)	国際関係論 (2)	国際経済学 (2)
開発経済学 (2)	比較社会論 (2)	国際企業論 (2)

B. 選択科目

下記の科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目である。

これらの科目の履修単位は自由選択科目の単位とする。

第3年次以降

日本経済史 A (2)	日本経済史 B (2)	西洋経済史 A (2)
西洋経済史 B (2)	国際金融論 A (2)	国際金融論 B (2)

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科

社会 保障 論 A (2) 社会 保障 論 B (2) 憲 法 A (人 権) (4)
憲 法 B (統 治 機 構) (2) 国 際 法 総 論 A (2) 国 際 法 総 論 B (2)
国 際 法 各 論 A (2) 国 際 法 各 論 B (2) 行 政 法 総 論 (4)
行 政 法 各 論 (2) 国 際 私 法 A (2) 国 際 私 法 B (2)
日 本 法 史 (2) 西 洋 法 史 A (2) 西 洋 法 史 B (2)
政 治 史 (2) 政 治 思 想 史 A (2) 政 治 思 想 史 B (2)
国 際 政 治 学 A (2) 国 際 政 治 学 B (2) 国 際 機 構 論 (2)

Ⅲ. 学科科目 (60)

必修科目 (34)

下記の28科目計34単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

スペインの文化 (2) ラテンアメリカの文化 (2) スペイン語I会話A (1)
スペイン語II会話A (1) スペイン語I会話B (1) スペイン語II会話B (1)

第2年次

スペイン語I作文 (1) スペイン語II作文 (1) スペイン語I講読 (1)
スペイン語II講読 (1) スペイン語I文法 (1) スペイン語II文法 (1)
スペイン語III会話A (1) スペイン語IV会話A (1) スペイン語III会話B (1)
スペイン語IV会話B (1)

第3年次

演 習 I (2) 演 習 II (2) スペイン語III作文 (1)
スペイン語IV作文 (1) スペイン語III講読 (1) スペイン語IV講読 (1)
スペイン語V会話 (1) スペイン語VI会話 (1)

第4年次

演 習 III (2) 演 習 IV (2) スペイン語V講読 (1)
スペイン語VI講読 (1)

演習IIを履修するためには、演習Iの単位を修得していなければならない。

演習IIIを履修するためには、演習IIの単位を修得していなければならない。

演習IVを履修するためには、演習IIIの単位を修得していなければならない。

選択科目 (26)

下記の科目の中から計26単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次以降

スペイン語実習A (4)

第2年次以降

ブラジル・ポルトガル語I (1)	ブラジル・ポルトガル語II (1)	スペイン文学A (2)
スペイン文学B (2)	ラテンアメリカ文学A (2)	ラテンアメリカ文学B (2)
スペイン思想史 (2)	ラテンアメリカの政治 (2)	ラテンアメリカ経済史 (2)
ラテンアメリカの経済 (2)	ラテンアメリカの経済政策 (2)	ポルトガル語比較文法 (2)
ブラジル・ポルトガル文化研究 (2)	ラテンアメリカ文化論A (2)	ラテンアメリカ文化論B (2)
ラテンアメリカ社会論A (2)	ラテンアメリカ社会論B (2)	スペイン語実習B (4)

第3・4年次

スペイン史 (2)	ラテンアメリカ史A (2)	ラテンアメリカ史B (2)
スペイン法 (2)	スペイン語表現法(口語表現)I (2)	スペイン語表現法(口語表現)II (2)
スペイン語表現法(文章表現)I (2)	スペイン語表現法(文章表現)II (2)	スペイン特殊研究 (2)
ラテンアメリカ特殊研究 (2)	スペイン語学特殊研究 (2)	スペイン文学特殊研究A (2)
スペイン文学特殊研究B (2)	スペイン語通訳法I (2)	スペイン語通訳法II (2)
時事スペイン語I (2)	時事スペイン語II (2)	スペイン語翻訳法I (2)
スペイン語翻訳法II (2)	スペイン語圏事情A (2)	スペイン語圏事情B (2)
ビジネス・スペイン語 (2)	スペイン語圏異文化コミュニケーション論A (2)	スペイン語圏異文化コミュニケーション論B (2)
スペイン語論文作成法I (2)	スペイン語論文作成法II (2)	

IV. 自由選択科目 (16)

下記の(1)～(3)に該当する科目の中から計16単位を履修すること。

- (1) 共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、スペイン・ラテンアメリカ学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。
- (2) 外国語学部他学科の学科科目 (他学科履修不可の科目を除く)。
- (3) 他学部の学部共通科目、学科科目 (他学部履修不可の科目を除く)。

その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科

外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科カリキュラム表

【外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科】

区分		年次別		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目		34単位修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。					
学部基礎科目	選 択 必 修	8単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
学部共通専門科目	A. 選 択 必 修					10単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。	
	B. 選 択					B. 選択科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目であり、この単位は自由選択科目に算入される。	
必修科目を34単位、選択科目を26単位以上、合計60単位以上を修得しなければならない。							
学 科 目	必 修	34単位修得しなければならない。					
		スペインの文化(2) ラテンアメリカの文化(2) スペイン語 I 会話 A(1) スペイン語 I 会話 B(1) スペイン語 II 会話 A(1) スペイン語 II 会話 B(1)	スペイン語 I 作文(1) スペイン語 II 作文(1) スペイン語 I 講読(1) スペイン語 II 講読(1) スペイン語 I 文法(1) スペイン語 II 文法(1) スペイン語 III 会話 A(1) スペイン語 III 会話 B(1) スペイン語 IV 会話 A(1) スペイン語 IV 会話 B(1)	演習 I (2) 演習 II (2) スペイン語 III 作文(1) スペイン語 IV 作文(1) スペイン語 III 講読(1) スペイン語 IV 講読(1) スペイン語 V 会話(1) スペイン語 VI 会話(1)	演習 III (2) 演習 IV (2) スペイン語 V 講読(1) スペイン語 VI 講読(1)		
	選 択	26単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
自由選択科目		16単位修得しなければならない。詳細は、「履修要項」を参照。 (1) 共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、スペイン・ラテンアメリカ学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目 B はすべて自由選択科目である。 (2) 外国語学部他学科科目の学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 (3) 他学部の学部共通科目、学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。					

卒業に必要な単位数

外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科

総単位数 **128**

共通教育科目 **34**

必修科目 **6**

宗教科目

宗教論:2(1年次)

キリスト教概論:2(2年次)

体育科目

基礎体育A:1(1年次)

基礎体育B:1(1年次)

選択必修科目 **14**

人間の尊厳科目:4(2~4年次)

テーマ科目:10

異文化との出会い:各2(1~4年次)

生命と環境:各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会:各2(1~4年次)

モダンの系譜:各2(1~4年次)

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位を修得する
または
2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位を修得し、もう1テーマについて2科目4単位の計5科目10単位を修得する

選択科目:

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、
考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、
東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、
美術A、美術B、音楽A、音楽B、世界史、
自然地理学、人文地理学、地誌概論、
倫理学、法学A、法学B、日本国憲法、
政治学A、政治学B、
文化人類学A、文化人類学B、社会学A、
社会学B、経済学A、経済学B、数学A、
数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、
生命科学、化学、心理学A、心理学B、
科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、
地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、
スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B

各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技:各1(2~4年次)

情報科目

情報リテラシー:2(1~3年次)

情報機器の操作:2(1~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修:2(3年次)

海外研修科目

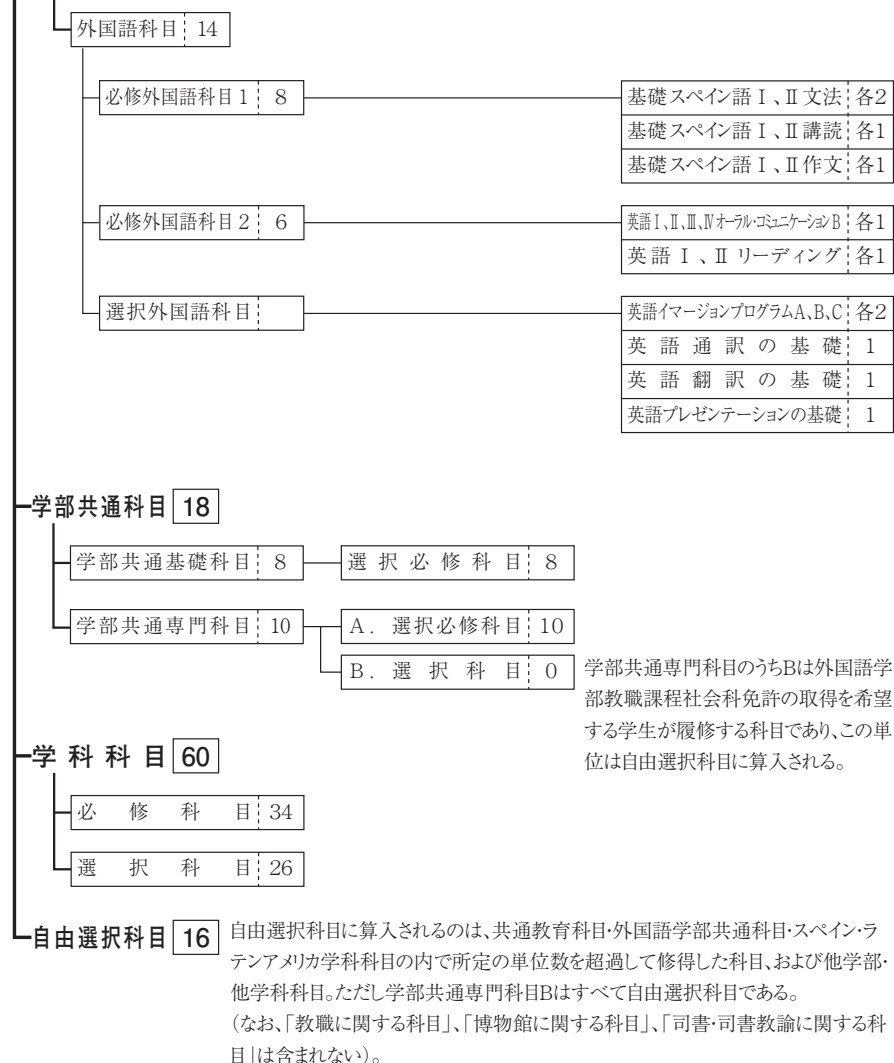
短期留学プログラムA、短期留学プログラムB

各2(1~3年次)

※1 ※2

外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科

※1 ※2



フランス学科履修要項

I. 共通教育科目 (34)

必修科目 (6)

下記の4科目、計6単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

宗 教 論 (2) 基礎体育 A (1) 基礎体育 B (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する

② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を履修すること。

外国語科目 (14)

必修外国語科目 (14)

下記の14科目計14単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次 (12)

基礎フランス語ⅠA (1) 基礎フランス語ⅡA (1) 基礎フランス語ⅠB (1)

基礎フランス語ⅡB (1) 基礎フランス語ⅠC (1) 基礎フランス語ⅡC (1)

基礎フランス語ⅠD (1) 基礎フランス語ⅡD (1) 英語Ⅰオーラル・コミュニケーションB (1)

英語Ⅱオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Ⅰリーディング (1) 英語Ⅱリーディング (1)

第2年次 (2)

英語Ⅲオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Ⅳオーラル・コミュニケーションB (1)

II. 外国語学部共通科目 (18)

学部共通基礎科目 (8)

選択必修科目

下記の科目の中から4科目計8単位を指定年次に履修すること。

外国語学部 フランス学科

第1・2年次

言語研究の基礎 (2) (言葉の機能)	言語研究の基礎 (2) (文法論)	言語研究の基礎 (2) (形態論)
文学研究の基礎 (2) (小説) A	文学研究の基礎 (2) (小説) B	文学研究の基礎 (2) (詩)
文学研究の基礎 (2) (演劇)	外国語教育の基礎 (2)	コミュニケーション研究の基礎 (2) (人文的アプローチ)
コミュニケーション研究の基礎 (2) (社会心理的アプローチ)	思想研究の基礎 (2)	政治研究の基礎 (2) (アメリカ)
政治研究の基礎 (2) (ドイツ)	社会学研究の基礎 (2) (アメリカ)	社会学研究の基礎 (2) (アジア)
国際関係論の基礎 (2) (日本とアメリカ)	国際関係論の基礎 (2) (日本とアジア)	国際関係論の基礎 (2) (日本と中南米)
歴史研究の基礎 (2) (アメリカ)	歴史研究の基礎 (2) (スペイン)	歴史研究の基礎 (2) (ドイツ)
経済研究の基礎 (2) (ミクロ経済学)	経済研究の基礎 (2) (マクロ経済学)	

第1年次

キャリアデザイン (2)

学部共通専門科目 (10)

A. 選択必修科目

下記の科目の中から5科目計10単位を第3年次以降に履修すること。

第3年次以降

対照言語学 (2)	心理言語学 (2)	外国語教育論 (2)
第二言語習得論 (2)	異文化コミュニケーション論 (2)	文学理論 (2)
文学と社会 (2)	比較文化論 (2)	第三世界論 (2)
南北アメリカ論 (2)	国際関係論 (2)	国際経済学 (2)
開発経済学 (2)	比較社会論 (2)	国際企業論 (2)

B. 選択科目

下記の科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目である。
これらの科目の履修単位は自由選択科目の単位とする。

第3年次以降

日本経済史 A (2)	日本経済史 B (2)	西洋経済史 A (2)
西洋経済史 B (2)	国際金融論 A (2)	国際金融論 B (2)

社会 保障 論 A (2) 社会 保障 論 B (2) 憲 法 A (人 権) (4)
 憲 法 B (統 治 機 構) (2) 国 際 法 総 論 A (2) 国 際 法 総 論 B (2)
 国 際 法 各 論 A (2) 国 際 法 各 論 B (2) 行 政 法 総 論 (4)
 行 政 法 各 論 (2) 国 際 私 法 A (2) 国 際 私 法 B (2)
 日 本 法 史 (2) 西 洋 法 史 A (2) 西 洋 法 史 B (2)
 政 治 史 (2) 政 治 思 想 史 A (2) 政 治 思 想 史 B (2)
 国 際 政 治 学 A (2) 国 際 政 治 学 B (2) 国 際 機 構 論 (2)

Ⅲ. 学科科目 (58)

必修科目 (32)

下記の24科目計32単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次 (8)

フランスの文化と社会Ⅰ (2) フランスの文化と社会Ⅱ (2) 総合フランス語Ⅰ文法 (1)
 総合フランス語Ⅱ文法 (1) 総合フランス語Ⅰコミュニケーション (1) 総合フランス語Ⅱコミュニケーション (1)

第2年次 (14)

フランスの文化と社会Ⅲ (2) 論文作成法 (2) 総合フランス語Ⅲ文法 (1)
 総合フランス語Ⅳ文法 (1) 総合フランス語ⅢコミュニケーションA (1) 総合フランス語ⅣコミュニケーションA (1)
 総合フランス語ⅢコミュニケーションB (1) 総合フランス語ⅣコミュニケーションB (1) 総合フランス語ⅢコミュニケーションC (1)
 総合フランス語ⅣコミュニケーションC (1) 中級フランス語講読AⅠ (1) 中級フランス語講読AⅡ (1)

第3年次 (6)

上級フランス語Ⅰ作文 (1) 上級フランス語Ⅱ作文 (1) 演 習 I (2)
 演 習 II (2)

第4年次 (4)

演 習 III (2) 演 習 IV (2)

演習Ⅱを履修するためには、演習Ⅰの単位を修得していなければならない。
 演習Ⅲを履修するためには、演習Ⅱの単位を修得していなければならない。
 演習Ⅳを履修するためには、演習Ⅲの単位を修得していなければならない。

選択科目 (26)

下記の科目の中から計26単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

フランス語実習 (4)

第2年次

中級フランス語講読BI (1) 中級フランス語講読BII (1) 中級フランス語講読CI (1)
 中級フランス語講読CII (1)

外国語学部 フランス学科

第2年次以降

フランス文学史 (2) フランスの歴史 (2) フランス精神 (2)
フランスの政治 (2)

第3・4年次

コミュニケーション特論IA (2) コミュニケーション特論IIA (2) コミュニケーション特論IB (2)
コミュニケーション特論IIB (2) フランス語実践演習I (2) フランス語実践演習II (2)
フランス語表現法 (2) フランス語翻訳法 (2) フランス文法論 (2)
フランス語学 (2) フランス文学講読 (2) フランスの文化 (2)
フランスの思想 (2) フランスの法制 (2) フランスの外交 (2)
フランスの社会 (2) 日仏交流史 (2) 文献講読 (2)
フランス語通訳法 (2) 時事フランス語A (2) 時事フランス語B (2)
フランス語圏研究 (2)

IV. 自由選択科目 (18)

下記の(1)～(3)に該当する科目の中から18単位を履修すること。

- (1) 共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、フランス学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。
- (2) 外国語学部他学科科目の学科科目 (他学科履修不可の科目を除く)。
- (3) 他学部の学部共通科目、学科科目 (他学部履修不可の科目を除く)。その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。

外国語学部フランス学科カリキュラム表

【外国語学部 フランス学科】

区分		年次別			
		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目		34単位修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。			
学部共通基礎科目	選 択 必 修	8 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。			
学部共通専門科目	A. 選 択 必 修			10単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。	
	B. 選 択			B. 選択科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目であり、この単位は自由選択科目に算入される。	
必修科目を32単位、選択科目を26単位、合計58単位を修得しなければならない。					
学 科 目	必 修	32単位修得しなければならない。			
		フランスの文化と社会Ⅰ(2) フランスの文化と社会Ⅱ(2) 総合フランス語Ⅰ文法(1) 総合フランス語Ⅱ文法(1) 総合フランス語Ⅰ コミュニケーション(1) 総合フランス語Ⅱ コミュニケーション(1)	フランスの文化と社会Ⅲ(2) 論 文 作 成 法 (2) 総合フランス語Ⅲ文法(1) 総合フランス語Ⅳ文法(1) 総合フランス語Ⅲ コミュニケーションA(1) 総合フランス語Ⅳ コミュニケーションA(1) 総合フランス語Ⅲ コミュニケーションB(1) 総合フランス語Ⅳ コミュニケーションB(1) 総合フランス語Ⅲ コミュニケーションC(1) 総合フランス語Ⅳ コミュニケーションC(1) 中級フランス語講読AⅠ(1) 中級フランス語講読AⅡ(1)	上級フランス語Ⅰ作文(1) 上級フランス語Ⅱ作文(1) 演習Ⅰ(2) 演習Ⅱ(2)	演習Ⅲ(2) 演習Ⅳ(2)
	選 択	26単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。			
自由選択科目		18単位修得しなければならない。詳細は、「履修要項」を参照。 (1)共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、フランス学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。 (2)外国語学部他学科科目の学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 (3)他学部の学部共通科目、学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。			

卒業に必要な単位数

外国語学部フランス学科

総単位数 **128**

共通教育科目 **34**

必修科目 6

宗教科目

宗教論 2(1年次)

キリスト教概論 2(2年次)

体育科目

基礎体育A 1(1年次)

基礎体育B 1(1年次)

選択必修科目 14

人間の尊厳科目 4(2~4年次)

テーマ科目 10

異文化との出会い 各2(1~4年次)

生命と環境 各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会 各2(1~4年次)

モダンの系譜 各2(1~4年次)

1. 1テーマを選択して5科目10単位を修得
または
2. 2テーマを選択して5科目10単位を修得
(ただし、1テーマは2科目以上を修得)

選択科目

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、
考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、
東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、
美術A、美術B、音楽A、音楽B、世界史、
自然地理学、人文地理学、地誌概論、
倫理学、法学A、法学B、日本国憲法、
政治学A、政治学B、
文化人類学A、文化人類学B、社会学A、
社会学B、経済学A、経済学B、数学A、
数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、
生命科学、化学、心理学A、心理学B、
科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、
地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、
スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B

各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技 各1(2~4年次)

情報科目

情報リテラシー 2(1~3年次)

情報機器の操作 2(1~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修 2(3年次)

海外研修科目

短期留学プログラムA、短期留学プログラムB

各2(1~3年次)

※1 ※2

※1 ※2

外国語科目 14

必修外国語科目 1 8

基礎フランス語 I A、II A	各1
基礎フランス語 I B、II B	各1
基礎フランス語 I C、II C	各1
基礎フランス語 I D、II D	各1

必修外国語科目 2 6

英語 I、II、III、IV オラルコミュニケーション B	各1
英語 I、II リーディング	各1

選択外国語科目

英語イマージョンプログラム A、B、C	各2
英語通訳の基礎	1
英語翻訳の基礎	1
英語プレゼンテーションの基礎	1

学部共通科目 18

学部共通基礎科目 8

選択必修科目 8

学部共通専門科目 10

A. 選択必修科目 10

B. 選択科目 0

学部共通専門科目のうち B は外国語学部教職課程社会科免許の取得を希望する学生が履修する科目であり、この単位は自由選択科目に算入される。

学科科目 58

必修科目 32

選択科目 26

自由選択科目 18

自由選択科目に算入されるのは、共通教育科目・外国語学部共通科目・フランス学科科目の内で所定の単位数を超過して修得した科目、および他学部・他学科科目。ただし学部共通専門科目 B はすべて自由選択科目である。(なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)。

ドイツ学科履修要項

I. 共通教育科目 (34)

必修科目 (6)

下記の4科目、計6単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する

② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を修得すること。

外国語科目 (14)

必修外国語科目 (14)

下記の12科目14単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次 (12)

基礎ドイツ語I文法 (1) 基礎ドイツ語II文法 (1) 基礎ドイツ語Iコミュニケーション (2)

基礎ドイツ語IIコミュニケーション (2) 基礎ドイツ語I講読 (1) 基礎ドイツ語II講読 (1)

英語Iオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Iリーディング (1)

英語IIリーディング (1)

第2年次 (2)

英語IIIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IVオーラル・コミュニケーションB (1)

II. 外国語学部共通科目 (18)

学部共通基礎科目 (8)

選択必修科目

下記の科目の中から4科目計8単位を指定年次に履修すること。

第1・2年次

言語研究の基礎 (2) (言葉の機能)	言語研究の基礎 (2) (文法論)	言語研究の基礎 (2) (形態論)
文学研究の基礎 (2) (小説) A	文学研究の基礎 (2) (小説) B	文学研究の基礎 (2) (詩)
文学研究の基礎 (2) (演劇)	外国語教育の基礎 (2)	コミュニケーション研究の基礎 (2) (人文的アプローチ)
コミュニケーション研究の基礎 (2) (社会心理的アプローチ)	思想研究の基礎 (2)	政治研究の基礎 (2) (アメリカ)
政治研究の基礎 (2) (ドイツ)	社会学研究の基礎 (2) (アメリカ)	社会学研究の基礎 (2) (アジア)
国際関係論の基礎 (2) (日本とアメリカ)	国際関係論の基礎 (2) (日本とアジア)	国際関係論の基礎 (2) (日本と中南米)
歴史研究の基礎 (2) (アメリカ)	歴史研究の基礎 (2) (スペイン)	歴史研究の基礎 (2) (ドイツ)
経済研究の基礎 (2) (ミクロ経済学)	経済研究の基礎 (2) (マクロ経済学)	

第1年次

キャリアデザイン (2)

学部共通専門科目 (10)

A. 選択必修科目

下記の科目の中から5科目計10単位を第3年次以降に履修すること。

第3年次以降

対照言語学 (2)	心理言語学 (2)	外国語教育論 (2)
第二言語習得論 (2)	異文化コミュニケーション論 (2)	文学理論 (2)
文学と社会 (2)	比較文化論 (2)	第三世界論 (2)
南北アメリカ論 (2)	国際関係論 (2)	国際経済学 (2)
開発経済学 (2)	比較社会論 (2)	国際企業論 (2)

B. 選択科目

下記の科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目である。

これらの科目の履修単位は自由選択科目の単位とする。

第3年次以降

日本経済史 A (2)	日本経済史 B (2)	西洋経済史 A (2)
西洋経済史 B (2)	国際金融論 A (2)	国際金融論 B (2)

外国語学部 ドイツ学科

社会 保障 論 A (2) 社会 保障 論 B (2) 憲 法 A (人 権) (4)
憲 法 B (統 治 機 構) (2) 国 際 法 総 論 A (2) 国 際 法 総 論 B (2)
国 際 法 各 論 A (2) 国 際 法 各 論 B (2) 行 政 法 総 論 (4)
行 政 法 各 論 (2) 国 際 私 法 A (2) 国 際 私 法 B (2)
日 本 法 史 (2) 西 洋 法 史 A (2) 西 洋 法 史 B (2)
政 治 史 (2) 政 治 思 想 史 A (2) 政 治 思 想 史 B (2)
国 際 政 治 学 A (2) 国 際 政 治 学 B (2) 国 際 機 構 論 (2)

Ⅲ. 学科科目 (58)

必修科目 (28)

下記の19科目計28単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

ドイツ研究入門Ⅰ (2) ドイツ研究入門Ⅱ (2) ドイツ語作文Ⅰ (1)
ドイツ語作文Ⅱ (1) ドイツ語講読Ⅰ (1) ドイツ語講読Ⅱ (1)

第2年次

ドイツ研究入門Ⅲ (2) ドイツ語作文Ⅲ (1) ドイツ語作文Ⅳ (1)
ドイツ語講読Ⅲ (1) ドイツ語講読Ⅳ (1) ドイツ語文法Ⅰ (1)
ドイツ語文法Ⅱ (1) ドイツ語コミュニケーションⅠ (2) ドイツ語コミュニケーションⅡ (2)

第3年次

演 習 Ⅰ (2) 演 習 Ⅱ (2)

第4年次

演 習 Ⅲ (2) 演 習 Ⅳ (2)

演習Ⅱを履修するためには、演習Ⅰの単位を修得していなければならない。

演習Ⅲを履修するためには、演習Ⅱの単位を修得していなければならない。

演習Ⅳを履修するためには、演習Ⅲの単位を修得していなければならない。

選択必修科目 (6)

下記の上級ドイツ語科目の中から2単位、応用ドイツ語科目から4単位を、第3年次以降に履修すること。ただし、それぞれ所定の単位数を超えて履修した選択必修の単位は選択科目に算入される。

【上級ドイツ語科目】 (2)

上級ドイツ語会話Ⅰ (1) 上級ドイツ語会話Ⅱ (1) 上級ドイツ語作文Ⅰ (1)
上級ドイツ語作文Ⅱ (1)

【応用ドイツ語科目】 (4)

作 品 講 読 A (2) 作 品 講 読 B (2) 文 献 講 読 A (2)

文献講読 B (2) 時事ドイツ語 (2)

選択科目 (24)

下記の科目の中から計24単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次以降

ドイツ語演劇研究Ⅰ (2) ドイツ語演劇研究Ⅱ (2) ドイツ語演劇研究Ⅲ (2)
 ドイツ語演劇研究Ⅳ (2) ドイツ語演劇研究Ⅴ (2) ドイツ語演劇研究Ⅵ (2)

第1年次～第3年次

ドイツ語実習 (4)

第2年次

中級ドイツ語講読Ⅰ (1) 中級ドイツ語講読Ⅱ (1)

第2年次以降

ドイツの思想と文化 (2) ドイツの政治と社会 (2) ドイツ中世史 (2)
 ドイツ近代史 (2) ドイツ現代史 (2) ドイツ文学史 A (2)
 ドイツ文学史 B (2) ドイツ哲学史 A (2) ドイツ哲学史 B (2)
 留学のためのドイツ語 A (1) 留学のためのドイツ語 B (1)

第3年次以降

ドイツの社会と文学 (2) ドイツの経済 (2) ドイツの法制 (2)
 ドイツ文学研究 (2) ドイツ語学研究 (2) ドイツ経済研究 (2)
 ドイツ政治研究 (2)

IV. 自由選択科目 (18)

下記の(1)～(3)に該当する科目の中から計18単位を履修すること。

- (1) 共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、ドイツ学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目 B はすべて自由選択科目である。
- (2) 外国語学部他学科の学科科目 (他学科履修不可の科目を除く)。
- (3) 他学部の学部共通科目、学科科目 (他学部履修不可の科目を除く)。その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。

外国語学部 ドイツ学科

外国語学部ドイツ学科カリキュラム表

【外国語学部 ドイツ学科】

区分		年次別			
		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目		34単位以上修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。			
学部共通基礎科目	選 択 必 修	8 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。			
学部共通専門科目	A. 選 択 必 修			10単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。	
	B. 選 択			B. 選択科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目であり、この単位は自由選択科目に算入される。	
必修科目を28単位、選択必修科目を6単位以上、選択科目を24単位以上、合計58単位以上を修得しなければならない。					
学 科 科 目	必 修	28単位修得しなければならない。			
		ドイツ研究入門Ⅰ(2) ドイツ研究入門Ⅱ(2) ドイツ語作文Ⅰ(1) ドイツ語作文Ⅱ(1) ドイツ語講読Ⅰ(1) ドイツ語講読Ⅱ(1)	ドイツ研究入門Ⅲ(2) ドイツ語作文Ⅲ(1) ドイツ語作文Ⅳ(1) ドイツ語講読Ⅲ(1) ドイツ語講読Ⅳ(1) ドイツ語文法Ⅰ(1) ドイツ語文法Ⅱ(1) ドイツ語 コミュニケーションⅠ(2) ドイツ語 コミュニケーションⅡ(2)	演習Ⅰ(2) 演習Ⅱ(2)	演習Ⅲ(2) 演習Ⅳ(2)
目	選 択 必 修	6 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。			
	選 択	24単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。			
自由選択科目		18単位修得しなければならない。詳細は、「履修要項」を参照。 (1) 共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、ドイツ学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。 (2) 外国語学部他学科科目の学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 (3) 他学部の学部共通科目、学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。			

卒業に必要な単位数

外国語学部ドイツ学科

総単位数 **128**

共通教育科目 **34**

必修科目 **6**

宗教科目

宗教論:2(1年次)

キリスト教概論:2(2年次)

体育科目

基礎体育A:1(1年次)

基礎体育B:1(1年次)

選択必修科目 **14**

人間の尊厳科目:4(2~4年次)

テーマ科目:10

異文化との出会い:各2(1~4年次)

生命と環境:各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会:各2(1~4年次)

モダンの系譜:各2(1~4年次)

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位を修得する
または
2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位を修得し、もう1テーマについて2科目4単位の計5科目10単位を修得する

選択科目:

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、
考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、
東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、
美術A、美術B、音楽A、音楽B、世界史、
自然地理学、人文地理学、地誌概論、
倫理学、法学A、法学B、日本国憲法、
政治学A、政治学B、
文化人類学A、文化人類学B、社会学A、
社会学B、経済学A、経済学B、数学A、
数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、
生命科学、化学、心理学A、心理学B、
科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、
地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、
スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B

各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技:各1(2~4年次)

情報科目

情報リテラシー:2(1~3年次)

情報機器の操作:2(1~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修:2(3年次)

海外研修科目

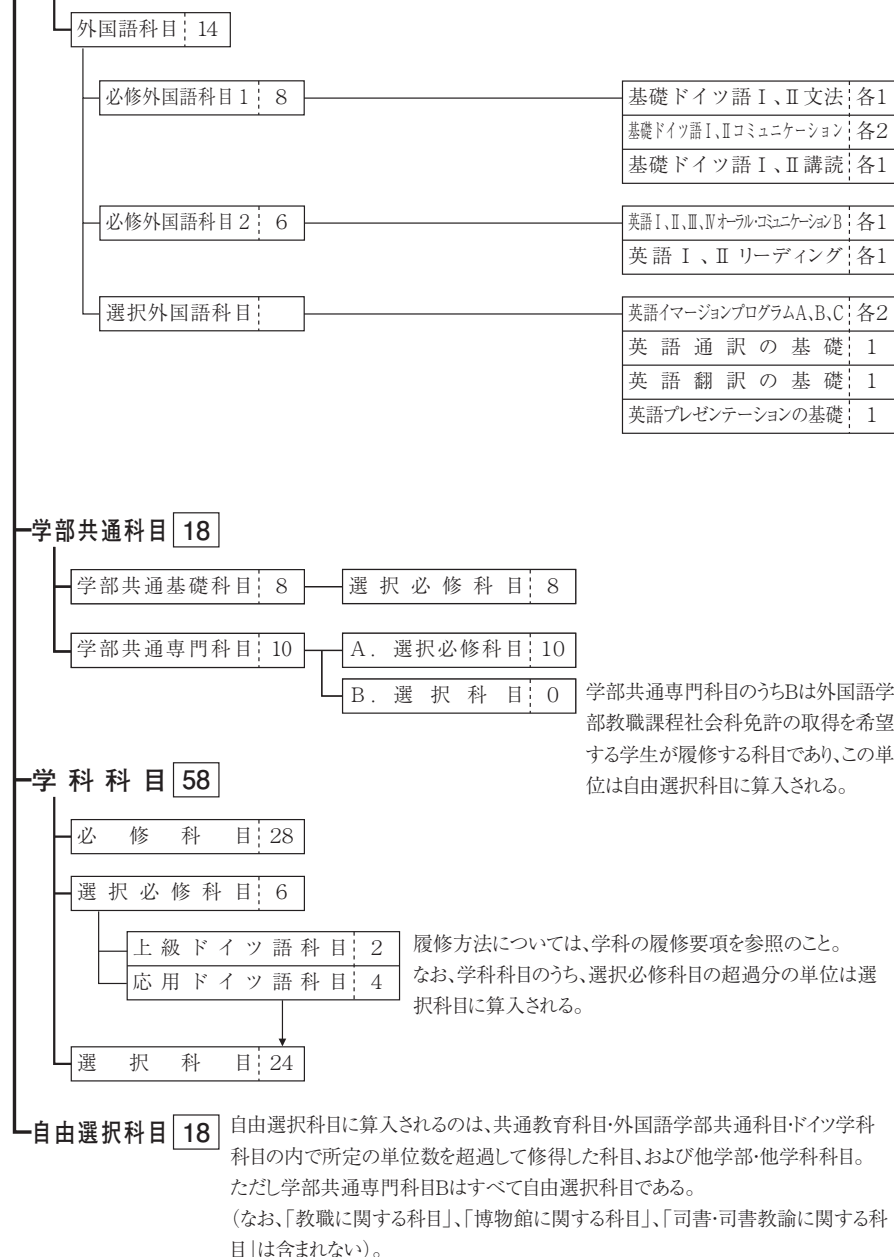
短期留学プログラムA、短期留学プログラムB

各2(1~3年次)

※1 ※2

外国語学部 ドイツ学科

※1 ※2



アジア学科履修要項

I. 共通教育科目 (34)

必修科目 (6)

下記の4科目、計6単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する

② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を修得すること。

外国語科目 (14)

必修外国語科目 (14)

下記の14科目14単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

中国語I会話・作文 (1) 中国語II会話・作文 (1) 中国語I語法 (1)

中国語II語法 (1) インドネシア語I会話・作文 (1) インドネシア語II会話・作文 (1)

インドネシア語I文法・講読 (1) インドネシア語II文法・講読 (1) 英語Iオーラル・コミュニケーションB (1)

英語IIオーラル・コミュニケーションB (1)

第2年次

英語IIIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IVオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Iリーディング (1)

英語IIリーディング (1)

II. 外国語学部共通科目 (18)

学部共通基礎科目 (8)

選択必修科目

外国語学部 アジア学科

下記の科目の中から4科目計8単位を指定年次に履修すること。

第1・2年次

言語研究の基礎 (2) (言葉の機能)	言語研究の基礎 (2) (文法論)	言語研究の基礎 (2) (形態論)
文学研究の基礎 (2) (小説) A	文学研究の基礎 (2) (小説) B	文学研究の基礎 (2) (詩)
文学研究の基礎 (2) (演劇)	外国語教育の基礎 (2)	コミュニケーション研究の基礎 (2) (人文的アプローチ)
コミュニケーション研究の基礎 (2) (社会心理的アプローチ)	思想研究の基礎 (2)	政治研究の基礎 (2) (アメリカ)
政治研究の基礎 (2) (ドイツ)	社会学研究の基礎 (2) (アメリカ)	社会学研究の基礎 (2) (アジア)
国際関係論の基礎 (2) (日本とアメリカ)	国際関係論の基礎 (2) (日本とアジア)	国際関係論の基礎 (2) (日本と中南米)
歴史研究の基礎 (2) (アメリカ)	歴史研究の基礎 (2) (スペイン)	歴史研究の基礎 (2) (ドイツ)
経済研究の基礎 (2) (ミクロ経済学)	経済研究の基礎 (2) (マクロ経済学)	

第1年次

キャリアデザイン (2)

学部共通専門科目 (10)

A. 選択必修科目

下記の科目の中から5科目計10単位を第3年次以降に履修すること。

第3年次以降

対照言語学 (2)	心理言語学 (2)	外国語教育論 (2)
第二言語習得論 (2)	異文化コミュニケーション論 (2)	文学理論 (2)
文学と社会 (2)	比較文化論 (2)	第三世界論 (2)
南北アメリカ論 (2)	国際関係論 (2)	国際経済学 (2)
開発経済学 (2)	比較社会論 (2)	国際企業論 (2)

B. 選択科目

下記の科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目である。
これらの科目の履修単位は自由選択科目の単位とする。

第3年次以降

日本経済史 A (2)	日本経済史 B (2)	西洋経済史 A (2)
西洋経済史 B (2)	国際金融論 A (2)	国際金融論 B (2)

社会 保障 論 A (2) 社会 保障 論 B (2) 憲 法 A (人 権) (4)
 憲 法 B (統 治 機 構) (2) 国 際 法 総 論 A (2) 国 際 法 総 論 B (2)
 国 際 法 各 論 A (2) 国 際 法 各 論 B (2) 行 政 法 総 論 (4)
 行 政 法 各 論 (2) 国 際 私 法 A (2) 国 際 私 法 B (2)
 日 本 法 史 (2) 西 洋 法 史 A (2) 西 洋 法 史 B (2)
 政 治 史 (2) 政 治 思 想 史 A (2) 政 治 思 想 史 B (2)
 国 際 政 治 学 A (2) 国 際 政 治 学 B (2) 国 際 機 構 論 (2)

Ⅲ. 学科科目 (56)

必修科目 (18)

下記の10科目計18単位をそれぞれ指定の年次に履修すること。

なお、所定の単位数を超過して修得した選択必修科目は、選択科目に算入される。

第1年次

入 門 演 習 (2) 近 代 ア ジ ア の 歴 史 (2) 中 国 語 I 発 音 ・ 聴 力 (1)
 中 国 語 II 発 音 ・ 聴 力 (1)

第2年次

基 礎 演 習 (2) ア ジ ア と 日 本 (2)

第3年次

演 習 I (2) 演 習 II (2)

第4年次

演 習 III (2) 演 習 IV (2)

演習Ⅱを履修するためには、演習Ⅰの単位を修得していなければならない。

演習Ⅲを履修するためには、演習Ⅱの単位を修得していなければならない。

演習Ⅳを履修するためには、演習Ⅲの単位を修得していなければならない。

選択必修科目 (6)

下記の科目の中から計6単位をそれぞれ指定年次に履修すること。

第2年次

中 級 中 国 語 I 会 話 (1) 中 級 中 国 語 II 会 話 (1) 中 級 中 国 語 I 語 法 (1)
 中 級 中 国 語 II 語 法 (1) 中 級 中 国 語 I 読 解 (1) 中 級 中 国 語 II 読 解 (1)
 中 級 イ ン ド ネ シ ア 語 I 会 話 (1) 中 級 イ ン ド ネ シ ア 語 II 会 話 (1) 中 級 イ ン ド ネ シ ア 語 I 文 法 (1)
 中 級 イ ン ド ネ シ ア 語 II 文 法 (1) 中 級 イ ン ド ネ シ ア 語 I 読 解 (1) 中 級 イ ン ド ネ シ ア 語 II 読 解 (1)

選択科目 (32)

下記の科目の中から計32単位をそれぞれの指定年次に履修すること。

第1・2年次

ア ジ ア 言 語 実 習 A (3) ア ジ ア 言 語 実 習 B (3)

外国語学部 アジア学科

第2年次

中国圏の文化と社会 (2) 東南アジアの歴史と社会 (2) 中国の現代事情A (2)
中国の現代事情B (2) 韓国・朝鮮の言語と文化I (2) 韓国・朝鮮の言語と文化II (2)

第3年次

中級中国語Ⅲ会話 (1) 中級中国語Ⅳ会話 (1) 中級中国語Ⅲ読解 (1)
中級中国語Ⅳ読解 (1) 中国語時事A (2) 中国語時事B (2)
中級インドネシア語Ⅲ会話 (1) 中級インドネシア語Ⅳ会話 (1) 中級インドネシア語Ⅲ読解 (1)
中級インドネシア語Ⅳ読解 (1) インドネシア語時事A (2) インドネシア語時事B (2)
中国語作文A (2) 中国語作文B (2)

第4年次

中国語通訳法 (2) 上級インドネシア語会話 (1)

第3・4年次

インドネシア語作文A (2) インドネシア語作文B (2) 韓国・朝鮮の言語と文化Ⅲ (2)
韓国・朝鮮の言語と文化Ⅳ (2) タイの言語と文化I (2) タイの言語と文化II (2)
中国古代史研究 (2) 中国経済研究 (2) タイ文化研究 (2)
ベトナム文化研究 (2) ベトナム社会研究 (2) 華人社会研究 (2)
華人文化研究 (2) アジア経済論A (2) アジア経済論B (2)
漢文学A (2) 漢文学B (2) 近現代日本とアジア (2)
アジア芸術研究 (2) 中国特殊研究 (2) 東南アジア特殊研究A (2)
東南アジア特殊研究B (2) インドネシア宗教研究 (2) インドネシア民族研究 (2)
東南アジアイスラム研究 (2) インドネシア社会研究 (2) インドネシア文化研究 (2)
中国古典文学研究 (2) 中国現代文学研究 (2) 中国語学研究 (2)
中国社会研究 (2) 東アジア国際政治史研究 (2) 中国近現代史研究 (2)

IV. 自由選択科目 (20)

下記の(1)～(3)に該当する科目の中から計20単位を履修すること。

- (1) 共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、アジア学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。
- (2) 外国語学部他学科科目の学科科目 (他学科履修不可の科目を除く)。
- (3) 他学部の学部共通科目、学科科目 (他学部履修不可の科目を除く)。その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。

外国語学部アジア学科カリキュラム表

【外国語学部 アジア学科】

区分		年次別		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目		34単位以上修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。					
学部共通基礎科目	選 択 必 修	8 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
学部共通専門科目	A. 選 択 必 修					10単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。	
	B. 選 択					B.選択科目は外国語学部教職課程社会科コースの学生が履修する科目であり、この単位は自由選択科目に算入される。	
必修科目を18単位、選択必修科目を6単位以上、選択科目を32単位以上、合計56単位以上を修得しなければならない。							
学 科	必 修	18単位修得しなければならない。					
		入門演習(2) 近代アジアの歴史(2) 中国語Ⅰ発音・聴力(1) 中国語Ⅱ発音・聴力(1)	基礎演習(2) アジアと日本(2)	演習Ⅰ(2) 演習Ⅱ(2)	演習Ⅲ(2) 演習Ⅳ(2)		
科	選 択 必 修	6 単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
目	選 択	32単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。					
自由選択科目		20単位修得しなければならない。詳細は、「履修要項」を参照。 (1)共通教育科目、外国語学部共通基礎科目、外国語学部共通専門科目、アジア学科の学科科目の内、必要単位数を超えて修得した科目。ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。 (2)外国語学部他学科科目の学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 (3)他学部の学部共通科目、学科科目（他学科履修不可の科目を除く）。 その際の履修年次は、当該学部、学科において定められた履修年次を遵守しなければならない。					

卒業に必要な単位数

外国語学部アジア学科

総単位数 **128**

共通教育科目 **34**

必修科目 **6**

宗教科目

宗教論 2(1年次)

キリスト教概論 2(2年次)

体育科目

基礎体育A 1(1年次)

基礎体育B 1(1年次)

選択必修科目 **14**

人間の尊厳科目 4(2~4年次)

テーマ科目 **10**

異文化との出会い 各2(1~4年次)

生命と環境 各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会 各2(1~4年次)

モダンの系譜 各2(1~4年次)

1. 1テーマを選択して5科目10単位を修得
または
2. 2テーマを選択して5科目10単位を修得
(ただし、1テーマは2科目以上を修得)

選択科目

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、
考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、
東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、
美術A、美術B、音楽A、音楽B、世界史、
自然地理学、人文地理学、地誌概論、
倫理学、法学A、法学B、日本国憲法、
政治学A、政治学B、
文化人類学A、文化人類学B、社会学A、
社会学B、経済学A、経済学B、数学A、
数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、
生命科学、化学、心理学A、心理学B、
科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、
地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、
スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B

各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技 各1(2~4年次)

情報科目

情報リテラシー 2(1~3年次)

情報機器の操作 2(1~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修 2(3年次)

海外研修科目

短期留学プログラムA、短期留学プログラムB

各2(1~3年次)

※1 ※2

※1 ※2

外国語科目 14

必修外国語科目 1 4

中国語 I、II 会話・作文	各1
中国語 I、II 語法	各1

必修外国語科目 2 4

インドネシア語 I、II 会話・作文	各1
インドネシア語 I、II 文法・講読	各1

必修外国語科目 3 6

英語 I、II、III、IV オラル・コミュニケーション B	各1
英語 I、II リーディング	各1

選択外国語科目

英語イメージプログラム A、B、C	各2
英語通訳の基礎	1
英語翻訳の基礎	1
英語プレゼンテーションの基礎	1

学部共通科目 18

学部共通基礎科目 8

選択必修科目 8

学部共通専門科目 10

A. 選択必修科目 10

B. 選択科目 0

学部共通専門科目のうちBは外国語学部教職課程社会科免許の取得を希望する学生が履修する科目であり、この単位は自由選択科目に算入される。

学科科目 56

必修科目 18

近代アジアの歴史	2
中国語 I、II 発音・聴力	各1
入門演習	2
基礎演習	2
アジアと日本	2
演習 I、II、III、IV	各2

選択必修科目 6

中級中国語 I、II 会話	各1
中級中国語 I、II 語法	各1
中級中国語 I、II 読解	各1
中級インドネシア語 I、II 会話	各1
中級インドネシア語 I、II 文法	各1
中級インドネシア語 I、II 読解	各1

履修方法については、学科の履修要項を参照のこと。
なお、学科科目のうち、選択必修科目の超過分の単位は選択科目に算入される。

選択科目 32

自由選択科目 20

自由選択科目に算入されるのは、共通教育科目・外国語学部共通科目・アジア学科科目の内です定の単位数を超過して修得した科目、および他学部・他学科科目。

ただし学部共通専門科目Bはすべて自由選択科目である。

(なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)。

經 濟 學 部

経済学部履修要項

I. 科目履修上の一般要件

1. 経済学部の学生が卒業に必要な単位数は128単位である。この128単位のうち、共通教育科目を少なくとも32単位、経済学科科目を少なくとも88単位修得する必要がある。卒業に必要な残りの8単位については、共通教育科目、経済学科科目、他学科で開講される科目の中から任意に科目を選択して修得することができる。ただし科目の履修に際しては、この経済学部履修要項に定められた履修要件に従わなければならない。
2. 教育職員免許状取得資格を得ようとするものは、「教職課程履修要項」に従って授業科目を履修しなければならない。
3. 博物館学芸員資格を得ようとするものは、「博物館に関する授業科目履修要項」に従って授業科目を履修しなければならない。
4. 司書および司書教諭の資格を得ようとするものは、「司書・司書教諭に関する授業科目履修要項」に従って授業科目を履修しなければならない。
5. 教職に関する科目、博物館に関する科目、司書・司書教諭に関する科目は卒業にかかわらない自由科目であり、修得した単位は卒業に必要な単位数に算入されない。
6. 卒業にかかわる授業科目については1学期に履修登録できる単位数の上限を24単位とする。通年4単位科目は1学期あたり2単位として計算する。自由科目の履修登録単位数については制限を設けない。
7. 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を越えた場合、当該授業科目の成績を原則として「欠席過多 (S)」による不合格とする。

II. 共通教育科目の履修要件

1. 共通教育科目の履修については「共通教育科目履修要項」に従わなければならない。以下においては履修要件の要点を再掲するとともに、経済学部の決定に委ねられている部分についての履修要件を定める。
2. 共通教育科目の中の、履修が必要な科目、必要単位数、履修年次は以下のとおりである。

宗教科目（4単位・必修）

第1年次

宗 教 論（2）

第2年次

キリスト教概論（2）

経済学部 経済学科

体育科目（2単位・必修）

第1年次

基礎体育 A（1） 基礎体育 B（1）

「人間の尊厳」科目（2科目4単位・選択必修）

第2年次以降

宗教に見る人間の尊厳（2） 哲学・倫理学における人間の尊厳（2） 思想史に学ぶ人間の尊厳（2）

政治・経済と人間の尊厳（2） 法と人間の尊厳（2） 性と生命における人間の尊厳（2）

教育・文化における人間の尊厳（2） 民族問題と人間の尊厳（2）

テーマ科目（5科目10単位・選択必修）

以下の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。

① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する。

② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する。

第1年次以降

「異文化との出会い」（2） 「生命と環境」（2） 「知識・言語と情報社会」（2）

「モダンの系譜」（2）

分野科目

最低必要単位数を定めていないが、修得した単位は卒業に必要な単位数に算入することができる。

情報科目

経済学部の学生は「情報リテラシー」および「情報機器の操作」を履修することはできない。

インターンシップ科目

最低必要単位数を定めていないが、修得した単位は卒業に必要な単位数に算入することができる。履修年次は3年次とする。

海外研修科目

最低必要単位数を定めていないが、修得した単位は卒業に必要な単位数に算入することができる。

外国語科目（8単位・必修 | 4単位・選択必修）

必修外国語は英語を8単位、選択必修外国語はフランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語、インドネシア語、ラテン語、ギリシャ語、の中から1言語を選択して4単位修得しなければならない。

選択外国語は、最低必要単位数を定めていないが、修得した単位は卒業に必要な単位数に算入することができる。

それぞれの言語の科目指定と履修年次は下表のとおりである。

		1 年次			
		春学期		秋学期	
必修外国語 (8 単位)	英語	英語Ⅰオーラル・コミュニケーションB (1)	英語Ⅰリーディング (1)	英語Ⅱオーラル・コミュニケーションB (1)	英語Ⅱリーディング (1)
		フランス語	フランス語Ⅰ文法・講読 (1) フランス語Ⅰ会話・作文 (1)	フランス語Ⅱ文法・講読 (1) フランス語Ⅱ会話・作文 (1)	ドイツ語
選択必修 外国語 (4 単位)	ドイツ語	ドイツ語Ⅱ文法・講読 (1) ドイツ語Ⅱ会話・作文 (1)	スペイン語	スペイン語Ⅰ文法・講読 (1) スペイン語Ⅰ会話・作文 (1)	スペイン語Ⅱ文法・講読 (1) スペイン語Ⅱ会話・作文 (1)
	ポルトガル語	ポルトガル語Ⅰ文法・講読 (1) ポルトガル語Ⅰ会話・作文 (1)	ポルトガル語Ⅱ文法・講読 (1) ポルトガル語Ⅱ会話・作文 (1)	中国語	中国語Ⅰ語法 (1) 中国語Ⅰ会話・作文 (1)
	中国語	中国語Ⅱ語法 (1) 中国語Ⅱ会話・作文 (1)	韓国朝鮮語	韓国朝鮮語Ⅰ文法・講読 (1) 韓国朝鮮語Ⅰ会話・作文 (1)	韓国朝鮮語Ⅱ文法・講読 (1) 韓国朝鮮語Ⅱ会話・作文 (1)
	韓国朝鮮語	韓国朝鮮語Ⅱ文法・講読 (1) 韓国朝鮮語Ⅱ会話・作文 (1)	インドネシア語	インドネシア語Ⅰ文法・講読 (1) インドネシア語Ⅰ会話・作文 (1)	インドネシア語Ⅱ文法・講読 (1) インドネシア語Ⅱ会話・作文 (1)
	インドネシア語	インドネシア語Ⅱ文法・講読 (1) インドネシア語Ⅱ会話・作文 (1)	ラテン語	ラテン語Ⅰ文法 (1) ラテン語Ⅰ講読 (1)	ラテン語Ⅱ文法 (1) ラテン語Ⅱ講読 (1)
	ラテン語	ラテン語Ⅱ文法 (1) ラテン語Ⅱ講読 (1)	ギリシャ語	ギリシャ語Ⅰ文法 (1) ギリシャ語Ⅰ講読 (1)	ギリシャ語Ⅱ文法 (1) ギリシャ語Ⅱ講読 (1)
	ギリシャ語	ギリシャ語Ⅱ文法 (1) ギリシャ語Ⅱ講読 (1)			

		2 年次			
		春学期		秋学期	
必修外国語 (8 単位)	英語	英語Ⅲオーラル・コミュニケーションB (1)	英語Ⅲリスニング (1)	英語Ⅳオーラル・コミュニケーションB (1)	英語Ⅳライティング (1)

経済学部

3. 宗教科目と体育科目の必修科目を除いて、最低必要単位数を越えて修得した共通教育科目の単位は、所定の範囲で卒業に必要な単位数に算入することができる。

Ⅲ. 経済学科科目の履修要件

1. 経済学科科目については、以下に定める履修要件に従って必修科目を28単位、関連分野科目を除く選択科目を少なくとも48単位修得し、さらに経済学科科目全体で少なくとも88単位を修得しなければならない。
2. 経済学科の開設科目、必要単位数、履修年次は次のとおりである。

(1) 必修科目 (28単位)

〔演習科目〕

第1年次

経済演習Ⅰ (4)

経済学部 経済学科

第2年次

経済演習Ⅱ (4)

第3年次

経済演習Ⅲ (4)

第4年次

経済演習Ⅳ (4)

[基礎科目]

第1年次

ミクロ経済学 (4) マクロ経済学 (4) データ処理入門 (2)

経済学のための数学 (2)

(2) 選択科目 (経済外国語科目、専攻分野科目、およびキャリア科目で48単位)

[経済外国語科目]

第1年次以降

経済英語 (2)

第2年次以降

ビジネス英語 A (2) ビジネス英語 B (2) 時事英語 A (2)

時事英語 B (2) 外書講読 (2) 外書講読 (2)
(理論と情報) A (理論と情報) B

外書講読 (2) 外書講読 (2) 外書講読 (2)
(政策) A (政策) B (国際) A

外書講読 (2) 外書講読 (2) 外書講読 (2)
(国際) B (歴史と思想) A (歴史と思想) B

[専攻分野科目]

第1年次以降

現代経済入門 (2) 西洋経済史入門 (2) 日本経済史入門 (2)

経済思想入門 (2) 経済統計入門 (2)

第2年次以降

[経済分析と情報]

上級ミクロ経済学 A (2) 上級ミクロ経済学 B (2) 上級マクロ経済学 A (2)

上級マクロ経済学 B (2) 計量経済学 I (2) 計量経済学 II (2)

経済統計論 A (2) 経済統計論 B (2) 理論経済学 I (2)

理論経済学 II (2) 情報経済学 A (2) 情報経済学 B (2)

データ解析 A (2) データ解析 B (2) 特別テーマ講義 (2)
(理論と情報) A

特別テーマ講義 (2)
(理論と情報) B

〔日本経済の分析と政策〕

経済政策論 A (2) 経済政策論 B (2) 日本経済論 A (2)
 日本経済論 B (2) 財政学 I (2) 財政学 II (2)
 金融論 I (2) 金融論 II (2) 労働経済学 A (2)
 労働経済学 B (2) 公共経済学 I (2) 公共経済学 II (2)
 租税論 A (2) 租税論 B (2) 産業組織論 A (2)
 産業組織論 B (2) 社会保障論 A (2) 社会保障論 B (2)
 特別テーマ講義 (2) 特別テーマ講義 (2)
 (政策) A (政策) B

〔国際経済の分析と政策〕

国際経済学 I (2) 国際経済学 II (2) 開発経済学 I (2)
 開発経済学 II (2) 国際金融論 I (2) 国際金融論 II (2)
 国際経済政策論 A (2) 国際経済政策論 B (2) 農業経済論 A (2)
 農業経済論 B (2) アジア経済論 A (2) アジア経済論 B (2)
 アメリカ経済論 A (2) アメリカ経済論 B (2) 特別テーマ講義 (2)
 (国際) A

特別テーマ講義 (2)
 (国際) B

〔経済の歴史と思想〕

西洋経済史 A (2) 西洋経済史 B (2) 日本経済史 A (2)
 日本経済史 B (2) 経済思想史 A (2) 経済思想史 B (2)
 経済倫理学 A (2) 経済倫理学 B (2) 経済体制論 A (2)
 経済体制論 B (2) 経済学史 A (2) 経済学史 B (2)
 消費社会論 A (2) 消費社会論 B (2) 特別テーマ講義 (2)
 (歴史と思想) A

特別テーマ講義 (2)
 (歴史と思想) B

〔キャリア科目〕

第2年次以降

仕事とキャリアの形成 (2) 自己とキャリアの形成 (2) 企業と業界の研究 (2)

〔関連分野科目〕 (最低必要単位数を定めない)

第1年次以降

会計原理 I (2) 会計原理 II (2)

経済学部 経済学科

第2年次以降

国際会計論 A (2) 国際会計論 B (2) 経営学総論 I (2)
経営学総論 II (2) 経営組織論 A (2) 経営組織論 B (2)
企業論 A (2) 企業論 B (2) ファイナンス A (2)
ファイナンス B (2) マーケティング論 A (2) マーケティング論 B (2)
法と経済学 (2)

経営史 A (2) 経営史 B (2) 経営労務論 A (2)
経営労務論 B (2) 民法 A (2) 民法 B (2)
商法 A (2) 商法 B (2)

第2年次秋学期以降

現代産業論 (2) 現代産業論 (2) 現代産業論 (2)
(総合商社論) (現代銀行論) (電子・電機産業論)
現代産業論 (2) 現代産業論 (2) 現代産業論 (2)
(自動車産業論) (起業論) (ツーリズム概論)
現代産業論 (2) 現代産業論 (2)
(現代証券業論) (先輩実務家と語る)

第3年次以降

職業指導 A (2) 職業指導 B (2) オペレーションズ・リサーチ A (2)
オペレーションズ・リサーチ B (2) 経済法 A (2) 経済法 B (2)
労働法 A (2) 労働法 B (2) 行政法 A (2)
行政法 B (2)

3. 「経済演習Ⅲ」の単位を修得していなければ、「経済演習Ⅳ」を履修登録することはできない。また「経済演習Ⅲ」と「経済演習Ⅳ」は原則として同じ担当者の演習科目でなければならない。
4. 「経済演習Ⅳ」の単位修得のためには、「卒業論文」を提出して審査に合格することが必要である。
5. 「現代産業論」は、2科目4単位を上限として卒業に必要な単位数に算入することができる。これを超過して単位を修得した科目は自由科目とされ、卒業に必要な単位数に算入することができない。

IV. 自由選択科目の履修要件

1. 自由選択科目 (8単位)

下記の(1)～(2)に該当する科目の中から計8単位を履修すること。

(1) 共通教育科目、経済学科の学科科目の内、必要単位数を超過して修得した

科目。

- (2) 他学部の学部共通科目、学科科目（他学部履修不可の科目を除く）。ただし、履修の際は、該当学部・学科の履修要項に定められた要件に従わなければならない。
2. 下記の(1)～(2)に該当する科目は、自由選択科目とは認められない。
 - (1) 前項の共通教育科目、他学部開講科目履修の際、経済学科科目と同一名称である科目。
 - (2) 「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」。

V. その他の履修要件

1. 単位を修得した科目の重複履修はできない。
2. 科目名の末尾に「Ⅰ」「Ⅱ」のついた科目は、履修の順序を定めている積み上げ科目なので、「Ⅱ」を履修するためには、原則として「Ⅰ」のついた同じ名称の科目を履修していなければならない。科目名の末尾の「A」「B」だけが異なる科目は、履修の順序を定めていない独立した科目なので、それぞれ別個に履修することができる。
3. 海外留学中に履修した英語プログラムは、別に定める「『英語プログラム』の単位認定について」の規程に従って単位を認定する。
4. 休学の後に復学した者は、原則としてそれまでの修業年数に応じた年次指定科目に限って履修登録することができる。

「英語プログラム」の単位認定について

経済学部では、海外留学を奨励するという趣旨に則り、留学先で修得した「英語プログラム」の単位認定を以下の方法により行う。

- I. 「英語プログラム」の単位認定の手続きは正規の授業科目の単位認定に必要な申請手続きに準ずるものとし、以下の基準により単位を認定する。
 - (1) 認定単位数の計算は、「南山大学授業科目履修規程」にある単位数計算の基礎に基づいて行う。
 - (2) 「英語プログラム」により履修した科目は、経済学科科目の「経済英語」、「ビジネス英語A・B」、「時事英語A・B」、「外書講読(理論と情報)A・B」、「外書講読(政策)A・B」、「外書講読(国際)A・B」、「外書講読(歴史と思想)A・B」、または「経済演習Ⅱ」として認定する。
 - (3) 留学先で修得した正規の授業科目を含めた認定単位総数が30単位を超える場合は、「英語プログラム」の方の認定単位を調整し、認定単位総数を30単位以下におさえる。
- II. 留学先大学から「英語プログラム」の成績が提出されないときは、以下の条件のいずれかが満たされた場合に、前条の(1)(2)(3)に従って認定する。
 - (1) 留学中あるいは帰国直後に受けたTOEFLの得点が500点以上ある場合。
 - (2) 前項(1)の得点が留学交流小委員会の記録に記載された留学前のTOEFLの得点と比べて60点以上向上した場合。
- III. 留学先大学で修得した英語以外の外国語の単位認定についても、上記の認定基準を適用する。ただし、I(2)の個別認定は行わず、「経済外国語科目」として包括認定する。

なお、包括認定を含め「経済外国語科目」の単位数上限は28単位とする。

経済学部経済学科カリキュラム表

【経済学部 経済学科】

区分		年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目 (32)		詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。				
学 科 目 (88)	必修	演習科目 (16)	経済演習Ⅰ (4)	経済演習Ⅱ (4)	経済演習Ⅲ (4)	経済演習Ⅳ (4)
		基礎科目 (12)	ミクロ経済学 (4) マクロ経済学 (4) データ処理入門 (2) 経済学のための数学 (2)			
	選択 (48)	経済外国語科目	経済外国語科目、専攻分野科目、およびキャリア科目で48単位以上修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。			
		専攻分野科目				
	キャリア科目					
選択	関連分野科目	最低必要単位数を定めない。				
12単位分は、関連分野科目を含む選択科目の中から任意に履修した科目の単位で充当。						
自由選択科目 (8)		卒業に必要な単位数は128単位なので、不足分8単位については、共通教育科目、経済学科科目 (必修科目を除く)、他学科で開講される科目 (履修不可科目を除く) の中から任意に履修した科目の単位および本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められた単位で充当すること。				
自由科目		教職に関する科目、博物館に関する科目、司書・司書教諭に関する科目 (卒業に必要な単位には算入されない。)				

(注) 記載された単位数は各科目分類別の最低必要単位数を示している。

卒業に必要な単位数

経済学部経済学科

総単位数 **128**

共通教育科目 **32**

必修科目 **6**

宗教科目

宗教論 2(1年次)

キリスト教概論 2(2年次)

体育科目

基礎体育A 1(1年次)

基礎体育B 1(1年次)

選択必修科目 **14**

「人間の尊厳」科目 4(2~4年次)

テーマ科目 **10**

異文化との出会い 各2(1~4年次)

生命と環境 各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会 各2(1~4年次)

モダンの系譜 各2(1~4年次)

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位を修得する
または
2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位を修得し、もう1テーマについて2科目4単位の計5科目10単位を修得する

選択科目

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、美術A、美術B、音楽A、音楽B、倫理学、人文地理学、自然地理学、地誌概論、世界史、法学A、法学B、日本国憲法、政治学A、政治学B、文化人類学A、文化人類学B、社会学A、社会学B、経済学A、経済学B、数学A、数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、生命科学、化学、心理学A、心理学B、科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B
各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技 各1(2~4年次)

情報科目

注) 経済学部経済学科の学生による「情報リテラシー(2)」および「情報機器の操作(2)」の履修登録は認められない。

インターンシップ科目

インターンシップ研修 2(3年次)

海外研修科目

短期留学プログラムA、短期留学プログラムB
各2(1~3年次)

外国語科目 **12**

必修外国語科目 **8**

選択必修外国語科目 **4**

選択外国語科目

内訳は次ページ参照

英語イマージョンプログラムA、B、C 各2

英語通訳の基礎 1

英語翻訳の基礎 1

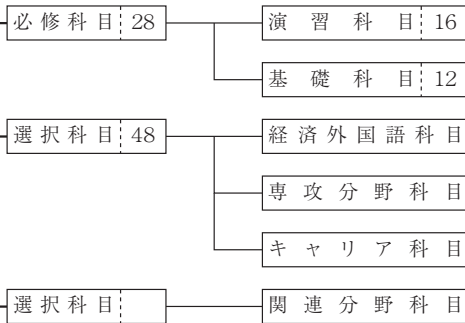
英語プレゼンテーションの基礎 1

※1

※1

		1年次		2年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期
必修外国語科目 (8単位)	英語	英語Iオール・ コミュニケーションB(1) 英語Iリーディング(1)	英語IIオール・ コミュニケーションB(1) 英語IIリーディング(1)	英語IIIオール・ コミュニケーションB(1) 英語IVリスニング(1)	英語IVオール・ コミュニケーションB(1) 英語IVライティング(1)
選択必修外国語 科目 (4単位)	フランス語	フランス語I文法・講読(1) フランス語I会話・作文(1)	フランス語II文法・講読(1) フランス語II会話・作文(1)		
	ドイツ語	ドイツ語I文法・講読(1) ドイツ語I会話・作文(1)	ドイツ語II文法・講読(1) ドイツ語II会話・作文(1)		
	スペイン語	スペイン語I文法・講読(1) スペイン語I会話・作文(1)	スペイン語II文法・講読(1) スペイン語II会話・作文(1)		
	ポルトガル語	ポルトガル語I文法・講読(1) ポルトガル語I会話・作文(1)	ポルトガル語II文法・講読(1) ポルトガル語II会話・作文(1)		
	中国語	中国語I語法(1) 中国語I会話・作文(1)	中国語II語法(1) 中国語II会話・作文(1)		
	韓国朝鮮語	韓国朝鮮語I文法・講読(1) 韓国朝鮮語I会話・作文(1)	韓国朝鮮語II文法・講読(1) 韓国朝鮮語II会話・作文(1)		
	インドネシア語	インドネシア語I文法・講読(1) インドネシア語I会話・作文(1)	インドネシア語II文法・講読(1) インドネシア語II会話・作文(1)		
	ラテン語	ラテン語I文法(1) ラテン語I講読(1)	ラテン語II文法(1) ラテン語II講読(1)		
	ギリシャ語	ギリシャ語I文法(1) ギリシャ語I講読(1)	ギリシャ語II文法(1) ギリシャ語II講読(1)		

学 科 科 目 **88** (注)(3)参照



自由選択科目 **8** (注)(1)記載された単位数は各科目分類別の最低必要単位を示している。

- (2) 共通教育科目の32単位、経済学科科目の88単位を合計した120単位は、卒業に必要な総単位数の128単位に達していない。この不足分の8単位については、共通教育科目、経済学科科目(必修科目を除く)および他学科で開講される科目(履修不可科目を除く)の中から任意に履修した科目の単位で充当することができる。また、本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められた単位で充当することができる。
- (3) 経済学科科目の最低必要単位数は88単位であるが、必修科目の28単位、関連分野科目を除く選択科目の48単位を合計した76単位では12単位不足している。この12単位分は、関連分野科目を含む選択科目の中から任意に履修した科目の単位で充当する。

經營學部

經營學部

経営学部経営学科履修要項

1. 経営学部経営学科学生は共通教育科目32単位以上、経営学科科目70単位以上、自由選択科目を26単位以上、合計128単位以上を、卒業に必要な単位として修得しなければならない。

2. 共通教育科目（32単位）の履修は次のとおりである。

(1) 必修科目（6単位）を修得しなければならない。

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

(2) 選択必修科目（14単位）を次のとおり修得しなければならない。

第1年次以降

次の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。なお、科目の詳細は「共通教育科目履修要項」を参照すること。

① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する

② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

「異文化との出会い」 「生命と環境」 「知識・言語と情報社会」

「モダンの系譜」

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から、2科目4単位以上修得すること。

(3) 外国語科目（12単位）を次のとおり修得しなければならない。

必修外国語科目（8単位）

第1年次

英語Iオーラル・コミュニケーションC (2) 英語IIオーラル・コミュニケーションC (2) 英語Iリーディング (1)

英語IIリーディング (1) 英語Iライティング (1) 英語IIライティング (1)

経営学部 経営学科

選択必修外国語科目（4単位）

次の外国語の中から1種類の外国語を選択して、4単位修得すること。なお、科目の詳細は「共通教育科目履修要項」を参照すること。

フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語、インドネシア語、ラテン語、ギリシャ語、英語

3. 経営学科科目の必修・選択必修・選択・自由選択の指定、単位数および履修年次は次のとおりである（カッコ内の数字は単位数を示す）。

必修科目

演習科目（8単位）

下記の2科目8単位をそれぞれの履修年次に履修すること。

第3年次

経営演習Ⅰ（4）

第4年次

経営演習Ⅱ（4）

選択必修科目

演習科目（6単位）

下記の科目から計6単位をそれぞれの履修年次に履修すること。なお、必要単位数を超過して修得した演習科目の単位は選択科目に算入される。

第1年次

基礎演習Ⅰ（2）基礎演習Ⅱ（2）

第2年次

基礎演習Ⅲ（2）基礎演習Ⅳ（2）

基本科目（24単位）

下記の科目から計24単位をそれぞれの履修年次に履修すること。なお、必要単位数を超過して修得した基本科目の単位は選択科目に算入される。

第1年次

[基礎科目]

統計学Ⅰ（2）統計学Ⅱ（2）数学Ⅰ（2）
数学Ⅱ（2）

[コア科目]

経営学総論Ⅰ（2）経営学総論Ⅱ（2）会計原理Ⅰ（2）
会計原理Ⅱ（2）

第2年次

[基礎科目]

経済原論 I (2) 経済原論 II (2)

[コア科目]

経営労務論 A (2) 経営労務論 B (2) ファイナンス A (2)
 ファイナンス B (2) マーケティング論 A (2) マーケティング論 B (2)
 財務会計論 A (2) 財務会計論 B (2) 経営組織論 A (2)
 経営組織論 B (2) 経営史 A (2) 経営史 B (2)

選択科目 (32単位)

下記の科目から計32単位をそれぞれの履修年次に履修すること。なお、必要単位数を超過して修得した選択科目の単位は自由選択科目に算入される。

第1年次以降

[コア科目]

アドバンスト会計A (2) アドバンスト会計B (2)

[情報・解析科目]

情報基礎 (2) 情報処理 A (2)

[経営英語科目]

ビジネス英語海外研修 (4)

第2年次以降

[コア科目]

資本市場論 (2) 資本市場論 (2) 流通論 A (2)
 (債券・株式) (金融機関)

流通論 B (2) 国際会計論 A (2) 国際会計論 B (2)

[一般科目]

企業論 A (2) 企業論 B (2) 経営管理論 A (2)

経営管理論 B (2) 経営環境論 A (2) 経営環境論 B (2)

経営倫理 (2) 法と経済学 (2) 商法 A (2)

商法 B (2)

[関連科目]

民法 A (2) 民法 B (2)

[経営英語科目]

ビジネス英語Iオーラル・コミュニケーション (2) ビジネス英語Iリーディング&ライティング (2) ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション (2)

ビジネス英語IIリーディング&ライティング (2)

経営学部 経営学科

[簿記科目]

商業簿記中級Ⅰ(2) 商業簿記中級Ⅱ(2) 工業簿記Ⅰ(2)
工業簿記Ⅱ(2)

[情報・解析科目]

情報処理B(2) 経営数学(2) 経営統計学(2)

第2年次秋学期以降

[関連科目]

現代産業論(2) 現代産業論(2) 現代産業論(2)
(総合商社論) (現代銀行論) (電子・電機産業論)

現代産業論(2) 現代産業論(2) 現代産業論(2)
(自動車産業論) (起業論) (ツーリズム概論)

現代産業論(2) 現代産業論(2)
(現代証券業論) (先輩実務家と語る)

第3年次以降

[コア科目]

労使関係論A(2) 労使関係論B(2) 組織心理学A(2)
組織心理学B(2) 国際人事管理論A(2) 国際人事管理論B(2)
投資論(2) 投資論(2) 国際財務論A(2)
(実物投資) (証券投資)

国際財務論B(2) デリバティブ(2) 消費者行動論(2)
ブランド・マネジメント(2) マーケティング・コミュニケーションA(2) マーケティング・コミュニケーションB(2)

内部監査論(2) 外部監査論(2) 経営分析論A(2)
経営分析論B(2) 税務会計論A(2) 税務会計論B(2)
管理会計論(2) 公会計論(2) 原価計算論(2)

[一般科目]

グローバル・ビジネス論A(2) グローバル・ビジネス論B(2) 経営戦略論A(2)
経営戦略論B(2) オペレーションズ・リサーチA(2) オペレーションズ・リサーチB(2)
経営情報システム論(2)

[関連科目]

金融論Ⅰ(2) 金融論Ⅱ(2) 国際経済学Ⅰ(2)
国際経済学Ⅱ(2) 産業組織論A(2) 産業組織論B(2)
労働経済学A(2) 労働経済学B(2) 労働法A(2)
労働法B(2) 経済法A(2) 経済法B(2)
行政法A(2) 行政法B(2) 職業指導A(2)
職業指導B(2)

[経営英語科目]

- 英語ビジネス・ディスカッション (4) 英語ビジネス・ライティング (4) TOEIC Preparation (2)
 Corporate Finance A (2) Corporate Finance B (2) International Management A (2)
 International Management B (2) 英語で学ぶ経営学 (2) 英語で学ぶ経営学 (2)
 (組織・労務) (ファイナンス)
 英語で学ぶ経営学 (2) 英語で学ぶ経営学 (2) 英語で学ぶ経営学 (2)
 (マーケティング) (会計) (ツーリズム)
 英語で学ぶ経営学 (2)
 (ビジネスと消費者行動)

[情報・解析科目]

- 意識調査法 (2) 数量ファイナンス (2) マーケティング・リサーチ (2)
 データ解析 (2) ビジネス・シミュレーション (2)

自由選択科目 (26単位)

下記の(1)～(3)に該当する科目の中から計26単位を履修すること。

- (1) 共通教育科目および経営学科科目のうちで必要単位数を超過して修得した科目。
 (2) 他学部の学部共通科目、学科科目(他学部履修不可の科目を除く)。その際の履修年次は、当該学部、学科に定められた履修年次を遵守しなければならない。
 (3) 本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの。

4. I、IIまたはA、Bが付された科目の履修登録方法は下記のとおりとする。
 (1) 授業科目にI、IIが付されている科目は、原則として、Iの履修後でなければIIを履修登録することができない。III、IVが付されている科目も同様とする。
 (2) 授業科目にA、Bが付されている科目は、AまたはBのいずれか一つを履修登録することができる。ただし、止むを得ない場合を除いて、A、Bともに履修登録することが望ましい。
5. 演習科目を各履修年次の指導教員制クラスとする。従って、第2年次を修了するまでは、毎学期、必ず基礎演習科目を履修登録しなければならない。なお、6単位を超過して修得した基礎演習科目の単位は選択科目に算入される。
6. 「経営演習I」を履修登録するためには、原則として、共通教育科目および経営学科科目の単位を合計44単位以上修得し、併せて基本科目の単位を12単位以上修得

経営学部 経営学科

していなければならない。

7. 「経営演習Ⅱ」は、「経営演習Ⅰ」の単位修得後でなければこれを履修登録することができない。また、「経営演習Ⅰ」と「経営演習Ⅱ」は原則として同じ担当者の演習科目でなければならない。
8. 「経営演習Ⅱ」の単位を修得するためには卒業論文を作成し、指定された期日までにこれを提出しなければならない。なお、卒業論文が満たすべき要件、提出期日等については別に定める。
9. 「現代産業論」は、3科目6単位を上限として卒業必要単位数に算入することができる。上限を超えて単位を修得した科目は自由科目とする。
10. 経営学部経営学科の学生は、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」および「司書・司書教諭に関する科目」を自由科目として履修登録することができる。
11. 経営学部経営学科の学生が1学期に履修登録することが許される単位数は22単位までとする（自由科目は含まない）。
12. 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を原則として「欠席過多（S）」による不合格とする。

経営英語カリキュラムについて

経営学部の学生は、1年次に全ての共通教育必修外国語科目「英語Ⅰ/Ⅱオーラル・コミュニケーションC」「英語Ⅰ/Ⅱリーディング」「英語Ⅰ/Ⅱライティング」を履修することが可能である。

さらに、経営学部では、1年次以降の学生に選択科目として以下のようなビジネスにおける英語力を向上させる科目（ビジネス英語科目）が設置されているので、積極的に履修することが望まれる。

第1年次以降

ビジネス英語海外研修（4）

第2年次以降

ビジネス英語Ⅰオーラル・コミュニケーション（2） ビジネス英語Ⅰリーディング&ライティング（2） ビジネス英語Ⅱオーラル・コミュニケーション（2）

ビジネス英語リーディング&ライティング (2)

上記の科目で、リーディング&ライティングとオーラル・コミュニケーションのどちらか一方だけを選択することはできず、2科目併せて履修しなければならない。また、定員があるので、12月頃に試験を行って選抜し、予備登録を行なう。

第3年次以降

英語ビジネス・ディスカッション (4) 英語ビジネス・ライティング (4) TOEIC Preparation (2)

英語で学ぶ経営学(ツーリズム) (2) 英語で学ぶ経営学(ビジネスと消費者行動) (2)

また、3年次以降の学生対象に以下の英語で学ぶ経営学に関する科目が設置されているので、積極的に履修することが望まれる。

国際財務論 A (2) 国際財務論 B (2) Corporate Finance A (2)

Corporate Finance B (2) International Management A (2) International Management B (2)

英語で学ぶ経営学(組織・労務) (2) 英語で学ぶ経営学(ファイナンス) (2) 英語で学ぶ経営学(マーケティング) (2)

英語で学ぶ経営学(会計) (2)

基礎演習Ⅲ・基礎演習Ⅳ・経営演習Ⅰの予備登録について

基礎演習Ⅲ、基礎演習Ⅳおよび経営演習Ⅰを履修するためには、事前に予備登録する必要がある。予備登録の説明会は、基礎演習Ⅲについては毎年12月頃、基礎演習Ⅳについては6月頃、経営演習Ⅰについては、11月頃に実施する予定なので、掲示には十分注意すること。

松山大学経営学部との単位互換協定について

松山大学経営学部との単位互換協定による特別聴講生を希望する学生は秋頃に教務課窓口で説明を受けること。

経営学部簿記検定試験合格者単位認定制度について

本学入学以前もしくは入学後に文部科学省認定の（あるいはそれに準ずる）簿記検定試験に合格した2006年度以降の経営学部入学生に対し、以下の通り単位を認定する。

この制度は、商業高等学校出身者に対して、商業高等学校での学習成果を評価し、より高度な会計関連専門科目の履修意欲を高めるために、そして、高等学校普通科等の出身者に対しては、会計資格取得のためのインセンティブを与え、より高度な会計関連専門科目の履修意欲を高めるために設置する。

検定試験	級	認定科目	(計)単位数
簿記検定 (日本商工会議所)	2級以上	会計原理Ⅰ (2)	8単位まで
簿記能力検定 (全国経理教育協会)	2級以上	会計原理Ⅱ (2) 商業簿記中級Ⅰ (2)	
簿記実務検定 (全国商業高等学校協会)	1級	工業簿記Ⅰ (2)	

1. 認定を希望する学生は、各学期授業開始日まで（開始日を含む）に、申請書に当該検定試験の合格証明書コピーを添えて、名古屋キャンパス教務課まで申請すること。申請書は教務課窓口で配布する。在学期間中の申請は1回とする。
2. 2種類以上の検定試験が単位認定の対象となる場合は、本人の申請により、いずれか1種類の検定試験のみを認定する。
3. 既に認定科目を単位修得している場合は、未修得の科目のみを単位認定対象とする。
4. 未修得の認定科目のうち、本人が認定を希望する科目のみを単位認定する。
5. 認定された単位は各学期の履修登録単位数には含めない。成績評価は一律に「認定 (T)」とする。認定された単位は卒業に必要な単位に算入することができる。
6. 既に認定科目を登録している場合は、認定後登録を取り消す。

経営学部経営学科カリキュラム表

【経営学部経営学科】

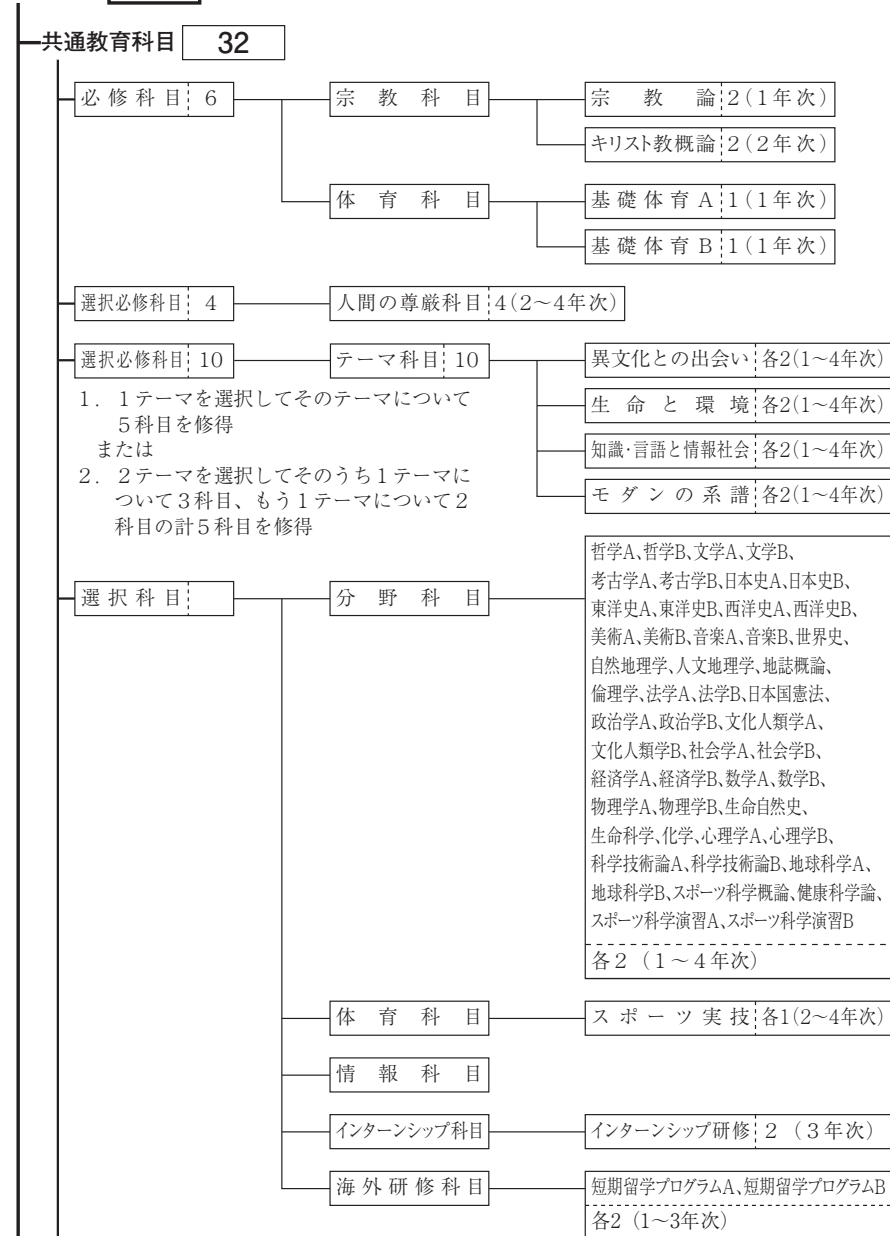
区分		年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目 (32)			32単位以上修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。			
学 科 目 (70)	必修 科目	演習 科目			経営演習Ⅰ(4)	経営演習Ⅱ(4)
	選択 必修 科目	演習 科目	6単位修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 [第2年次を修了するまでは毎学期、必ず基礎演習科目を履修登録しなければならない。] [6単位を超過して修得した基礎演習科目の単位は、選択科目に算入される。]			
		基本 科目	24単位修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 [24単位を超過して修得した基本科目の単位は、選択科目に算入される。]			
	選択科目		32単位修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 [32単位を超過して修得した選択科目の単位は、自由選択科目に算入される。]			
自由選択科目		26単位修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 (1)共通教育科目および経営学科科目のうちで必要単位数を超過して修得した科目 (2)他学部の学部共通科目、学科科目(他学部履修不可科目を除く) (3)本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの				
自由科目		教職に関する科目、博物館に関する科目、司書・司書教諭に関する科目(卒業に必要な単位には算入されない。)				

選択科目の「現代産業論」は、3科目6単位まで卒業必要単位数に算入することができる。

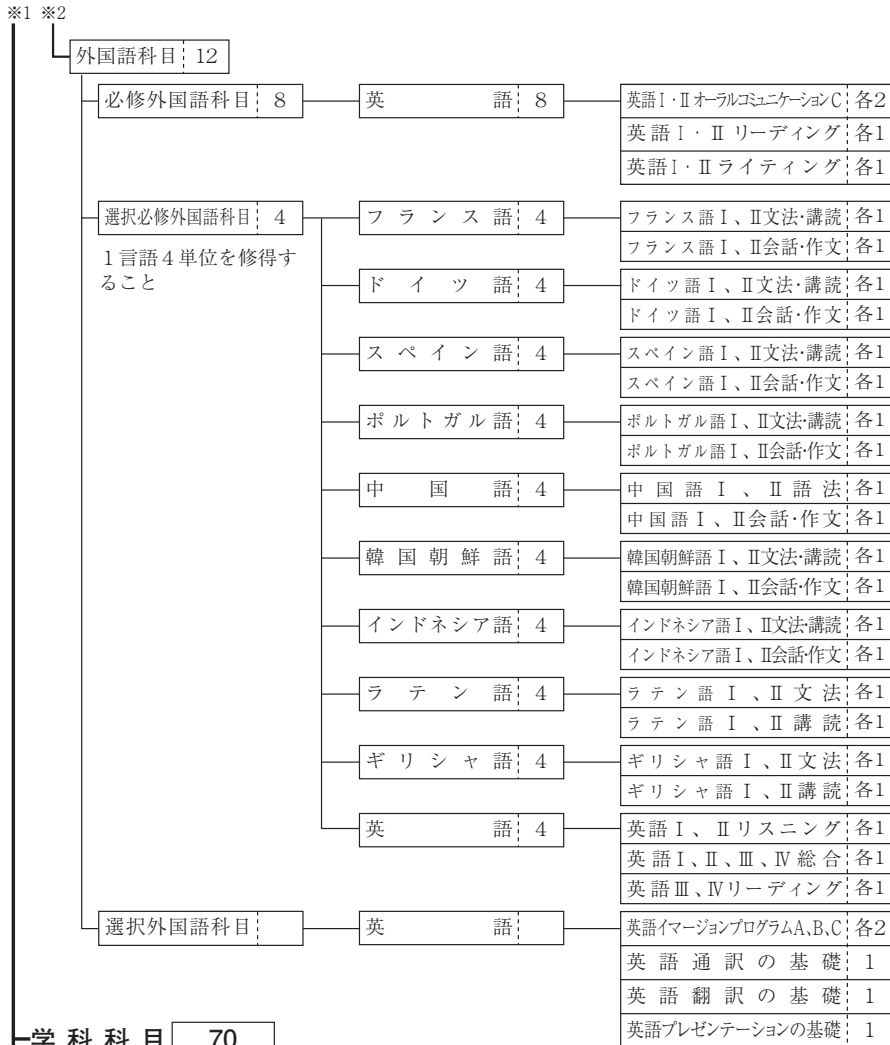
卒業に必要な単位数

経営学部経営学科

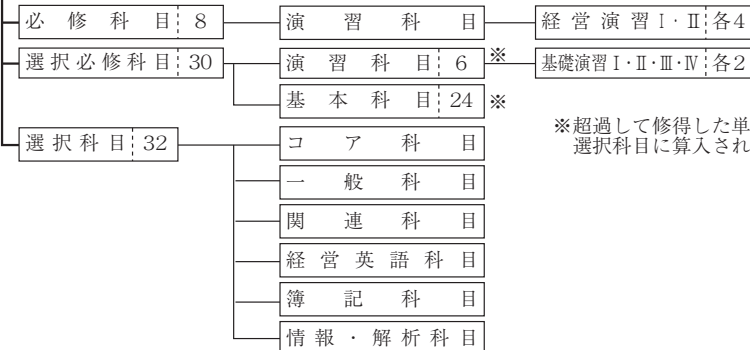
総単位数 **128**



※1 ※2



学科科目 70



※超過して修得した単位数は
選択科目に算入される。

自由選択科目 26

自由選択科目に算入されるのは、共通教育科目および経営学科科目のうちで必要単位数を超過して修得した科目、他学部の学部共通科目、学科科目（他学部履修不可科目を除く）、および本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの。
 (なお、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」は含まれない)。

法 学 部

法
学
部

法学部履修要項

1. 法学部学生は、「共通教育科目」、「学科科目」および「自由選択科目」を履修して、卒業に必要な132単位を履修しなければならない。このうち、共通教育科目については最低28単位、学科科目については最低92単位を履修しなければならない。卒業に必要な残り12単位については、学科科目、または、自由選択科目(共通教育科目、他学部開講科目、および本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの)から、任意に科目を選んで履修して、単位を修得しなければならない。
2. 共通教育科目の履修方法は次のとおりとする。
 - (1) 必修科目 (6単位)
 - 第1年次
宗 教 論 (2) 基礎体育 A (1) 基礎体育 B (1)
 - 第2年次
キリスト教概論 (2)
 - (2) 選択必修科目 (14単位)
 - 第1年次
下記の4テーマの中から、①または②のいずれかの方法に従って5科目10単位を修得しなければならない。
 - ① 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する
 - ② 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する
 「異文化との出会い」、「生命と環境」、「知識・言語と情報社会」、「モダンの系譜」
 - 第2年次以降
「人間の尊厳」科目から4単位以上
科目の詳細は、それぞれの要項を参照すること。
 - (3) 外国語科目 (8単位)
 - 必修科目 (4単位)
 - 英語Iオーラル・コミュニケーションB (1) 英語IIオーラル・コミュニケーションB (1) 英語Iリーディング (1)
 - 英語IIリーディング (1)
 - 選択必修科目 (4単位)
 次の外国語の中から、一種類の外国語を選択して、4単位を修得すること(外国語科目の詳細については共通教育科目履修要項を参照すること)。
英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国朝鮮語
3. 自由選択科目 (0～12単位)

法学部 法律学科

- (1) 共通教育科目で、日本国憲法(2)、法学A(2)、法学B(2)以外の科目。
- (2) 他学部科目、他学科科目(履修不可の科目を除く)。その履修年次は、当該学部および学科の履修要項に従わなければならない。
- (3) 本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの。

4. 法学部に開設する学科科目とその単位数および履修年次は次のとおりとする。

(カッコ内の数字は単位数を示す)

A群(第1年次以降および第2年次以降配当科目)

第1年次以降

ベーシック演習(4) 憲法A(人権)(4) 憲法B(統治機構)(2)
民法総論(4) 刑法総論(4) 裁判法(2)
海外法文化研修(5)

第2年次以降

ミドル演習(4) 行政法総論(4) 行政救済法(2)
現代社会と刑法各論A(2) 現代社会と刑法各論B(2) 刑事訴訟法A(2)
刑事訴訟法B(2) 少年法(2) 刑事政策(2)
国際法総論A(2) 国際法総論B(2) 物権法(4)
契約法(4) 不法行為法(2) 家族法(4)
企業法総論(2) 会社法A(4) 民事訴訟法A(2)
民事訴訟法B(2) 労働法A(2) 労働法B(2)
国際私法A(2) 国際私法B(2) 法哲学A(2)
法哲学B(2) 法社会学(2) 日本法史(2)
西洋法史A(2) 西洋法史B(2) 英米法(2)
ドイツ法(2) フランス法(2) スペイン法(2)
政治学原論A(2) 政治学原論B(2) 行政学A(2)
行政学B(2) 政治思想史A(2) 政治思想史B(2)
政治史(2) 国際政治学A(2) 国際政治学B(2)
国際機構論(2) 外書講読A(2) 外書講読B(2)
経済原論A(2) 経済原論B(2)

B群(第3年次以降および第4年次以降配当科目)

第3年次以降

アドバンスト演習(4) 行政法各論(2) 税財政法(2)
環境法(2) 情報法(2) 国際法各論A(2)

国際法各論 B (2) 国際経済組織法 (2) 債権法総論 (2)
 民事訴訟法 C (2) 消費者法 (2) 知的財産法 (2)
 有価証券法 (2) 保険法 (2) 会社法 B (2)
 経済法 A (2) 経済法 B (2) 民事執行法 (2)
 倒産法 (2) 国際取引法 (2) 社会保障法 (2)
 企業法務 (2) ジェンダーと法 (2) 法と経済学 (2)

第4年次以降

法学演習 A (2) 法学演習 B (2) 法学演習 C (2)
 法学演習 D (2) 法学演習 E (2) 法学演習 F (2)
 卒業論文演習 (2)

5. 法学部学生は、A群で64単位以上を修得しなければならない。卒業に必要な学科科目のうち、残り最低28単位については、A群またはB群から任意に科目を履修して修得しなければならない。
6. 第1年次においてベーシック演習および裁判法の単位を修得できなかったときは、休学による場合を除き、再履修することができない。
7. 第2年次においてミドル演習の単位を修得できなかったときは、休学による場合を除き、再履修することができない。
8. 科目名の末尾に「I」「II」のついた科目は、履修の順序を定めている積み上げ科目なので、「II」を履修するためには、原則として「I」のついた同じ名称の科目を履修しなければならない。科目名の末尾の「A」「B」だけが異なる科目は、履修の順序を定めていない独立した科目なので、それぞれ別個に履修することができる。
9. 法学演習 (A、B、C、D、E、F) は、4年次において最大4単位まで履修することができる。
10. 法学部学生は、教職に関する科目、博物館に関する科目および司書・司書教諭に関する科目を自由科目として履修することができる (ただし、科目とも定められた履修年次を遵守しなければならない)。これらは、卒業に必要な単位に算入されない。

法学部 法律学科

11. 第1・2・3年次生の履修可能単位数は春学期・秋学期それぞれ22単位とし、第4年次以降の履修可能単位数は各期それぞれ24単位（なお、2014年度以前の入学者は30単位）とする（なお通年科目の単位数については、各期ごとに単位数を割り振る。したがって、4単位の通年科目を登録した場合、その科目につき各期2単位を登録したものと計算する）。ただし、自由科目（教職に関する科目、博物館に関する科目および司書・司書教諭に関する科目）については、上記の制限を受けずに履修することができる。
12. 講義概要の当該授業科目評価欄に「欠席過多（S）」適用に関する記載がある場合、欠席の時数が当該授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた者の当該授業科目の成績は、「欠席過多（S）」による不合格とする。

法学部法律学科カリキュラム表

【法学部 法律学科】

区分		年次別	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
共通教育科目			28単位以上修得しなければならない。 詳細は、「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照。			
学科科目 (92単位以上)	A群		64単位以上修得しなければならない。 学科科目の卒業必要単位92単位のうち、上記64単位を差し引いた残り28単位は、A群またはB群から任意に科目を履修して修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照			
	B群		学科科目の卒業必要単位92単位のうち、A群で修得した64単位以上を差し引いた残り最大28単位は、A群またはB群から任意に科目を履修して修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照			
自由選択科目			0～12単位 詳細は、「履修要項」を参照 共通教育科目のうち、日本国憲法(2)、法学A(2)、法学B(2)以外の科目 他学部・他学科開講科目 本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの。			
自由科目			教職に関する科目、博物館に関する科目、司書・司書教諭に関する科目			

卒業に必要な単位数

法学部法律学科

総単位数 **132**

共通教育科目 **28以上**

必修科目 **6**

宗教科目

宗教論:2(1年次)

キリスト教概論:2(2年次)

体育科目

基礎体育A:1(1年次)

基礎体育B:1(1年次)

選択必修科目 **14**

「人間の尊厳」科目:4(2~4年次)

テーマ科目 **10**

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目を修得する
または
2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目、もう1テーマについて2科目の計5科目を修得する

異文化との出会い:各2(1~4年次)

生命と環境:各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会:各2(1~4年次)

モダンの系譜:各2(1~4年次)

選択科目

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、
考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、
東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、
美術A、美術B、音楽A、音楽B、倫理学、
人文地理学、自然地理学、地誌概論、
世界史、政治学A、政治学B、
文化人類学A、文化人類学B、社会学A、
社会学B、経済学A、経済学B、数学A、
数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、
生命科学、化学、心理学A、心理学B、
科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、
地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、
スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B

各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技:各1(2~4年次)

情報科目

情報リテラシー:2(1~3年次)

情報機器の操作:2(1~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修:2(3年次)

海外研修科目

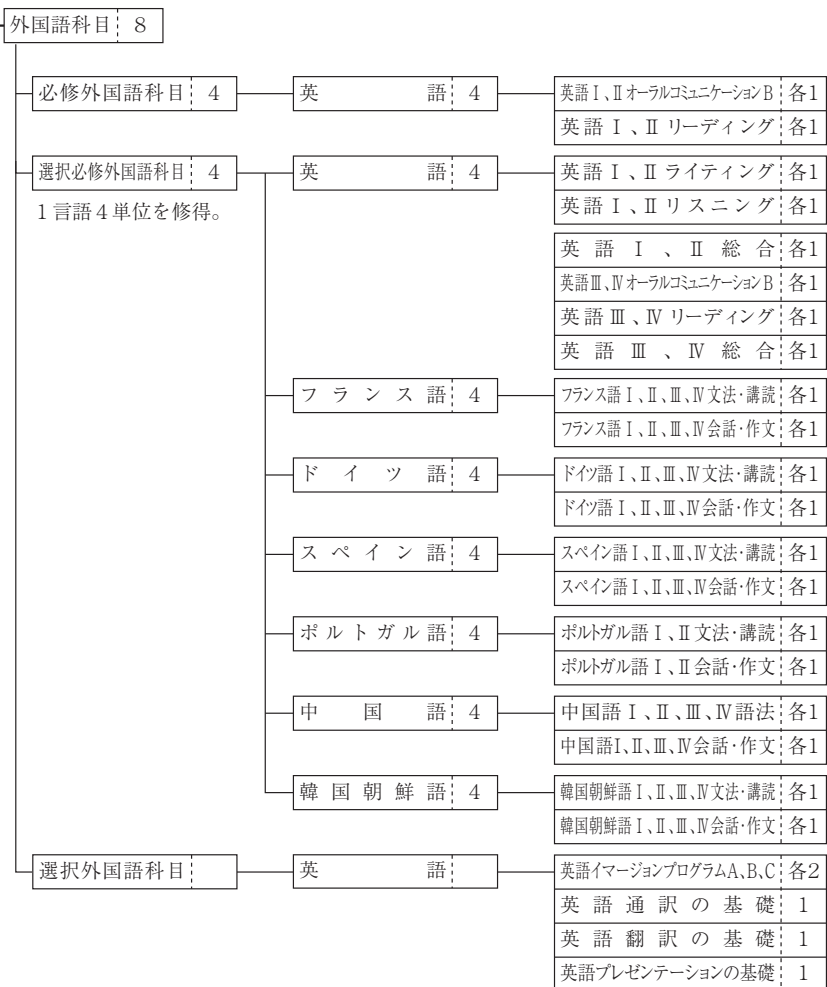
短期留学プログラムA、短期留学プログラムB

各2(1~3年次)

※1 ※2

法学部 法律学科

※1 ※2



学科科目 92以上

A群	1・2～4年次	64単位以上
B群	3～4年次	

自由選択科目（上記以外で卒業単位数に算入出来るもの） 0～12

- 共通教育科目のうち日本国憲法、法学A、法学Bを除くすべての科目
- 他学部開講科目
- 本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの。

総合政策学部

総合政策学部総合政策学科履修要項

～外国語科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修しない学生に適用～

1. 総合政策学部学生は、「共通教育科目」、「学科科目」、「自由選択科目」を履修して、卒業に必要な130単位を修得しなければならない。このうち、共通教育科目については38単位が、学科科目については80単位が含まれていなければならない。この履修要項は外国語科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修しない学生に適用する。

2. 共通教育科目の履修方法は次のとおりとする。(38単位)

(1) 必修科目 (10単位)

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)
基 礎 演 習 (2)

第1年次春学期

コンピュータ基礎演習Ⅰ (1)

第1年次秋学期

コンピュータ基礎演習Ⅱ (1)

第2年次

キリスト教概論 (2)

(2) 選択必修科目 (14単位)

第1年次以降

「異文化との出会い」、「生命と環境」、「知識・言語と情報社会」、「モダンの系譜」の4テーマについて、次のいずれかの方法に従って修得しなければならない。

① 4テーマの中から1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位以上を修得する

② 4テーマの中から2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位以上、もう1テーマについて2科目4単位以上の計5科目10単位以上を修得する

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位を修得すること。

(3) 外国語科目 (12単位)

必修科目 (8単位)

第1年次

英語Ⅰオーラル・コミュニケーション (2) 英語Ⅱオーラル・コミュニケーション (2) 英語Ⅰリーディング (1)
英語Ⅱリーディング (1) 英語Ⅰライティング (1) 英語Ⅱライティング (1)

総合政策学部 総合政策学科

選択必修科目（4単位または6単位）

第2年次

中国語Ⅰ語法（1）	中国語Ⅱ語法（1）	中国語Ⅰ会話・作文（1）
中国語Ⅱ会話・作文（1）	フランス語Ⅰ文法・講読（1）	フランス語Ⅱ文法・講読（1）
フランス語Ⅰ会話・作文（1）	フランス語Ⅱ会話・作文（1）	スペイン語Ⅰ文法・講読（1）
スペイン語Ⅱ文法・講読（1）	スペイン語Ⅰ会話・作文（1）	スペイン語Ⅱ会話・作文（1）
ドイツ語Ⅰ文法・講読（1）	ドイツ語Ⅱ文法・講読（1）	ドイツ語Ⅰ会話・作文（1）
ドイツ語Ⅱ会話・作文（1）	韓国朝鮮語Ⅰ文法・講読（1）	韓国朝鮮語Ⅱ文法・講読（1）
韓国朝鮮語Ⅰ会話・作文（1）	韓国朝鮮語Ⅱ会話・作文（1）	外国語Ⅰ（1）
外国語Ⅱ（中国語）（5）	外国語Ⅱ（韓国朝鮮語）（5）	外国語Ⅱ（マレー・インドネシア語）（5）
外国語Ⅱ（ベトナム語）（5）	外国語Ⅱ（フィリピン語）（5）	外国語Ⅱ（タイ語）（5）

- ①外国語Ⅰ・Ⅱを除く言語は、1言語につき4単位を修得しなければならない。
- ②外国語Ⅰ・Ⅱを除く言語は、ⅠとⅡを同時に履修しなければならない。
- ③外国語Ⅰ・Ⅱは短期アジア留学プログラムとして開講し、外国語Ⅰは事前・事後指導、外国語Ⅱは海外における語学研修（中国語、韓国朝鮮語、ベトナム語、フィリピン語、タイ語、マレー・インドネシア語）とする。
- ④外国語Ⅰ・Ⅱは分割して履修することはできない。

選択科目

第1年次

TOEIC対策英語A（1）	TOEIC対策英語B（1）	TOEIC対策英語C（1）
TOEFL対策英語A（1）	TOEFL対策英語B（1）	

第2年次

中国語Ⅲ語法（1）*	中国語Ⅲ会話・作文（1）*	フランス語Ⅲ文法・講読（1）*
フランス語Ⅲ会話・作文（1）*	スペイン語Ⅲ文法・講読（1）*	スペイン語Ⅲ会話・作文（1）*
ドイツ語Ⅲ文法・講読（1）*	ドイツ語Ⅲ会話・作文（1）*	韓国朝鮮語Ⅲ文法・講読（1）*
韓国朝鮮語Ⅲ会話・作文（1）*	英語リテラシーⅢ（2）	英語で学ぶイベント企画・交渉スキル（2）
英語リサーチ・イメージプログラム（2）	英語で学ぶ社会調査法（2）	English Skills Workshop A（1）
English Skills Workshop B（1）	English Skills Workshop C（1）	English Skills Workshop D（1）

第3年次

中国語Ⅳ語法（1）	中国語Ⅳ会話・作文（1）	フランス語Ⅳ文法・講読（1）
フランス語Ⅳ会話・作文（1）	スペイン語Ⅳ文法・講読（1）	スペイン語Ⅳ会話・作文（1）
ドイツ語Ⅳ文法・講読（1）	ドイツ語Ⅳ会話・作文（1）	韓国朝鮮語Ⅳ文法・講読（1）
韓国朝鮮語Ⅳ会話・作文（1）		

- ①各言語のⅢ文法・講読とⅢ会話・作文は同時に履修しなければならない。
- ②*の科目（中国語Ⅲ、フランス語Ⅲ、スペイン語Ⅲ、ドイツ語Ⅲ、韓国朝鮮語Ⅲ）

語Ⅲ) のいずれかを履修していないと、それぞれの言語の総合政策外国文献講読Ⅰを履修することができない。ただし、外国語Ⅰ・Ⅱ(中国語)、および(韓国朝鮮語)を履修した場合には、総合政策外国文献講読Ⅰのそれぞれ中国語セクション、および韓国朝鮮語のセクションを履修することができる。

(4) 選択科目

第1年次以降

哲 学	A (2)	文 学	A (2)	日 本 史	A (2)
美 術	A (2)	音 楽	A (2)	法 学	A (2)
政 治 学	A (2)	文化人類学	A (2)	社 会 学	A (2)
経 済 学	A (2)	数 学	A (2)	物 理 学	A (2)
生 命 自 然 史	(2)	化 学	(2)	心 理 学	A (2)
地 球 科 学	A (2)	スポーツ科学論	(2)	健 康 科 学 論	(2)

第2年次以降

ス ポ ー ツ 実 技 (1) (健康スポーツ)	ス ポ ー ツ 実 技 (1) (フィットネス)	ス ポ ー ツ 実 技 (1) (生涯スポーツ)
ス ポ ー ツ 実 技 (1) (集団スポーツ)	ス ポ ー ツ 実 技 (1) (アウトドアスポーツ)	ス ポ ー ツ 実 技 (1) (個人スポーツ)

第3年次以降

インターンシップ研修 (2)

なお、必要な単位を超えて修得した単位は共通教育科目または自由選択科目として卒業に必要な単位数に算入することができる。

3. 総合政策学部学生は、総合政策学科学科科目の中から、必修科目を12単位、
選択必修科目の[基礎科目]を10単位以上、
選択必修科目の[方法論科目]を4単位以上、
選択必修科目の[文明論科目]を12単位以上、
選択必修科目の[総合政策科目]を12単位以上、
選択科目を30単位以上修得し、合計で80単位を修得しなければならない。
ただし、ここでいう[文明論科目]には、必修科目の文明論概論は含まれない。
ただし、ここでいう[総合政策科目]には、必修科目の総合政策入門は含まれない。
4. 総合政策学部学生は、総合政策学科学科科目を、次に示した履修年次に従って、履修するものとする。

総合政策学部 総合政策学科

(1) 必修科目 (12単位)

第1年次

文明論概論(2) 総合政策入門(2)

第3年次

総合政策プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ(各2)

第4年次

総合政策プロジェクト研究Ⅲ・Ⅳ(各2)

(2) 選択必修科目 (38単位)

[基礎科目] (10単位)

第1年次以降

環境学概論(2) マクロ経済学(2) ミクロ経済学(2)
産業心理学(2) 政治学概論(2) 経営学(2)
行政学(2) 国際関係論(2) 社会学概論(2)
会計学(2) 環境生物学(2) 民法(2)
憲法(2) 簿記原理(2) 行政法(2)

第2年次

政策演習(2)

第2年次以降

統計学(2) O R 概論(2) 財政学(2)

統計解析履修のためには、統計学を履修することが必要である。

[方法論科目] (4単位)

第2年次

統計解析(2)

ただし、統計解析を履修するためには統計学を履修していなければならない。

第3年次

総合政策数量的アプローチ(2)

ただし、総合政策数量的アプローチを履修するためには統計学を履修していなければならない。

総合政策外国文献講読Ⅰ(2)

ただし、英語以外のセクションを履修するためには次の要件を満たす必要がある。

中国語のセクションを履修するためには、中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修しているか、あるいは外国語Ⅰ・Ⅱで中国語のセクションを履修していなければならない。

フランス語のセクションを履修するためには、フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していなければならない。

スペイン語のセクションを履修するためには、スペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修してなければならない。

ドイツ語のセクションを履修するためには、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修してなければならない。

韓国朝鮮語のセクションを履修するためには、韓国朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修しているか、あるいは外国語Ⅰ・Ⅱで韓国朝鮮語のセクションを履修してなければならない。

第3年次以降

空間情報分析法(2) 総合政策外国文献講読Ⅱ(2)

ただし、総合政策外国文献講読Ⅱ履修登録のためには、総合政策外国文献講読Ⅰを履修することが必要である。

[文明論科目] (12単位)

第1年次以降

近現代史(2)	地域文明論A(2) (アジア)	地域文明論B(2) (アジア)
地域文明論C(2) (ヨーロッパ)	地域文明論D(2) (ヨーロッパ)	地域文明論E(2) (アメリカ)
地域文明論F(2) (アメリカ)	地域文明論G(2) (アフリカ)	地域文明論H(2) (アジア)
地域文明論I(2) (ヨーロッパ)	地域文明論J(2) (アメリカ)	地域文明論K(2) (中東)
環境と文明(2)	宗教と文明(2)	ジェンダーと文明(2)
産業文明論(2)	比較社会論(2)	エコシステム論(2)
国家と宗教(2)	政策倫理(2)	中世ヨーロッパにおける社会と法律(2)

[総合政策科目] (12単位)

総合政策論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲから計12単位を修得すること。

第1年次以降

総合政策論Ⅰ(2) (現代文明論)	総合政策論Ⅰ(2) (現代国家論)	総合政策論Ⅰ(2) (グローバルガバナンス)
----------------------	----------------------	---------------------------

第2年次以降

総合政策論Ⅰ(2) (現代企業論)	総合政策論Ⅰ(2) (公共政策論)	総合政策論Ⅱ(2) (環境政策論)
総合政策論Ⅱ(2) (国際相互依存論)	総合政策論Ⅱ(2) (人的資源論)	総合政策論Ⅱ(2) (組織行動論)
総合政策論Ⅱ(2) (公衆衛生論)	総合政策論Ⅲ(2) (環境行政論)	総合政策論Ⅲ(2) (総合政策原論)

総合政策学部 総合政策学科

第3年次以降

総合政策論Ⅲ(2) (先進国政治の課題)	総合政策論Ⅲ(2) (国際環境と日本)	総合政策論Ⅲ(2) (労働問題と政策)
総合政策論Ⅲ(2) (政治構造と社会変動)	総合政策論Ⅲ(2) (政治変動論)	

(3) 選択科目 (30単位)

第1年次以降

総合政策学外体験プログラムA(国内)	(2)
総合政策学外体験プログラムB(海外)	(2)
総合政策連続講義A(2)	総合政策連続講義B(2)

第2年次以降

国際社会と法A(2)	国際社会と法B(2)	日本政治論(2)
人権政策論(2)	環境保全論(2)	経済政策論(2)
現代家族と法(2)	アメリカの外交(2)	アメリカの経済(2)
アジア政治論(2)	政治過程論(2)	国際開発論(2)
官僚機構論(2)	労働経済論(2)	政治行動論(2)
公会計論(2)	地球政治論(2)	地方財政政策論(2)
地方財政分析論(2)	環境社会学(2)	現代社会における共生と言語(2)

第3年次

環境調査法(2)

第3年次以降

国際政治行政論(2)	国際貿易論(2)	国際金融論(2)
地域経済論(2)	地域政治変動論(2)	都市環境論(2)
アジア国際関係論(2)	法政策比較論(2)	環境経済学(2)
地球環境論(2)	アジア移民論(2)	日本経営論(2)
中国政治論(2)	環境法制論(2)	経済政策のモデル解析(2)
国際組織論(2)	国際経営戦略論(2)	国際財務論(2)
立法過程論(2)	経営財務論(2)	非営利組織論(2)
地方自治論(2)	マーケティング論(2)	国際戦略論(2)
経済援助論(2)	監査論(2)	経営労務論(2)
開発政治論(2)	経営分析論(2)	環境会計論(2)
社会調査法(2)	環境衛生学(2)	

5. 卒業に必要な総単位数のうち、上記で定めた単位数に不足する単位は自由選択科目の中から履修するものとする。

- (1) 共通教育科目ならびに総合政策学科科目について、所定の単位数を超えて履修したものについては、自由選択科目に振り替える。
 - (2) 自由選択科目として、履修可能な他学部・他学科科目、(他学部・他学科履修不可の科目を除く)を履修することができる。ただし、他学部・他学科科目の履修に際しては、該当学部・学科の履修年次を遵守しなければならない。
 - (3) 本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの。
6. 総合政策学部総合政策学科学生が履修登録できる単位数は、卒業に必要な単位数として算入されるものについては、学期あたり24単位までとする。
 7. 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を越えた場合、当該授業科目の成績を原則として「欠席過多 (S)」による不合格とする。
 8. 総合政策学科学生が総合政策プロジェクト研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修するためには以下の条件を満たさなくてはならない。
 - (1) 総合政策プロジェクト研究Ⅰを履修するためには、原則として、卒業に必要な単位数を50単位以上修得していなければならない。
 - (2) 総合政策プロジェクト研究Ⅱは総合政策プロジェクト研究Ⅰの単位を修得した者のみが、総合政策プロジェクト研究Ⅲは総合政策プロジェクト研究Ⅱの単位を修得した者のみが、総合政策プロジェクト研究Ⅳは総合政策プロジェクト研究Ⅲの単位を修得した者のみが、総合政策プロジェクト研究Ⅰと同一担当者のセクションに限って履修することができる。
 9. 総合政策プロジェクト研究Ⅳの単位を修得するためには、卒業論文かあるいはそれにかわるリサーチペーパー、調査報告書、プロジェクト計画書を提出して合格しなければならない。詳細は別途定める。
 10. 総合政策学部総合政策学科学生は、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」を自由科目として履修することができる。ただし、自由科目は卒業に必要な単位には算入されない。

総合政策学部 総合政策学科

総合政策学部総合政策学科カリキュラム表

【総合政策学部 総合政策学科】

(日本語を履修しない学生)

区分		年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目			詳細は、「共通教育科目履修要項」及び次ページ「卒業に必要な単位数」を参照			
学 科 目	必修科目		文 明 論 概 論 (2) 総 合 政 策 入 門 (2)		総 合 政 策 プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 I ・ II (各 2)	総 合 政 策 プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 III ・ IV (各 2)
	選 択 必 修 科 目	基 礎 科 目	10単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
		方 法 論 科 目	4 単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
		文 明 論 科 目	12単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
		総 合 政 策 科 目	12単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
	選 択 科 目	30単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。				
自由選択科目			卒業に必要な総単位数のうち、上記で定めた単位数に不足する単位は自由選択科目の中から履修するものとする。 (1) 共通教育科目ならびに総合政策学科科目について、所定の単位数を超えて履修したものについては、自由選択科目に振り替える。 (2) 自由選択科目として、履修可能な他学部・他学科科目（他学部・他学科履修不可の科目を除く）を履修することができる。ただし、他学部・他学科科目の履修に際しては、該当学部・学科の履修年次を遵守しなければならない。 (3) 本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの。			
自由科目			「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」（卒業に必要な単位には算入されない。）			

卒業に必要な単位数〔日本語を履修しない学生〕

総合政策学部総合政策学科

総単位数 **130**

共通教育科目 **38以上**

必修科目 10

宗教科目

宗教論 2(1年次)

キリスト教概論 2(2年次)

体育科目

基礎体育A 1(1年次)

基礎体育B 1(1年次)

アカデミックリテラシー科目

基礎演習 2(1年次)

コンピュータ基礎演習Ⅰ 1(1年次)

コンピュータ基礎演習Ⅱ 1(1年次)

選択必修科目 4

「人間の尊厳」科目 各2(2~4年次)

選択必修科目 10

テーマ科目

異文化との出会い 各2(1~4年次)

生命と環境 各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会 各2(1~4年次)

モダンの系譜 各2(1~4年次)

選択科目

分野科目

哲学A、文学A、日本史A、美術A、音楽A、
法学A、政治学A、文化人類学A、社会学A、
経済学A、数学A、物理学A、生命自然史、
化学、心理学A、地球科学A、
スポーツ科学論、健康科学論
各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技 1,2(2~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修 2(3年次)

外国語科目 12または14

必修外国語科目 8

英語 8

英語I, IIオーラルコミュニケーションC 各2(1年次)

英語I, IIリーディング 各1(1年次)

英語I, IIライティング 各1(1年次)

選択必修外国語科目 4または6

1. 外国語I, IIの2科目6単位、または中国語I, II、フランス語I, II、スペイン語I, II、ドイツ語I, II、韓国朝鮮語I, IIから1科目4単位を修得すること。
2. 履修にあたっての前提要件については、150頁を参照のこと。

中国語I, II語法、中国語I, II会話・作文 各1(2年次)

フランス語I, II文法・講義、フランス語I, II会話・作文 各1(2年次)

スペイン語I, II文法・講義、スペイン語I, II会話・作文 各1(2年次)

ドイツ語I, II文法・講義、ドイツ語I, II会話・作文 各1(2年次)

韓国朝鮮語I, II文法・講義、韓国朝鮮語I, II会話・作文 各1(2年次)

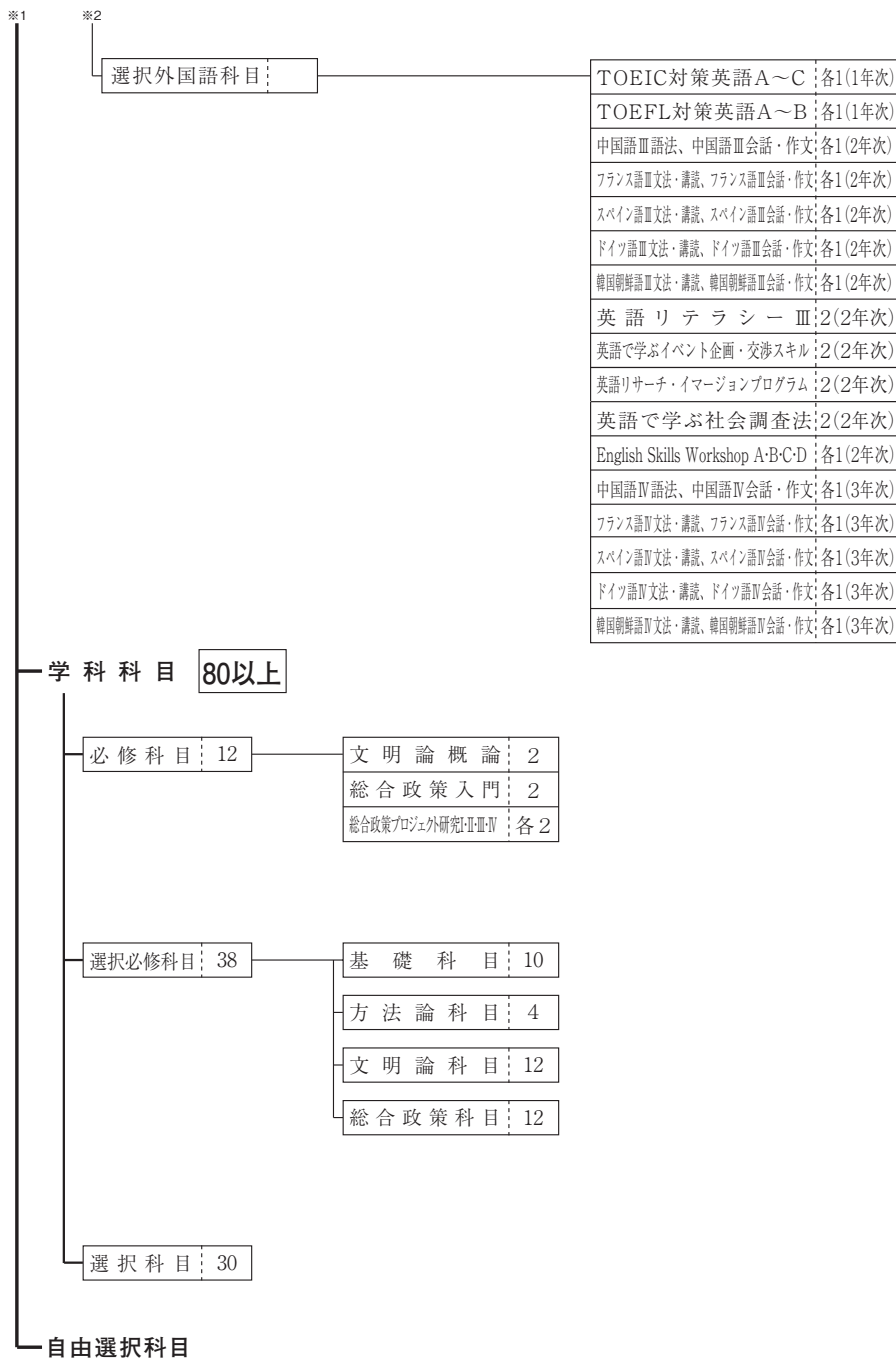
外国語I, II 1,5(2年次)

総合政策学部

※1

※2

総合政策学部 総合政策学科



総合政策学部総合政策学科履修要項

～外国語科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修する学生に適用～

1. 総合政策学部学生は、「共通教育科目」、「学科科目」、「自由選択科目」を履修して、卒業に必要な130単位を修得しなければならない。
この履修要項は外国語科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のうちの一部またはすべてを履修する学生に適用する。

2. 日本語を外国語として履修する学生については、学習歴と日本語能力等を勘案して、日本語未修者、日本語中級者、日本語上級者のうちのいずれかに分類する。
日本語未修者については、共通教育科目を54単位、学科科目を76単位修得するものとする。
日本語中級者については、共通教育科目を44単位、学科科目を80単位、自由選択科目を6単位修得するものとする。
日本語上級者については、共通教育科目を38単位、学科科目を80単位、自由選択科目を12単位修得するものとする。

3. 共通教育科目の履修方法は次のとおりとする。
 - (1) 必修科目（10単位）

宗 教 論（2） キリスト教概論（2） 基礎体育 A（1）
基礎体育 B（1） コンピュータ基礎演習Ⅰ（1） コンピュータ基礎演習Ⅱ（1）
基礎演習（2）
 - (2) 選択必修科目（日本語未修者の場合は12単位、日本語中級者・上級者の場合は14単位）

「異文化との出会い」、「生命と環境」、「知識・言語と情報社会」、「モダンの系譜」の4テーマについて、次のいずれかの方法に従って修得しなければならない。

 - ① 4テーマの中から1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位以上を修得する（ただし日本語未修者の場合は4科目8単位とする）
 - ② 4テーマの中から2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位以上、もう1テーマについて2科目4単位以上の計5科目10単位以上を修得する。（ただし、日本語未修者の場合は、上記の制限を設けず4科目8単位とする）

「人間の尊厳」科目から2科目4単位を修得すること。

総合政策学部 総合政策学科

(3) 外国語科目

日本語未修者の必修科目 (32単位)

日本語Ⅰ(文法) (8)	日本語Ⅰ(読解作文) (2)	日本語Ⅰ(運用) (2)
日本語Ⅱ(読解) (4)	日本語Ⅱ(表現技術A) (2)	日本語Ⅱ(表現技術B) (2)
日本語Ⅱ(総合) (2)	日本語Ⅲ(読解) (4)	日本語Ⅲ(表現技術A) (2)
日本語Ⅲ(表現技術B) (2)	日本語Ⅲ(総合) (2)	

日本語中級者の必修科目 (20単位)

日本語Ⅱ(読解) (4)	日本語Ⅱ(表現技術A) (2)	日本語Ⅱ(表現技術B) (2)
日本語Ⅱ(総合) (2)	日本語Ⅲ(読解) (4)	日本語Ⅲ(表現技術A) (2)
日本語Ⅲ(表現技術B) (2)	日本語Ⅲ(総合) (2)	

日本語上級者の必修科目 (10単位)

日本語Ⅲ(読解) (4)	日本語Ⅲ(表現技術A) (2)	日本語Ⅲ(表現技術B) (2)
日本語Ⅲ(総合) (2)		

日本語上級者の選択必修科目 (2単位)

英語Ⅰリーディング (1)	英語Ⅱリーディング (1)	英語リテラシーⅢ (2)
英語Ⅰオーラル・コミュニケーションC (2)	英語Ⅱオーラル・コミュニケーションC (2)	英語Ⅰライティング (1)
英語Ⅱライティング (1)	English Skills Workshop A (1)	English Skills Workshop B (1)
English Skills Workshop C (1)	English Skills Workshop D (1)	
英語で学ぶイベント企画・交渉スキル (2)		
英語リサーチ・イマージョンプログラム (2)		
英語で学ぶ社会調査法 (2)		

(4) 選択科目 (日本語中級者と日本語上級者の場合)

哲学 A (2)	文学 A (2)	日本史 A (2)
美術 A (2)	音楽 A (2)	法学 A (2)
政治学 A (2)	文化人類学 A (2)	社会学 A (2)
経済学 A (2)	数学 A (2)	物理学 A (2)
生命自然史 (2)	化学 (2)	心理学 A (2)
地球科学 A (2)	スポーツ科学論 (2)	健康科学論 (2)
スポーツ実技 (1) (健康スポーツ)	スポーツ実技 (1) (フィットネス)	スポーツ実技 (1) (生涯スポーツ)
スポーツ実技 (1) (集団スポーツ)	スポーツ実技 (1) (アウトドアスポーツ)	スポーツ実技 (1) (個人スポーツ)
インターンシップ研修 (2)		

なお、必要な単位を超えて修得した単位は共通教育科目または自由選択科目として卒業に必要な単位数に算入することができる。

4. 総合政策学部学生は、総合政策学科学科科目を履修するものとする。

(1) 必修科目 (12単位)

文明論概論 (2) 総合政策入門 (2)

総合政策プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (各2)

(2) 選択必修科目

[基礎科目] (12または14単位)

日本語未修者は12単位を修得すること。日本語中級者・上級者は14単位を修得すること。

総合政策外国文献講読Ⅰ (2) 総合政策外国文献講読Ⅱ (2) 統計解析 (2)

総合政策数量的アプローチ (2)

ただし、統計解析あるいは総合政策数量的アプローチを履修するためには、統計学を履修することが必要である。また総合政策外国文献講読Ⅱを履修するためには、総合政策外国文献講読Ⅰを履修することが必要である。

統計学 (2) 環境学概論 (2) マクロ経済学 (2)

ミクロ経済学 (2) 産業心理学 (2) 政治学概論 (2)

経営学 (2) 行政学 (2) 国際関係論 (2)

社会学概論 (2) 会計学 (2) 環境生物学 (2)

民法 (2) 憲法 (2) 簿記原理 (2)

行政法 (2) 政策演習 (2) O R 概論 (2)

財政学 (2) 空間情報分析法 (2)

[文明論科目] (12単位)

近現代史 (2) 地域文明論 A (2) 地域文明論 B (2)
(アジア) (アジア)

地域文明論 C (2) 地域文明論 D (2) 地域文明論 E (2)
(ヨーロッパ) (ヨーロッパ) (アメリカ)

地域文明論 F (2) 地域文明論 G (2) 地域文明論 H (2)
(アメリカ) (アフリカ) (アジア)

地域文明論 I (2) 地域文明論 J (2) 地域文明論 K (2)
(ヨーロッパ) (アメリカ) (中東)

環境と文明 (2) 宗教と文明 (2) ジェンダーと文明 (2)

産業文明論 (2) 比較社会論 (2) エコシステム論 (2)

国家と宗教 (2) 政策倫理 (2) 中世ヨーロッパの社会と法律 (2)

総合政策学部 総合政策学科

[総合政策科目] (12単位)

総合政策論Ⅰ (2) (現代文明論)	総合政策論Ⅰ (2) (現代国家論)	総合政策論Ⅰ (2) (グローバルガバナンス)
総合政策論Ⅰ (2) (現代企業論)	総合政策論Ⅰ (2) (公共政策論)	総合政策論Ⅱ (2) (環境政策論)
総合政策論Ⅱ (2) (国際相互依存論)	総合政策論Ⅱ (2) (人的資源論)	総合政策論Ⅱ (2) (組織行動論)
総合政策論Ⅱ (2) (公衆衛生論)	総合政策論Ⅲ (2) (環境行政論)	総合政策論Ⅲ (2) (総合政策原論)
総合政策論Ⅲ (2) (先進国政治の課題)	総合政策論Ⅲ (2) (国際環境と日本)	総合政策論Ⅲ (2) (労働問題と政策)
総合政策論Ⅲ (2) (政治構造と社会変動)	総合政策論Ⅲ (2) (政治変動論)	

(3) 選択科目 (28または30単位)

日本語未修者は28単位。それ以外は30単位。

総合政策学外体験プログラムA (国内)	(2)	
総合政策学外体験プログラムB (海外)	(2)	
総合政策連続講義A (2)	総合政策連続講義B (2)	国際社会と法A (2)
国際社会と法B (2)	日本政治論 (2)	人権政策論 (2)
環境保全論 (2)	経済政策論 (2)	現代家族と法 (2)
アメリカの外交 (2)	アメリカの経済 (2)	アジア政治論 (2)
政治過程論 (2)	国際開発論 (2)	官僚機構論 (2)
労働経済論 (2)	政治行動論 (2)	公会計論 (2)
地球政治論 (2)	地方財政政策論 (2)	地方財政分析論 (2)
環境社会学 (2)	現代社会における共生と言語 (2)	環境調査法 (2)
国際政治行政論 (2)	国際貿易論 (2)	国際金融論 (2)
地域経済論 (2)	地域政治変動論 (2)	都市環境論 (2)
アジア国際関係論 (2)	法政策比較論 (2)	環境経済学 (2)
地球環境論 (2)	アジア移民論 (2)	日本経営論 (2)
中国政治論 (2)	環境法制論 (2)	経済政策のモデル解析 (2)
国際組織論 (2)	国際経営戦略論 (2)	国際財務論 (2)
立法過程論 (2)	経営財務論 (2)	非営利組織論 (2)
地方自治論 (2)	マーケティング論 (2)	国際戦略論 (2)
経済援助論 (2)	監査論 (2)	経営労務論 (2)

開 発 政 治 論 (2) 経 営 分 析 論 (2) 環 境 会 計 論 (2)
社 会 調 査 法 (2) 環 境 衛 生 学 (2)

5. 卒業に必要な総単位数のうち、上記で定めた単位数に不足する単位は自由選択科目の中から履修するものとする。
 - (1) 共通教育科目ならびに総合政策学科科目について、所定の単位数を超えて履修したものについては、自由選択科目に振り替える。
 - (2) 自由選択科目として、履修可能な他学部・他学科科目、(他学部・他学科履修不可の科目を除く)を履修することができる。ただし、他学部・他学科科目の履修に際しては、該当学部・学科の履修年次を遵守しなければならない。
 - (3) 本学の単位認定制度により自由選択科目として認められたもの。
6. 総合政策学部総合政策学科学生が履修登録できる総単位数は、卒業に必要な単位数として算入できるものについては、学期あたり24単位までとする。
7. 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を原則として「欠席過多 (S)」による不合格とする。
8. 総合政策学科学生が総合政策プロジェクト研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修するためには以下の条件を満たさなくてはならない。
 - (1) 総合政策プロジェクト研究Ⅰを履修するためには、次の条件を満たさなくてはならない。
 - ① 原則として、卒業に必要な単位数を50単位以上修得していなければならない。
 - ② 外国語科目日本語Ⅲを8単位以上(日本語Ⅲ(読解)を含む)修得していなければならない。
 - (2) 総合政策プロジェクト研究Ⅱは総合政策プロジェクト研究Ⅰの単位を修得した者のみが、総合政策プロジェクト研究Ⅲは総合政策プロジェクト研究Ⅱの単位を修得した者のみが、総合政策プロジェクト研究Ⅳは総合政策プロジェクト研究Ⅲの単位を修得した者のみが、総合政策プロジェクト研究Ⅰと同一担当者のセクションに限って履修することができる。
9. 総合政策プロジェクト研究Ⅳの単位を修得するためには、卒業論文かあるいはそれにかわるリサーチペーパー、調査報告書、プロジェクト計画書を提出して合格しなければならない。詳細は別途定める。

総合政策学部 総合政策学科

10. 総合政策学部総合政策学科学生は、「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」を自由科目として履修することができる。ただし、自由科目は卒業に必要な単位数には算入されない。

付表：総合政策学部外国人留学生の卒業要件

		卒業必要単位			
		日本語未修者	日本語中級者	日本語上級者	
共通教育科目	宗教科目	4	4	4	
	「人間の尊厳」科目	4	4	4	
	外国語科目	日本語 32	日本語 20	日本語10 英語2	
	体育科目	2	2	2	
	テーマ科目	8	10	10	
	アカデミックリテラシー科目	4	4	4	
	科目区分を定めない	0	0	2	
学科科目	必修科目	文明論概論	2	2	2
		総合政策入門	2	2	2
		総合政策プロジェクト研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	8	8	8
	選択必修科目	基礎科目	12	14	14
		文明論科目	12	12	12
		総合政策科目	12	12	12
	選択科目		28	30	30
自由選択科目		0	6	12	
合 計		130	130	130	

総合政策学部 総合政策学科カリキュラム表

【総合政策学部 総合政策学科】

(日本語未修者)

区分		年次別				
		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	
共通教育科目		詳細は、「共通教育科目履修要項」及び後掲「卒業に必要な単位数」を参照。				
学 科 科 目	必修科目	文明論概論 (2) 総合政策入門 (2)		総合政策プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ (各2) 総合政策プロジェクト研究Ⅲ・Ⅳ (各2)		
	選 択 必 修 科 目	基 礎 科 目	12単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
		文明論 科 目	12単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
		総合政 策 科 目	12単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
	選 択 科 目	28単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。				
自由選択科目		卒業に必要な総単位数のうち、上記で定めた単位数に不足する単位は自由選択科目の中から履修するものとする。 (1) 共通教育科目ならびに総合政策学科科目について、所定の単位数を超えて履修したもののについては、自由選択科目に振り替える。 (2) 自由選択科目として、履修可能な他学部・他学科科目（他学部・他学科履修不可の科目を除く）を履修することができる。ただし、他学部・他学科科目の履修に際しては、該当学部・学科の履修年次を遵守しなければならない。 (3) 本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの。				
自由科目		「教職に関する科目」「博物館に関する科目」「司書・司書教諭に関する科目」 (卒業に必要な単位には算入されない。)				

総合政策学部 総合政策学科

【総合政策学部 総合政策学科】

(日本語中級者・上級者)

区分		年次別				
		第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	
共通教育科目		詳細は、「共通教育科目履修要項」及び後掲「卒業に必要な単位数」を参照。				
学 科 科 目	必修科目	文明論概論（２） 総合政策入門（２）		総合政策プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ（各２） 総合政策プロジェクト研究Ⅲ・Ⅳ（各２）		
	選 択 必 修 科 目	基 礎 科 目	14単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
		文明論 科 目	12単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
		総合政 策科目	12単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。			
	選 択 科 目	30単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。				
自由選択科目		卒業に必要な総単位数のうち、上記で定めた単位数に不足する単位は自由選択科目の中から履修するものとする。 (1) 共通教育科目ならびに総合政策学科科目について、所定の単位数を超えて履修したもののについては、自由選択科目に振り替える。 (2) 自由選択科目として、履修可能な他学部・他学科科目（他学部・他学科履修不可の科目を除く）を履修することができる。ただし、他学部・他学科科目の履修に際しては、該当学部・学科の履修年次を遵守しなければならない。 (3) 本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの。				
自 由 科 目		「教職に関する科目」「博物館に関する科目」「司書・司書教諭に関する科目」 (卒業に必要な単位には算入されない。)				

卒業に必要な単位数〔日本語未修者〕

総合政策学部総合政策学科

総単位数 **130**

共通教育科目 **54以上**

必修科目 10

宗教科目

宗教論 2

キリスト教概論 2

体育科目

基礎体育 A 1

基礎体育 B 1

アカデミックリテラシー科目

基礎演習 2

コンピュータ基礎演習I 1

コンピュータ基礎演習II 1

選択必修科目 4

「人間の尊厳」科目 各2

選択必修科目 8

テーマ科目

異文化との出会い 各2

生命と環境 各2

知識・言語と情報社会 各2

モダンの系譜 各2

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて4科目8単位を修得する
または
2. 2テーマを選択し、4科目8単位を修得する

外国語科目 32

必修外国語科目 32

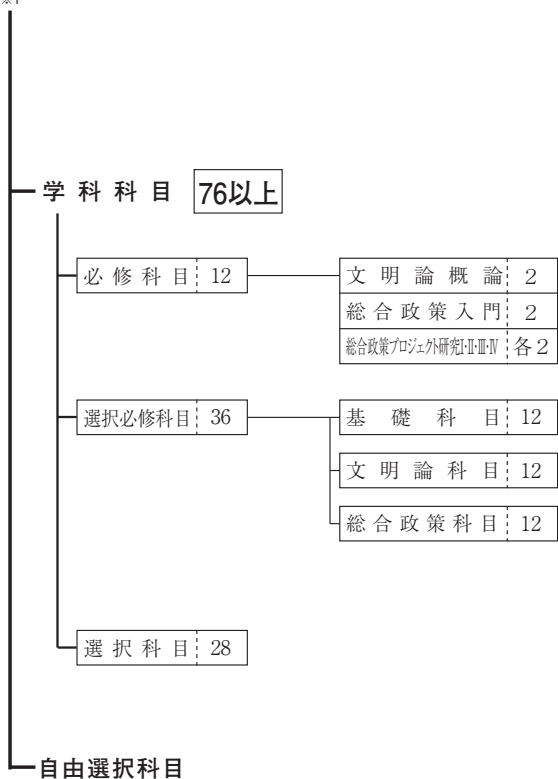
日本語 32

日本語Ⅰ（文法）	8
日本語Ⅰ（読解作文）	2
日本語Ⅰ（運用）	2
日本語Ⅱ（読解）	4
日本語Ⅱ（表現技術A）	2
日本語Ⅱ（表現技術B）	2
日本語Ⅱ（総合）	2
日本語Ⅲ（読解）	4
日本語Ⅲ（表現技術A）	2
日本語Ⅲ（表現技術B）	2
日本語Ⅲ（総合）	2

※1

総合政策学部 総合政策学科

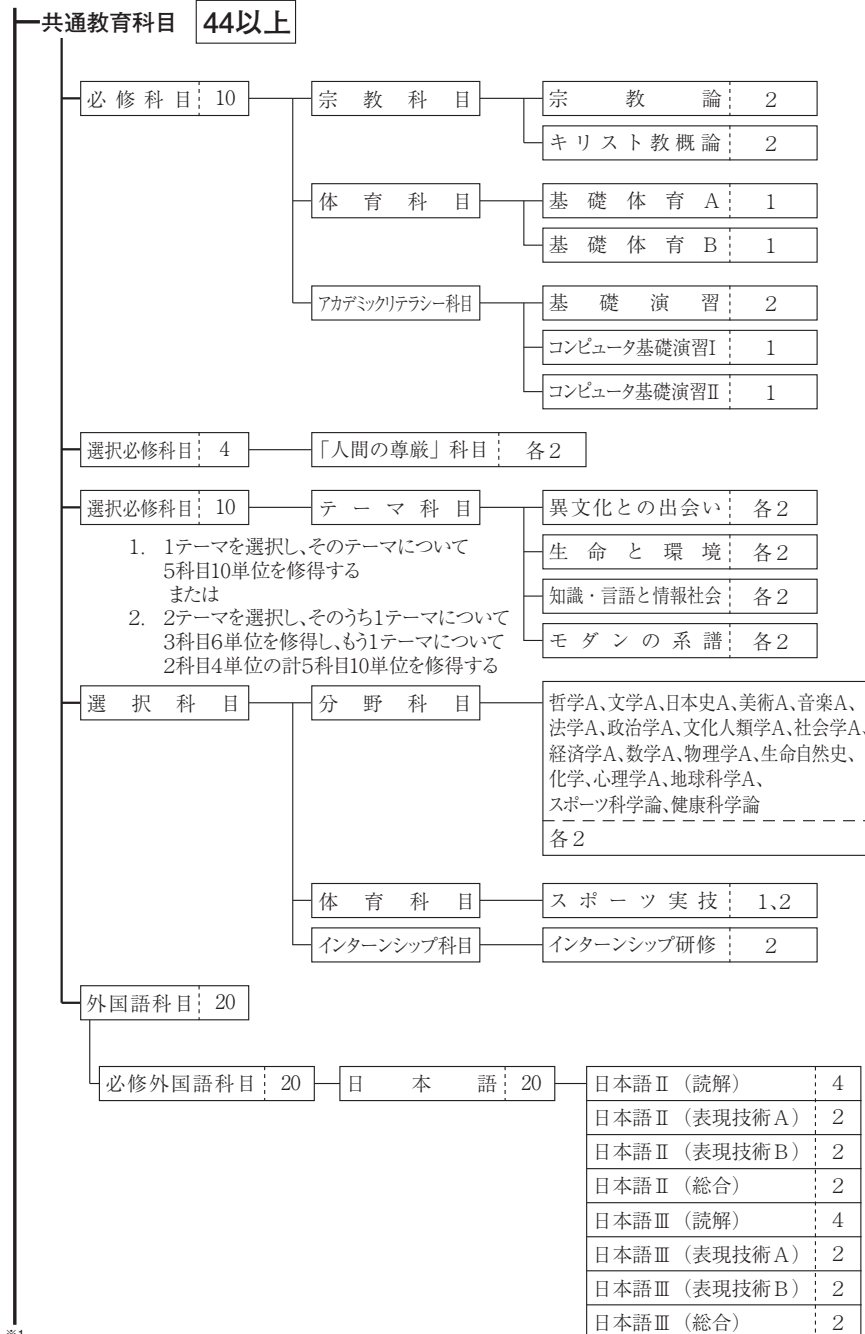
※1



卒業に必要な単位数〔日本語中級者〕

総合政策学部総合政策学科

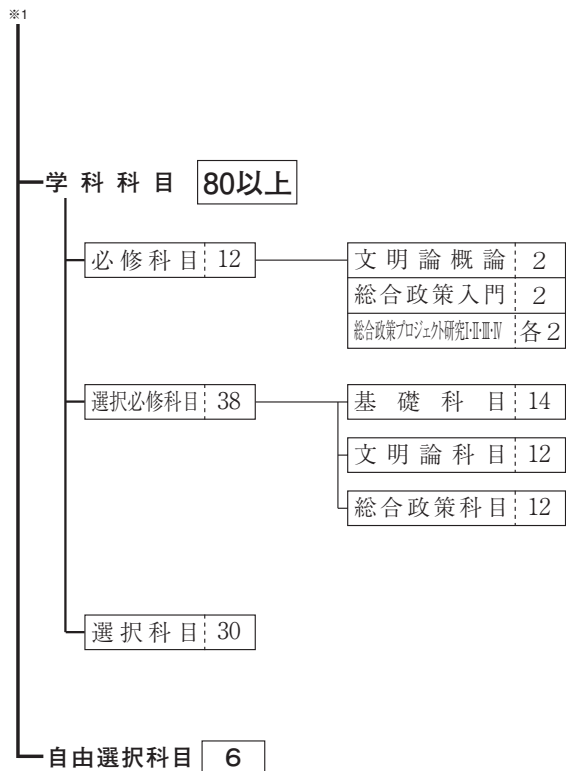
総単位数 **130**



総合政策学部

※1

総合政策学部 総合政策学科

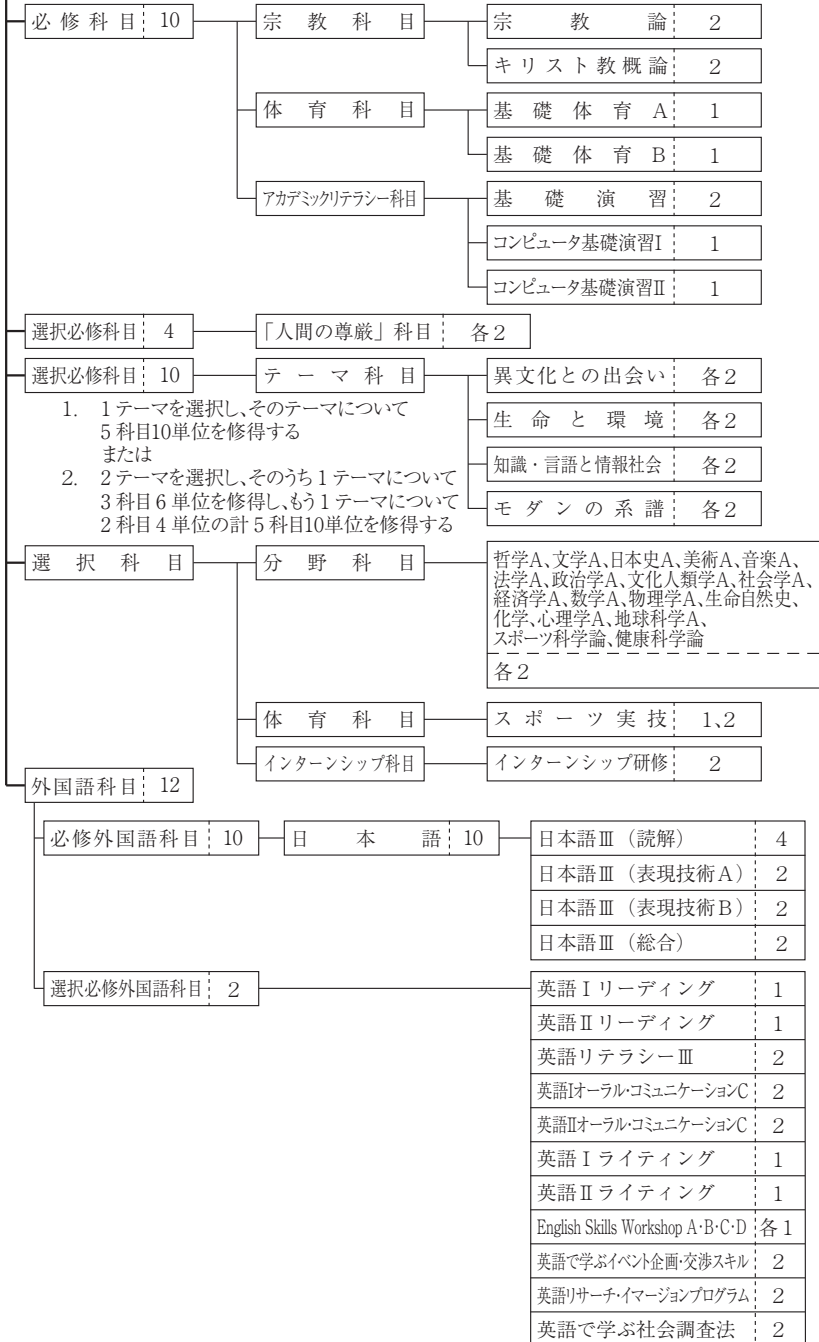


卒業に必要な単位数〔日本語上級者〕

総合政策学部総合政策学科

総単位数 **130**

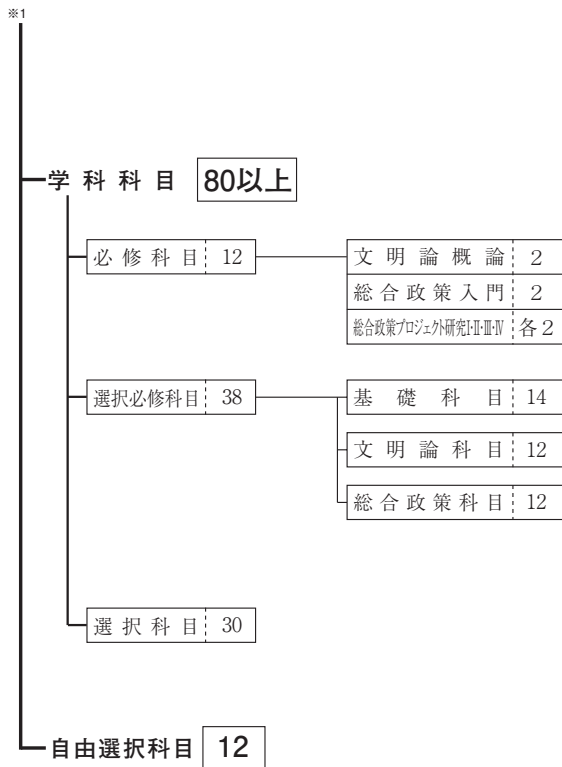
共通教育科目 **38以上**



総合政策学部

※1

総合政策学部 総合政策学科



理 工 学 部

理工学部履修要項

1. 理工学部学生は、卒業のためには130単位以上を修得しなければならない。
2. 理工学部学生は、共通教育科目を32単位以上修得しなければならない。履修方法は別に定める（共通教育科目履修要項、各学科の履修要項参照）。
3. 理工学部学生は、学部共通必修科目32単位を修得しなければならない。履修方法は別に定める（各学科の履修要項参照）。
4. 理工学部学生は、専門科目を52単位以上修得しなければならない。履修方法は別に定める（各学科の履修要項参照）。
5. 卒業に必要な130単位のうち、上記2、3および4で定めた単位数で不足する単位は、各学科が定める自由選択科目の中から修得しなければならない（各学科の履修要項参照）。
6. 学部共通必修科目・専門科目の履修年次および理工学部学生が各学期に登録できる単位数は、各学科の履修要項に定める。
7. 理工学部のコースは次のとおりである。

学 科	コ ー ス	
システム数理学科	システム数理一般コース (システム数理学科)	情報技術専修コース (システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科)
ソフトウェア工学科	ソフトウェア工学一般コース (ソフトウェア工学科)	
機械電子制御工学科	機械電子制御工学一般コース (機械電子制御工学科)	

理工学部学生は、各学科の「演習Ⅰ」の履修登録と同時に、理工学部の定める規定により、上表のコース登録を行う。情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）に登録する学生には、この履修要項と別途定める『JABEE対応コース「情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）」履修要項』を適用する。

システム数理学科履修要項 ※()内は単位数

1. 理工学部システム数理学科学生は、共通教育科目を32単位以上、学部共通必修科目を32単位、専門科目を52単位以上、自由選択科目を14単位以上、合計130単位以上を卒業に必要な単位として修得しなければならない。
2. 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を原則として「欠席過多 (S)」による不合格とする。ただし、実習科目については、講義概要の当該授業科目評価欄に記載がある場合には、その内容に従うものとし、授業予定総時数の3分の1以下の欠席時数であっても「欠席過多 (S)」による不合格とする場合がある。
3. 共通教育科目 (32)
システム数理学科学生は共通教育科目として合計32単位以上を修得しなければならない。

必修科目 (8)

第1年次

宗 教 論 (2) 基礎体育 A (1) 基礎体育 B (1)
基礎演習 (2)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

「異文化との出会い」、「生命と環境」、「知識・言語と情報社会」、「モダンの系譜」の4テーマについて、次のいずれかの方法に従って修得しなければならない。

- ① 4テーマの中から1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位以上を修得する。
- ② 4テーマの中から2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位以上、もう1テーマについて2科目4単位以上の計5科目10単位以上を修得する。

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を修得する。

必修外国語科目 (10)

第1年次

英語Iオーラルコミュニケーション (2) 英語IIオーラルコミュニケーション (2) 英語Iリーディング (1)
英語IIリーディング (1)

第2年次

英語Iプレゼンテーション (1) 英語IIIリーディング (1) 英語IIプレゼンテーション (1)
英語IVリーディング (1)

選択科目

分野科目、必修科目でない体育科目、必修科目でない外国語科目、インターンシップ科目および海外研修科目などの履修可能な科目は、卒業に必要な単位としては自由選択科目となる。“6. 自由選択科目”の節を参照。

4. 学部共通必修科目 (32)

システム数理学科学生は、学部共通必修科目を32単位以上修得しなければならない。

第1年次

理工学概論 (2) 微積分学 I (2) 微積分学 II (2)
情報数学 (2) 線形代数学 I (2) 数学演習 A (2)
数学演習 B (2) 情報倫理 (2) プログラミング基礎 (2)
プログラミング基礎実習 (2)

第2年次

線形代数学 II (2) 確率・統計 (2) プログラミング応用 (2)
プログラミング応用実習 (2) 物理学基礎 (2) 通信ネットワーク基礎 (2)

5. 専門科目 (52)

専門科目は、システム数理学科、ソフトウェア工学科、機械電子制御工学科の学科科目で構成され、各学科の学科科目は、必修科目、卒業研究科目、選択科目で構成される。

システム数理学科必修科目 (14)

第2年次

O R 概論 (2) 統計的方法 (2) システム数理実習 (2)

第3年次

システム数理演習 I (2) システム数理演習 II (2)

第4年次

システム数理演習 III (2) システム数理演習 IV (2)

システム数理学科卒業研究科目 (8)

第4年次

卒業研究 I A (4) 卒業研究 II A (4) 卒業研究 I B (4)
卒業研究 II B (4) 卒業研究 I C (4) 卒業研究 II C (4)

システム数理学科選択科目 (卒業研究科目との関連づけを、科目名の右にA, B, Cを示すことで行う)

第2年次

情報技術倫理(2)	
幾何と離散構造A(2)	[A, C]
応用解析学(2)	[B, C]

第3年次以降

線形計画法(2)	[A, B, C]
非線形・整数計画法(2)	[A]
シミュレーション(2)	[A, B]
数理統計学(2)	[A, B, C]
多変量解析(2)	[B]
統計調査法(2)	[B]
代数系入門(2)	[C]
情報社会と倫理(2)	
システム数理特別講義(2)	[A]

システム数理学科学生は履修可能なソフトウェア工学科、機械電子制御工学科の学科必修科目と学科選択科目を専門科目として履修できる。ソフトウェア工学科、機械電子制御工学科の科目は別に示す(当該学科の履修要項参照)。

- (1) システム数理学科学生は、学科必修科目14単位を修得しなければならない。
- (2) システム数理学科学生は、次の3条件の少なくとも1つを満たすように専門科目16単位以上を修得しなければならない。
 - (ア) 「卒業研究ⅠA」と「卒業研究ⅡA」を修得し、かつ、この2科目に関連づけられた選択科目と以下1科目から8単位以上を修得している。

確率モデル(2)(機械電子制御工学科科目)
 - (イ) 「卒業研究ⅠB」と「卒業研究ⅡB」を修得し、かつ、この2科目に関連づけられた選択科目と以下1科目から8単位以上を修得している。

数値解析(2)(機械電子制御工学科科目)
 - (ウ) 「卒業研究ⅠC」と「卒業研究ⅡC」を修得し、かつ、この2科目に関連づけられた選択科目と以下2科目から8単位以上を修得している。

数理論理学(2)(ソフトウェア工学科科目)

数値解析(2)(機械電子制御工学科科目)
- (3) システム数理学科学生は、(1), (2)の単位(30以上)を含めて専門科目を52単位以上修得しなければならない。

6. 自由選択科目(14)

システム数理学科学生は、自由選択科目として、14単位以上を修得しなければならない。
「共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目」
「専門科目で所定の単位数を超過して修得した科目」

「履修可能な他学部・他学科科目」

「本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの」

他学部・他学科科目を履修する場合は、当該学部・学科が定める履修年次を遵守しなければならない（当該学部・学科の履修要項参照）。

7. 自由科目

自由科目は次の科目である（卒業に必要な単位に算入されない科目）。

「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」

8. 履修の条件

- (1) 第2年次の学部共通必修科目を履修するためには、前年度までに学部共通必修科目を10単位以上修得していなければならない。
- (2) 専門科目を履修するためには、前年度までに学部共通必修科目を10単位以上修得していなければならない。
- (3) 「システム数理演習Ⅰ」を履修するためには、前年度までに卒業に必要な単位を64単位以上修得し、前年度までに共通教育科目の「基礎演習」2単位と学部共通必修科目を20単位以上修得していなければならない。
- (4) 「システム数理演習Ⅱ」、「システム数理演習Ⅲ」、「システム数理演習Ⅳ」、卒業研究科目は、原則として同一担当者の科目を履修するものとする。
- (5) 「システム数理演習Ⅱ」を履修するためには、「システム数理演習Ⅰ」の単位を修得していなければならない。
- (6) 「システム数理演習Ⅲ」を履修するためには、卒業に必要な単位を84単位以上修得し、第1年次の学部共通必修科目の20単位を修得し、さらに、「線形代数学Ⅱ」、「確率・統計」、「システム数理実習」、「システム数理演習Ⅱ」の4科目8単位を修得していなければならない。
- (7) 「システム数理演習Ⅲ」または卒業研究Ⅰを履修するためには、この2科目を同学期に履修するか、片方を修得していなければならない。
- (8) 「システム数理演習Ⅳ」を履修するためには、「システム数理演習Ⅲ」と卒業研究Ⅰを修得していなければならない。
- (9) 「システム数理演習Ⅳ」または卒業研究Ⅱを履修するためには、この2科目を同学期に履修するか、片方を修得していなければならない。
- (10) 履修可能なソフトウェア工学科科目、機械電子制御工学科科目を履修するためには、各学科が定める履修年次および履修条件を満たしていなければならない。

9. その他

システム数理学科学生が登録を許される単位数は、自由科目を除いて、入学年度は春学期秋学期ともに24単位まで、卒業研究科目を履修する学期は各学期16単位まで、それ以外の学期は各学期28単位までとする。ただし、各年次において春学期秋学期の登録単位数の合計が48単位を超えてはならない。

理工学部システム数理学科カリキュラム表

【理工学部 システム数理学科】

区分	年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目 (32)		32単位以上修得しなければならない。 詳細は「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照			
学部共通必修科目 (32)	基礎科目	理工学概論 (2) 微積分学Ⅰ (2) 微積分学Ⅱ (2) 情報数学 (2) 線形代数学Ⅰ (2) プログラミング基礎 (2)	線形代数学Ⅱ (2) 確率・統計 (2) プログラミング応用 (2) 物理学基礎 (2) 通信ネットワーク基礎 (2)		
	情報倫理教育科目	情報倫理 (2)			
	演習・実習	数学演習A (2) 数学演習B (2) プログラミング基礎実習 (2)	プログラミング応用実習 (2)		
専門科目 (52)	学科必修科目		OR概論 (2) 統計的方法 (2) システム数理実習 (2)	システム数理演習Ⅰ (2) システム数理演習Ⅱ (2)	システム数理演習Ⅲ (2) システム数理演習Ⅳ (2)
	卒業研究科目				8単位を修得しなければならない。 卒業研究ⅠA (4) 卒業研究ⅠB (4) 卒業研究ⅠC (4) 卒業研究ⅡA (4) 卒業研究ⅡB (4) 卒業研究ⅡC (4) 詳細は「履修要項」を参照。
	その他の専門科目		30単位以上修得しなければならない。 各自が履修する卒業研究科目に応じて指定された科目を8単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 「システム数理学科選択科目」、「履修可能なソフトウェア工学科、機械電子制御工学科の学科必修科目と学科選択科目」		
自由選択科目 (14)		14単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 「共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目」 「専門科目で所定の単位数を超過して修得した科目」 「履修可能な他学部・他学科科目」 「本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの」			
自由科目		「教職に関する科目」「博物館に関する科目」「司書・司書教諭に関する科目」 (卒業に必要な単位数に算入されない)			

卒業に必要な単位数

理工学部システム数理学科

総単位数 **130**

共通教育科目 **32以上**

必修科目: 8

宗教科目

基礎演習: 2(1年次)

宗教論: 2(1年次)

キリスト教概論: 2(2年次)

体育科目

基礎体育A: 1(1年次)

基礎体育B: 1(1年次)

選択必修科目: 4

「人間の尊厳」科目: 各2(2~4年次)

選択必修科目: 10

テーマ科目

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位を修得する
または
2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位を修得し、もう1テーマについて2科目4単位の計5科目10単位を修得する

異文化との出会い: 各2(1~4年次)

生命と環境: 各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会: 各2(1~4年次)

モダンの系譜: 各2(1~4年次)

選択科目:

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、美術A、美術B、音楽A、音楽B、世界史、自然地理学、人文地理学、地誌概論、倫理学、法学A、法学B、日本国憲法、政治学A、政治学B、文化人類学A、文化人類学B、社会学A、社会学B、経済学A、経済学B、数学A、数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、生命科学、化学、心理学A、心理学B、科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B
各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技: 1,2(2~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修: 2(3年次)

必修科目でない外国語科目

海外研修科目

短期留学プログラムA、短期留学プログラムB
各2(1~3年次)

必修外国語科目: 10

英語: 10

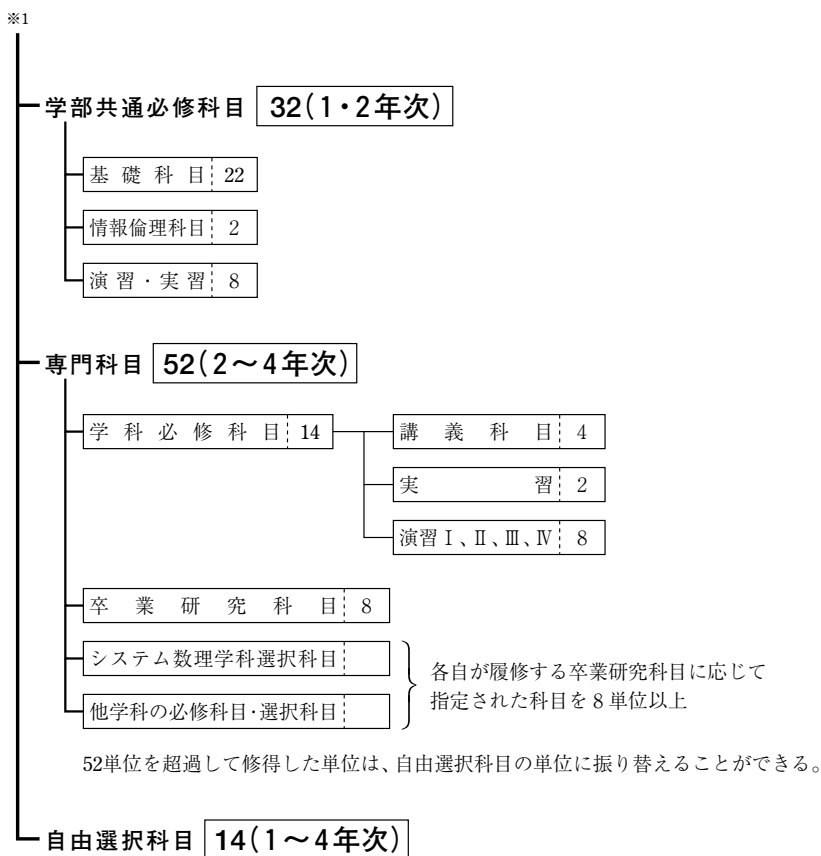
英語I、IIオーラル・コミュニケーション: 各2(1年次)

英語I、IIリーディング: 各1(1年次)

英語I、IIプレゼンテーション、英語III、IVリーディング: 各1(2年次)

共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した単位は、自由選択科目の単位に振り替えることができる。

※1



- 「共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目」
- 「専門科目で所定の単位数を超過して修得した科目」
- 「履修可能な他学部・他学科科目」
- 「本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの」

ソフトウェア工学科履修要項 ※()内は単位数

1. 理工学部ソフトウェア工学科学生は、共通教育科目を32単位以上、学部共通必修科目を32単位、専門科目を52単位以上、自由選択科目を14単位以上、合計130単位以上を卒業に必要な単位として修得しなければならない。
2. 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を原則として「欠席過多 (S)」による不合格とする。ただし、実習科目については、講義概要の当該授業科目評価欄に記載がある場合には、その内容に従うものとし、授業予定総時数の3分の1以下の欠席時数であっても「欠席過多 (S)」による不合格とする場合がある。
3. 共通教育科目 (32)
ソフトウェア工学科学生は共通教育科目として合計32単位以上を修得しなければならない。

必修科目 (8)

第1年次

宗 教 論 (2) 基 礎 体 育 A (1) 基 礎 体 育 B (1)
基 礎 演 習 (2)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

「異文化との出会い」、「生命と環境」、「知識・言語と情報社会」、「モダンの系譜」の4テーマについて、次のいずれかの方法に従って修得しなければならない。

- ① 4テーマの中から1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位以上を修得する。
- ② 4テーマの中から2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位以上、もう1テーマについて2科目4単位以上の計5科目10単位以上を修得する。

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を修得する。

必修外国語科目 (10)

第1年次

英語IオーラルコミュニケーションC (2) 英語IIオーラルコミュニケーションC (2) 英語Iリーディング (1)
英語IIリーディング (1)

理工学部 ソフトウェア工学科

第2年次

英語Iプレゼンテーション (1) 英語IIIリーディング (1) 英語IIプレゼンテーション (1)
英語IVリーディング (1)

選択科目

分野科目、必修科目でない体育科目、必修科目でない外国語科目、インターンシップ科目および海外研修科目などの履修可能な科目は、卒業に必要な単位としては自由選択科目となる。“6. 自由選択科目”の節を参照。

4. 学部共通必修科目 (32)

ソフトウェア工学科学生は、学部共通必修科目を32単位以上修得しなければならない。

第1年次

理工学概論 (2) 微積分学 I (2) 微積分学 II (2)
情報数学 (2) 線形代数学 I (2) 数学演習 A (2)
数学演習 B (2) 情報倫理 (2) プログラミング基礎 (2)
プログラミング基礎実習 (2)

第2年次

線形代数学 II (2) 確率・統計 (2) プログラミング応用 (2)
プログラミング応用実習 (2) 物理学基礎 (2) 通信ネットワーク基礎 (2)

5. 専門科目 (52)

専門科目は、システム数理学科、ソフトウェア工学科、機械電子制御工学科の学科科目で構成され、各学科の学科科目は、必修科目、卒業研究科目、選択科目で構成される。

ソフトウェア工学科必修科目 (14)

第2年次

アルゴリズム論 (2) 計算機アーキテクチャとOS (2) ソフトウェア工学実習 (1)
情報システム実習 (1)

第3年次

ソフトウェア工学演習 I (2) ソフトウェア工学演習 II (2)

第4年次

ソフトウェア工学演習 III (2) ソフトウェア工学演習 IV (2)

ソフトウェア工学科卒業研究科目 (8)

第4年次

卒業研究 I D (4) 卒業研究 II D (4) 卒業研究 I E (4)
卒業研究 II E (4)

ソフトウェア工学科選択科目 (12)

第2年次

幾何と離散構造B (2)

第3年次以降

ソフトウェア工学基礎 (2) ソフトウェア工学応用 (2) プログラミング言語 (2)

オブジェクト指向プログラミング (2) ソフトウェア開発技術Ⅰ (2) ソフトウェア開発技術Ⅱ (2)

データベース (2) 数理論理学 (2) マルチメディア情報通信 (2)

ソフトウェア工学特別講義 (2)

ソフトウェア工学科学学生は履修可能なシステム数理学科、機械電子制御工学科の学科必修科目と学科選択科目を専門科目として履修できる。システム数理学科、機械電子制御工学科の科目は別に示す（当該学科の履修要項参照）。

- (1) ソフトウェア工学科学学生は、学科必修科目14単位を修得しなければならない。
- (2) ソフトウェア工学科学学生は、「卒業研究ⅠD」と「卒業研究ⅡD」を修得するか、「卒業研究ⅠE」と「卒業研究ⅡE」を修得しなければならない。
- (3) ソフトウェア工学科学学生は、学科選択科目から12単位以上を修得しなければならない。
- (4) ソフトウェア工学科学学生は、(1), (2), (3)の単位(34以上)を含めて専門科目を52単位以上修得しなければならない。

6. 自由選択科目 (14)

ソフトウェア工学科学学生は、自由選択科目として、14単位以上を修得しなければならない。

「共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目」

「専門科目で所定の単位数を超過して修得した科目」

「履修可能な他学部・他学科科目」

「本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの」

他学部・他学科科目を履修する場合は、当該学部・学科が定める履修年次を遵守しなければならない（当該学部・学科の履修要項参照）。

7. 自由科目

自由科目は次の科目である（卒業に必要な単位に算入されない科目）。

「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」

8. 履修の条件

- (1) 第2年次の学部共通必修科目を履修するためには、前年度までに学部共通必修科目を10単位以上修得していなければならない。
- (2) 専門科目を履修するためには、前年度までに学部共通必修科目を10単位以上修得し

ていなければならない。

- (3) 「ソフトウェア工学演習Ⅰ」を履修するためには、前年度までに卒業に必要な単位を64単位以上修得し、前年度までに共通教育科目の「基礎演習」2単位と学部共通必修科目を20単位以上修得していなければならない。
- (4) 「ソフトウェア工学演習Ⅱ」、「ソフトウェア工学演習Ⅲ」、「ソフトウェア工学演習Ⅳ」、卒業研究科目は、原則として同一担当者の科目を履修するものとする。
- (5) 「ソフトウェア工学演習Ⅱ」を履修するためには、「ソフトウェア工学演習Ⅰ」の単位を修得していなければならない。
- (6) 「ソフトウェア工学演習Ⅲ」を履修するためには、卒業に必要な単位を84単位以上修得し、第1年次の学部共通必修科目の20単位を修得し、さらに、「プログラミング応用」、「プログラミング応用実習」、「ソフトウェア工学実習」、「情報システム実習」、「ソフトウェア工学演習Ⅱ」の5科目8単位を修得していなければならない。
- (7) 「ソフトウェア工学演習Ⅲ」または卒業研究Ⅰを履修するためには、この2科目を同学期に履修するか、片方を修得していなければならない。
- (8) 「ソフトウェア工学演習Ⅳ」を履修するためには、「ソフトウェア工学演習Ⅲ」と卒業研究Ⅰを修得していなければならない。
- (9) 「ソフトウェア工学演習Ⅳ」または卒業研究Ⅱを履修するためには、この2科目を同学期に履修するか、片方を修得していなければならない。
- (10) 「ソフトウェア工学特別講義」を履修するためには、2年次のソフトウェア工学科必修科目から4単位を修得していなければならない。
- (11) 履修可能なシステム数理学科科目、機械電子制御工学科科目を履修するためには、各学科が定める履修年次および履修条件を満たしていなければならない。

9. その他

ソフトウェア工学科学生が登録を許される単位数は、自由科目を除いて、入学年度は春学期秋学期ともに24単位まで、卒業研究科目を履修する学期は各学期16単位まで、それ以外の学期は各学期28単位までとする。ただし、各年次において春学期秋学期の登録単位数の合計が48単位を超えてはならない。

理工学部ソフトウェア工学科カリキュラム表

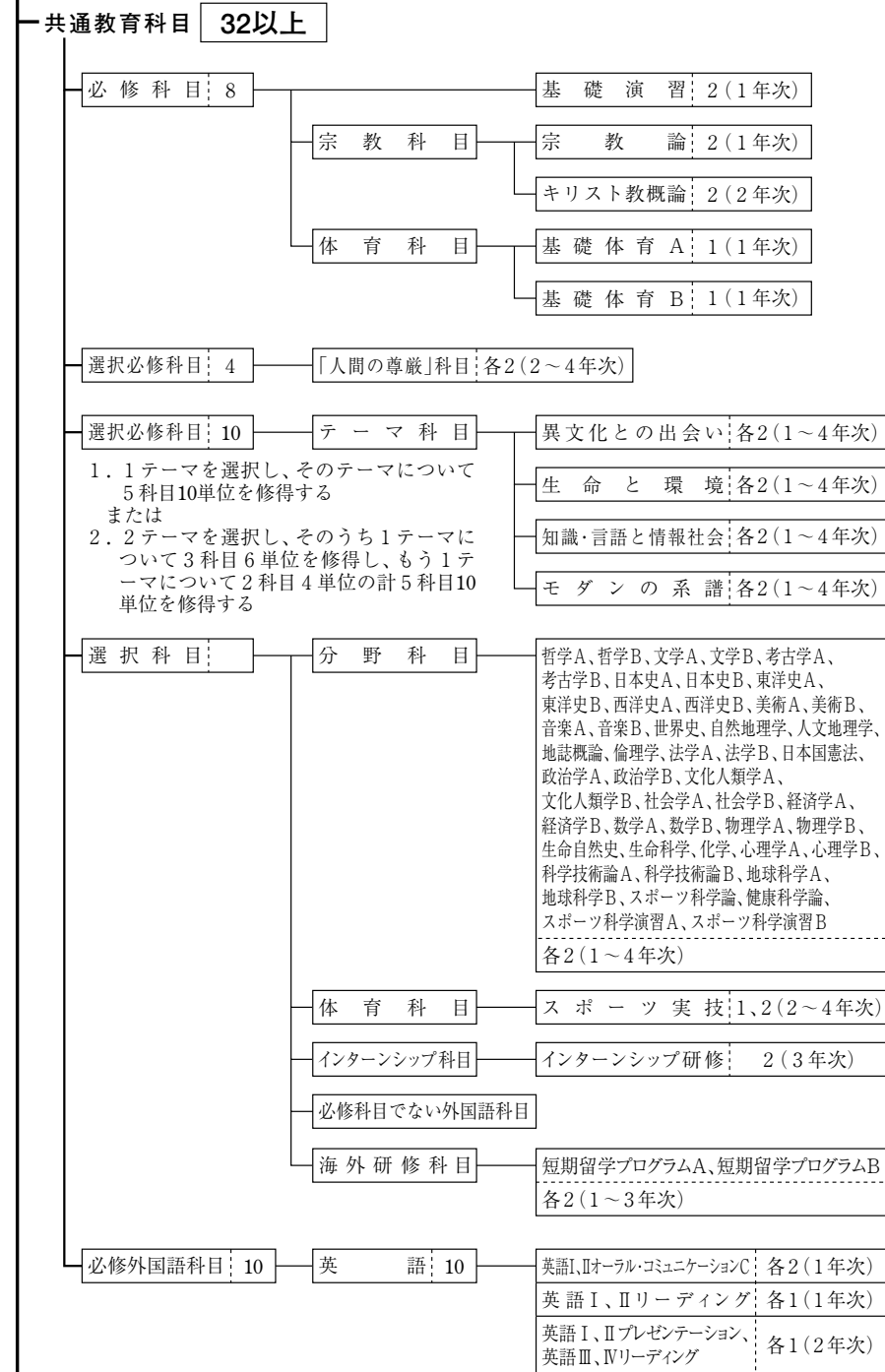
【理工学部 ソフトウェア工学科】

区分	年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目 (32)		32単位以上修得しなければならない。 詳細は「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照			
学部共通必修科目 (32)	基礎科目	理工学概論 (2) 微積分学Ⅰ (2) 微積分学Ⅱ (2) 情報数学 (2) 線形代数学Ⅰ (2) プログラミング基礎 (2)	線形代数学Ⅱ (2) 確率・統計 (2) プログラミング応用 (2) 物理学基礎 (2) 通信ネットワーク基礎 (2)		
	情報倫理教育科目	情報倫理 (2)			
	演習・実習	数学演習A (2) 数学演習B (2) プログラミング基礎実習 (2)	プログラミング応用実習 (2)		
専門科目 (52)	学科必修科目		アルゴリズム論 (2) 計算機アーキテクチャとOS (2) ソフトウェア工学実習 (1) 情報システム実習 (1)	ソフトウェア工学演習Ⅰ (2) ソフトウェア工学演習Ⅱ (2)	ソフトウェア工学演習Ⅲ (2) ソフトウェア工学演習Ⅳ (2)
	卒業研究科目				8単位を修得しなければならない。 卒業研究ⅠD (4) 卒業研究ⅠE (4) 卒業研究ⅡD (4) 卒業研究ⅡE (4) 詳細は「履修要項」を参照。
	その他の専門科目		30単位以上 (ソフトウェア工学科選択科目は12単位以上) 修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 「ソフトウェア工学科選択科目」、「履修可能なシステム数理学科、機械電子制御工学科の学科必修科目と学科選択科目」		
自由選択科目 (14)		14単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 「共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目」 「専門科目で所定の単位数を超過して修得した科目」 「履修可能な他学部・他学科科目」 「本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの」			
自由科目		「教職に関する科目」「博物館に関する科目」「司書・司書教諭に関する科目」 (卒業に必要な単位数に算入されない)			

卒業に必要な単位数

理工学部ソフトウェア工学科

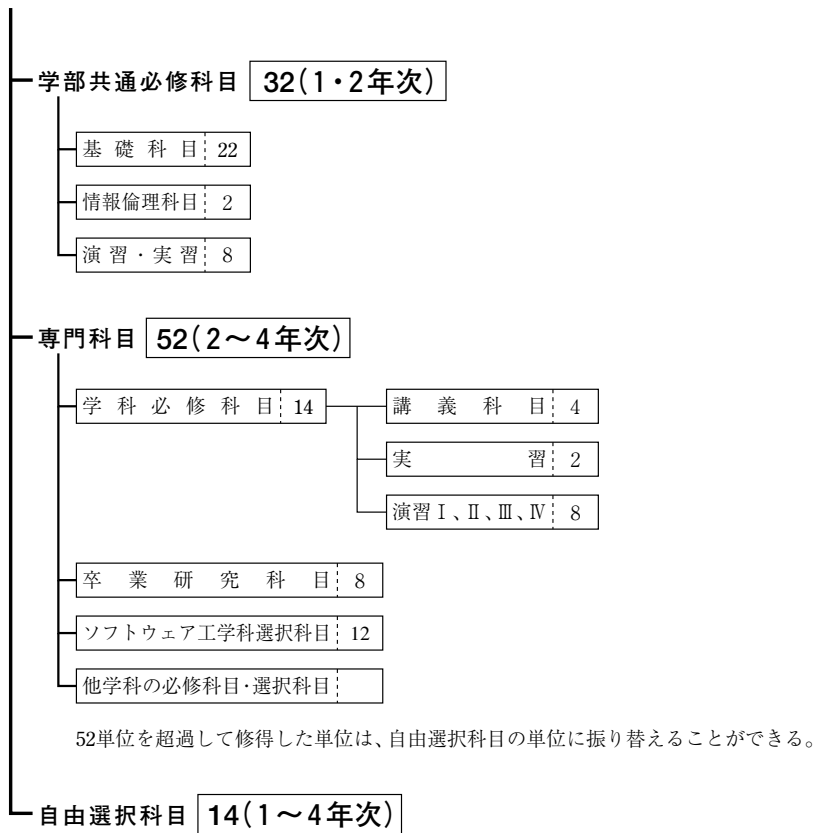
総単位数 **130**



共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した単位は、自由選択科目の単位に振り替えることができる。

*1

※1



「共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目」

「専門科目で所定の単位数を超過して修得した科目」

「履修可能な他学部・他学科科目」

「本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの」

機械電子制御工学科履修要項 ※()内は単位数

1. 理工学部機械電子制御工学科学生は、共通教育科目を32単位以上、学部共通必修科目を32単位、専門科目を52単位以上、自由選択科目を14単位以上、合計130単位以上を卒業に必要な単位として修得しなければならない。

2. 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を原則として「欠席過多 (S)」による不合格とする。ただし、実習科目については、講義概要の当該授業科目評価欄に記載がある場合には、その内容に従うものとし、授業予定総時数の3分の1以下の欠席時数であっても「欠席過多 (S)」による不合格とする場合がある。

3. 共通教育科目 (32)

機械電子制御工学科学生は共通教育科目として合計32単位以上を修得しなければならない。

必修科目 (8)

第1年次

宗 教 論 (2) 基礎体育 A (1) 基礎体育 B (1)
基礎演習 (2)

第2年次

キリスト教概論 (2)

選択必修科目 (14)

第1年次以降

「異文化との出会い」、「生命と環境」、「知識・言語と情報社会」、「モダンの系譜」の4テーマについて、次のいずれかの方法に従って修得しなければならない。

① 4テーマの中から1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位以上を修得する。

② 4テーマの中から2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位以上、もう1テーマについて2科目4単位以上の計5科目10単位以上を修得する。

第2年次以降

「人間の尊厳」科目から2科目4単位以上を修得する。

必修外国語科目 (10)

第1年次

英語Iオーラルコミュニケーション (2) 英語IIオーラルコミュニケーション (2) 英語Iリーディング (1)
英語IIリーディング (1)

第2年次

英語Ⅰプレゼンテーション (1) 英語Ⅲリーディング (1) 英語Ⅱプレゼンテーション (1)
英語Ⅳリーディング (1)

選択科目

分野科目、必修科目でない体育科目、必修科目でない外国語科目、インターンシップ科目および海外研修科目などの履修可能な科目は、卒業に必要な単位としては自由選択科目となる。“6. 自由選択科目”の節を参照。

4. 学部共通必修科目 (32)

機械電子制御工学科学生は、学部共通必修科目を32単位以上修得しなければならない。

第1年次

理工学概論 (2) 微積分学Ⅰ (2) 微積分学Ⅱ (2)
情報数学 (2) 線形代数学Ⅰ (2) 数学演習A (2)
数学演習B (2) 情報倫理 (2) プログラミング基礎 (2)
プログラミング基礎実習 (2)

第2年次

線形代数学Ⅱ (2) 確率・統計 (2) プログラミング応用 (2)
プログラミング応用実習 (2) 物理学基礎 (2) 通信ネットワーク基礎 (2)

5. 専門科目 (52)

専門科目は、システム数理学科、ソフトウェア工学科、機械電子制御工学科の学科科目で構成され、各学科の学科科目は、必修科目、卒業研究科目、選択科目で構成される。

機械電子制御工学科必修科目 (12)

第2年次

機械電子制御工学基礎 (2) 制御システム実習 (1) 電子通信工学実習 (1)

第3年次

機械電子制御工学演習Ⅰ (2) 機械電子制御工学演習Ⅱ (2)

第4年次

機械電子制御工学演習Ⅲ (2) 機械電子制御工学演習Ⅳ (2)

機械電子制御工学科卒業研究科目 (8)

第4年次

卒業研究ⅠG (4) 卒業研究ⅡG (4) 卒業研究ⅠH (4)
卒業研究ⅡH (4)

機械電子制御工学科選択科目 (卒業研究科目との関連づけを、科目名の右にG, Hを示すことで行う)

第2年次

システム理論 (2)	[G]
通信理論 (2)	[H]

第3年次以降

機械電子制御工学実習 (2)	[G, H]
数値解析 (2)	[G, H]
制御理論 (2)	[G]
機械工学基礎 (2)	[G]
確率モデル (2)	[H]
通信プロトコル (2)	[H]
情報通信セキュリティ (2)	[H]
幾何学入門 (2)	
機械電子制御工学特別講義 (2)	[G]

機械電子制御工学科学生は履修可能なシステム数理学科、ソフトウェア工学科の学科必修科目と学科選択科目を専門科目として履修できる。システム数理学科、ソフトウェア工学科の科目は別に示す（当該学科の履修要項参照）。

- (1) 機械電子制御工学科学生は、学科必修科目12単位を修得しなければならない。
- (2) 機械電子制御工学科学生は、次の2条件の少なくとも1つを満たすように専門科目20単位以上を修得しなければならない。
 - (ア) 「卒業研究 I G」と「卒業研究 II G」を修得し、かつ、この2科目に関連づけられた選択科目と以下1科目から「システム理論」を含めて12単位以上を修得している。
 - 応用解析学 (2) (システム数理学科科目)
 - (イ) 「卒業研究 I H」と「卒業研究 II H」を修得し、かつ、この2科目に関連づけられた選択科目と以下3科目から「通信理論」を含めて12単位以上を修得している。
 - 応用解析学 (2) (システム数理学科科目)
 - データベース (2) (ソフトウェア工学科科目)
 - マルチメディア情報通信 (2) (ソフトウェア工学科科目)
- (3) 機械電子制御工学科学生は、(1), (2)の単位(32以上)を含めて専門科目を52単位以上修得しなければならない。

6. 自由選択科目 (14)

機械電子制御工学科学生は、自由選択科目として、14単位以上を修得しなければならない。

「共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目」

「専門科目で所定の単位数を超過して修得した科目」

「履修可能な他学部・他学科科目」

「本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの」

他学部・他学科科目を履修する場合は、当該学部・学科が定める履修年次を遵守しなければならない（当該学部・学科の履修要項参照）。

7. 自由科目

自由科目は次の科目である（卒業に必要な単位に算入されない科目）。

「教職に関する科目」、「博物館に関する科目」、「司書・司書教諭に関する科目」

8. 履修の条件

- (1) 第2年次の学部共通必修科目を履修するためには、前年度までに学部共通必修科目を10単位以上修得していなければならない。
- (2) 専門科目を履修するためには、前年度までに学部共通必修科目を10単位以上修得していなければならない。
- (3) 「機械電子制御工学演習Ⅰ」を履修するためには、前年度までに卒業に必要な単位を64単位以上修得し、前年度までに共通教育科目の「基礎演習」2単位と学部共通必修科目を20単位以上修得していなければならない。
- (4) 「機械電子制御工学演習Ⅱ」、「機械電子制御工学演習Ⅲ」、「機械電子制御工学演習Ⅳ」、卒業研究科目は、原則として同一担当者の科目を履修するものとする。
- (5) 「機械電子制御工学演習Ⅱ」を履修するためには、「機械電子制御工学演習Ⅰ」の単位を修得していなければならない。
- (6) 「機械電子制御工学演習Ⅲ」を履修するためには、卒業に必要な単位を84単位以上修得し、第1年次の学部共通必修科目の20単位を修得し、さらに、「物理学基礎」、「通信ネットワーク基礎」、「制御システム実習」、「電子通信工学実習」、「機械電子制御工学演習Ⅱ」の5科目8単位を修得していなければならない。
- (7) 「機械電子制御工学演習Ⅲ」または卒業研究Ⅰを履修するためには、この2科目を同学期に履修するか、片方を修得していなければならない。
- (8) 「機械電子制御工学演習Ⅳ」を履修するためには、「機械電子制御工学演習Ⅲ」と卒業研究Ⅰを修得していなければならない。
- (9) 「機械電子制御工学演習Ⅳ」または卒業研究Ⅱを履修するためには、この2科目を同学期に履修するか、片方を修得していなければならない。
- (10) 履修可能なシステム数理学科科目、ソフトウェア工学科科目を履修するためには、各学科が定める履修年次および履修条件を満たしていなければならない。

9. その他

機械電子制御工学科学学生が登録を許される単位数は、自由科目を除いて、入学年度は春学期秋学期ともに24単位まで、卒業研究科目を履修する学期は各学期16単位まで、それ以外の学期は各学期28単位までとする。ただし、各年次において春学期秋学期の登録単位数の合計が48単位を超えてはならない。

理工学部機械電子制御工学科カリキュラム表

【理工学部 機械電子制御工学科】

区分	年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次
共通教育科目 (32)		32単位以上修得しなければならない。 詳細は「共通教育科目履修要項」および次ページ「卒業に必要な単位数」を参照			
学部共通必修科目 (32)	基礎科目	理工学概論 (2) 微積分学Ⅰ (2) 微積分学Ⅱ (2) 情報数学 (2) 線形代数学Ⅰ (2) プログラミング基礎 (2)	線形代数学Ⅱ (2) 確率・統計 (2) プログラミング応用 (2) 物理学基礎 (2) 通信ネットワーク基礎 (2)		
	情報倫理教育科目	情報倫理 (2)			
	演習・実習	数学演習A (2) 数学演習B (2) プログラミング基礎実習 (2)	プログラミング応用実習 (2)		
専門科目 (52)	学科必修科目		機械電子制御工学基礎 (2) 制御システム実習 (1) 電子通信工学実習 (1)	機械電子制御工学演習Ⅰ (2) 機械電子制御工学演習Ⅱ (2)	機械電子制御工学演習Ⅲ (2) 機械電子制御工学演習Ⅳ (2)
	卒業研究科目				8単位を修得しなければならない。 卒業研究ⅠG (4) 卒業研究ⅠH (4) 卒業研究ⅡG (4) 卒業研究ⅡH (4) 詳細は「履修要項」を参照。
	その他の専門科目		32単位以上修得しなければならない。 各自が履修する卒業研究科目に応じて指定された科目を12単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 「機械電子制御工学科選択科目」、「履修可能なシステム数理学科、ソフトウェア工学科の学科必修科目と学科選択科目」		
自由選択科目 (14)		14単位以上修得しなければならない。 詳細は「履修要項」を参照。 「共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目」 「専門科目で所定の単位数を超過して修得した科目」 「履修可能な他学部・他学科科目」 「本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの」			
自由科目		「教職に関する科目」「博物館に関する科目」「司書・司書教諭に関する科目」 (卒業に必要な単位数に算入されない)			

卒業に必要な単位数

理工学部機械電子制御工学科

総単位数 **130**

共通教育科目 **32以上**

必修科目: 8

宗教科目

基礎演習: 2(1年次)

宗教論: 2(1年次)

キリスト教概論: 2(2年次)

体育科目

基礎体育A: 1(1年次)

基礎体育B: 1(1年次)

選択必修科目: 4

「人間の尊厳」科目: 各2(2~4年次)

選択必修科目: 10

テーマ科目

1. 1テーマを選択し、そのテーマについて5科目10単位を修得する
または
2. 2テーマを選択し、そのうち1テーマについて3科目6単位を修得し、もう1テーマについて2科目4単位の計5科目10単位を修得する

異文化との出会い: 各2(1~4年次)

生命と環境: 各2(1~4年次)

知識・言語と情報社会: 各2(1~4年次)

モダンの系譜: 各2(1~4年次)

選択科目:

分野科目

哲学A、哲学B、文学A、文学B、考古学A、考古学B、日本史A、日本史B、東洋史A、東洋史B、西洋史A、西洋史B、美術A、美術B、音楽A、音楽B、世界史、自然地理学、人文地理学、地誌概論、倫理学、法学A、法学B、日本国憲法、政治学A、政治学B、文化人類学A、文化人類学B、社会学A、社会学B、経済学A、経済学B、数学A、数学B、物理学A、物理学B、生命自然史、生命科学、化学、心理学A、心理学B、科学技術論A、科学技術論B、地球科学A、地球科学B、スポーツ科学論、健康科学論、スポーツ科学演習A、スポーツ科学演習B

各2(1~4年次)

体育科目

スポーツ実技: 1,2(2~4年次)

インターンシップ科目

インターンシップ研修: 2(3年次)

必修科目でない外国語科目

海外研修科目

短期留学プログラムA、短期留学プログラムB

各2(1~3年次)

必修外国語科目: 10

英語: 10

英語I、IIオーラル・コミュニケーション: 各2(1年次)

英語I、IIリーディング: 各1(1年次)

英語I、IIプレゼンテーション、英語III、IVリーディング: 各1(2年次)

共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した単位は、自由選択科目の単位に振り替えることができる。

※1

※1

学部共通必修科目 **32(1・2年次)**

- 基礎科目 22
- 情報倫理科目 2
- 演習・実習 8

専門科目 **52(2～4年次)**

- 学科必修科目 12
 - 講義科目 2
 - 実習 2
 - 演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 8

卒業研究科目 8

機械電子制御工学科選択科目

他学科の必修科目・選択科目

各自が履修する卒業研究科目に応じて
指定された科目を12単位以上

52単位を超過して修得した単位は、自由選択科目の単位に振り替えることができる。

自由選択科目 **14(1～4年次)**

- 「共通教育科目で所定の単位数を超過して修得した科目」
- 「専門科目で所定の単位数を超過して修得した科目」
- 「履修可能な他学部・他学科科目」
- 「本学の単位認定制度により、自由選択科目として認められたもの」

情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・ 機械電子制御工学科）履修要項 ※（ ）内は単位数

1. この履修要項は理工学部学生に適用する。

- (1) 情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）の登録は「演習Ⅰ」の履修登録と同時に行わなければならない。
- (2) 情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）に登録した理工学部学生は、卒業のためには情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）を修了しなければならない。
- (3) 情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）に登録した理工学部学生は、原則として、登録を取り消すことはできない。

2. 登録の条件

- (1) 理工学部学生は、情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）に登録するには、各学科の「演習Ⅰ」を履修するための条件を満たさなければならない。

3. 修了の条件

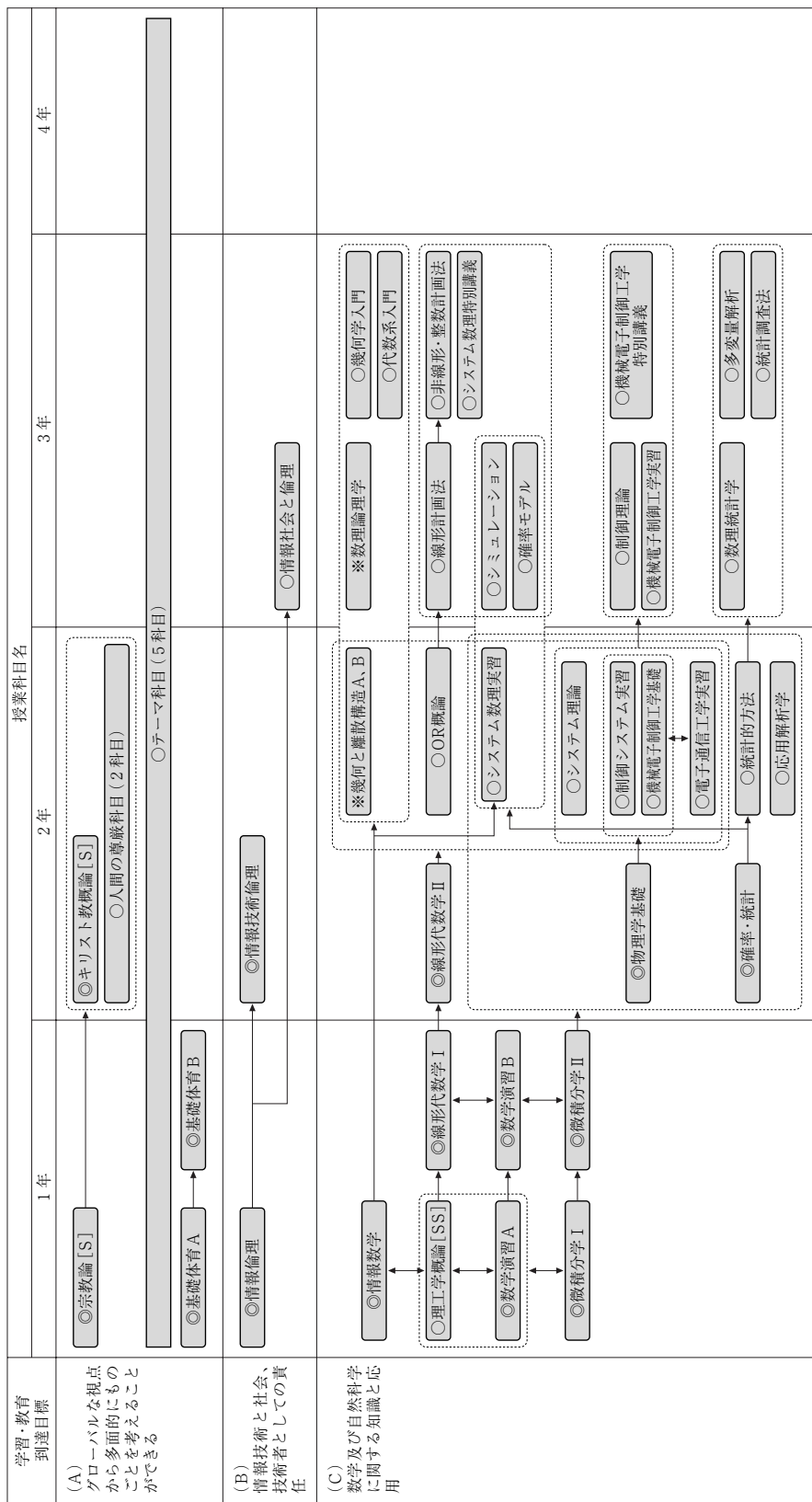
- (1) 理工学部学生は、情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）を修了するには、理工学部各学科の履修要項に記載されている卒業するための条件を満たさなければならない。
- (2) 理工学部学生は、情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）を修了するには、次の7科目14単位をすべて修得しなければならない。

情報技術倫理（2） 計算機アーキテクチャとOS（2） アルゴリズム論（2）
プログラミング言語（2） ソフトウェア工学基礎（2） 情報通信セキュリティ（2）
ソフトウェア開発技術Ⅰ（2）

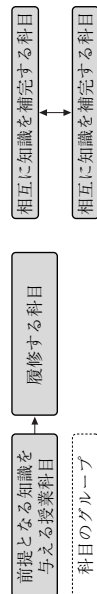
- (3) 理工学部学生は、情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）を修了するには、次の学科選択科目から3科目6単位以上を修得しなければならない。

幾何と離散構造A（2） 幾何と離散構造B（2） ソフトウェア工学応用（2）
ソフトウェア開発技術Ⅱ（2） オブジェクト指向プログラミング（2） データベース（2）
数理論理学（2） マルチメディア情報通信（2）

情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）の学習・教育到達目標を達成するための授業科目の流れ（全体1/2）



凡例



※詳細については、冊子「情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）履修の手引き」を参照の上、学部ガイダンスで確認してください。

情報技術専修コース（システム数理論学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）の学習・教育到達目標を達成するための授業科目の流れ（全体2/2）

学習・教育到達目標	授業科目名			
	1年	2年	3年	4年
(D) コンピュータ科学に関する専門技術および情報セキュリティに対する責任、各種の情報システムの設計および実装	<ul style="list-style-type: none"> ○理工学概論[SE] ○プログラミング基礎 ○プログラミング基礎実習 	<ul style="list-style-type: none"> ○プログラミング応用 ○ソフトウェア工学実習 ○情報システム実習 ○ソフトウェア工学基礎 ○ソフトウェア工学応用 ○ソフトウェア工学開発技術Ⅰ ○ソフトウェア工学開発技術Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ○プログラミング言語 ○オブジェクト指向プログラミング ○数値解析 ○データベース ○情報通信セキュリティ ○通信プロトコル ○マルチメディア情報通信 	<ul style="list-style-type: none"> ○ソフトウェア工学特別講義
(E) 日本語での文書作成、口頭発表、グループの一員としての指導や協力、英語での基礎的なコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎演習 ○英語IオーラルコミュニケーションC ○英語Iリーディング 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語IIプレゼンテーション ○英語IIIリーディング ○英語IIオーラルコミュニケーションC ○英語IIリーディング 	<ul style="list-style-type: none"> ○システム数理論習Ⅰ ○ソフトウェア工学演習Ⅰ ○機械電子制御工学演習Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ○システム数理論習Ⅱ ○ソフトウェア工学演習Ⅱ ○機械電子制御工学演習Ⅱ
(F) 問題解決能力と自主的かつ継続的な学習			<ul style="list-style-type: none"> ○システム数理論習Ⅲ ○ソフトウェア工学演習Ⅲ ○機械電子制御工学演習Ⅲ 	<ul style="list-style-type: none"> ○システム数理論習Ⅳ ○ソフトウェア工学演習Ⅳ ○機械電子制御工学演習Ⅳ

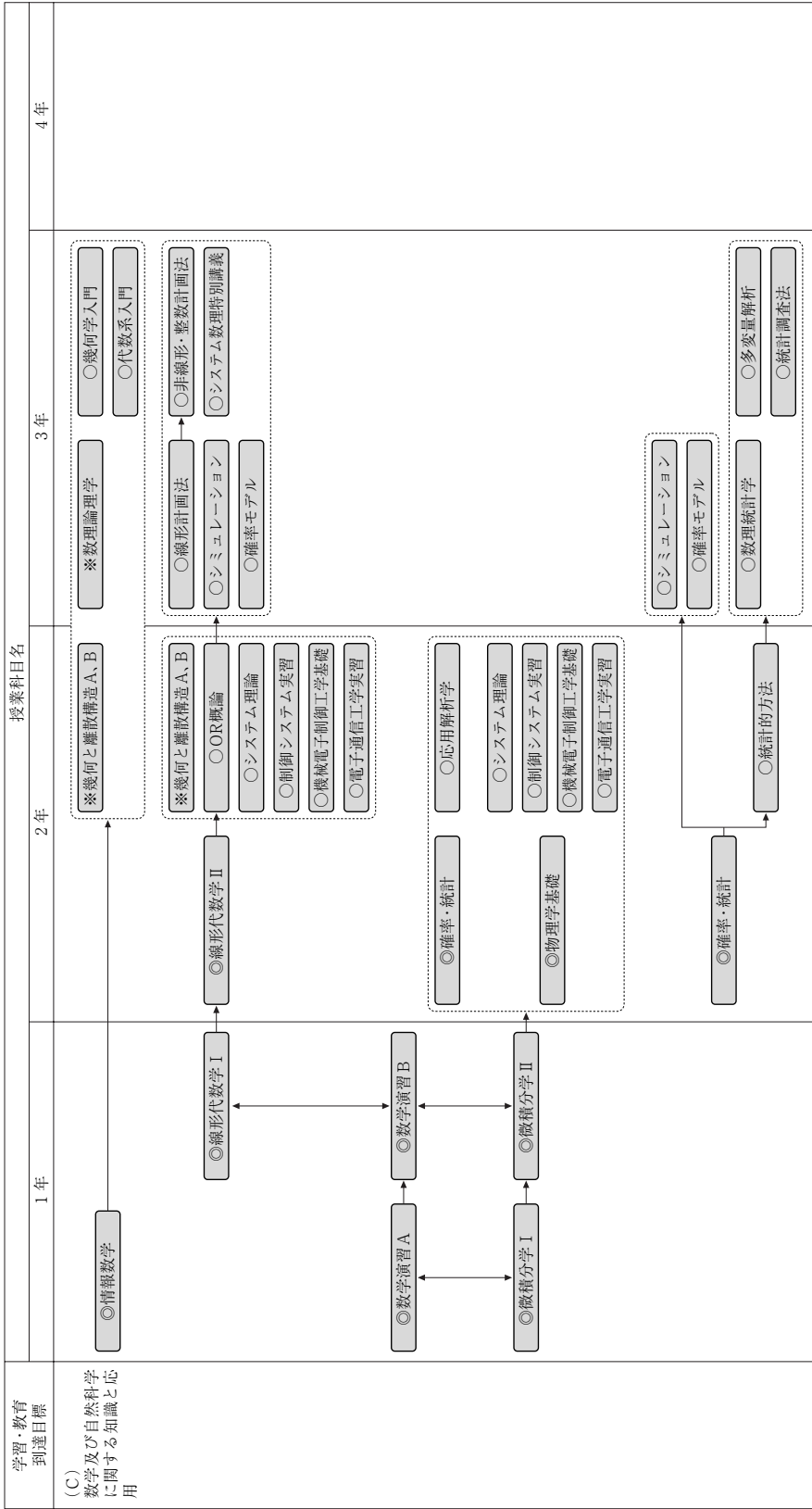
凡例



科目名の記号 ○印：情報技術専修コースの必修科目
 ※印：情報技術専修コースの選択科目（8科目中3科目必要）
 ○印：情報技術専修コースに関連するその他の専門科目

※詳細については、冊子『情報技術専修コース（システム数理論学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）履修の手引き』を参照の上、学部ガイダンスで確認してください。

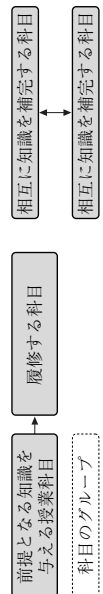
情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）の学習・教育到達目標を達成するための授業科目の流れ（大項目（C）の系統別 1/2）



凡例

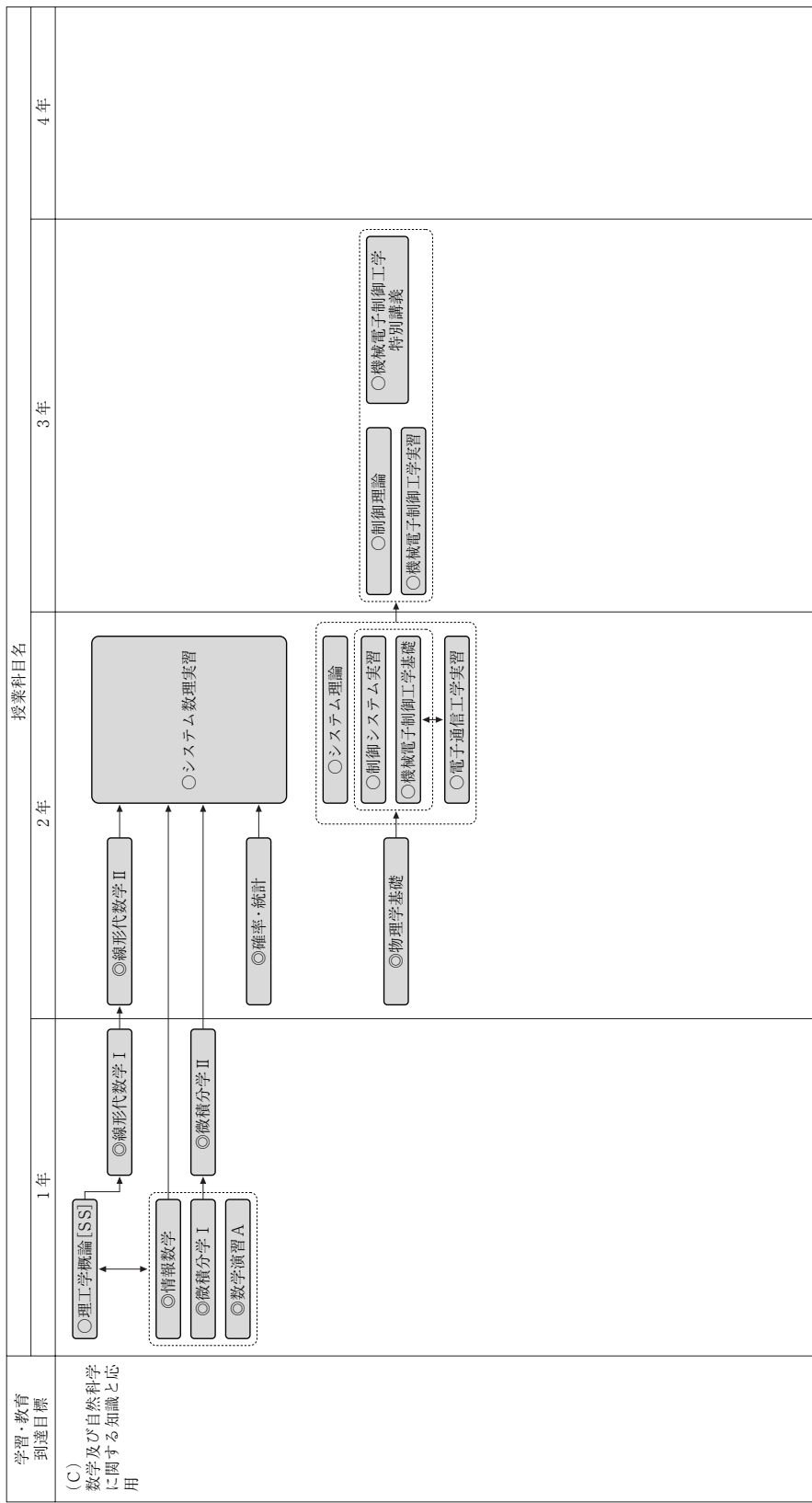
科目名の記号

- 印：情報技術専修コースの必修科目
- ※印：情報技術専修コースの選択科目（8科目中3科目必要）
- 印：情報技術専修コースに関連するその他の専門科目

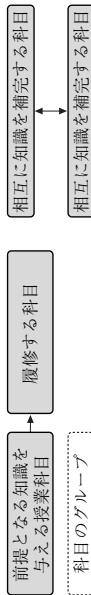


※詳細については、冊子「情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）履修の手引き」を参照の上、学部ガイダンスで確認してください。

情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）の学習・教育到達目標を達成するための授業科目の流れ（大項目（C）の系統別 1/2）



凡例



科目名の記号

- ◎印：情報技術専修コースの必修科目
- ※印：情報技術専修コースの選択科目（8科目中3科目必要）
- 印：情報技術専修コースに関連するその他の専門科目

※詳細については、冊子『情報技術専修コース（システム数理学科・ソフトウェア工学科・機械電子制御工学科）履修の手引き』を参照の上、学部ガイダンスで確認してください。

短期大学部

短期大学部 英語科履修要項

[2011年度以降に入学した学生に適用]

1. 短期大学部英語科を卒業するためには基本科目16単位以上、英語科科目46単位以上、合計62単位以上を、以下の要項に従って修得しなければならない。
2. 各学期に登録することができる単位数は、原則として20単位以内とする。ただし、教職科目に関する単位、ボランティアプロジェクトおよび国際協力フィールドワークに関する単位はこの限りではない。
3. 南山大学で開講される共通教育科目、および他学部（外国語学部を除く）の学部共通科目、他学科科目（履修不可の科目及び外国語学部英米学科の学科科目を除く）の単位は、卒業に必要な基本科目の選択科目の単位として認定できる。
4. 南山大学で開講される外国語学部の学部共通科目、および外国語学部英米学科の学科科目（履修不可の科目を除く）の単位を、卒業に必要な英語科科目（テーマ科目群）の選択科目の単位として認定できる。
5. 他大学で取得した科目の単位を、卒業に必要な基本科目または英語科科目の単位として認定する場合がある。
6. 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績は「欠席過多(S)による不合格」とする。担当者2名による週2回開講科目であるInteraction in Englishについても、それぞれの担当者時限について同様の扱いとする。

ただし、基礎体育A、基礎体育B及び南山大学共通教育科目のうち体育科目については、その履修要項の定めにより、欠席時数が授業科目の授業予定総時数の20%を超えた場合、成績は「欠席過多(S)による不合格」とする。

短期大学部 英語科

A 基本科目

基本科目については、16単位以上を次の方法によって履修しなければならない。

1 必修科目 (8)

下記の7科目、計8単位すべてをそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

キリスト教学Ⅰ (1) キリスト教学Ⅱ (1) ラーニング・コミュニティⅠ (1)
ラーニング・コミュニティⅡ (1)

第2年次

キリスト教学Ⅲ (2) ラーニング・コミュニティⅢ (1) ラーニング・コミュニティⅣ (1)

2 選択科目 (8)

前号の必修科目のほかに下記の科目から選択して8単位以上履修すること。

【短期大学部科目】

からだ と 心 (2) 音 楽 (2) 舞 踊 と 文 化 (2)
美 術 (2) 日 本 国 憲 法 (2) 基 礎 体 育 A (1)
基 礎 体 育 B (1)

【単位認定科目】

南山大学で開講される共通教育科目

南山大学で開講される学部共通科目^(※) 南山大学で開講される学科科目^(※)

(※) 南山大学外国語学部の学部共通科目および外国語学部英米学科の学科科目を除く。

B 英語科科目

英語科科目については、コアトレーニング科目群26単位、テーマ科目群16単位以上、キャリアデザイン科目群4単位以上、計46単位以上を、それぞれ次の方法によって修得しなければならない。

I コアトレーニング科目群 (26)

1 必修科目 (24)

下記の20科目、計24単位すべてをそれぞれの指定年次に履修すること。

第1年次

Reading in English I (1) Reading in English II (1) Presentation in English I (1)
Presentation in English II (1) Discussion in English I (1) Discussion in English II (1)
Writing in English I (1) Writing in English II (1) Interaction in English I (2)

Interaction in English II (2)

第2年次

Reading in English III (1) Reading in English IV (1) Presentation in English III (1)

Presentation in English IV (1) Discussion in English III (1) Discussion in English IV (1)

Writing in English III (1) Writing in English IV (1) Interaction in English III (2)

Interaction in English IV (2)

2 選択必修科目 (2)

前号の必修科目のほかに下記の4科目、計4単位のうち、①または②の2科目計2単位を履修すること。

① English Workshop A (1) および

English Workshop B (1)

② Research Project A (1) および

Research Project B (1)

II テーマ科目群 (16)

1 必修科目 (4)

下記の2科目、計4単位を第1年次に履修すること。

日 本 文 化 (2) 日 本 語 表 現 (2)

2 選択科目 (12)

前号の必修科目のほかに下記の科目から選択して12単位以上履修すること。なお、各科目の履修条件年次は下記のとおりである。

【短期大学部科目】

第1年次以上

海 外 事 情 (2) キリシト教文化 (2) 地 域 文 化 事 情 (2)

バイブルリーディング (2) 非言語コミュニケーション (2) 異文化間コミュニケーション (2)

ボランティアプロジェクト (2) 国際協力フィールドワーク (3) 国際交流プロジェクトA (1)

国際交流プロジェクトB (1)

第2年次以上

対人コミュニケーション (2) スピーチコミュニケーション (2) メディアリテラシーA (2)

メディアリテラシーB (2) 国 際 関 係 論 (2) グローバル文化論 (2)

多文化共生論 (2)

【単位認定科目】

南山大学外国語学部の学部共通科目

南山大学外国語学部英米学科の学科科目

短期大学部 英語科

Ⅲ キャリアデザイン科目群

下記の科目から選択して4単位以上履修すること。なお、各科目の履修指定年次は下記のとおりである。ただし、「自己啓発」は1年次にのみ履修できる。

第1年次以上

アカデミックスキルA (1) アカデミックスキルB (1) 小集団リーダーシップ (1)
ビジネススキル演習 (1) 自 己 啓 発 (1) コンピュータリテラシー (2)
英 語 教 育 入 門 (2)

第2年次以上

翻訳・通訳演習A (1) 翻訳・通訳演習B (1) 日本語教育入門 (2)

*履修についての一般的注意

- 1 各科目の後にI、II、III、IV、とあるものは、原則としてIから順次履修しなければならない。
- 2 各科目の後にA、Bとあるものは、順序を問わず両方履修することも、A、B単独で履修することもできる。
- 3 単位修得済みの科目について、同じ科目名のものを再度登録することはできない。

短期大学部英語科カリキュラム表

【短期大学部 英語科】

区分		年次別	第 1 年 次	第 2 年 次	
基本科目 (16)	必修 (8)		キリスト教学Ⅰ (1) キリスト教学Ⅱ (1) ラーニング・コミュニティⅠ (1) ラーニング・コミュニティⅡ (1)	キリスト教学Ⅲ (2) ラーニング・コミュニティⅢ (1) ラーニング・コミュニティⅣ (1)	
	選択 (8)		【短期大学部科目】、あるいは【単位認定科目】の中から8単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。		
英 語 科 目 (46)	コア トレ ー ニ ン グ 科 目 群	必修 (24)	Reading in EnglishⅠ (1) Reading in EnglishⅡ (1) Presentation in EnglishⅠ (1) Presentation in EnglishⅡ (1) Discussion in EnglishⅠ (1) Discussion in EnglishⅡ (1) Writing in EnglishⅠ (1) Writing in EnglishⅡ (1) Interaction in EnglishⅠ (2) Interaction in EnglishⅡ (2)	Reading in EnglishⅢ (1) Reading in EnglishⅣ (1) Presentation in EnglishⅢ (1) Presentation in EnglishⅣ (1) Discussion in EnglishⅢ (1) Discussion in EnglishⅣ (1) Writing in EnglishⅢ (1) Writing in EnglishⅣ (1) Interaction in EnglishⅢ (2) Interaction in EnglishⅣ (2)	
		選択 必修 (2)	English Workshop A (1) および English Workshop B (1) の計2単位、 あるいは Research Project A (1) および Research Project B (1) の計2単位を 修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。		
	テ ー マ 科 目 群	必修 (4)	日本文化 (2) 日本語表現 (2)		
		選択 (12)	【短期大学部科目】、あるいは【単位認定科目】の中から12単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。		
	キャリアデザイン 科目群(4)	4単位修得しなければならない。 詳細は、「履修要項」を参照。			
	自由科目	教職に関する科目、他大学（南山大学を除く）との単位互換科目（卒業に必要な単位には算入されない。）			

(注) 記載された単位数は各科目分類別の最低必要単位数を示している。

短期大学部 英語科

短期大学部

英語科

卒業要件単位数 **62**

基本科目 **16**

必修科目 8

キリスト教学Ⅰ	1 (1年次)
キリスト教学Ⅱ	1 (1年次)
キリスト教学Ⅲ	2 (2年次)
ラーニングコミュニティⅠ	1 (1年次)
ラーニングコミュニティⅡ	1 (1年次)
ラーニングコミュニティⅢ	1 (2年次)
ラーニングコミュニティⅣ	1 (2年次)

選択科目 8

短期大学部科目

からだと心	2 (1～2年次)
音楽	2 (1～2年次)
舞踊と文化	2 (1～2年次)
美術	2 (1～2年次)
日本国憲法	2 (1～2年次)
基礎体育A	1 (1～2年次)
基礎体育B	1 (1～2年次)

単位認定科目

南山大学単位互換科目 ^(※)	
---------------------------	--

(※)南山大学単位互換科目のうち、以下の科目とする。
 ・ 共通教育科目
 ・ 学部共通科目(外国語学部の学部共通科目を除く)
 ・ 学科科目(外国語学部英米学科の学科科目を除く)

英語科科目 **46**

コアトレーニング科目群 26

必修科目 24

Reading in English I	1 (1年次)
Reading in English II	1 (1年次)
Reading in English III	1 (2年次)
Reading in English IV	1 (2年次)
Presentation in English I	1 (1年次)
Presentation in English II	1 (1年次)
Presentation in English III	1 (2年次)
Presentation in English IV	1 (2年次)
Discussion in English I	1 (1年次)
Discussion in English II	1 (1年次)
Discussion in English III	1 (2年次)
Discussion in English IV	1 (2年次)
Writing in English I	1 (1年次)
Writing in English II	1 (1年次)
Writing in English III	1 (2年次)
Writing in English IV	1 (2年次)
Interaction in English I	2 (1年次)
Interaction in English II	2 (1年次)
Interaction in English III	2 (2年次)
Interaction in English IV	2 (2年次)

選択必修科目 2

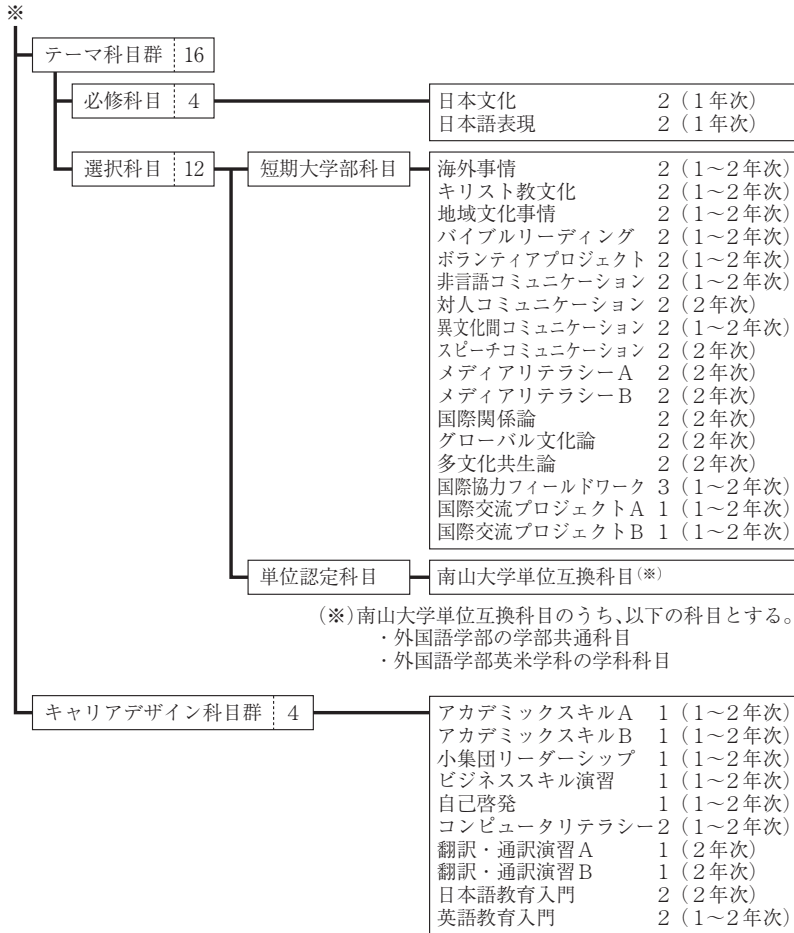
English Workshop 2

English Workshop A	1 (1～2年次)
English Workshop B	1 (1～2年次)

Research Project 2

Research Project A	1 (2年次)
Research Project B	1 (2年次)

※



短期大学部 教職課程履修要項

[2011年度以降に入学した学生に適用]

この教職課程は、将来教職に従事しようとする熱意を持つ学生のために設けられた課程である。履修しようとする者は自己の教育職員としての適性を十分に考えたうえで選択することが望ましい。教職課程履修者は、教育実習校や本学との連絡など多くの手続を必要とするので十分注意しなければならない。また、高い英語の運用力のみならず、基本科目および英語科科目において良好な成績を挙げることが求められる。

I. 教職課程履修にあたっての注意

1. 卒業後、教育職員（中学校の教員）になろうとする者は、教育職員免許法（以下、免許法という）に定められた、「教育職員免許状」（以下、教員免許状または免許状という）を取得する必要がある。
2. 教員免許状は、免許法に定められた基礎資格を有し、大学において免許法に定められた「教職に関する科目」「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」、および、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目」の単位を修得した者に、都道府県の教育委員会から授与される。
なお、本学で取得できる免許状は、「中学校教諭二種免許状（英語）」である。
3. 免許状を取得しようとする者は、前項の単位取得に加えて、特別支援学校（盲・聾・養護学校）において2日間、老人保健施設において5日間の計7日間の介護等体験を行う必要がある。
4. 教育職員として就職するには、免許状取得のほかに教員採用試験に合格しなければならない。採用試験は公立学校については都道府県または政令指定都市の教育委員会が実施し、私立学校については別に行われる。
5. 教育職員には、高度な専門性とともな確かな人間性が求められる。本学教職課程では、これに反する行為等を行った者には厳しく対処する方針である。

II. 単位修得方法について

(1) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

基本科目の選択科目のうち、下記の「科目区分」ごとに各2単位を必ず履修すること。

科目区分	科目名（カッコ内は単位数）
日本国憲法	日本国憲法（2）
体育実技	基礎体育A（1）および基礎体育B（1）
外国語コミュニケーションに関する科目	Interaction in English I（2） Interaction in English II（2） Interaction in English III（2） Interaction in English IV（2）
情報機器に関する科目	コンピュータリテラシー（2）

(2) 教職に関する科目

下記の10科目21単位を、指定年次に従ってすべて履修すること。

科目区分	科目名（カッコ内は単位数）	指定年次
教職の意義等に関する科目	教職入門（2）	1

教育の基礎理論に関する科目	教育原論 (2)	1
	発達心理学 (2)	1
教育課程及び指導法に関する科目	英語科教育法 (2)	2
	道徳教育の理論と方法 (1)	2
	特別活動の理論と方法 (1)	2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導論 (2)	1
	教育相談 (2)	1
教育実習	教育実習 (5)	2
教職実践演習	教職実践演習 (中学校) (2)	2

(3) 教科に関する科目

下記の「科目区分」ごとに各1単位以上、計10単位以上を必ず履修すること。
 なお、10単位を超えて修得した単位数は、「教科又は教職に関する科目」の単位数に充当できる。

科目区分	最低修得単位数	科目名 (カッコ内は単位数)
英語学	「科目区分」ごとに各1単位以上、かつ、合計10単位以上	Presentation in English I (1)
		Presentation in English II (1)
		Presentation in English III (1)
		Presentation in English IV (1)
		Writing in English I (1)
		Writing in English II (1)
		Writing in English III (1)
		Writing in English IV (1)
英米文学		Reading in English I (1)
		Reading in English II (1)
		Reading in English III (1)
		Reading in English IV (1)
英語コミュニケーション		Discussion in English I (1)
		Discussion in English II (1)
		Discussion in English III (1)
		Discussion in English IV (1)
異文化理解		異文化間コミュニケーション (2)
		キリスト教文化 (2)
		地域文化事情 (2)
		グローバル文化論 (2)
		多文化共生論 (2)

(4) 教科又は教職に関する科目

下記の科目から、計4単位以上を履修すること。なお、「教科に関する科目」のうち10単位を超えて修得した単位数は、「教科又は教職に関する科目」の単位数に充当できる。

科目名 (カッコ内は単位数)	最低修得単位数
英語教育入門 (2)	4
日本語教育入門 (2)	
国際交流プロジェクトA (1)	
国際交流プロジェクトB (1)	
ボランティアプロジェクト (2)	
国際協力フィールドワーク (3)	

Ⅲ. 教育実習について

(1) 教育実習の目的

教育実習の目的は、教育者としての基本的な態度、技術を身に付けることにある。具体的には観察、参加および実際の指導を通じての教育の理論と実践との基礎的能力を養うことにその目的がある。これらの目的は短期間の実習のみで修得できるものではないが、各自の積極的な取り組みと謙虚な意識のもとに教師としての適性を発見し、また発見する機会となるよう努力しなければならない。

社会は、深い教育愛に燃え、強い責任感を持ち、自己の使命を十分理解している教師を求めている。従って、教育実習を単に単位取得の場とせず、自己の知的情熱と勇気を発揮する場とし、より大きな成果のもとに教師となるための基礎とするよう心掛けなければならない。

(2) 教育実習についての注意事項

A) 学業成績、特に専門教育科目における成績が優秀であること。

B) 愛知県及び名古屋市公立中学校において教育実習を行う場合は、それぞれの実施する教員採用試験を必ず受験すること。

Ⅳ. 教職課程ガイダンスおよび教職課程関連納入費について

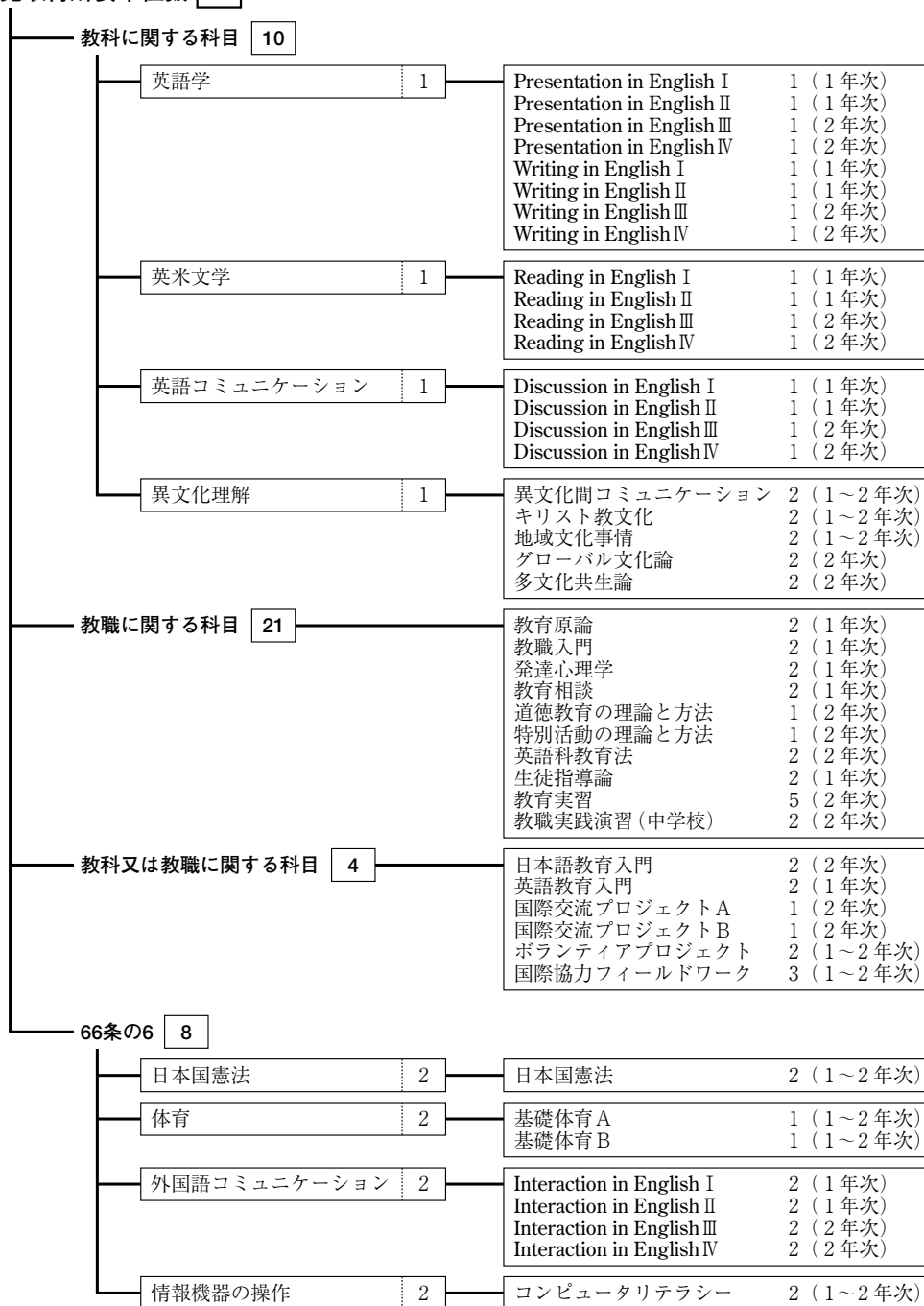
教職課程の履修に際しては、別途納入金が必要である。また、教職課程履修、教育実習、介護等体験、および教員免許状取得に向けて、1年次春学期から卒業まで、随時、ガイダンスや指導を行う。

納入金の詳細やガイダンスの時期、内容等については、随時、教務課Webページや掲示で通知する。教務課Webページや掲示物の確認を欠かさないこと。

短期大学部

英語科

教免取得所要単位数 **43**



※「教科に関する科目」のうち所要単位数（各科目区分ごとに1単位以上、かつ合計10単位）を超えて修得した単位数および「教職に関する科目」のうち所要単位数（21単位）を超えて修得した単位数は、「教科又は教職に関する科目」の単位として計上できる。

国 際 科 目 群

国際科目群に関する履修要項

1. 科目の指定

国際科目群の科目は共通教育委員会の承認を得た共通教育科目、および教授会の承認を得た学部・学科科目とする。

2. 履修の方法

履修については所属する学部・学科の履修要項に従わなければならない。

3. 登録の方法

科目の登録については、所属する学部・学科の登録規則に従わなければならない。

4. 証明書について

- (1) 国際科目群に指定された科目を一定以上修得した者に対して、そのことを証明するために「Nanzan International Certificate」を発行する。
- (2) 「Nanzan International Certificate」の発行を希望する学生は国際科目群に指定された本学開講の科目を受講し、24単位以上、修得しなければならない。
国際科目群に指定された科目を単位認定しても、「Nanzan International Certificate」発行対象の単位数に含まない。
- (3) 所定の単位を修得し「Nanzan International Certificate」の発行を希望する学生は教務課に申請をする。申請に基づき教務課は「Nanzan International Certificate」を発行する。また卒業後においても、本人の求めに応じて「Nanzan International Certificate」を発行する。

附 則

この履修要項は2012年4月1日から施行する。

※瀬戸キャンパスの学生は教務課を第2課教務係と読み替える。

「国際科目群」科目履修に関する注意事項について

1. 授業、課題、期末試験等は、原則としてすべて英語で行われます。
2. 授業のフォーカスは「英語学習」ではなく、共通教育科目や専門科目を英語で学習するものですので、目的を間違えないようにしてください。履修には3に示された英語運用能力が求められます。
3. 授業履修に必要とされる英語運用能力は、少なくともTOEFL-iBT 70点程度（TOEFL-PBT 530点、IELTS 6.0、英検準1級）です。（できればこれ以上の英語基礎力があることが望ましいと考えられます。）履修前に、できるだけTOEFLの試験を受ける、またはTOEFLやIELTSの問題集に付いている模擬試験の解答をして自分の実力を測る等してから、履修するかどうかを決定してください^(注)。
4. 科目によっては、正式な履修をする前に、英語運用能力試験等の事前スクリーニングがある場合があります。
5. 履修を検討する際には、シラバスに書かれている条件等をよく読んでください。

(注)

1. 原則としてスコアの提出は義務付けませんが、上記の基準に至らない学生は、選択英語科目を履修する、ワールドプラザを利用する、留学をする等の準備をしてから、「国際科目群」科目の履修を検討してください。なお、外国人留学生別科（C J S）が開講する科目については、TOEFL-iBT 80点～100点程度が求められると考えてください。
2. TOEFLやIELTSの問題集は、図書館（両キャンパス）、国際教育センター（名古屋キャンパス）、第2課教務係派遣留学資料コーナー（瀬戸キャンパス）、ワールドプラザ（両キャンパス）等で見ることができます。
3. TOEICの場合は700点～800点程度と考えられますが、TOEICはビジネス英語に焦点を置いていますので、できればTOEFLやIELTSで自分の力を測ってください。
4. 南山大学におけるTOEFLの受験機会については、大学のWebページや学内掲示で確認するようにしてください。

資 格

(博物館学芸員養成課程・
司書課程・学校図書館司書教諭課程)

博物館学芸員に関する授業科目履修要項

〔2012年度以降に入学した学生に適用〕

博物館学芸員（以下「学芸員」という）とは、博物館法の規定に従って博物館資料の収集、保管、展示および調査研究その他これと関連する事業について、その専門的事項をつかさどる専門的職員のことである。

本学で開講される学芸員に関する科目は、学芸員養成を目的としている。学芸員資格の取得を希望する者は、学芸員に関する科目を履修して規定単位を修得すれば、卒業と同時に博物館法に則り、本学の「学芸員資格証明書」が授与される。

博物館学芸員に関する授業科目

() 内は単位数

	法令上の科目名称	本学開講科目	受講年次
必修科目	博物館教育論 (2)	博物館学 A (2)	1～3 年次
	博物館資料保存論 (2)	博物館学 B (2)	1～3 年次
	博物館展示論 (2)	博物館学 C (2)	1～3 年次
	博物館資料論 (2)	博物館学 D (2)	1～3 年次
	博物館経営論 (2)	博物館学 E (2)	1～3 年次
	博物館実習 (3)	博物館実習 (3)	2～4 年次
	博物館概論 (2)	博物館概論 (2)	1～3 年次
	生涯学習概論 (2)	生涯学習論 (2)	1～4 年次
	博物館情報・メディア論 (2)	視聴覚メディア論 (2)	2～4 年次

() 内は単位数

* 選択科目	考古学・文化史関係科目	名古屋 C 開講 考古学概論 A (2) 考古学概論 B (2) 現代の考古学 (2) 東アジア考古学 A (2) 東アジア考古学 B (2) 東アジア考古学 C (2) 文化史 A (2) 文化史 B (2) 美術 A (2) 美術 B (2) 地域の文化と歴史 (西アジア) (2) 人類文化学特殊講義 (中国的世界の形成) (2) 人類文化学特殊講義 (縄文文化論) (2) 人類文化学特殊講義 (農耕文化論) (2) 人類文化学特殊講義 (新大陸の考古学) (2) 人類文化学特殊講義 (物質文化論) (2)	4 単位以上		
				瀬戸 C 開講	日本史 A (2)
					美術 A (2)
					国家と宗教 (2)

* 選択科目	名古屋C開講	文化人類学概論A (2) または文化人類学概論B (2) ※いずれか1科目のみ算入可能 社会人類学 (2) 宗教人類学 (2) 民族誌論 (2) 現代の文化人類学A (2) 現代の文化人類学B (2) 地域の文化と歴史 (アフリカ) (2) 地域の文化と歴史 (オセアニア) (2) 地域の文化と歴史 (東南アジア) (2) 地域の文化と歴史 (環太平洋) (2) 地域の文化と歴史 (南アジア) (2) 地域の文化と歴史 (アメリカ大陸) (2) 人類文化学特殊講義 (アフリカの社会人類学) (2) 人類文化学特殊講義 (アジアの社会人類学) (2) 人類文化学特殊講義 (アジアの文化人類学) (2) 文化理論 (2)	4 単位以上
	瀬戸C開講	文化人類学A (2) 近現代史 (2) 地域文明論B (アジア) (2) 地域文明論G (アフリカ) (2) 地域文明論H (アジア) (2)	

* 選択科目については、今年度不開講のものもあるので名古屋キャンパスは [人文学部 人類文化学科]、瀬戸キャンパスは [総合政策学部総合政策学科] [瀬戸キャンパス 共通教育科目] の講義概要を参照すること。

必要単位及び履修方法

1. 必修科目は、9科目19単位を2年以上にわたって修得しなければならない。
2. 選択科目は、考古学・文化史関係科目の中から4単位、文化人類学科目の中から4単位ずつ計8単位以上を修得しなければならない。なお、キャンパスごとに科目があるが、自分の所属するキャンパス以外で開講される科目も履修できる。
3. 必修科目のうち、「博物館実習」は「博物館概論」、「博物館学C」または「博物館学D」、および「博物館学E」のうちの3科目以上を修得した後でなければ履修できない。ただし、4年次生に限り、「博物館概論」、「博物館学C」または「博物館学D」、および「博物館学E」のうちの2科目を修得していた場合に、「博物館実習」の履修を認める。なお、正当な理由ありと、当該委員会が認めた場合は上記にかかわらず履修を認めることがあるので教務課に相談すること。
4. 「博物館概論」の授業コードは、15731-001、15731-002 (瀬戸キャンパス) と20101-001の3つである。20101-001は人文学部共通科目のコードである。2013年度以降入学の人文学部生でこの科目を卒業単位に加えたい学生は、20101-001で登録すること。
5. 「生涯学習論」の授業コードは、15721-001と20086-001の2つである。20086-001は人文学部共通科目のコードである。人文学部生でこの科目を卒業単位に加えたい学生は20086-001で登録すること。なお、司書課程における15921-001「生涯学習論」でこれにかえることができる。
6. 「視聴覚メディア論」の授業コードは15726-001、15726-002 (遠隔授業) と20081-001の2つである。20081-001は人文学部共通科目のコードである。人文学部生でこの科目

を卒業単位に加えたい学生は、20081-001で登録すること。

7. 博物館実習の履修には、博物館実習費が必要である。なお、これについては、別に定める。

留意事項

1. 必修科目の履修には2年以上の期間が必要となる。事前に履修計画をたてて十分に注意することが望ましい。なお、必修科目には、名古屋キャンパスでのみ開講する科目、同一科目を両キャンパスで開講する科目、集中講義で名古屋キャンパスのみで開講する科目、名古屋キャンパスで行う授業を同時双方向の遠隔授業形式で瀬戸キャンパスでも受講できる科目があるので、開講キャンパスに注意すること。
2. 博物館実習費は、教務課（瀬戸キャンパスは第2課教務係）の指示に従って納入すること（「博物館実習」を登録する年次の4月に納入）。
別途、見学のための旅費等も必要である（実費）。
時間割などの都合で、途中で履修不能となっても返却しない。
3. 履修途中で留学予定の学生は、教務課（瀬戸キャンパスは第2課教務係）の窓口にご相談すること。
4. 実習に関しては年度当初以外（授業開始後）の登録は原則として認めない。
* 博物館学芸員に関する事項は全てWebページによって知らせるので、常時「教務課Webページ」、瀬戸キャンパス「瀬戸キャンパス学生情報Webページ」に注意すること。

[博物館実習履修の連絡事項]

「博物館実習」は初回登録時に4年次生を筆頭に、3年次生、2年次生の順番で優先的に履修を認める。ただし、4年次生の人数が定員に満たない場合には、3年次生、2年次生の順番で履修を認める。その場合3年次生以下は抽選とする。

司書に関する科目履修要項

〔2014年度以降に入学した学生に適用〕

図書館は、古来、情報を収集・整理・保存し、広く一般の利用の便を図る役割を担ってきた。今後、情報社会の進展に伴って、その役割が増大することがあっても、減少することはない。司書とは、情報の収集・整理・保存、利用等に関わる専門的職員のことである。

本学で開講される司書に関する科目は、司書資格を取得するためのものであり、所定の単位を修得した者に対して、本学の「司書講習修了証明書」を授与する。

1 資格取得のための要件

- 1) 卒業に必要な単位を修得すること。
- 2) 司書に関する科目について、必修科目を13科目22単位、および選択科目を2科目以上（2単位以上）、合計24単位以上を修得すること。
- 3) 司書資格について本学で開講される科目は以下のとおりである。

	新法令上の科目名称（単位数）	本学開講科目（単位数）	受講年次
必修	図書館概論（2）	図書館情報学概論（2）	1～4
	情報資源組織論（2）	情報組織化論（2）	1～4
	情報サービス論（2）	情報サービス論（2）	1～4
	図書館サービス概論（2）	図書館サービス論（2）	1～4
	図書館制度・経営論（2）	図書館制度・経営論（2）	1～4
	図書館情報資源概論（2）	図書館情報資源概論（2）	1～4
	図書館情報技術論（2）	図書館情報技術論（2）	1～4
	生涯学習概論（2）	生涯学習論（2）	1～4
	児童サービス論（2）	児童サービス論（2）	1～4
	情報資源組織演習（2）	情報資源組織演習Ⅰ（1） 情報資源組織演習Ⅱ（1）	1～4
	情報サービス演習（2）	情報サービス演習Ⅰ（1） 情報サービス演習Ⅱ（1）	1～4
計	22	22	
選択	図書館基礎特論（1）	図書館基礎特論（1）	1～4
	図書館サービス特論（1）	図書館サービス特論（1）	1～4
	図書館情報資源特論（1）	図書館情報資源特論（2）	1～4
	図書・図書館史（1）	情報・メディア史（1）	1～4
	図書館施設論（1）	図書館施設論（1）	1～4
	図書館総合演習（1）		
	図書館実習（1）		
	資格取得のための総単位数（24）	本学資格取得のための総単位数（24）	

2 受講手続き

- 1) はじめて受講する学生はガイダンスを必ず受けること。
- 2) 教務課資格担当（瀬戸キャンパスは第2課教務係）の窓口で、司書課程受講者原簿を提出すること。
- 3) 司書課程費を納めること。金額は別に定める。

* 司書課程に関する事項は全てWebページによって知らせるので、常時名古屋キャンパス「教務課Webページ」、瀬戸キャンパス「瀬戸キャンパス学生情報Webページ」に注意す

ること。

3 科目を履修するための要件

- 1) 必要な科目を2年以上にわたって履修しなければならない。
- 2) ある科目を履修するための前提となる科目、講義科目とその演習科目といったように、科目間に強い依存関係が存在するものもある。

その関係にそって履修してもらうために、次の科目の登録には制約を設定した。

	科目名	前提科目	条 件
必修	図書館情報学概論	なし	
	情報組織化論	なし	
	情報サービス論	なし	
	図書館サービス論	図書館情報学概論	左記科目を履修していることまたは同時履修
	図書館制度・経営論	図書館情報学概論	左記科目を履修していることまたは同時履修
	図書館情報資源概論	図書館情報学概論	左記科目を履修していることまたは同時履修
	図書館情報技術論	情報組織化論 情報資源組織演習Ⅰ	左記2科目を履修していることまたは同時履修
	生涯学習論	なし	
	児童サービス論	なし	
	情報資源組織演習Ⅰ	情報組織化論	左記科目を履修していることまたは同時履修
	情報資源組織演習Ⅱ	情報組織化論	左記科目の単位修得済
	情報サービス演習Ⅰ	情報サービス論	左記科目の単位修得済
	情報サービス演習Ⅱ	情報組織化論 情報資源組織演習Ⅰ	左記2科目の単位修得済
選択	図書館基礎特論	図書館情報学概論	左記科目を履修していることまたは同時履修
	図書館サービス特論	図書館情報学概論	左記科目を履修していることまたは同時履修
	図書館情報資源特論	なし	
	情報・メディア史	図書館情報学概論	左記科目を履修していることまたは同時履修
	図書館施設論	図書館情報学概論	左記科目を履修していることまたは同時履修

例えば、「情報組織化論」の単位を前学期までに取得していなければ、「情報資源組織演習Ⅱ」を履修登録することはできない。

[注意事項]

- *「情報組織化論」の授業コードは15841-002と20076-001の2つである。20076-001は人文学部共通科目のコードである。人文学部の学生で、この科目を卒業単位に加えたい学生は、このコードで登録すること（ただし、20076-001のコードで登録できるのは2年次以降となる）。
- *「生涯学習論」の授業コードは15921-001と20086-002の2つである。20086-002は人文学部共通科目のコードである。人文学部の学生でこの科目を卒業単位に加えたい学生は、このコードで登録すること（ただし、20086-002のコードで登録できるのは2年次以降となる）。なお、博物館学芸員養成課程における「生涯学習論」でこれにかえることができる。
- *「情報資源組織演習Ⅰ」、「情報資源組織演習Ⅱ」、「情報サービス演習Ⅰ」、「情報サービス演習Ⅱ」は定員が設けられているため、初回登録時に4年次生を筆頭に、3年次生、2年次生の順番で優先的に履修を認める。ただし、4年次生的人数が定員に満たない場合には、3年次生、2年次生の順番で履修を認める。その場合3年次生以下は抽選とする。

司書（両キャンパス共通）

- *「図書館情報資源特論」の授業コードは15865-001～002である。ただし、授業コード12327-005～006のテーマ科目「知識・言語と情報社会（文化と情報）5～6」と乗り入れて開講しているため、卒業単位に加えたい学生は、12327-005～006で登録すること。
- *特論とは、基礎となる科目を理解したのちに、さらに詳しく論ずると位置づけられている科目群である。

学校図書館司書教諭に関する科目履修要項

学校図書館司書教諭とは、小学校・中学校・高等学校などで、学校図書館の専門的職務に従事する教諭である。法令改正により、2003年度までに小規模校をのぞいたすべての学校に配置されることになった。児童・生徒が学校図書館を活用して、自ら学び、自ら考える力を育てるために、力量のある司書教諭が求められている。司書教諭になるには、学校図書館司書教諭に関する科目5科目10単位を修得すると共に、教育職員免許状を取得しなければならない。所定の単位を修得した者に対して、文部科学省より「司書教諭講習修了証書」を授与する。

1 資格取得のための要件

- 1) 卒業に必要な単位を修得すること。
- 2) 教育職員免許状を取得すること。
- 3) 学校図書館司書教諭に関する科目、5科目10単位を修得すること。
- 4) 司書教諭資格取得のために必要な科目は以下のとおりである。

	法令上の科目名称（単位数）	本学開講科目（単位数）	受講年次
必修	学校経営と学校図書館（2）	学校経営と学校図書館（2）	2～4
	学習指導と学校図書館（2）	学習指導と学校図書館（2）	2～4
	読書と豊かな人間性（2）	読書と豊かな人間性（2）	2～4
	情報メディアの活用（2）	情報メディアの活用（2）	2～4
	学校図書館メディアの構成（2）	情報組織化論（2）	1～4
計	10	10	

2 受講手続き

- 1) はじめて受講する学生は、ガイダンスを必ず受けること。
- 2) 教務課資格担当（瀬戸キャンパスは第2課教務係）の窓口で、司書教諭課程受講者原簿を提出すること。
- 3) 学校図書館司書教諭課程費を納めること。金額は別に定める。

* 司書教諭課程に関する事項は全てWebページによって知らせるので、常時名古屋キャンパス「教務課Webページ」、瀬戸キャンパス「瀬戸キャンパス学生情報Webページ」に注意すること。

司書教諭講習修了証書申請の手続きについて（重要）

司書教諭資格は教職と司書教諭の単位をすべて修得しただけでは取得することはできない。また、司書教諭資格は卒業と同時に取得することはできない。必ず、卒業確定者発表時に手続きをすること。（詳しくは名古屋キャンパス「教務課Webページ」、瀬戸キャンパス「瀬戸キャンパス学生情報Webページ」に記載）

申請の流れは以下の通りである。

- 1 卒業確定者発表時に司書教諭の申請の手続きを行う。
- 2 卒業年の5月頃に申請書類を南山大学から申請者に送るので、申請書類に記入し、必要書類を整えて返送すること。南山大学から愛知教育大学に送付する。
- 3 愛知教育大学は、この地区の申請書を一括して文部科学省に申請する。
- 4 最終的に、司書教諭講習修了証書が発行されるのは卒業年の翌年になる。

卒業確定者発表時	卒業年の5月頃		卒業翌年の5月頃
申請の手続き (詳しくは名古屋キャンパス「教務課Webページ」、瀬戸キャンパス「瀬戸キャンパス学生情報Webページ」を参照)	書類を南山大学から申請者に送付 ↓ 書類記入後、南山大学へ書類を返送	南山大学から返送書類を愛知教育大学に送付。愛知教育大学から文部科学省に申請。	司書教諭講習修了証書が送付される。

履修に関する
取扱要領他

授業科目履修登録について

1. 履修登録とは

履修登録とは、各学期初めの所定の期間に、各自が履修しようとする授業科目を登録することです。履修登録していない科目を受講することはできません。万一間違っ
て履修登録していない科目を受講し受験しても単位は認定されない
ので、間違いの無いよう履修登録してください。

2. 履修登録の方法

南山大学での履修登録には、次の2種類があります。

- (1)自動登録：各学科が指定する「自動登録科目」は、各学科が定める割り振りのルールに基づきクラスが決定され、履修登録期間の前に既に自動的に登録されています。この登録は原則として変更できません。
- (2)個別登録：自動登録科目以外の科目は「PORTA（学生用事務システム）」により各自が任意に登録します。ただし1年次春学期の初回登録エントリー（後述）時のみマークシートで登録します。登録者数が制限されている科目は抽選で受講者を決定します。
登録後は、所定の期間内に登録変更できます。ただし定員・学科指定などの制限があります。

* 「予備登録」について

演習などの学科学科には、人数調整の必要から各学科で事前にガイダンスを行い登録クラスを決定する科目もあります。この予備登録の結果、自動登録になる科目と個別登録になる科目があります。予備登録の実施については教務課Webページ／瀬戸キャンパス学生情報Webページでお知らせします。

以下、特に上記の個別登録について説明します。

3. 履修登録の時期

履修登録には春学期登録と秋学期登録とがあります。科目の開講期により登録時期が違います。

春学期登録

年次	登録時期	登録できる科目
1年次生	4月上旬	春学期科目、通年科目、夏期集中講義科目
2、3、4年次生	3月中旬～下旬	

□秋学期登録

年次	登録時期	登録できる科目
全学年	9月上旬～中旬	秋学期科目、冬期集中講義科目

ただし、自動登録科目および1年次に登録する選択必修外国語科目は、原則として年度初めに春学期科目・秋学期科目を一括して登録します。

4. 履修登録の流れ

日程の詳細は前学期末に教務課Webページ／瀬戸キャンパス学生情報Webページで発表します。(1年次春学期は新入生行事日程表も参照してください。)

①履修登録ガイダンス

春学期のみ：

1年次生：3月末日

1年次生以外：3月

各学科から履修登録における注意点について指導があります。必ず出席してください。

②初回登録

春学期：

1年次生：4月 1年次生以外：3月

秋学期：9月

履修を希望する科目を、「PORTA (学生用事務システム)」を利用して(1年次生春学期のみマークシート提出)入力する手続きです。

ただし受講者数制限のある科目は抽選となるため、エントリどおりに登録されるとは限りません。また登録ミスにより登録できない場合があります。**④の「登録確認」を必ず行ってください。**

③教務事務ガイダンス

1年次生春学期のみ 4月

②で入力された履修希望科目に、受講者数制限のある科目の抽選処理や登録エラーのチェック処理がかけられ、初回登録が確定します。この結果を各自④の「登録確認」で確認することができます。

入学後 授業開始までのガイダンス期間中に実施します。「PORTA (学生用事務システム)」を利用した履修登録について教務課／第2課教務係から説明します。

④登録確認・登録変更 (授業開始前)

春学期：

1年次生：4月 (登録確認のみ)

1年次生以外：3月

秋学期：9月

「PORTA (学生用事務システム)」を利用して、初回登録の結果を確認するとともに登録科目を追加・削除することが可能です。

ただし受講者数が定員に達している科目は登録することができません。また、語学科目の学科指定などの制限があります。



⑤登録確認・登録変更（全学年）
（原則授業開始から1週間）
春学期：4月 秋学期：9月

引き続き登録科目の追加・削除ができます。語
学科目の学科指定などの制限は緩和されます。

*原則としてこの時期を過ぎると履修登録変更
は一切できません。

*例外) 集中講義科目の初回授業日における登録取消

集中講義科目は、通常の登録変更期間に加えて、各科目の初回授業日（事前ガイダンスを含む）当日に教務課／第2課教務係窓口で申請して登録を取り消すことができます。（初回授業日が事務休業日にあたる場合は翌事務営業日）

ただし、履修登録の前に事前ガイダンスが開催された科目については、この取消は認められません。また、この取消による実習科目の実習費返金は原則として認められません。

5. 履修登録の上限単位数

各学科の定めにより、各学期に登録できる単位数には下表のとおり上限が設けられています。この単位数を超えて履修登録することはできません。

ただし自由科目（卒業に必要な単位数に算入されない科目）は、この制限を受けず履修することができます。

学 部	1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
人 文 学 部	各学期24単位			
外国語学部	各学期22単位			
経 済 学 部	各学期24単位			
経 営 学 部	各学期22単位			
法 学 部	各学期22単位			各学期24単位
総合政策学部	各学期24単位			
理 工 学 部	各学期24単位	各学期28単位 (ただし年間48単位)		卒業研究科目履修 学期は16単位
短期大学部	各学期20単位		—	—

* 通年科目の単位数は、春学期・秋学期それぞれ半数として算入されます。

（例：4単位の通年科目→春学期2単位・秋学期2単位）。

* 夏期集中科目には次の三つの区分があり、それぞれの単位数は次の科目として算入されます。

夏期集中前半科目（8月上旬開講）：春学期科目

夏期集中後半科目（8月下旬または9月上旬開講）：秋学期科目

夏期集中前後科目（夏期前半、夏期後半に開講がまたがる）：通年科目

* 冬期集中科目の単位数は、秋学期科目として算入されます。

6. 科目名および指定クラスの表記方法

科目名には1・2・3（アラビア数字）、A・B（アルファベット）、I・II・III・IV（ローマ数字）

などの記号がついている場合があります。

(表示例) 心理学A1 時事英語Ⅱ3

それぞれの意味は原則として次のとおりです。ただし、学科科目の場合は別の意味を持たせていることがあるので、学科の履修要項あるいはガイダンス資料による指示に従ってください。

記号	意味
1・2・3 (アラビア数字)	同一科目のクラス分けを表します。**1 と **2 は同じ科目であり、クラスが異なるだけなので、両方を履修登録することはできません。
A・B (アルファベット)	関連性はあるが内容の継続性は無い科目です。**A と **B は片方でも両方でも履修登録できます。科目ごとに単位の修得が可能であり、片方のみ合格した場合は合格した科目のみ単位を修得できます。
I・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ (ローマ数字)	関連性があり、内容に継続性がある科目です。一般的にⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの順で上級になります。履修要項または該当科目の講義概要にⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順に登録するよう指示されている場合は、その指示に従わないと履修登録できません。ただし科目ごとに単位の修得が可能であり、一部のみ合格した場合は合格した科目のみ単位を修得できます。

語学や体育などの科目では、学科ごとに登録できるクラスを指定する場合があります。科目名末尾の括弧内の記号で登録できる学部・学科を表します。

(表示例) 英語Ⅱリーディング [HA] スペイン語Ⅱ会話・作文<H>2

*括弧記号の意味は次のとおりです。[]…必修科目、< >…選択必修科目

クラス表記	登録できる学部・学科
H	人文学部
HC	キリスト教学科
HA	人類文化学科
HP	心理人間学科
HJ	日本文化学科
F	外国語学部
FB	英米学科
FS	スペイン・ラテンアメリカ学科
FF	フランス学科
FG	ドイツ学科
FA	アジア学科
E	経済学部
B	経営学部
J	法学部
PP	総合政策学部
S	理工学部
SS	システム数理学科
SE	ソフトウェア工学科
SC	機械電子制御工学科
TE	短期大学部 (英語科)
全	全学科

7. 資格関連科目の履修について

次の科目の履修方法については、それぞれの履修要項掲載ページおよび教務課／第2課教務係で配布する各課程の履修者用ガイダンス資料を参照し、不明な点があれば教務課／第2課教務係資格担当窓口で相談してください。

- | | |
|---------------------|---------------------------------------|
| (1) 教職に関する科目 | ：別冊「授業科目履修案内 教職課程」 |
| (2) 博物館学芸員に関する科目 | } 資格（博物館学芸員養成課程・司書課程・学校
図書館司書教諭課程） |
| (3) 司書に関する科目 | |
| (4) 学校図書館司書教諭に関する科目 | |

8. 共通教育科目「人間の尊厳科目」の登録について

登録できる科目数は、修得済みの科目数も含めて2科目までです。（すでに1科目単位を修得している場合は1科目のみ登録できます。）

すでに2科目修得していて3科目目以上の登録を希望する場合は、授業開始後登録変更期間内に定員に余裕があれば教務課／第2課教務係で登録できます。

9. 共通教育科目「テーマ科目」の登録について

登録できる科目数は、1学期に4科目までです。（修得済みの科目は含めません。）

卒業論文等提出についての注意事項

卒業論文提出にあたっては、以下の諸事項について十分注意してください。

卒業論文題目の提出

論文を提出しようとする学生は、論文題目を決定し、各学科の指示に従い、期日までに届けてください。(具体的な期日、届出先、方法などは各学科によって異なります。)

■ 人文学部生

人文学部生の研究プロジェクト報告書(卒業論文)作成は指導教員の指示に従ってください。また、表紙については、所定の「表紙用添付用紙」を教務課が提供しますので、それを表紙に貼って提出してください。

■ 外国語学部生

外国語学部生の論文作成は各学科並びに指導教員の指示に従ってください。

■ 経済学部生

経済学部生の論文作成は下記の要領に従ってください。

- (1) A4判用紙、字数は原則として20,000字以上。ただし必要に応じてグラフや表を含めることも可。
- (2) 外国語で作成する場合は指導教員の指示に従ってください。
- (3) 論文のタイトルページ(扉ページ)は別表の様式を参考にしてください。
- (4) 大学指定ファイルの表紙に教務課提供の「表紙用添付用紙」を貼り、必要事項を記載してください。

■ 経営学部生

経営学部経営学科生の論文作成は下記の要領に従ってください。

- (1) ワープロ・ソフトあるいはワープロ専用機を使用して、A4判用紙に印刷してください。
- (2) 字数は20,000文字以上。
- (3) 欧文でも作成することができますが、作成要領については指導教員の指示に従ってください。
- (4) 指導教員の了承を前提に共同論文を認めます。その際、下記の要領に従ってください。
 - (ア) 各自の担当部分を必ず明確にしてください。
 - (イ) 各自の担当部分の字数は20,000字以上。
 - (ウ) 論文の提出の際には、代表者でなく各自が論文全体あるいは担当部分を提出してください。どちらを提出するかについては指導教員の指示に従ってください。
- (5) 論文には、教務課が提供する「表紙用添付用紙」を表紙に貼って提出してください。

また、扉には別表の様式により必要事項を記載してください。

■ 法学部生

法学部生は、下記の要領に従って卒業論文を提出してください。

- (1) 用紙は、ワープロ使用の場合A4判用紙を、やむをえず手書きをする場合は400字詰または800字詰の原稿用紙を用いてください。
- (2) 論文作成枚数は、ワープロ使用の場合20,000字以上、手書きの場合は400字詰50枚以上または800字詰25枚以上になっています。

(3) 論文には、教務課が提供する「表紙用添付用紙」を表紙に貼って提出してください。
また、扉は別表の様式に従ってください。

■理工学部生

各学科および指導教員の指示に従うこと。

※グループ研究のための補足

【表紙】

当該年度に「卒業研究」を履修しているグループのメンバ全員の学生番号と氏名を記入すること。また、指導教員が複数の場合は、すべての指導教員の氏名を記入すること。

【提出方法】

論文の提出時にはグループのメンバ全員が教務課窓口揃っていること。

【提出部数】

- グループのメンバで異なる論文を執筆する場合：各自で1部
- グループのメンバで同一の論文を執筆する場合
 - ・指導教員が同一の場合：グループで1部
 - ・指導教員が複数の場合：指導教員の人数分の部数

筆記用具等

筆記用具に関しては「作成筆記用具並びに装丁等について」の表を参照してください。

論文題目の変更

届け出た論文題目を変更する必要がある場合は、各学部の指示に従って、届け出てください。(具体的な期日、届出先、方法などは各学科によって異なります)

論文提出期限

論文提出期限は教務課Webページを参照すること。提出期限を過ぎたものは一切受理しないので、期日間際になってあわてないように注意して準備してください。

<別表>

(縦書の場合)

提出 年 月 日	南山大学〇〇学部 学生番号 〇〇〇〇〇〇 氏名	論文題目	卒業論文 南山大学〇〇学部 〇〇〇〇教授演習
-------------------	-------------------------------	------	------------------------------

(横書の場合)

南山大学〇〇学部 〇〇〇〇教授演習 卒業論文	論文題目	南山大学〇〇学部〇〇学科 学生番号 〇〇〇〇〇〇 氏名 提出年月日
------------------------------	------	--

■ 総合政策学部生

卒業研究題目の提出

卒業研究（卒業論文もしくはそれに代替するリサーチペーパー、調査報告書、プロジェクト計画等）を提出しようとする学生は、その題目を卒業研究題目提出用紙に記入し、指導教員の捺印を受け、期日までに指定場所に提出してください。

卒業研究題目の変更

卒業研究題目を変更する必要がある場合には、すみやかに指導教員に届け出て、承認を得てください。

卒業研究作成要領

総合政策学部生の卒業研究作成は、以下の要領に従ってください。

- (1) 用紙 A4判横書き ワードプロセッサを使用すること。原則として、和文の場合40字程度×35行程度、欧文の場合ダブルスペースで本文を作成すること。詳細については、指導教員の指示に従ってください。
- (2) 枚数 おおむね20,000字を目安とする。研究分野の事情を勘案し、枚数については指導教員の指示に従ってください。
- (3) 表紙 大学指定のファイルの表紙に「表紙用添付用紙」をダウンロードして貼り、必要事項を記載してください。また、別図の様式に従って卒業研究の扉（内表紙）を作成してください。
- (4) 装丁 指定のファイルに綴じて提出してください。
- (5) 提出用紙 卒業論文等提出票に必要事項を記入し、卒業研究と一緒に提出してください。
- (6) 単独提出 卒業研究は原則として単独で作成し、各人が単独で提出すること。共同作成・共同執筆の可否については、指導教員の指示に従ってください。
- (7) その他 使用する言語については指導教員の指示に従ってください。また、文書以外の形式（図版、写真、絵画、動画、プログラム、音楽など）で提出される資料についても、指導教員の指示に従ってください。

卒業研究提出先

卒業研究は期限までに教務窓口に提出してください。

卒業研究提出期限

卒業研究は「総合政策プロジェクト研究Ⅳ」を履修する学期に設定されている提出期限に提出してください。

なお、卒業研究提出期限は教務課Webページを参照してください。提出期限を過ぎたものは一切受理しないので、提出期限や教務窓口終了時間間際になってあわてないように注意してください。

別図

和文の場合

英文の場合

南山大学総合政策学部	
総合政策プロジェクト研究Ⅳ 卒業研究	
担当者〇〇〇〇（准）教授	
研究題目	
（副題）	
南山大学	総合政策学部 総合政策学科
学生番号	20××P P×××
氏名	〇〇〇〇
提出日	20××年×月×日

Nanzan University Faculty of Policy Studies	
Thesis for Policy Studies Project Research IV	
Professor 〇〇〇〇	
Title	
Nanzan University Faculty of Policy Studies	
20××P P×××	
Name	
Month Day, 20××	

作成筆記用具並びに装丁等について

学部	学 科	筆 記 用 具 等	装丁(ファイル形式等)
人 文	キリスト教	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
	人類文化	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
	心理人間	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
	日本文化	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
外 国 語	英 米	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
	スペイン・ラテンアメリカ	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
	フランス	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
	ドイツ	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
	アジア	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
経 済	経 済	原則として、ワードプロセッサ。手書きの場合は、黒またはブルーブラックのインク(ボールペンを含む)	大学指定ファイル
経 営	経 営	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
法	法 律	原則として、ワードプロセッサ。手書きの場合は、黒またはブルーブラックのインク(ボールペンを含む)	大学指定ファイル
総 合 政 策	総合政策	ワードプロセッサ	大学指定ファイル
理 工	システム数理 ソフトウェア工 機械電子制御工	計算機出力に限る	大学指定ファイル

南山大学早期卒業規程

第1条 南山大学学則第21条第2項により、早期卒業に関する事項は、この規程の定めるところによる。

第2条 本大学に3年以上在学し、本大学の定める単位を優秀な成績で修得した場合には、南山大学学則第21条第1項の定めにかかわらず、卒業できるものとする。

第3条 前条に定める卒業については、次の学部において行うものとする。

- 1 総合政策学部

第4条 前条に定める学部の学生が、第2条に定める卒業を希望する場合は、別に定める規則に従うものとする。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

総合政策学部早期卒業に関する内規

(趣旨)

第1条 この規則は、南山大学早期卒業規程第4条に基づき、南山大学総合政策学部（以下、「総合政策学部」という。）における早期卒業に関し必要な事項を定めるものとする。

(対象学生)

第2条 早期卒業は、次の各号に該当する者を対象とする。

- 1 秋学期入学の者
- 2 3年半卒業を希望する者
- 3 総合政策学部入学後3年間の評定平均（GPA）が3.00以上の者。なお評定平均（GPA）は次の方法で算出する。

$$\text{評定方法} = \frac{(A^+\text{の単位数}) \times 4 + (A\text{の単位数}) \times 3 + (B\text{の単位数}) \times 2 + (C\text{の単位数}) \times 1}{(A^+, A, B, C, F, S, X)\text{の単位数の合計}^*}$$

※認定科目、自由科目を除く

(早期卒業希望者の認定)

第3条 早期卒業を希望する者は、3年次春学期授業最終日を期限とし、学部長に、その旨を申し出るものとする。

- ② 学部長は、前項による申し出があったときは、教授会の審査を経て適格の認定をしなければならない。

(卒業の要件)

第4条 早期卒業するためには、3年半以上在学し、総合政策学部が定める履修方法に従い、130単位以上を修得しなければならない。

(学習指導)

第5条 学部および学科は、第3条第2項により適格の認定を受けた学生の授業計画等にあたっては、適切な措置および学習指導を行うこととする。

(卒業の時期)

第6条 早期卒業の時期は、4年次の3月とする。

附 則

この内規は、2005年4月1日から施行し、2002年度入学生から適用する。

附 則

この内規の改正は、2013年4月1日から施行し、2010年度入学生から適用する。

ただし、2002年度から2009年度入学生に対しては、第2条について従前のおり以下を適用する。

第2条 早期卒業は、次の各号に該当する者を対象とする。

- 1 秋学期入学の者
- 2 3年半卒業を希望する者
- 3 総合政策学部入学後3年間の評定平均（GPA）が85点以上の者。なお評定平均（GPA）は次の方法で算出する。

$$\text{評定方法} = \frac{(A^+) \times 95 + (A) \times 85 + (B) \times 75 + (C) \times 65}{(A^+, A, B, C) \text{の合計数}^*}$$

※認定科目、自由科目を除く

派遣留学生の帰国後における 授業科目履修に関する手続等取扱要領

1. 新規登録について

- (1) 春学期科目の新規登録期限は、授業開始日から35日目とする。また、登録後に春学期科目の授業（補講を除く）を授業予定総時数の3分の2以上受講できる場合は、新規登録期限の延期が認められる。ただし、いずれも欠席時数が履修要項等の定めを超えた後に登録することはできない。
- (2) 通年科目の新規登録期限
留学先大学の学期末が本学の新学年度の登録期間を過ぎる場合、留学先大学で受験を必要とする試験の最終日の7日後まで登録延期が認められるが、授業開始日から原則として70日目を最終期限とする。
- (3) 集中講義科目の新規登録期限は、春学期授業終了日とする。
- (4) 秋学期科目の新規登録期限は、秋学期授業開始日から35日目とする。また、登録後に秋学期科目の授業（補講を除く）を授業予定総時数の3分の2以上受講できる場合は、新規登録期限の延期が認められる。ただし、いずれも欠席時数が履修要項等の定めを超えた後に登録することはできない。

2. 通年科目の継続登録について

- (1) 留学前の手続
学年途中で外国に留学する学生が留学前履修中の授業科目を帰学後継続して履修するためには、留学前に教務課において、所定の手続を経、かつ2.(2)に定める期日までに履修継続の登録をしなければならない。ただし、帰国後に同一科目が開講されていないときは、継続して履修することができないことがある。
- (2) 継続登録の期限は、秋学期授業開始日から35日目までとする。

3. 演習等について

各学科によって異なる。『派遣留学生の「演習」等の認定方法』に定めるところによる。
なお、演習科目の登録期限・方法については上記定めによらない。

附 則

この要領は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この要領の改正は、2012年4月1日から施行する。

※瀬戸キャンパスの学生は、教務課を第2課教務係と読み替える。

外国人留学生の授業科目履修に関する特例

第1条 この特例の適用を受ける外国人留学生（以下「外国人留学生」という。）とは、外国人留学生入学審査によって、本学学部学生として入学を許可された者をいう。

第2条 外国人留学生は、授業科目履修に関して、南山大学授業科目履修規程ならびに関連する諸規程のほかはこの特例に従わなければならない。

第3条 外国人留学生は、「日本語Ⅰ」3単位、「日本語Ⅱ」2単位、「日本語Ⅲ」3単位を履修しなければならない。ただし、これと同等以上の日本語能力を持つと学部または学科が判断した者については、その履修を免除することがある。

第4条 外国人留学生は、前条に定める「日本語Ⅰ」3単位、「日本語Ⅱ」2単位、「日本語Ⅲ」3単位のほか、共通教育科目として開講されている外国語科目のうち、いずれか4単位以上を履修することを原則とする。ただし、その履修に関しては学部または学科の指示に従うものとする。

第5条 外国人留学生については、共通教育科目、学部共通科目および学科科目について、学部および学科での修得すべき単位数のうち12単位までを「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」および「総合日本語A」、「総合日本語B」についての単位で代えることができる。ただし、その履修に関しては学部または学科の指示に従うものとする。

第6条 学部または学科が教育上必要と判断した場合は、帰国生徒にこの特例を準用することができる。

第7条 この特例に定めのない事項については、学部長または学科長と教務部長が協議の上、学長が決定する。

附 則

この特例は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、昭和53年9月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この特例の改正は、2009年4月1日から施行する。ただし、2008年度以前に数理情報学部に入学者については、従前どおりとする。

附 則

この特例の改正は、2014年4月1日から施行する。ただし、2013年度以前に情報理工学部に入学者については、従前どおりとする。

附 則

この特例の改正は、2015年4月1日から施行する。

外国語検定試験による単位認定制度について

外国語の能力を判定するために実施されている各種外国語検定試験で一定の基準に達し、かつ本学外国語担当教員による当該外国語面接試験に合格した学生に対して、以下の単位が認定される。

- ① 共通教育科目としての当該外国語（1年次に配当される必修または選択必修科目）
4単位まで
（本学への入学時まで、認定基準を満たしていること）
- ② 共通教育科目としての当該外国語（1年次および2年次に配当される必修または選択必修科目）
8単位まで（本学への入学時まで、認定基準を満たしていること）
- ③ 共通教育科目としての当該外国語（2年次に配当される必修または選択必修科目）
4単位まで
（2年次の開始時点までに、認定基準を満たしていること）

①～③において認定される単位数の合計は、必修科目、選択必修科目として各学部・学科が定めた単位数を上限とする。

※認定基準は、次ページの表を参照のこと

ただし、下記の場合は上記①～③の年次、学期および単位数を下記のとおり読み替える。

- 1. 経営学部、総合政策学部の、8単位が1年次に配当されている共通教育科目としての必修外国語、および外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科、外国語学部フランス学科、外国語学部ドイツ学科の、8単位が1年次に配当されている共通教育科目としての必修外国語（英語以外）
 - ① 1年次→1年次春学期
 - ② 1年次および2年次→1年次春学期および秋学期
 - ③ 2年次に配当される→1年次秋学期に配当される
2年次の開始時点→1年次秋学期の開始時点
- 2. 外国語学部アジア学科の、4単位が1年次および2年次に配当されている共通教育科目としての必修外国語（英語Ⅰ・Ⅱ）
 - ① 1年次→1年次および2年次
- 3. 総合政策学部の、4単位が2年次に配当されている共通教育科目としての選択必修外国語
 - ① 1年次に配当される（略）選択必修科目→2年次に配当される選択必修科目
- 4. 理工学部の、6単位が1年次に配当されている共通教育科目としての必修外国語
 - ① 4単位→6単位
 - ② 8単位→10単位
- 5. 編転入学者
 - ① 1年次→入学1年目

- ② 1年次および2年次→入学1年目および入学2年目
- ③ 2年次に配当される→入学2年目に配当される
- 2年次の開始時点→入学2年目の開始時点

認定を希望する学生は春学期授業開始日まで（開始日を含む）に、申請書に当該外国語検定試験の得点（合格）証明書コピーを添えて、名古屋キャンパス教務課または瀬戸キャンパス第2課教務係に提出すること。申請書は各窓口で配布する。

ただし、上記読み替えにより、1年次秋学期に単位認定を申請する場合（瀬戸キャンパス9月入学者を含む）は、秋学期授業開始日まで（開始日を含む）に申請すること。なお、学年または学期の途中、あるいは学年または学期を遡っての単位認定は行わない。

外国語名称	対象となる外国語検定試験		認定基準	
			①の場合	②と③の場合
英 語 (外国語学部英米 学科以外の学生)	TOEFL *1	Paper-based	527点～579点	580点以上
		Computer-based	197点～236点	237点以上
		Internet-based	71点～91点	92点以上
	TOEIC *2		665点～819点	820点以上
	実用英語技能検定		準1級	1級
	ケンブリッジ大学英語検定試験		Level 3 (FCE) *3	Level 4 (CAE) 以上 *4
英 語 (外国語学部英米 学科の学生)	TOEFL *1	Paper-based	580点以上	
		Computer-based	237点以上	
		Internet-based	92点以上	
	TOEIC *2		820点以上	
	実用英語技能検定		1級	
	ケンブリッジ大学英語検定試験		Level 4 (CAE) 以上 *4	
フランス語	実用フランス語技能検定 (DAFP)		3級	2級以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定		3級	2級以上
スペイン語	スペイン語技能検定		4級	3級以上
	DELE		A 2	B 1 以上
中国語	中国語検定		3級	2級
	漢語水平考試 (HSK)		3級	4級

*1 TOEFL = Test of English as a Foreign Language

*2 TOEIC = Test of English for International Communication

*3 FCE = First Certificate in English

*4 CAE = Certificate in Advanced English

(注意) *1,*2の団体受験制度利用について：TOEFL (ITP) およびTOEIC (IP) については、南山大学学内で行われたテストについてのみ単位を認定する。

愛知学長懇話会・単位互換事業による聴講制度について

愛知学長懇話会・単位互換事業は、愛知県内の他の大学が開放する特色ある授業科目を自由に履修し、単位を修得することができる制度です。この事業には南山大学を含む愛知県内すべての4年制大学が参加しており、修得した単位は、南山大学の単位として認定されます。

1. 出願について

資格：2年次以降（ただし、4年次生以上で、本制度の聴講科目およびその他の大学との単位互換協定に基づく聴講科目を受講することによって卒業要件単位数が満たされる場合は出願することができない。）

出願時期：春・秋学期に出願が可能。

単位数：各学期4単位まで出願できる。（その他の大学との単位互換協定に基づく聴講科目への出願単位数を含む）なお、この単位数は、各学部が定める登録単位数上限には含まれない。

出願を希望する学生は、参加大学の開放科目や履修条件等を記載した募集要項と出願票を教務課で受け取り、必要事項を記入し教務課へ提出すること。出願期間等詳細は別途教務課Webページ等に掲示する。

2. 受講について

受講が決定したら教務課より本人に通知する。正式な決定以前に授業が開始される場合には仮受講が認められる。なお、応募者多数の場合は相手先大学による選考が行われる場合がある。

休講情報等については、相手先大学で各自確認すること。

3. 試験について

相手先大学の試験と南山大学での試験日程が重複した場合は、相手先大学の試験を優先すること。その際、相手先大学から「単位互換科目受験証明書」の交付を必ず受けること。「単位互換科目受験証明書」の提出により、南山大学の追試験受験が可能となる（成績の1割減点なし、手数料無料）。

4. 単位認定について

成績は教務課より本人に通知する。単位認定を希望する場合は、単位認定申請書を教務課に提出すること。申請書は教務課にて配布する。

その他、詳細については教務課に問い合わせること。

※瀬戸キャンパスの学生は、教務課を第2課教務係と読み替える。

豊田工業大学との連携聴講生制度について

「南山大学と豊田工業大学における単位互換に関する包括協定書」に基づき、豊田工業大学が聴講を許可する授業科目を履修し、単位を修得することができます。修得した単位は、南山大学の単位として認定されます。

1. 出願について

資格：2年次以降（ただし、4年次生以上で、本制度の聴講科目およびその他の大学との単位互換協定に基づく聴講科目を受講することによって卒業要件単位が満たされる場合は、出願することができない。）

出願時期：春・秋各学期に出願が可能。

単位数：各学期4単位まで出願できる。（その他の大学との単位互換協定に基づく聴講科目への出願単位数を含む）なお、この単位数は、各学部が定める学期あたりの登録単位数上限には含まれない。

出願を希望する学生は、聴講科目や履修条件等が記された書類と『連携聴講生願』を教務課で受け取り、必要事項を記入し教務課へ提出すること。出願期間等詳細は別途教務課Webページ等に掲示する。

2. 受講について

受講が決定したら教務課より本人に通知する。なお、応募者多数の場合は豊田工業大学による選考が行われる場合がある。休講情報等については、豊田工業大学で各自確認すること。

3. 試験について

豊田工業大学の試験と南山大学での試験日程が重複した場合は、豊田工業大学の試験を優先すること。その際、豊田工業大学から「単位互換科目受験証明書」の交付を必ず受けること。「単位互換科目受験証明書」の提出により、南山大学の追試験受験が可能となる（成績の1割減点なし、手数料無料）。

4. 単位認定について

成績は教務課より本人に通知する。単位認定を希望する場合は、単位認定申請書を教務課に提出すること。申請書は教務課にて配布する。

その他、詳細については教務課に問い合わせること。

※瀬戸キャンパスの学生は、教務課を第2課教務係と読み替える。

短期大学部と短期大学部以外の学部間の科目履修について

短期大学部生は他学部他学科の科目を、短期大学部以外の学部生は短期大学部の科目を、以下のとおり履修することができます。学期ごとの具体的な履修登録時期など詳細は、別途教務課Webページでお知らせします。

	短期大学部生	短期大学部以外の学部生
履修登録可能年次	1年次以降 (※瀬戸キャンパス開講科目は2年次以降)	2年次以降
	ただし科目ごとの履修条件に従うこと。	
履修登録可能な科目	共通教育科目(宗教科目、テーマ科目、情報科目、インターンシップ科目および瀬戸キャンパス開講科目を除く)、学部共通科目および学科科目のうち、他学科履修可能な科目	英語科科目のうち、英語科が定めた科目
出願可能単位数	各学期4単位まで (各学部が定める学期あたりの登録単位数上限に含む) ※ただし、短期大学部生が「共通教育科目」の科目を履修できるのは、各学期4単位のうち2単位まで	各学期4単位まで (各学部が定める学期あたりの登録単位数上限に含む)
認定された単位の取り扱い	共通教育科目、学部共通科目(外国語学部共通科目を除く)、学科科目(外国語学部英米学科科目を除く)は「基本科目(選択科目)」の単位として認定する。 外国語学部共通科目および外国語学部英米学科科目は「英語科科目(テーマ科目群)」の単位として認定する。	自由選択科目の単位として認定する。

詳細については、別途教務課Webページで案内しますので、各自確認すること。

※瀬戸キャンパスの学生は、教務課を第2課教務係と読み替える。

名古屋／瀬戸キャンパス間履修について

名古屋／瀬戸キャンパス間履修の取り扱いは以下のとおりとする。なおこの取り扱いは入学年度を問わず、全ての学生に適用する。

1. 単位の認定方法

- ・ 共通教育科目、学部・学科科目とも自由選択科目として、卒業に必要な単位に算入することができる。
- ・ 自由科目として履修する資格関係の科目は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入することはできない。

2. 履修

- ・ 学期ごとの履修の上限単位数は、別表のとおりとする（各学部が定める学期ごとの上限単位数に含まれる）。ただし自由科目として履修する資格関係の科目は含まれない。
- ・ 履修年次は、別表のとおりとする（科目毎の年次制限が優先される）。ただし資格関係の科目を除く。
- ・ 他学科履修不可の科目は履修することができない。

3. 定期試験

- ・ 他キャンパス科目と所属キャンパス科目の定期試験時間割の関係上、移動時間が確保できない場合は、「追試験受験許可願」の提出により、受験できなかった科目の追試験が認められる（1割減点なし、手数料無料）。ただし原則として所属キャンパス科目の試験を優先すること。
- ・ 試験時間割の関係上、移動時間が確保できない科目が資格関連科目の場合は、試験を両キャンパスで実施する。

4. 登録手続

- ・ 登録はPORTA（学生用事務システム）を使用して行う。履修登録カード（マークシート）での登録は受け付けない。登録にあたっては、移動時間を含めて、確実に授業に参加できる時間が確保できるように計画すること。

学部	学期ごとの履修登録の上限単位数（注）	履修年次
人文学部	設けない	2年次以上
外国語学部	設けない	2年次以上
経済学部	設けない	3年次以上
経営学部	1学期4単位まで (年間8単位まで)	2年次以上
法学部	設けない	3年次以上
総合政策学部	設けない	2年次以上
理工学部	設けない	2年次以上

（注：各学部が定める学期ごとの上限単位数に含まれる）

変更等ある場合は、別途、教務課Webページ／瀬戸キャンパス学生情報Webページにて案内します。

その他、詳細については教務課／第2課教務係に問い合わせること。

GPA制度・履修中止制度について

1. GPA制度について

GPAとは、本学で成績評価に用いられてきた成績に対応したGrade Point (GP) を用い、履修した科目成績の平均を出すもので、学期GPA、通算GPAの2種類があります。ただし、GPA算出の対象とならない科目もあります。

(1) Grade Point (GP)

成績		評価基準	Grade Point (GP)	区分
秀	A+	100点～90点	4.0	合格
優	A	89点～80点	3.0	
良	B	79点～70点	2.0	
可	C	69点～60点	1.0	
不可	F	59点～0点	0.0	不合格
試験欠席	X	-	0.0	
欠席過多	S	-	0.0	

(2) GPAの算出方法（不合格科目も対象）

学期GPA =

$$\frac{\text{（その学期に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数）の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

通算GPA =

$$\frac{\text{（各学期に評価を受けた科目で得たGP} \times \text{その科目の単位数）の合計}}{\text{（各学期に評価を受けた科目の単位数の合計）の総和}}$$

※GPA算出除外科目は除きます。

2. 履修中止制度について

一定の期間受講し、「授業内容が期待していたものとは違う」「授業を理解するための知識がなかった」等の理由により、学生の皆さんが履修を取り止めることが適当と判断した科目については、その当該科目の履修を中止することができる制度です。ただし、履修中止の対象にはならない科目もあります。履修中止とした科目はGPA算出の対象とはなりません。履修登録の記録が取り消されるのではなく、成績評価欄に「履修中止 (W)」と入力されるとともに、当該科目の単位数は登録上限単位数の中に含まれます。履修中止の申請期間は、6週目終了後（登録変更期間終了後5週目終了後）前後の1週間となります。

※詳細は、教務課／瀬戸キャンパス学生情報Webページに掲載する情報を確認してください。

「会計士講座」と公認会計士・税理士試験

「会計士講座」は、経営学部の学生だけでなく会計を深く学びたいと考えている全学部の学生を対象とした学生の運営する団体です。大学からは部室（会計士講座室）の提供を受けています。部室はH棟地下にあります。部室には各種参考書がそろっており、交流のためのラウンジのような役割を果たしています。また、大学からは経営学部を通して運営資金の一部の援助も受けています。

活動日は、毎週水曜日の午後と土曜日の週2回です。主幹、副主幹、会計係、合宿係、コンパ係などを置いており、学生が主体的に活動を行っています。週2回の活動の他に、簿記検定試験のための合宿、専門学校や税理士法人、監査法人との懇談会などを行っています。新入生歓迎会や追出コンパ、資格試験の合格祝賀会には多数の卒業生の参加があり、社会や実務についての話を聞くこともできます。

所属している学生の目標は様々です。公認会計士や税理士、国税専門官などの資格試験を目指す学生はもちろんですが、資格試験を目指す学生ばかりではありません。会計の知識を生かして企業の経理担当者や原価計算担当者を目指そうという学生、あるいは会計職にはつかないが基本知識としての会計を学んで将来のビジネスに役立てたいと考えている学生など様々な目標を持った学生がいます。

このように「会計士講座」は、企業活動に不可欠の会計の知識を深めたいと考えている南山大学の学生に広く開かれています。遠慮なくH棟地下の「会計士講座」の部室を訪ねてください。部室はH棟からは入ることはできません。ロゴスセンター側に回って部室専用ドアからお入りください。

公務員試験について

公務員は国家機関に勤務する国家公務員と地方自治体に勤務する地方公務員に大別され、その各々について多くの職種があります。受験希望者は、それぞれの適性・能力を勘案して目標を定め、周到に準備しなければなりません。一般行政職の公務員試験に関して言えば、人文科学・自然科学に関する教養試験の他に、憲法・行政法・民法・政治学などの法律関係科目および経済学・財政学・経営学などの経済関係科目の基礎学力と応用能力を試す試験があります。

本学においても、公務員試験の受験希望者が増えています。公務員になろうとする人は、上述の広範な学力に加えて、判断力・指導力・協調性やバランス感覚を含む高度な人格識見が必要とされます。そのような観点からも、日頃の修養を怠らないようにしたいものです。

公務員試験の受験希望者に対し、法律学科目については法学部で開講されている「法職特別課外講座」の受講を勧めます。講座の詳細については、次頁以下の説明を読んでもください。なお、ロースクール（法科大学院）入学試験や司法試験等の受験希望者に対しても、「法職特別課外講座」で勉学の支援を行なっています。

「法職特別課外講座」について

本講座は、公務員試験、ロースクール（法科大学院）入学試験、司法試験や、法学検定試験のような、法律科目が受験科目となっている試験の受験に臨む本学在学学生および卒業生を対象に毎年開催されます。主に1年生を対象としたベーシックコースをはじめとして、複数のコースが用意され、本学法学部教員が中心となって指導にあたります。

多数の学生・卒業生が、毎年各種公務員試験に合格し、また、南山大学法科大学院その他の法科大学院に合格・進学しています。さらに、1年生にとっても身近な試験である法学検定試験の4級・3級を、多数の在学学生が受験しています。

多くの学生の皆さんが、「法職特別課外講座」を積極的に受講されることを期待しています。なお、詳細は、法学部発行の『めざせ！スペシャリストー法職特別課外講座案内（募集要項）』を参照して下さい。

学生の皆さんへ

南山大学自己点検・評価委員会委員長
南山大学FD委員会委員長

「学生による授業評価」へのご協力について（お願い）

南山大学では、毎学期「学生による授業評価」を全学で実施しています。「学生による授業評価」の目的は、教員が担当する授業に関して改善すべき点を見出し、積極的に自己研鑽を積むように促し、南山大学全体の教育の質を向上させることにあります。全科目を対象とするのは困難なため、担当教員が南山大学の教員であるか他大学等から出講している教員（非常勤講師）であるかにかかわらず、1人1科目を対象として実施しています。

学生の皆さんの視点を活用して授業の改善をはかるため、皆さんには、学期終了前の授業時間内に、授業評価用紙（マークシート）へのマークおよび自由記述による授業評価をお願いしています。回答内容が皆さんの成績に影響することは一切ありません。授業は、皆さんと授業担当者が共同でつくりあげていくものです。そうした共同作品としての授業を評価するという視点から、率直かつ誠実な回答をお願いしたいと思います。

回答済みの授業評価用紙の回収や各事務室への提出は、受講者の中から選ばれた学生代表の方をお願いすることになっています。これは学生の皆さんが率直に授業評価できるように配慮した結果です。代表に選ばれた方は、実施後速やかに指定された場所に授業評価用紙を提出していただきますようお願いいたします。

なお、「学生による授業評価」の実施方法については、学生の皆さんの意見を踏まえて、見直しが行われています。

「学生による授業評価」の結果は冊子にまとめ、名古屋・瀬戸両キャンパスの教務、学生関係部署および図書館で閲覧できるようになっています。また、授業評価結果の概要はWeb上でも開示しています。

授業評価用紙の裏面に書かれた意見、要望等に関しては、授業担当者だけでなく、関係部署で閲覧し、授業担当者の授業の改善や教育環境を整備するための参考にさせていただきます。授業評価結果をどのように活用しているのかについては、南山大学の「学生による授業評価」のWebページでも説明されています。詳しくはそちらをご覧ください。

「学生による授業評価」の趣旨をご理解いただき、授業評価の実施に皆さんのご協力をお願いいたします。

以上

M E M O

M E M O

2016年 3月11日 印刷
2016年 4月1日 発行

編集発行者 **南 山 大 学**

名古屋市昭和区山里町18 (〒466-8673)
名古屋キャンパス教務課
電話 052(832)3117

瀬戸市せいでい町27 (〒489-0863)
瀬戸キャンパス第2課教務係
電話 0561(89)2016

印刷所 **凸版印刷株式会社中部事業部**

名古屋市西区野南町19 (〒452-8571)
電話 (052)503-5111(代)